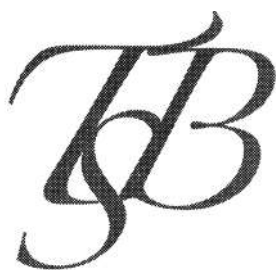


平成30年度
授業概要
(シラバス)

家政学部生活美術学科



東北生活文化大学

シラバス項目の内容

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の目的(到達目標)	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
事前学習	授業時間外の予習について記載しています。
事後学習	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数の1／3をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。
教科書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。
参考書	参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。

大分類 中分類 小分類 科目番号 レベル 学年

A — **1** — **a** — **01** — **1** — **1**

大分類：学科をあらわします。

A・・・服飾文化専攻
B・・・健康栄養学専攻
C・・・生活美術学科
K・・・学部共通

中分類：科目の区分

1・・・学部共通教養科目
2・・・基幹科目
3・・・学科専攻科目
4・・・教職に関する科目
5・・・博物館に関する科目

小分類：科目群

目 次

家政学部共通 教養科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻・年	担 当 者	頁
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	服・美1	菅野 修一	1
B-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	健1	鈴木 裕行	2
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	後期	服・美1	菅野 修一	3
B-1-a-02-2	化学Ⅱ	前期	健1	鈴木 裕行	4
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	服・美1	菅野 修一	5
B-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	健1	菅野 修一	6
K-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	服・美2	菅野 修一	7
B-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	健2	菅野 修一	8
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	前期	服・健・美1	堀江 佐知子	9
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	後期	健・美1・服4	堀江 佐知子	10
K-1-a-07-1	環境学	後期	服・健・美2	黒川 優子	11
K-1-a-08-1	統計学	後期	服・健・美1	池田 展敏	12
K-1-a-09-2	数学	前期	服・健・美1	池田 展敏	13
K-1-b-01-1	経済学	前期	服・美1	星 雅博	14
	経済学Ⅰ	前期	健4	星 雅博	15
	経済学Ⅱ	後期	服・健4	星 雅博	16
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	前期	服・美1・健4	庄司 一平	17
K-1-b-03-2	社会学Ⅱ	後期	服・美1・健4	庄司 一平	18
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	前期	服・健・美1	栗原 伸一郎	19
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	服・健・美1	栗原 伸一郎	20
K-1-b-06-1	日本国憲法	前期	服・健・美1	横田 尚昌	21
K-1-b-07-2	法学概説	後期	服・健・美1	横田 尚昌	22
K-1-c-01-1	哲学Ⅰ	前期	服・健・美1	徳田 幸雄	23
K-1-c-02-2	哲学Ⅱ	後期	服・健・美1	徳田 幸雄	24
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	前期	服・健・美1	植松 公威	25
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	後期	服・健・美1	植松 公威	26
K-1-c-05-1	美術	後期	服・美1	北折 整	27
K-1-c-06-2	美術史Ⅰ	前期	服・美1	瀬戸 典彦	28
K-1-c-07-3	美術史Ⅱ	後期	服・美1	瀬戸 典彦	29
K-1-c-08-1	生活文化論	前期	服・美1	今林 直樹	30
K-1-d-01-1	英語Ⅰ	前期	服・健・美1	佐藤 恵	31
K-1-d-02-2	英語Ⅱ	後期	服・健・美1	佐藤 恵	32
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ	前期	服・健・美1	上之原 博子	33
K-1-d-04-2	英会話Ⅱ	後期	服・健・美1	上之原 博子	34
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	前期	服・健・美1	村山 茂	35
K-1-d-06-2	仏語Ⅱ	後期	服・健・美1	村山 茂	36
K-1-d-07-1	中国語	前期	服・健・美1	高橋 亨	37
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	服・健・美1	清水 浩一郎	38
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	服・健・美1	清水 浩一郎	39
K-1-d-10-1	情報基礎学	前期	服・健・美2	松尾 広	40
K-1-e-01-2	スポーツ身体科学	後期	服・美1	土井 豊	41
K-1-e-02-2	スポーツ	通年	服・健・美1	土井 豊	42
K-1-e-03-3	武道	前期	服・健・美1	佐藤 淳一	43
A-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	服1	大学教職員	44
B-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	健1	大学教職員	45
C-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	美1	大学教職員	46
K-1-f-02-2	ライフデザイン	後期	服・健・美1	佐々木 晃	47
A-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	服2	水谷 浩	48
B-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	前期	健1	鈴木 裕行	49
C-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	通年	美2	2年次担任	50
A-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	服2	菅並 茂樹	51
B-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	健2	川俣 幸一	52
C-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	通年	美2	2年次担任	53
A-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ (集中講義)	後期	服3	内海 陽子	54
B-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	健3	健康栄養学専攻全教員	55
C-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ (集中講義)	後期	美2	工藤 稜	56

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻・年	担 当 者	頁
A-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	後期	服3	水谷 浩	57
B-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	前期	健4	健康栄養学専攻全教員	58
C-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ		美3	今年度開講せず	
K-1-f-07-1	キャリアサポートⅠ	通年	服・健・美3	大学教職員	59・60
K-1-f-08-2	キャリアサポートⅡ	前期	服・健・美4	大学教職員	61

家政学部基幹科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻・年	担 当 者	頁
K-2-a-01-1	家政学原論	前期	服・健・美1	八巻 美智子	62
K-2-a-02-1	家族関係学	後期	服・健・美1	八巻 美智子	63
K-2-a-03-1	家庭経営学(家庭経済学を含む。)	前期	服・健・美1	前田 修也	64

生活美術学科専攻科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	担 当 者	頁
C-3-a-01-1-1	絵画基礎Ⅰ(映像メディア表現を含む。)	前期	森 敏美・北折 整・工藤 稜	65
C-3-a-02-1-1	絵画基礎Ⅱ	後期	森 敏美・北折 整	66
C-3-a-03-2-2	洋 画Ⅰ	前期	森 敏美・北折 整	67
C-3-a-04-2-2	洋 画Ⅱ	後期	森 敏美・北折 整	68
C-3-a-05-3-3	洋 画Ⅲ	前期	北折 整	69
C-3-a-06-2-2	日本画Ⅰ	前期	及川 聡子	70
C-3-a-07-2-2	日本画Ⅱ	後期	及川 聡子	71
C-3-a-08-3-3	日本画Ⅲ	前期	及川 聡子	72
C-3-a-09-2-2	版 画Ⅰ	前期	大堀 恵子	73
C-3-a-10-2-2	版 画Ⅱ	後期	大堀 恵子	74
C-3-a-11-3-3	版 画Ⅲ	前期	大堀 恵子	75
C-3-a-12-2-2	壁 画Ⅰ	前期	森 敏美	76
C-3-a-13-2-2	壁 画Ⅱ	後期	森 敏美	77
C-3-a-14-3-3	壁 画Ⅲ	前期	森 敏美	78
C-3-b-01-1-1	彫刻基礎Ⅰ	前期	佐藤 淳一	79
C-3-b-02-1-1	彫刻基礎Ⅱ	後期	佐藤 淳一	80
C-3-b-03-2-2	彫 刻Ⅰ	前期	佐藤 淳一	81
C-3-b-04-2-2	彫 刻Ⅱ	後期	佐藤 淳一	82
C-3-b-05-3-3	彫 刻Ⅲ	前期	佐藤 淳一	83
C-3-c-01-02-1-1	工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ	前・後	立花 布美子	84
	工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ	前・後	三浦 輝子	85
	工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ	前・後	井上 直美	86
C-3-c-03-2-2	木 工Ⅰ	前期	落合 里麻	87
C-3-c-04-2-2	木 工Ⅱ	後期	落合 里麻	88
C-3-c-05-3-3	木 工Ⅲ	前期	落合 里麻	89
C-3-c-06-2-2	陶 芸Ⅰ	前期	立花 布美子	90
C-3-c-07-2-2	陶 芸Ⅱ	後期	立花 布美子	91
C-3-c-08-3-3	陶 芸Ⅲ	前期	立花 布美子	92
C-3-c-09-2-2	漆 芸Ⅰ	前期	井上 直美	93
C-3-c-10-2-2	漆 芸Ⅱ	後期	井上 直美	94
C-3-c-11-3-3	漆 芸Ⅲ	前期	井上 直美	95
C-3-c-12-2-2	染 織Ⅰ	前期	三浦 輝子	96
C-3-c-13-2-2	染 織Ⅱ	後期	三浦 輝子	97
C-3-c-14-3-3	染 織Ⅲ	前期	三浦 輝子	98
C-3-d-01-1-1	デザイン基礎・平面Ⅰ(映像メディア表現を含む。)	前期	三上 秀夫	99
C-3-d-02-1-1	デザイン基礎・平面Ⅱ	後期	三上 秀夫	100
C-3-d-03-1-1	デザイン基礎・立体Ⅰ	前期	落合 里麻	101
C-3-d-04-1-1	デザイン基礎・立体Ⅱ	後期	落合 里麻	102
C-3-d-05-2-2	視覚デザインⅠ	前期	三上 秀夫	103
C-3-d-06-2-2	視覚デザインⅡ	後期	三上 秀夫	104
C-3-d-07-3-3	視覚デザインⅢ	前期	三上 秀夫	105
C-3-d-08-2-2	情報デザインⅠ	前期	鶴巻 史子	106
C-3-d-09-2-2	情報デザインⅡ	後期	鶴巻 史子	107
C-3-d-10-1-2	インテリアデザインⅠ	前期	湯目 俊彦	108
C-3-d-11-1-2	インテリアデザインⅡ	後期	湯目 俊彦	109
C-3-e-01-1-2	生活美術概論Ⅰ	前期	今林 直樹	110
C-3-e-02-2-2	生活美術概論Ⅱ	後期	今林 直樹	111
C-3-e-03-1-1	情報設計概論Ⅰ	前期	鶴巻 史子	112
C-3-e-04-2-1	情報設計概論Ⅱ	後期	鶴巻 史子	113
C-3-e-05-1-2	デザイン概論	後期	三上 秀夫	114
C-3-e-06-1-2	美 学Ⅰ	前期	太田 峰夫	115
C-3-e-07-2-2	美 学Ⅱ	後期	太田 峰夫	116

ナンバリング	科 目 名	開講期	担 当 者	頁
C-3-e-08-1-2	美術鑑賞Ⅰ	前期	瀬戸 典彦	118
C-3-e-09-2-2	美術鑑賞Ⅱ	後期	瀬戸 典彦	119
C-3-e-10-1-1	色彩学Ⅰ	前期	大堀 恵子	120
C-3-e-11-2-2	色彩学Ⅱ	後期	大堀 恵子	121
C-3-f-01-1-2	ガラスアートⅠ	前期	森合 暢子	122
C-3-f-02-1-2	ガラスアートⅡ	後期	山口 綾子	123
C-3-f-03-2-3	ガラスアートⅢ	前期	山口 綾子	124
C-3-f-04-1-2	人形Ⅰ	前期	福田 一実	125
C-3-f-05-1-2	人形Ⅱ	後期	福田 一実	126
C-3-f-06-2-3	人形Ⅲ	前期	福田 一実	127
C-3-f-07-1-2	マンガⅠ	前期	鹿野 明子	128
C-3-f-08-1-2	マンガⅡ	後期	安孫子 三和	129
C-3-f-09-2-3	マンガⅢ	前期	安孫子 三和	130
C-3-f-10-1-2	製図Ⅰ	前期	湯目 俊彦	131
C-3-f-11-1-2	製図Ⅱ	後期	湯目 俊彦	132
C-3-f-12-2-3	図学Ⅰ	前期	湯目 俊彦	133
C-3-f-13-2-3	図学Ⅱ	後期	湯目 俊彦	134
C-3-f-14-1-3	写真Ⅰ	前期	飯沢 耕太郎 集中講義	135
C-3-f-15-1-3	写真Ⅱ	後期	及川 廣道 集中講義	136
C-3-g-01-1-3	美術教諭試験対策講座Ⅰ	後期	佐々木 晃	137
C-3-g-02-2-4	美術教諭試験対策講座Ⅱ	前期	佐々木 晃	138
C-3-g-03-1-3	アート支援Ⅰ	前期	瀬戸 典彦 集中講義	139
C-3-g-04-2-3	アート支援Ⅱ	後期	瀬戸 典彦 集中講義	140
C-3-h-01-4-3	技法研究Ⅰーa	前期	生活美術学科全教員	141
C-3-h-02-4-3	技法研究Ⅱ	後期	北折 整 洋画	142
	技法研究Ⅱ	後期	佐藤 淳一 彫刻	143
	技法研究Ⅱ	後期	森 敏美 洋画	144
	技法研究Ⅱ	後期	森 敏美 壁画	145
	技法研究Ⅱ	後期	三上 秀夫 視覚デザイン	146
	技法研究Ⅱ	後期	瀬戸 典彦 論文	147
	技法研究Ⅱ	後期	鶴巻 史子 情報デザイン	148
	技法研究Ⅱ	後期	大堀 恵子 版画	149
	技法研究Ⅱ	後期	三浦 輝子 染織	150
	技法研究Ⅱ	後期	立花 布美子 陶芸	151
	技法研究Ⅱ	後期	及川 聡子 日本画	152
	技法研究Ⅱ	後期	落合 里麻 木工	153
	技法研究Ⅱ	後期	井上 直美 漆芸	154
	技法研究Ⅱ	後期	森合 暢子 グラスアート	155
	技法研究Ⅱ	後期	福田 一実 人形	156
	技法研究Ⅱ	後期	鹿野 明子 マンガ	157
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ	前期	北折 整	158
	卒業研究Ⅰ	前期	佐藤 淳一	159
	卒業研究Ⅰ	前期	森 敏美(洋画)	160
	卒業研究Ⅰ	前期	森 敏美(壁画)	161
	卒業研究Ⅰ	前期	三上 秀夫	162
	卒業研究Ⅰ	前期	瀬戸 典彦	163・164
	卒業研究Ⅰ	前期	鶴巻 史子	165
	卒業研究Ⅰ	前期	大堀 恵子	166
	卒業研究Ⅰ	前期	三浦 輝子	167
	卒業研究Ⅰ	前期	立花 布美子	168
	卒業研究Ⅰ	前期	及川 聡子	169
	卒業研究Ⅰ	前期	落合 里麻	170
	卒業研究Ⅰ	前期	井上 直美	171
	卒業研究Ⅰ	前期	森合 暢子	172
	卒業研究Ⅰ	前期	山口 綾子	173
	卒業研究Ⅰ	前期	福田 一実	174
	卒業研究Ⅰ	前期	鹿野 明子	175
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ	後期	北折 整	176
	卒業研究Ⅱ	後期	佐藤 淳一	177
	卒業研究Ⅱ	後期	森 敏美(洋画)	178
	卒業研究Ⅱ	後期	森 敏美(壁画)	179
	卒業研究Ⅱ	後期	三上 秀夫	180
	卒業研究Ⅱ	後期	瀬戸 典彦	181・182
	卒業研究Ⅱ	後期	鶴巻 史子	183
	卒業研究Ⅱ	後期	大堀 恵子	184
	卒業研究Ⅱ	後期	三浦 輝子	185
	卒業研究Ⅱ	後期	立花 布美子	186
	卒業研究Ⅱ	後期	及川 聡子	187
	卒業研究Ⅱ	後期	落合 里麻	188

ナンバリング	科 目 名	開講期	担 当 者	頁
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ	後期	井上 直美	189
	卒業研究Ⅱ	後期	森合 暢子	190
	卒業研究Ⅱ	後期	山口 綾子	191
	卒業研究Ⅱ	後期	福田 一実	192
	卒業研究Ⅱ	後期	鹿野 明子	193
C-3-h-06-5-4	卒業研究特別講義Ⅰ	前期	森 敏美・大堀 恵子	194
C-3-h-07-5-4	卒業研究特別講義Ⅱ	後期	森 敏美・大堀 恵子	195
C-3-i-01~06-1-1~3	生活特別講義Ⅰ～Ⅴ	集中	生活美術学科教員他	196
C-3-i-01~06-1-1~3	生活特別講義Ⅵ	集中	佐藤 寛知・鶴巻 史子	197

教職に関する科目

	科 目 名	開講期	対象学科・専攻	担 当 者	頁
K-4-a-01-1	教職概論	前期	家・美1	佐々木 晃	198
K-4-b-01-2	教育原理	前期	家・美2	菅並 茂樹	199
K-4-b-02-2	教育心理学	前期	家・美2	植松 公威	200
K-4-b-03-3	教育制度論	前期	家・美3	菅並 茂樹	201
K-4-c-01-2	教育課程論	後期	家・美2	菅並 茂樹	202
K-4-c-02-3	家庭科教育法Ⅰ	通年	家・健3	佐藤 郷美	203
K-4-c-03-4	家庭科教育法Ⅱ	通年	家・健4	深澤 律子	204・205
C-4-b-01-2	美術科教育法Ⅰ	通年	美3	加美山 裕子	206・207
K-4-b-01-2	美術科教育法Ⅱ	通年	美4	加美山 裕子	208・209
K-4-b-01-2	工芸科教育法	通年	美3	瀬戸 典彦	210・211
K-4-c-04-2	道德教育の研究	前期	家・美3	加美山 裕子	212
K-4-c-05-2	特別活動の研究	前期	家・美2	須藤 由子	213
K-4-c-06-3	教育方法論	後期	家・美2	植松公威・松尾 広	214
K-4-d-01-3	生徒指導の理論と方法A (進路指導の理論及び方法を含む。)	後期	家・美3	佐々木 晃	215
B-4-d-02-3	生徒指導の理論と方法B	前期	健3	佐々木 晃	216
K-4-d-02-2	教育相談	後期	家・美3	植松 公威	217
K-4-f-01-4	教職実践演習(中・高)	後期	家・美4	菅並 茂樹・植松 公威	218
B-4-f-02-4	教職実践演習(栄養教諭)	後期	健4	菅並 茂樹・植松 公威	219

博物館に関する科目

	科 目 名	開講期	対象学科・専攻	担 当 者	頁
K-5-a-01-2	生涯学習概論	後期	服・美1	伊藤 優	220
K-5-a-02-2	博物館概論	前期	服・美1	伊藤 優	221
K-5-a-03-4	博物館経営論	前期	服・美3	笠原 信男	222
K-5-a-04-3	博物館資料論	後期	服・美2	手塚 均	223
K-5-a-05-3	博物館資料保存論	前期	服・美2	手塚 均	224
K-5-a-06-4	博物館展示論	後期	服・美3	田中 則和	225
K-5-a-07-3	博物館情報・メディア論	後期	服・美2	佐藤 泰	226
K-5-a-08-2	博物館教育論	後期	服・美1	伊藤 優	227
K-5-a-09-4	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習を含む。)	通年(前)	服・美3	小谷 竜介	228
	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習を含む。)	通年(後)	服・美3	三上 秀夫	229

家政学部共通教養科目

1. 家政学部共通教養科目

授業科目名		化学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)			
担当者	菅野 修一	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・美１年			
授業概要												
私たちの衣・食・住すべてに化学物質が関与しており、化学の知識なくしては現代の快適な生活はあり得ない。化学Ⅰでは、生活全般に密接に結び付いた化学の基礎的な内容を紹介する。さらに、身の回りを化学の目で見る習慣が身につくよう、化学の面白さや興味深さについても紹介する。さらには、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることをの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
物質についての基本的理解（原子・分子の本質）				○	○	○		○				○
生活と化学の関係の理解				○	○	○						○
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）								
１．科学と化学の関係				教科書指定ページの熟読。								
２．物質とは何か、物質を粒子としてみる				教科書指定ページの熟読。								
３．元素の周期表と原子の構造				教科書指定ページの熟読。								
４．量子力学の歴史と基本的な概念				教科書指定ページの熟読。								
５．電子と化学結合				教科書指定ページの熟読。								
６．身の回りの物質、無機物と有機物				教科書指定ページの熟読。								
７．身の回りの物質、混合物と化合物				教科書指定ページの熟読。								
８．混合物と化合物				教科書指定ページの熟読。								
９．原子・分子の世界におけるモルの概念				教科書指定ページの熟読。								
10. 物質の状態と温度、状態変化とエネルギー				教科書指定ページの熟読。								
11. 化学反応と電子				教科書指定ページの熟読。								
12. 電子の不思議（粒子としての電子・波としての電子）				教科書指定ページの熟読。								
13. 水の化学				教科書指定ページの熟読。								
14. 環境と化学、分析化学の紹介				教科書指定ページの熟読。								
15. 身の回りの高分子化合物				教科書指定ページの熟読。								
履修上の注意												
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。												
成績評価方法・基準												
小テスト 30%、課題レポート 30%、課題プレゼンテーション 40%を総合的に評価する。小テストは毎回添削。												
教科書 [教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3,000 円]												
参考書 必要に応じて個別に紹介する。												
備 考												
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。												

授業科目名	化学 I				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	鈴木 裕行	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専 1 年					
授業概要														
健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する、栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1. 化学一般の基礎的な知識を身につける。					○		○							
2. 関連する練習問題を解答できるようにする。					○		○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 健康・栄養・食品と化学					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㊤									
2. 物質を構成する粒子														
3. 元素の周期律と周期表														
4. 原子の構造														
5. イオンと分子														
6. イオン性化合物～化学式の書き方														
7. 物質質量：原子量・分子量・モルとは					㊤に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。									
8. 〔中間試験〕、物質質量：原子量・分子量・モルの計算					㊤に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
9. 試験の解説、原子価と電子式														
10. 化学反応と反応式のつくり方					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㊤									
11. 化学反応式を用いた計算														
12. 化学結合と分子構造： 共有結合・イオン結合・水素結合														
13. 化学結合と電気陰性度														
14. 酸と塩基					㊤に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する									
15. 〔期末試験〕、中和反応					㊤に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
16. 試験の解説、中和反応と塩の生成														
履修上の注意														
今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。														
成績評価方法・基準														
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%														
教科書 [ゼロからはじめる化学][立屋敷 哲][丸善(株)出版事業部][2,376 円]														
参考書 無し														
備 考														
「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。														

授業科目名	化学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	菅野 修一		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・美１年			
授業概要													
化学Ⅰで学んだ基礎をもとに、我々の生活を支える多くの化学物質、生命を支える食料としての物質、エネルギーに関する物質、さらに地球のこれまでの進化と環境に関連する大気や水や土壌に関連する化学について述べ、その反応と諸現象との関連を講義する。合わせて、暮らしを豊かにしてくれる化学について概観する。一方、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
自然界と化学の関係の理解。					○	○		○				○	○
生活と化学の関係の理解。					○	○		○				○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
１．気体の圧力と沸騰					教科書指定ページの熟読。								
２．蒸発と沸騰、気化熱					教科書指定ページの熟読。								
３．水に溶けるものと油に溶けるものの違い					教科書指定ページの熟読。								
４．過冷却、融解熱の実験					教科書指定ページの熟読。								
５．化学反応熱などの熱とエネルギー					教科書指定ページの熟読。								
６．塩析と生体の機能					教科書指定ページの熟読。								
７．酸と塩基、水素イオン濃度、酸塩基の強さ、中和反応					教科書指定ページの熟読。								
８．酸化数、身の回りの酸化剤、還元剤					教科書指定ページの熟読。								
９．角砂糖の燃焼と生体エネルギー					教科書指定ページの熟読。								
10．酸化と還元、活性酸素					教科書指定ページの熟読。								
11．電子の移動と電池、燃料電池など各種電池					教科書指定ページの熟読。								
12．太陽エネルギーと光合成					教科書指定ページの熟読。								
13．光、波と粒子としての性質、電波と光					教科書指定ページの熟読。								
14．物質の色、炎色反応					教科書指定ページの熟読。								
15．高分子化合物、酸素の性質					教科書指定ページの熟読。								
履修上の注意													
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。													
成績評価方法・基準													
小テスト 30％、課題レポート 30％、課題プレゼンテーション 40％を総合的に評価する。小テストは毎回添削。													
教科書 〔教養としての化学入門〕[Kimberley Waldron] [化学同人] [3,000 円]													
参考書 必要に応じて個別に紹介する。													
備 考													
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。													

授業科目名		化学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	鈴木 裕行	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専 1 年					
授業概要														
健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する、栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、化学Ⅰに引続き各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
化学一般の基礎的な知識・考え方を身につける。					○		○							
関連する計算問題を解答できるようにする。					○		○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 中和反応と濃度計算					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㉠									
2. 水素イオン濃度と p H														
3. 酸化と還元														
4. 酸化数と酸化還元反応														
5. 酸化剤・還元剤														
6. 金属元素のイオン化列と電池														
7. 物質の三態、気体の性質、気体の法則					㉠に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。									
8. 〔中間試験〕気体の状態方程式					㉠に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
9. 試験の解説、気体の計算														
10. 溶液の性質					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㉠									
11. 浸透圧、化学反応と熱・熱化学方程式														
12. 熱量変化の計算														
13. 有機化合物の基礎：構造式の書き方														
14. 有機化合物の種類					㉠に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する									
15. 〔期末試験〕、生体の有機化合物					㉠に加え、試験でできなかったところをよく復習する									
16. 試験の解説、有機化合物の反応														
履修上の注意														
今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。														
成績評価方法・基準														
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%														
教科書 【ゼロからはじめる化学】[立屋敷 哲][丸善(株)出版事業部][2,376 円]														
参考書 無し														
備 考														
「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。														

授業科目名	有機化学Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	菅野 修一		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・美1年			
授業概要													
有機化学の基礎として、各原子の電子配置から解説する。特に炭素原子の $sp \cdot sp^2 \cdot sp^3$ の各混成軌道をはじめとする電子軌道の形が、分子の形に直接影響することを認識させ、それをベースに様々な基本となる有機化合物を紹介する。さらには、有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。講義の適切な個所では、繰り返し有機電子論に触れ、有機化学反応と電子の関係に触れ、有機化学の奥深さも伝える。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
原子と電子配置について理解。					○	○		○					
有機化合物の分子レベルでの理解。					○	○	○						○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 日常生活における有機化学の重要性の認識について					教科書指定ページの熟読。								
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素					教科書指定ページの熟読。								
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス					教科書指定ページの熟読。								
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手					教科書指定ページの熟読。								
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習					教科書指定ページの熟読。								
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用					教科書指定ページの熟読。								
7. 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体					教科書指定ページの熟読。								
8. 中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造					教科書指定ページの熟読。								
9. 炭素の二重結合、三重結合、種々の分子式					教科書指定ページの熟読。								
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質					教科書指定ページの熟読。								
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対					教科書指定ページの熟読。								
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子					教科書指定ページの熟読。								
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合					教科書指定ページの熟読。								
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基					教科書指定ページの熟読。								
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名					教科書指定ページの熟読。								
履修上の注意													
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。													
成績評価方法・基準													
毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。小テストは毎回添削。													
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]													
参考書 必要に応じて個別に紹介する。													
備 考													
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。													

授業科目名	有機化学Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	菅野 修一		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健1年				
授業概要														
生命現象を分子レベルで理解するため、生体を構成している物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合のしくみを知る事は必須である。化学Ⅰ・Ⅱで学んだことをもとに有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。一方、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
生体構成物質を理解する基礎となる簡単な有機化合物の理解。					○	○	○	○						○
化学結合と電子の関係の理解。					○				○	○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
１．健康栄養学における有機化学の重要性の認識について					教科書指定ページの熟読。									
２．元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素					教科書指定ページの熟読。									
３．アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス					教科書指定ページの熟読。									
４．分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手					教科書指定ページの熟読。									
５．原子番号と電子の配列、イオン結合の復習					教科書指定ページの熟読。									
６．原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用					教科書指定ページの熟読。									
７．分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体					教科書指定ページの熟読。									
８．中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造					教科書指定ページの熟読。									
９．炭素の二重結合、三重結合、様々な分子式					教科書指定ページの熟読。									
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質					教科書指定ページの熟読。									
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対					教科書指定ページの熟読。									
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子					教科書指定ページの熟読。									
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合					教科書指定ページの熟読。									
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基					教科書指定ページの熟読。									
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名					教科書指定ページの熟読。									
履修上の注意														
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。														
成績評価方法・基準														
毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。 小テストは毎回添削。														
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]														
参考書 必要に応じて個別に紹介する。														
備 考														
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。														

授業科目名		有機化学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	菅野 修一		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・美2年				
授業概要														
有機化学Ⅰの講義を理解していることをベースに、有機化学の基礎として知っておく必要のある典型的な有機化合物を個別に解説していく。ここでは繰り返し化合物をボンドラインフォーミュラ・ダッシュフォーミュラ・コンデンスドフォーミュラで書けるよう説明し、さらには構造式から読み取れる化合物の性質を理解できるようにする。さらに、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
基本的有機化合物の理解。					○	○	○		○					○
有機化学反応の基礎の理解。					○	○	○							○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 有機化合物の官能基、化合物の名称					教科書指定ページの熟読。									
2. アルコール、エーテル、エステルの一般的性質					教科書指定ページの熟読。									
3. アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質					教科書指定ページの熟読。									
4. ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性					教科書指定ページの熟読。									
5. アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係					教科書指定ページの熟読。									
6. 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け					教科書指定ページの熟読。									
7. 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン					教科書指定ページの熟読。									
8. 中間試験、アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン					教科書指定ページの熟読。									
9. 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊					教科書指定ページの熟読。									
10. 求核的置換反応、脱離反応					教科書指定ページの熟読。									
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味					教科書指定ページの熟読。									
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味					教科書指定ページの熟読。									
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール					教科書指定ページの熟読。									
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性					教科書指定ページの熟読。									
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係					教科書指定ページの熟読。									
履修上の注意														
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。														
成績評価方法・基準														
小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。														
小テストは毎回添削。														
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]														
参考書 必要に応じて個別に紹介する。														
備 考														
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。														

授業科目名		有機化学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	菅野 修一		必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	前期	対象	健 2 年				
授業概要														
人間の生命維持に関連する現象は体内のタンパク質・糖質・脂質などが関連する代謝、つまりは複雑な化学反応によりもたらされる。生体の主構成物質の有機化合物の化学構造を理解し、さらにはその基本的有機化学反応について説明する。有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。代謝に関する詳しい学習は生化学に譲るが生化学の講義を理解するためには、この講義を理解することが前提となる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
有機化学反応の基礎の理解。					○	○	○		○					○
基礎となる有機化合物の理解。					○	○	○	○						○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 有機化合物の官能基、化合物の名称					教科書指定ページの熟読。									
2. アルコール、エーテル、エステルの一般的性質					教科書指定ページの熟読。									
3. アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質					教科書指定ページの熟読。									
4. ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性					教科書指定ページの熟読。									
5. アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係					教科書指定ページの熟読。									
6. 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け					教科書指定ページの熟読。									
7. 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン					教科書指定ページの熟読。									
8. 中間試験、アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン					教科書指定ページの熟読。									
9. 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊					教科書指定ページの熟読。									
10. 求核的置換反応、脱離反応					教科書指定ページの熟読。									
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味					教科書指定ページの熟読。									
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味					教科書指定ページの熟読。									
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール					教科書指定ページの熟読。									
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性					教科書指定ページの熟読。									
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係					教科書指定ページの熟読。									
履修上の注意														
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。														
成績評価方法・基準														
毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。 小テストは毎回添削。														
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]														
参考書 必要なプリント配布														
備 考														
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。														

授業科目名		生物学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)						
担当者	堀江 佐知子		必・選	必（健） 選（服・美）	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美1年				
授業概要														
生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。そして、その不思議さが進化した背景には、何らかの合理的な理由があると考えられる。地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義であり、今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指す講義である。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。					○									
学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。										○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 講義内容および進め方や評価方法の説明					生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。									
2. 原始地球の誕生					地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
3. 地球と生命の誕生と進化					生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
4. 魚の進化					魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
5. 植物の進化（植物の誕生）					植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
6. 植物の進化（裸子植物の進化）					裸子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
7. 植物の進化（被子植物の進化）					被子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
8.哺乳類の誕生					哺乳類の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
9.哺乳類の進化					哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
10.鳥の進化					鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
11.昆虫の進化（昆虫の誕生）					昆虫の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
12. 昆虫の進化（昆虫の情報戦略）					昆虫の情報戦略について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
13. 昆虫の進化（昆虫の共進化）					昆虫の共進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
14.人類の進化					人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
15.講義のまとめ					講義内容をまとめる。									
16.試験														
履修上の注意														
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。														
成績評価方法・基準														
課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。														
教科書 無し														
参考書 無し														
備 考														
質問等については、講義の終了時に受付ける。														

授業科目名		生物学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	堀江 佐知子		必・選	必（健） 選（美）	形態	講義	学期	後期	対象	健・美1年 服4年				
授業概要														
生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。本講義で扱う対象は細胞内の分子のようなミクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで様々な生命現象を対象とする。本講義では、生命誕生から生物の一種として、ヒトの生物学的特徴を分子遺伝学や生理学、生態学等様々な視点から学んで行くことを通して、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点からとらえ、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指し講義を行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。					○									
学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。										○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 講義内容および進め方や評価方法の説明					生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。									
2. 生命の誕生					生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
3. ヒトの設計図、遺伝子					遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
4. 骨・筋肉					骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
5. 肝臓					肝臓について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
6. 胃・腸					胃や腸について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
7. 心臓・血管					心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
8.免疫					免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
9.脳と心（知覚）					脳（知覚）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
10. 脳と心（記憶）					脳（記憶）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
11. 脳と心（こころの進化）					脳（こころの進化）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
12. 遺伝子（日本人のルーツ）					遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
13. 遺伝子（精神の設計図）					遺伝子（精神の設計図）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
14.生物多様性と保全					生物多様性について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。									
15.講義のまとめ					講義内容をまとめる。									
16.試験														
履修上の注意														
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。														
成績評価方法・基準														
課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う														
教科書 無し														
参考書 無し														
備 考														
質問等については、講義の終了時に受付ける。														

授業科目名		環境学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	黒川 優子		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健・美2年				
授業概要														
日本各地で公害問題が多発した 1960～1970 年代の高度経済成長期から約半世紀が経過した今日では、見た目の環境はかなり良くなったような印象を受ける。社会には「エコ」「リサイクル」などの文字や言葉があふれ、人々の環境に関する認識も高まっているように感じられるが、地球温暖化をはじめとする環境の悪化に関するニュースが毎日のように報道されている。一般市民の中で、環境問題を切実な問題としてとらえている人はどの程度いるのだろうか。環境問題に関する基礎的な知識を習得し、「環境を保全、修復するために何をすべきか」について理解を深める。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
環境に関する基礎的知識を身に付ける。						○	○							
環境との関わり方の大切さについて理解を深める。						○	○							
環境問題関する分野で興味を持った内容について、自ら調べ発表する。														
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. 人間活動と環境とのかかわり						・講義予定項目について教科書を読んでおく。 ・講義ノート、配布資料に沿って授業内容を復習する。								
2. 環境変化に伴う異変														
3. 化学物質汚染の基礎														
4. 大気汚染														
5. 水質汚染														
6. 土壌汚染														
7. 化学物質による汚染物質														
8.汚染物資の毒性と生体内での代謝・放射能汚染・														
9. 内分泌攪乱物質														
10. 飲料水と食品に対する今後の課題														
11. ごみと廃棄物・エネルギー資源と環境問題														
12. アセスメント手法・環境活動と倫理														
13. アクティブラーニング①：調査						発表のテーマについて、書籍、インターネット等で事前に調べておく。								
14. アクティブラーニング②：発表準備						発表の準備								
15. アクティブラーニング③：発表														
16. 試験														
履修上の注意														
日頃から環境に関心・興味を持つように心がけ、新聞、テレビ、インターネット、書籍等で環境に関する情報について調べておく。														
成績評価方法・基準														
・授業への取り組み（20％）、調査と発表への取り組み（20％）、課題（20％）、試験（40％） ・提出された課題については、後日、添削して返却する。														
教科書 〔環境科学入門 第2版－地球と人類の未来のために〕〔川合真一郎・張野宏也・山本義和〕〔化学同人〕〔2,300 円〕														
参考書 ・〔川合真一郎〕〔環境ホルモンと水生生物〕〔成山堂書店〕〔1,600 円〕 ・〔沈黙の春〕〔レイチェル・カーソン著、青樹繁一訳〕〔新潮社〕〔766 円〕 ・〔新装版 苦海浄土（くがいじょうど） わが水俣病〕〔石牟礼道子〕〔講談社〕〔690 円〕 ・〔森は海の恋人〕〔畠山重篤〕〔文芸春秋〕〔640 円〕														
備 考														
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名		統計学				単位（授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	池田 展敏	必・選	必(健)・選(服・美)		形態	講義	学期	後期	対象	服・健・美1年				
授業の概要：前半では、集団の性質を大局的にとらえるための基礎となる記述統計（度数分布、代表値、散布度、特に標準偏差、相関係数など）の初歩的事項について解説し、簡単な例で計算練習する。中盤では、統計学の応用のために不可欠な確率と確率分布（正規分布、t分布、カイ二乗分布など）について説明する。後半では、確率論の応用として推定や検定など推測統計の考え方について説明する。特に、疫学研究に欠かせないクロス表集計の考え方について言及する。														
授業の目的(到達目標)						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
平均、標準偏差、相関係数などの意味と定義を理解し、その計算ができるようになる。						○								
就職試験に出題されるような、簡単な確率や数え上げの問題が解けるようになること。						○								
確率分布の種類について理解し、区間推定に応用できる。						○								
統計的検定の考え方を理解し、特定の例題が解ける。						○								
授業計画の内容						事前・事後学修の内容								
1. 序章：ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）						教科書該当ページを読む。								
2. 1章：資料の整理（データと度数分布）						教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。								
3. 1章：資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）						教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。								
4. 1章：資料の整理（散布度、偏差、分散、標準偏差、データの標準化）						教科書該当ページを読む。計算例の確認。								
5. 1章：資料の整理（散布図、共分散、相関係数）						教科書該当ページを読む。計算例の確認。								
6. 2章：確率（統計的確率と数学的確率、コイン投げ）						教科書該当ページを読む。散布図、計算例の確認。								
7. 2章：確率（順列や組み合わせなどの場合の数と確率）						教科書該当ページ、および、配布資料の復習								
8. 2章：確率（確率に関する演習）						教科書該当ページを読む。計算例の確認。								
9. 2章：確率（確率変数、確率分布、離散型の場合の平均値の定義）						該当ページを読む。								
10. 2章：確率（確率変数、連続型の場合の平均値の定義、分布表の使い方、%点）						1章の全体復習。1・2章提出課題に取り組む。 確率分布表の使い方確認								
11. 3章：なぜ正規分布が必要か。中心極限定理						教科書該当ページを読む。確率分布表の使い方確認。								
12. 4章：平均値の区間推定（分散既知の場合とそうでない場合）						教科書該当ページを読む。								
13. 4章：区間推定の演習問題						教科書該当ページを読む。ノートの復習。								
14. 5章：検定とはどんなものか（平均値の検定）						教科書該当ページを読む。プリントの復習。								
15. 5章：検定の具体例（クロス表を使ったカイ2乗検定）						教科書該当ページを読む。2～5章の課題の提出。								
16. 試験						提出課題を復習して臨むこと。								
履修上の注意：電卓が必要な時があるので持参すること。														
成績評価方法・基準														
期末テスト（47%）。問題レポート（53%） レポートは後日添削して返却する。試験は試験後に解答例を配布する。														
教科書〔中学数学でわかる統計授業〕〔涌井良幸・他〕〔日本実業出版〕〔1,800円〕														
参考書 なし														
備 考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。														

授業科目名		数学				単位（授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	池田 展敏	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美１年					
授業の概要：数学は自然科学だけでなく、文系の分野でも幅広く利用される道具としての意味もある。授業では、集合論、代数学、解析学、幾何学など数学の体系を説明する。特に、集合と写像が数学理論の出発点となり、２項演算の導入により代数学が、変換群の導入により幾何学が発展することを述べていく。加えて、微分・積分は現代社会において欠かせないツールになっていることも説明する。また、数学の理論と中学・高校で教えられる基礎的数学の関連性を、演習問題を通じ学習するようにする。														
授業の目的(到達目標)						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
数学に関する教養（歴史、分野、現代における応用など）を修得する。						○	○							
集合の記法、写像の概念、関数のグラフ化、方程式の作り方や解き方を理解する。						○	○							
就職試験などで出題されるレベルの数学に慣れ、解ける。						○	○							
授業計画の内容						事前・事後学修の内容								
1. ガイダンス：数学の歴史と構成						板書の復習								
2. 集合と写像：集合の元の個数を比べるために集合から集合への写像を考える。						配布プリントの復習								
3. 無限集合の元の個数を比べること。						配布プリントの復習								
4. 集合に関する記法等の基礎事項						配布プリントの復習。								
5. 数と数直線。整数、有理数、無理数、実数						配布プリントの復習。集合と数の演習問題を解く。								
6. 移動と回転で幾何学模様を分類する。						配布プリントの復習。対称性の演習問題を解く。								
7. 回転操作と演算表。群の定義						配布プリントの復習								
8. ２項演算と代数学。方程式が解けるために必要なこと。						配布プリントの復習。命題と論理に関する演習問題を解く。								
9. 一次方程式を作ったり解いたりする演習						配布プリントの復習。方程式に関する演習問題								
10. 速さと時間、距離。グラフを書く練習						配布プリントの復習								
11. 微分の定義						配布プリントの復習								
12. 数列と簡単な関数（一次関数、２次関数）の演習						配布プリントの復習。関数に関する演習問題								
13. 積分の意味						配布プリントの復習。								
14. 図形の面積、立体の体積						配布プリントの復習。幾何学に関する演習問題								
15. いろいろな幾何学。同じ図形とは何なのか考える。ユークリッド幾何、射影幾何、トポロジー						配布プリントの復習。全体レポートの提出								
履修上の注意：電卓が必要な時があるので持参すること。														
成績評価方法・基準														
テーマごとに出す宿題の提出（64%）。レポート（36%）。問題プリントは後日添削して返却し、一部を授業中に解説する。レポートは、後日解答例を配布する。														
教科書 パワーポイントの資料を配布する。														
参考書 なし														
備 考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。														

授業科目名	経済学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	星 雅博		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・美１年				
授業概要														
日本は、戦後奇跡的な経済成長を遂げ、経済大国となった。だが、近年、近隣諸国の経済成長に伴い相対的に日本の国際的な経済力が低下してきており、国際的、多角的な視点で経済の動きを読める能力がますます求められてきている。また、日本は世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもあり、生産人口の減少による経済成長率の鈍化が懸念されている。このような、内外の経済問題に対応するための知識を一国経済と国民の日常生活との関わりを通じて、講義では、経済学の基礎知識をもとに解説する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
経済学を学習する上で必要な基礎知識を身につける。						○								
社会人としての専門的な知識を身につける。							○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス（経済学とは何か。）						経済学の考え方をまとめ次回提出する。								
2.社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給						需要と供給の内容を次回提出する。								
3.消費者の選択と消費需要の決定						消費者選択の過程を次回提出する。								
4.企業の生産行動						生産行動の過程を次回提出する。								
5.余剰、企業の集中、市場の失敗						市場の失敗の具体例を次回提出する。								
6.国民所得とは						国民所得の定義をまとめ次回提出する。								
7.景気						景気の種類をまとめ次回提出する。								
8.財政						財政のしくみを次回提出する。								
9.金融						金融のしくみを次回提出する。								
10.財政・金融政策						財政・金融政策の効果を次回提出する。								
11.国際収支統計、国際通貨制度、貿易に関する基礎理論						国際通貨制度のしくみを次回提出する。								
12.国際経済機構と地域経済連携、EPAとODA						機構と連携の社会への影響を次回提出。								
13.戦後の国際経済制度						国際経済制度の変遷を次回提出する。								
14.日本経済の変遷						日本経済の変遷を次回提出する。								
15.経済史と経済学史						歴史から学ぶこれからの経済を提出。								
履修上の注意														
常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の経済動向が講義の内容のどこに関連するかを意識する。														
成績評価方法・基準														
平常点８０％（平常点は、授業への参加状況およびミニットペーパー等で総合的に判断する。）レポート２０％（必ず提出すること。未提出の場合評価の対象外とする。）														
ミニットペーパー、レポートについては授業中にフィードバックを行う。														
教科書：事前にプリントを配布します。														
参考書：なし														
備 考														
質問等については、授業終了時に受付けます。														

授業科目名	経済学Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	星 雅博		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健 4 年				
授業概要														
日本は、戦後奇跡的な経済成長を遂げ、経済大国となった。だが、近年、近隣諸国の経済成長に伴い相対的に日本の国際的な経済力が低下してきており、国際的、多角的な視点で経済の動きを読める能力がますます求められてきている。また、日本は世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもあり、生産人口の減少による経済成長率の鈍化が懸念されている。このような、内外の経済問題に対応するための知識を一国経済と国民の日常生活との関わりを通じて、講義では、経済学の基礎知識をもとに解説する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
経済学を学習する上で必要な基礎知識を身につける。						○								
社会人としての専門的な知識を身につける。							○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス（経済学とは何か。）						経済学の考え方をまとめ次回提出する。								
2.社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給						需要と供給の内容を次回提出する。								
3.消費者の選択と消費需要の決定						消費者選択の過程を次回提出する。								
4.企業の生産行動						生産行動の過程を次回提出する。								
5.余剰、企業の集中、市場の失敗						市場の失敗の具体例を次回提出する。								
6.国民所得とは						国民所得の定義をまとめ次回提出する。								
7.景気						景気の種類をまとめ次回提出する。								
8.財政						財政のしくみを次回提出する。								
9.金融						金融のしくみを次回提出する。								
10.財政・金融政策						財政・金融政策の効果を次回提出する。								
11.国際収支統計、国際通貨制度、貿易に関する基礎理論						国際通貨制度のしくみを次回提出する。								
12.国際経済機構と地域経済連携、EPAとODA						機構と連携の社会への影響を次回提出。								
13.戦後の国際経済制度						国際経済制度の変遷を次回提出する。								
14.日本経済の変遷						日本経済の変遷を次回提出する。								
15.経済史と経済学史						歴史から学ぶこれからの経済を提出。								
履修上の注意														
常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の経済動向が講義の内容のどこに関連するかを意識する。														
成績評価方法・基準														
平常点80％（平常点は、授業への参加状況およびミニットペーパー等で総合的に判断する。）レポート20％（必ず提出すること。未提出の場合評価の対象外とする。）														
ミニットペーパー、レポートについては授業中にフィードバックを行う。														
教科書：事前にプリントを配布します。														
参考書：なし														
備 考														
質問等については、授業終了時に受付けます。														

授業科目名	経済学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	星 雅博		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健４年				
授業概要														
日本は、戦後奇跡的な経済成長を遂げ、経済大国となった。だが、近年、近隣諸国の経済成長に伴い相対的に日本の国際的な経済力が低下してきており、国際的、多角的な視点で経済の動きを読める能力がますます求められてきている。また、日本は世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもあり、生産人口の減少による経済成長率の鈍化が懸念されている。このような、内外の経済問題に対応するための知識を一国経済と国民の日常生活との関わりを通じて、講義では、経済学の基礎知識をもとに解説する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
経済学を学習する上で必要な基礎知識を身につける。						○								
社会人としての専門的な知識を身につける。							○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス（経済学とは何か。）						経済学の考え方をまとめ次回提出する。								
2.社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給						需要と供給の内容を次回提出する。								
3.消費者の選択と消費需要の決定						消費者選択の過程を次回提出する。								
4.企業の生産行動						生産行動の過程を次回提出する。								
5.余剰、企業の集中、市場の失敗						市場の失敗の具体例を次回提出する。								
6.国民所得とは						国民所得の定義をまとめ次回提出する。								
7.景気						景気の種類をまとめ次回提出する。								
8.財政						財政のしくみを次回提出する。								
9.金融						金融のしくみを次回提出する。								
10.財政・金融政策						財政・金融政策の効果を次回提出する。								
11.国際収支統計、国際通貨制度、貿易に関する基礎理論						国際通貨制度のしくみを次回提出する。								
12.国際経済機構と地域経済連携、EPAとODA						機構と連携の社会への影響を次回提出。								
13.戦後の国際経済制度						国際経済制度の変遷を次回提出する。								
14.日本経済の変遷						日本経済の変遷を次回提出する。								
15.経済史と経済学史						歴史から学ぶこれからの経済を提出。								
履修上の注意														
常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の経済動向が講義の内容のどこに関連するかを意識する。														
成績評価方法・基準														
平常点８０％（平常点は、授業への参加状況およびミニットペーパー等で総合的に判断する。）レポート２０％（必ず提出すること。未提出の場合評価の対象外とする。）														
ミニットペーパー、レポートについては授業中にフィードバックを行う。														
教科書：事前にプリントを配布します。														
参考書：なし														
備 考														
質問等については、授業終了時に受付けます。														

授業科目名		社会学Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)					
担当者	庄司 一平	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・美１・健４年					
授業概要														
「常識」「自己と他者」「家族」「不安」「つながり」を考える社会学入門。社会と個人の関係に関する二つの基本的な考え方—社会実在論（「個人ではなく社会がすべてだ」）と社会名目論（「社会よりも個人が一番だ」）—を総合する知識社会学の考え方をふまえつつ、各トピックについて概説する。基礎知識の習得だけでなく、〈社会学的なものの見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけを行うことを目的とする。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会に関する幅広い教養を身につける						○	○							
社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける									○					
社会学的なものの見方をふまえた思考力・判断力を養う											○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容） 【各回の配布資料に目を通すこと】								
１．イントロダクション～「社会」という言葉～						辞典における「社会」の語義								
２．「社会」の誕生～起源を想像する～						霊長類の基礎知識								
３．社会学の見方（１）～自殺の社会学～						デュルケーム『自殺論』の概要								
４．社会学の見方（２）～資本主義の社会学～						ヴェーバー『プロ倫』の概要								
５．知識社会学入門（１）～社会のなかの個人～						制度・規範・統制・階層								
６．知識社会学入門（２）～個人のなかの社会～						常識の社会的成り立ち								
７．アイデンティティ～自己と他者～						社会的属性と役割理論								
８．家族の社会学（１）～社会集団論、近代家族論～						集団類型と家族観								
９．家族の社会学（２）～日本の家族、アメリカの家族～						日米家族観の歴史的構築過程								
１０．不安の社会学（１）～社会不安の構造～						不安と恐怖の実存のおよび社会的構造								
１１．不安の社会学（２）～社会不安の諸相～						統計学的恐怖・不安と信仰								
１２．つながりの社会学（１）～社会的ネットワーク論～						友人・夫婦ネットワーク								
１３．つながりの社会学（２）～ソーシャル・キャピタル論～						つながりの社会的有用性								
１４．つながりの社会学（３）～現代日本とつながりの諸相～						身近なつながり								
１５．まとめ						クイズ・レポートの振り返り								
履修上の注意：マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。														
成績評価方法・基準：①受講態度（ミニットペーパー）〔30%〕②各トピックに関するクイズ〔30%〕③レポート〔40%〕により総合的に評価する。①～③については、授業中に適宜、振り返りを行う。														
教科書：使用しない。プリントを配布する。														
参考書														
① ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1,296 円。②ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成—知識社会学論考』新曜社、3,132 円。その他授業中に適宜紹介する。														
備 考：質問等は授業終業時に受け付ける。														

授業科目名		社会学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	庄司 一平	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・美1・健4年					
授業概要														
人間としての生活と人生を、「時間」を手掛かりに社会的に考える。一日・一年・一生という時間の単位に基礎づけられた諸文化には、「年中行事」と「人生儀礼」が必ず存在する。「暦（こよみ）」にもとづいた生活のリズムや、「年齢」とともに変化する人生の諸段階について、伝統社会と現代社会を対比しつつ解説する。さまざまな行動様式や価値観を客観的に理解し、生活と人生—とりわけ生と死—の諸問題について、主体的に考えることを目的とする。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会に関する幅広い教養を身につける						○	○							
社会学的想像力をふまえた表現力を身につける									○					
社会学的想像力をふまえた思考力・判断力を養う											○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容） 【各回の配布資料に目を通すこと】								
1. インTRODクシヨン～時間と生活・人生～						辞典における「時間」の語義								
2. さまざまな時間の考え方						直線的时间論・円環的时间論								
3. 諸宗教の時間論						世界宗教における時間の起源と終末								
4. 暦～一日と一年～						さまざまな暦								
5. 年齢と人の一生						年齢という制度・規範、年祝い								
6. 子供の社会学						祈願と祝いごと								
7. 若者の社会学～一人前と結婚～						通過儀礼・加入儀礼								
8. 老いの社会学（1）～老いとは何か～						老いの文化的相対性								
9. 老いの社会学（2）～超高齢社会の諸問題～						高齢者の統計学								
10. 病気の社会学						創られた概念としての「病気」「健康」								
11. 医療の社会学						医療化・キュアとケア								
12. 死の社会学（1）～死とは何か～						死の多義性・終末期と「お迎え」								
13. 死の社会学（2）～諸文化における死～						葬送と墓制・供養と悲嘆ケア								
14. 死生学の諸問題～どう生き、どう死ぬか～						老いと病・死の準備								
15. まとめ						クイズ・レポートの振り返り								
履修上の注意：マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。														
成績評価方法・基準：①受講態度（ミニットペーパー）[30%] ②各トピックに関するクイズ [30%] ③レポート [40%] により総合的に評価する。①～③については、授業中に適宜、振り返りを行う。														
教科書：使用しない。プリントを配布する。														
参考書：新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）『暮らしの中の民俗学』1～3（吉川弘文館、2003年）、各2,808円。その他授業中に適宜紹介する。														
備 考：質問等は授業終業時に受け付ける。														

授業科目名		歴史Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	栗原 伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美１年				
授業概要													
歴史資料は、過去にあった出来事を明らかにし、考えるための材料や根拠になるものである。本講義では、伊達政宗といった仙台ゆかりの人物に関する歴史資料をはじめ、仙台に関するさまざまな歴史資料を取り上げて、そこから明らかになる内容についてみていく。その際、個々の歴史資料の特徴、作成された時代的背景や作成者の意図などに注目することで、歴史資料を読解するポイントをみていく。以上を通して、歴史を考える方法を紹介したい（単純な事項の暗記ではない）。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
①歴史に親しみ、さまざまな歴史資料があることを理解する。					○	○				○		○	
②歴史資料の性格を考え、そこから読み取ることができる内容を理解する。					○	○				○		○	
③歴史資料から歴史的事実を明らかにするための方法や留意点を理解する。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
１．ガイダンス～講義の概要～					配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。								
２．歴史資料に親しむ①伊達政宗の手紙①					配布プリントを再読し、『仙台市史』（資料編）などの書籍で政宗の手紙について調べる。								
３．歴史資料に親しむ②地図					配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。								
４．歴史資料に親しむ③石碑					配布プリントを再読し、身の周りに残る石碑について調べる。								
５．歴史資料に親しむ④新聞					配布プリントを再読し、過去の新聞について理解を深める。								
６．歴史資料に親しむ⑤実物を見る					見学时、印象に残った歴史資料についてまとめ、提出する。								
７．歴史資料を読み解く①公文書					宮城県公文書館に出向き、実際に公文書について調べる。								
８．歴史資料を読み解く②伊達政宗の編纂記録					これまでの配布プリントを通読し、一次史料と編纂史料について整理する。								
９．歴史資料を読み解く③伊達政宗の手紙②					これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。								
10．歴史資料を読み解く④日記					配布プリントを再読し、紹介した歴史資料の時代的な特徴について理解を深める。								
11．歴史資料と人物像①伊達政宗と伝記					これまでの配布プリントを通読し、人物の伝記に目を通す。								
12．歴史資料と人物像②伊達政宗と位					これまでの配布プリントを通読し、紹介した歴史資料の背景について理解を深める。								
13．歴史資料と人物像③伊達政宗と祭					これまでの配布プリントを通読し、近代における政宗の捉え方について理解を深める。								
14．歴史資料と人物像④伊達政宗と現代					これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗がどのように取り上げられているのか確認する。								
15．補論と総括～歴史資料を考える～					これまでの配布プリントを通読し、歴史資料を利用する際の留意点を考えてみる。								
16．試験					試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。								
履修上の注意													
歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。													
成績評価方法・基準													
平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30％													
小レポート（博物館の展示見学に関するもの）20％													
期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）50％													
ミニットペーパーや小レポートで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。													
教科書 毎回プリントを配布する。													
参考書 講義中に紹介する。													
備 考													
質問等は授業終了時に受け付ける。授業１回分として、博物館の展示見学を予定している。													

授業科目名		歴史Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	栗原 伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健・美1年				
授業概要													
歴史的事実の捉え方や評価は固定されているものではなく、同じ出来事や人物であっても、多様な叙述が可能であり、様々な歴史イメージを描くことができる。本講義では、日本における変革期である幕末維新期に注目して、それが明治時代から現代までどのように認識され、語られてきたのかをみていく。その際、人物像の時代的な変化について取り上げ、地域の視点でも歴史を捉えることで、多様な歴史イメージについてみていく。以上を通して、歴史を考える方法を紹介したい（単純な事項の暗記ではない）。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
①歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。					○	○				○		○	
②歴史像が形成される過程や背景を理解する。					○	○				○		○	
③歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス～講義の内容～					配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。								
2. 幕末維新の歴史イメージ①時代劇					配布プリントを再読し、幕末維新に関する時代劇を観賞する。								
3. 幕末維新の歴史イメージ②教科書					配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。								
4. 幕末維新の歴史イメージ③一般書					配布プリントを再読し、現在どのような一般書が発行されているか確認する。								
5. 歴史像の形成①明治時代					配布プリントを再読し、明治政府の方針について理解を深める。								
6. 歴史像の形成②昭和戦前戦後					配布プリントを再読し、歴史観の変遷についてまとめる。								
7. 幕末維新の人物像①西郷隆盛					配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、西郷隆盛がどのように取り上げられているのか調べる。								
8. 幕末維新の人物像②白虎隊					配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、白虎隊がどのように取り上げられているのか調べる。								
9. 幕末維新の人物像③新選組					配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、新選組がどのように取り上げられているのか調べる。								
10. 幕末維新の人物像④坂本龍馬					配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、坂本龍馬がどのように取り上げられているのか調べる。								
11. 幕末維新の人物像⑤玉虫左太夫					配布プリントを再読し、講義で取り上げた他の人物との相違について考える。								
12. 東北地方と幕末維新①幕末の政争と仙台藩					配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍で、仙台藩について理解を深める。								
13. 東北地方と幕末維新②新政府の誕生と戊辰戦争					配布プリントを再読し、書籍などで戊辰戦争に至る大まかな流れを確認する。								
14. 東北地方と幕末維新③奥羽越列藩同盟					配布プリントを再読し、奥羽越列藩同盟が結成される背景などについて理解を深める。								
15. 補論と総括～さまざまな歴史像～					初回からの配布プリントを再読し、歴史像が形成された背景を再確認し、歴史を捉える際の留意点について考えてみる。								
16. 試験					試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。								
履修上の注意													
メディア等で幕末維新期がどのように取り上げられているのか関心を持ち、高校で日本史を学んでいる場合は教科書を再読すること。受講する場合は、歴史Ⅰを受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。													
成績評価方法・基準													
平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30%													
小レポート（博物館の展示見学に関するもの）20%													
期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）50%													
ミニットペーパーや小レポートで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。													
教科書 毎回プリントを配布する。													
参考書 『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。													
備考 質問等は授業終了時に受け付ける。授業1回分として、博物館の展示見学を行う場合がある。													

授業科目名		日本国憲法			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	横田 尚昌	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美1年					
授業概要 憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。					○									
憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。					○	○								
憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）					近代立憲主義の基本原則が日本国憲法のなかにどのように生きているのかを確認する。									
2. 天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）					日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）									
3. 選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）					選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。									
4. 国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）					国家とは、「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。									
5.内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）					政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。									
6. 裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）					裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。									
7. 地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）					地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。									
8. 人権とは（1789 年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）					そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のあり方を理解する。									
9. 人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）					憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する									
10. 幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）					幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。									
11. 内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）					思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する									
12. 表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）					表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。									
13. 経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）					職業選択の自由と財産権の保障のあり方をみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。									
14. 生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）					福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかに保障されているのか、またその限界について把握する。									
15. 参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）					参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。									
履修上の注意 5回を超えて欠席（6回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。														
成績評価方法・基準 平常点40％（平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。														
教科書 特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）														
参考書 授業中に指示する。														
備考 オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00 過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。														

授業科目名		法学概説			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）					
担当者	横田 尚昌	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健・美1年					
授業概要														
この講義は、1年生を対象として様々な法分野のごく基本的な知識を提供することを目指すものです。我が国は法治国家といわれますが、実際にいかなる法令がどのように私たちをそして社会を規律しているのかについて詳らかに知ることは困難です。ただ、そうした中にあっても、生活していくうえで、ちょっと知っておくと役立つ法律の知識というものがあります。そうしたことを、この講義では各回ごとに最初に事例を掲げて、みなさんと問題意識を共有しながら進めていきます。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
法学一般の考え方が身についている。					○									
社会問題を法学という視点から考えることができる。					○	○								
さまざまな紛争をルールによって解決しようとする際に生ずる問題点について説明できる。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. オリエンテーション														
2. みんなの法とわたしの法？					公法と私法の違いを把握したうえで、公法、私法それぞれの基本理念を整理し理解する。									
3. どうして約束は守らないといけないの？					自分の意思と相手方の信頼との関係を念頭におきつつ「約束を守らなければならない理由」を議論する理由を考える。									
4. 電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの？					附合契約とは何かを把握したうえで、約款による契約を締結する際の注意点を整理する。									
5. どうして事故を起こしたら責任を負わされるの？					過失責任とは何かについて把握したうえで、無過失責任を設けるべき理由について考える。									
6. 子どものしつけと虐待はどこが違うの？					「しつけ」と「児童虐待」の違いを把握し、児童虐待があった場合の法的措置について理解する。									
7. 校長先生の決定には従わないといけないの？					日本国憲法が保障する信教の自由の意義について理解する。									
8. マンガやアニメを規制してもいいの？					青少年条例と憲法が保障する言論の自由との関係性を考える。									
9. どうして悪いことをした人に権利があるの？					被疑者や被告人に黙秘権が認められる理由について説明できるようにする。									
10. ギャンブルってやっちゃいけないの？					賭博(とばく)のような被害者なき犯罪を処罰する理由を整理する。									
11. 仕事ができないとクビにされるの？					解雇権濫用法理が問題となる場面を考えながら解雇規制について整理し理解する。									
12. 手で掴めないものにも権利があるの？					著作権の意義を理解し、私的複製に対する法的規制の在り方を把握する。									
13. 損害保険と生命保険のちがいは何？					わずかな保険料（掛け金）を支払うだけで、保険事故を被ったときに多額の保険金を受け取ることが何故できるのかを整理し、保険の種類とそれぞれのしくみについて理解しておく。									
14. 自動車保険のしくみ					自賠責保険と任意保険の関係と、任意保険には様々な保障が用意されていることを把握する。									
15. 株式会社って何？					株式会社の法的構造の基本となるところ、土台となるところを把握する。									
履修上の注意														
欠席数が明らかに多いと認められる者には単位を与えない。														
成績評価方法・基準														
平常点40％（平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。														
教科書〔カリンと学ぶ法学入門〕〔林誠司編〕〔法律文化社〕〔2,376円〕														
参考書 授業中に指示する。														
備考														
オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。														

授業科目名	哲学Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	徳田 幸雄		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美１年				
授業概要														
人間は何のために生きるのか？死んだらどうなるのか？あの世はあるのか？人間について幸福とは何か？愛とは何か？善とは何か？といった、これまで人類が問い続け、そして今なお問い続けている諸問題について、古代ギリシャの哲学者たち（ソクラテス・プラトン・アリストテレス）がどのように考えたのかを概説する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
死生観についての基本的な知識を身につける						○	○				○			
人生観についての考察を深める						○					○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス						要しない								
2.古代ギリシャの時代背景―アテネとスパルター						チェックテスト①を見直す								
3.ソクラテス①『ソクラテスの弁明』より						チェックテスト②を見直す								
4.ソクラテス②『クリトン』より						チェックテスト③を見直す								
5.ソクラテス③『パイドン』より						チェックテスト④を見直す								
6.プラトン① プラトンの生涯						チェックテスト⑤を見直す								
7.プラトン② アイデア論						チェックテスト⑥を見直す								
8.プラトン③ 想起説						チェックテスト⑦を見直す								
9.プラトン④ 愛と美について						チェックテスト⑧を見直す								
10.プラトン⑤ 徳と善について						チェックテスト⑨を見直す								
11.アリストテレス① アリストテレスの生涯						チェックテスト⑩を見直す								
12.アリストテレス② 三原理と四原因説						チェックテスト⑪を見直す								
13.アリストテレス③ 自然観、神観						チェックテスト⑫を見直す								
14.アリストテレス④ 霊魂観、倫理観						チェックテスト⑬を見直す								
15.まとめ						チェックテスト①～⑬を見直す								
履修上の注意														
公欠を除いて、6回以上欠席した場合は受験資格を失う。														
成績評価方法・基準														
毎授業時のチェックテスト（５０％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。														
学期末の試験（５０％）														
教科書 使用しない。授業時にプリントを配布する。														
参考書 無し														
備考														
質問等については、授業終了時に受け付ける。														

授業科目名		哲学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30-60)				
担当者	徳田 幸雄		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健・美1年				
授業概要														
「人間とは何か？」この問いは、近代以降の価値観の多様化・多元化に伴い、改めて問い直されるようになった根本的な問いである。本授業では、この問いについて、中世の主役とも言える世界三大宗教（キリスト教、イスラーム、仏教）を中心とする諸宗教においてどのように捉えられていたかを学んだ上で、近代以降に人類が直面している生命倫理の諸問題（脳死や中絶など）について、その基本的な議論を学びさらに考察を深めてゆく。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
幅広い人間観を身につける。						○	○						○	
諸宗教の基本的な知識を身につける。						○	○						○	
生命倫理の問題に関する知識を身につける。						○	○					○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス						要しない								
2.ユダヤ教の人間観						チェックテスト①を見直す								
3.キリスト教の人間観① 原罪とは？						チェックテスト②を見直す								
4.キリスト教の人間観② キリスト教史						チェックテスト③を見直す								
5.イスラームの人間観① 六信より						チェックテスト④を見直す								
6.イスラームの人間観② 五行より						チェックテスト⑤を見直す								
7.インドの諸宗教における人間観						チェックテスト⑥を見直す								
8.仏教の人間観① 四諦より						チェックテスト⑦を見直す								
9.仏教の人間観② 日本仏教より						チェックテスト⑧を見直す								
10.近代哲学における人間観—合理論と経験論						チェックテスト⑨を見直す								
11.心理学における人間観 精神分析学より						チェックテスト⑩を見直す								
12.臓器移植と脳死について						チェックテスト⑪を見直す								
13.優生思想について						チェックテスト⑫を見直す								
14.人工妊娠中絶について						チェックテスト⑬を見直す								
15.総括						チェックテスト①～⑬を見直す								
16.試験						要しない								
履修上の注意														
公欠を除いて、6回以上欠席した場合は受験資格を失う。														
成績評価方法・基準														
毎授業時のチェックテスト（50％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。														
学期末の試験（50％）														
教科書 使用しない。授業時にプリントを配布する。														
参考書 無し														
備 考														
質問等については、授業終了時に受け付ける。														

授業科目名		心理学 I			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	植松 公威	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美 1 年				
授業概要													
心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学における条件操作的な仮説検証プロセスの意義について述べる。後半では現代の心理学の背景として行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析学などを取り上げ説明する。また、記憶の実験を通して記憶のメカニズムを考える。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
1「条件操作的な実験による仮説検証」がこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。					○	○							
2 行動主義心理学，社会的学習理論，精神分析の各理論の人物名とキーワードを理解する。					○	○							
3 自我防衛のメカニズムの具体例から種類の名称を答えられるようになる。					○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1．ガイダンス（教授内容と教育目標）					シラバスを熟読すること。								
2．条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話など－					資料を熟読し，要点をまとめること。								
3．心理学の目標と研究のプロセス					資料やノートを復習し，要点をまとめること。								
4．説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果－					実験の結果を理解し，考察ついてまとめること。								
5.認知的不協和理論について					実験の結果を理解し，考察ついてまとめること。								
6．現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）					資料とノートを復習し，要点をまとめること。								
7．現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）					資料とノートを復習し，要点をまとめること。								
8．現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）					資料とノートを復習し，要点をまとめること。								
9．現代の心理学の背景④ 精神分析（フロイトの理論）					資料とノートを復習し，要点をまとめること。								
10. 精神分析における自我防衛のメカニズム					資料を熟読し，専門用語を理解すること。								
11. 自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説					資料を熟読し，練習問題に取り組むこと。								
12. まとめの小テスト					あらかじめ復習してテストに臨むこと。								
13. 記憶の実験 一 系列位置曲線と系列位置効果－					実験結果の考察を考え，レポートすること。								
14. 記憶のしくみ 一 感覚的記憶・短期記憶・長期記憶－					ノートを見直し，専門用語を理解すること。								
15. エビングハウスの忘却曲線について					資料とノートを見直し，感想をまとまること。								
16. 試験													
履修上の注意													
毎回，ミニットペーパーに感想や考えなどを書いて提出すること。													
成績評価方法・基準													
レポート課題 20%，試験 80%													
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。													
各回の授業でのミニットペーパーについては，次回の授業内でフィードバックを行う予定である。													
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。													
教科書 授業の中で資料（プリント）を配布する。													
参考書 授業の中で適宜，紹介する。													
備考													
質問等については，ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。													

授業科目名		心理学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	植松 公威	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健・美１年					
授業概要														
性格検査の種類について実習をとりいれながら講義する。また、性格を表現し記述する方法、他者の性格を推測するときには注意すべきことを解説する。性格を変えるための認知療法や交流分析といった心理療法についても実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する様々な理論や方法があることを学ぶ。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 質問紙法，作業検査表，投影法それぞれの長所と短所を理解する。						○	○							
2 認知療法による「7つのコラム法」が気分の改善に効果があるのはなぜか，考察ができるようになる。						○	○							
3 交流分析における「エゴグラム」を作成し，その意味について理解し，自己の性格の改善に向けて動機づけを高める。						○	○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1．ガイダンス（教授内容と教育目標）						シラバスを熟読すること。								
2．質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の実施方法						資料とノートを復習し，実施方法を理解すること。								
3．質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の判定方法						資料やノートを復習し，判定方法を理解すること。								
4．質問紙法の問題点－質問項目における状況の欠如と行動の一貫性について－						2 要因のグラフを作成し，結果について考察する。								
5．作業検査法（内田クレペリン精神検査）について						実施方法と判定方法を理解すること。								
6．投影法の種類－ロールシャッハ・テストを中心に－						資料とノートを復習し，要点をまとめること。								
7．投影法の種類と長所と短所など						資料とノートを復習し，要点を理解すること。								
8．他者の性格を推論するときには注意すべきこと－認知のゆがみなど－						資料とノートを復習し，専門用語を理解する。								
9．性格は変わるかという問題について考える						資料をよく読み，要点をレポートすること。								
10．認知療法の基本的な考え方						資料とノートを復習し，要点をまとめること。								
11．認知療法（7つのコラム法）の作成方法についての解説						資料を復習し，記入したものをレポートする。								
12．交流分析におけるエゴグラムの作成						エゴグラムの意味について理解すること。								
13．交流分析における基本的な考え方（自我状態やストローク）						資料やノートを見直し，要点をまとめること。								
14．交流分析における基本的な考え方（幼児決断）						ノートを見直し，要点をまとめること。								
15．まとめの小テスト						これまでのノートとプリントを復習しておくこと。								
16．試験														
履修上の注意														
毎回，ミニットペーパーに感想や考えなどを書いて提出すること。														
成績評価方法・基準														
レポート課題 20％，試験 80％														
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。														
各回の授業でのミニットペーパーについては，次の授業内でフィードバックを行う予定である。														
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。														
教科書 授業の中で資料（プリント）を配布する。														
参考書 授業の中で適宜，紹介する。														
備考														
質問等については，ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。														

授業科目名		美術			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	北折 整		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・美1年			
授業概要													
美術が生活文化の重要な構成要素であることを自覚させ、日常目にするありふれたものや事柄、行為に対する美術的な視点を獲得させる。広範な美術作品(含む大衆美術)の作例を数多く紹介し、表現の基となっている考え方や感覚について平易に解説する。また、基礎的な美術表現の技術や方法論、表現に関わる問題点等を知ingことを目標に簡単な演習を課す。さらにこれらの提出課題を全体に提示、講評し、身近な他者の表現を鑑賞することで、美術を通した自己理解及び新たな価値観の構築を促す。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・美術が生活文化の一つであることを理解できるようになる。						○							
・美術表現の基礎的な方法を理解できるようになる。					○								
・多様な価値観を受容する力を身に付ける。						○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業の導入：科目の説明・授業の方針・成績評価の方法					アンケートの記入、次回課題についての調査								
2.「扉」：出入口をテーマに扱った美術					「課題ノート：扉」の作成及び次回課題についての調査								
3.「壁」：を意識した美術					「課題ノート：壁」の作成及び次回課題についての調査								
4.「西瓜」：視覚化に関わる美術表現					「課題ノート：西瓜」の作成及び次回課題についての調査								
5.「ジプシーの荷物」：〃					「課題ノート：ジプシー」の作成及び次回課題についての調査								
6.「詰め込む」：日常の作業感覚を取り入れた美術					「課題ノート：詰め込む」の作成及び次回課題についての調査								
7.「蛇口から出るもの」：〃					「課題ノート：蛇口～」の作成及び次回課題についての調査								
8.「つなぐ」：〃					「課題ノート：つなぐ」の作成及び次回課題についての調査								
9.「夢の世界」：深層心理を顕在化した美術					「課題ノート：夢の世界」の作成及び次回課題についての調査								
10.「ダヴィデ」：環境との関係によって創出される物の意味					「課題ノート：ダヴィデ」の作成及び次回課題についての調査								
11.「動物を描く」：個人的キャラクターの創造					「課題ノート：動物～」の作成及び次回課題についての調査								
12.「空」：空の表現に見る美術史					「課題ノート：空」の作成及び次回課題についての調査								
13.「リレー式絵本」(1)：コラボレーション制作における誤解と可能性					「課題ノート：リレー式絵本」の継続作成								
14.「リレー式絵本」(2)〃					「課題ノート：リレー式絵本」の継続作成								
15.授業の総括：全項目に係るまとめ					「課題ノート：まとめ」の作成								
履修上の注意													
・「課題ノート」には授業毎の「ふりかえり」及び次回授業に関する調査を記入し、適宜提出を求める。													
・簡単な演習に対応する色鉛筆等の画材を各自準備する。													
成績評価方法・基準													
・「課題ノート」(80%)と授業態度(20%)。													
・課題については、授業中にフィードバックを行う。													
教科書：特に指定しない。													
参考書：特に指定しない。													
備 考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。													

授業科目名		美術史Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	瀬戸 典彦		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・美1年				
授業概要														
①ウェレンドルフのビーナスから近代に至る西洋美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性を意識させる。②それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させる「つくる美術史のテキスト」と「美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集」、「美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説集」を用い理解の深化を図る。③西洋の美術史における「オリジナリティー」の意味と価値について考察を促す。④作品と作品、美術家と美術家の関係性の中で歴史の脈絡が形成され、その流れの中で価値が構築されることを示唆する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
19 世紀までの西洋美術史の脈絡について、自分の言葉で説明できる。						○	○							
作品間、美術家間の関係を説明できる。						○	○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. 美術史における「個人」について						「つくる美術史のテキスト」による予習								
2. メソポタミア文明以前の美術						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
3. エジプト文明の美術						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
4. ギリシャ文明化～ヘレニズム時代の美術						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
5. 初期キリスト教美術						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
6. ビザンティン美術						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
7. 初期中世美術						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
8. 中間テスト						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
9. ロマネスク・ゴシックの美術						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
10. ルネッサンス						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
11. ルネッサンスとベネチア派						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
12. マニエリスム～北方ルネッサンス						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
13. バロック・ロココ						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
14. 新古典主義・ロマン主義・写実主義の美術						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
15. 象徴主義の美術						「クイズ集」、「解答・解説集」による復習								
16. 試験						テキスト、参考書を用いて自己採点								
履修上の注意														
毎回、講義にクイズを課す。（必ず提出してから退出すること）中間テスト、期末試験を課す。														
成績評価方法・基準														
中間テスト:20%（フィードバックを行う） 期末試験:70%、クイズ提出:10%（フィードバックを行う）														
期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を 90 点とする（参照なしのものについては、満点を 110 点とする）														
教科書〔つくる美術史のテキスト〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕														
参考書〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕														
〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕														
備 考 オフィスアワー（前期）月曜日 15：00～16：00 17：00～18：00														

授業科目名	美術史Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)			
担当者	瀬戸 典彦		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・美1年			
授業概要													
①縄文土器から浮世絵に至る日本美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性を意識させる。②東洋の仏教美術の概要に触れ、日本美術への影響について理解を促す。③釈迦の思想と仏教美術の関係に触れ、仏教思想の体現としての仏教美術のあり方とその乖離について考察を促す。④それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させるワークシートとクイズ、解答例を用い理解の深化を図る。⑤日本の美術史における変化の背景について考察を促す。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本美術史の流れについて説明できる。					○	○							
東洋美術史と日本美術史の関係について説明できる。					○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. オリエンテーション（縄文人が築いたもの－弥生人が築いたもの）					ワークシートによる予習								
2. 縄文時代					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
3. 弥生時代・古墳時代の美術					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
4. 仏教、仏像について					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
5. 飛鳥時代の美術					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
6. 奈良(白鳳)時代の美術					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
7. 奈良(天平)時代の美術1(塑像等)					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
8. 中間テスト					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
9. 奈良(天平)時代の美術2(乾漆像等)					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
10. 奈良(天平)時代の美術3(平面)					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
11. 平安時代の美術1(密教美術)					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
12. 平安時代の美術2(立体)					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
13. 平安時代の美術3(平面)					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
14. 鎌倉時代・南北朝時代・室町時代の美術					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
15. 桃山・江戸時代以降の美術					クイズ、配布資料（解答例）による復習								
16. 試験					ワークシート、配布資料を用いて自己採点								
履修上の注意													
毎回、クイズを行います。中間テスト、期末試験を行います。													
成績評価方法・基準													
中間テスト:20%(フィードバックを行う) 期末試験:70%、クイズ提出:10%(フィードバックを行う)													
期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を90点とする。(参照なしのものについては、満点を110点とする)													
教科書 その都度、資料を配布する。													
参考書 その都度、参考資料を配布する。													
備考 オフィスアワー（後期）火曜日 10：00～11：00 火曜日 14：00～15：00													

授業科目名		生活文化論			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)		
担当者	今林 直樹	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・美１年	
授業概要										
生活文化について、言語、衣食住、芸能、祭礼に焦点をあて、主として文献資料を用いて具体的に理解させるとともに、歴史的背景や社会的背景を踏まえて学ばせる。具体的には、伝統的な生活文化が現代に生きる沖縄を対象として取り上げる。										
また、課題（授業時提出）をとおして沖縄の生活文化についての考察や感想などを述べさせる。課題については、翌週の授業で解説する。										
授業の到達目標				学位授与の方針との関連						
				1	2	3	4	5	6	7
沖縄の生活文化について理解できる。				○	○		○		○	
生活文化の歴史的、社会的背景について理解できる。				○	○		○		○	
今後の生活文化の課題について考察できるようになる。				○	○		○		○	
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）						
1.生活文化とは何か・沖縄概説				生活文化と沖縄を調べる						
2.沖縄の言葉(1) 生活言語としての「うちなあぐち」				沖縄の言葉の概要を整理する						
3.沖縄の言葉(2) 「うちなあぐち」は言語か方言か				沖縄の言葉の社会的意味を整理する						
4.沖縄の言葉(3) 「うちなあぐち」の保存と継承				沖縄の言葉の現在と将来を整理する						
5.沖縄の「衣」(1) 紅型				紅型について調べる						
6.沖縄の「衣」(2) ミンサー織				ミンサー織について調べる						
7.沖縄の「食」(1) 沖縄そば				沖縄そばについて調べる						
8.沖縄の「食」(2) チャンプルー				チャンプルーについて調べる						
9.沖縄の「住」(1) 赤瓦の家				沖縄の住景観について調べる						
10.沖縄の「住」(2) 風水				沖縄の住思想について調べる						
11.沖縄の芸能(1) 古典芸能				琉球古典芸能について調べる						
12.沖縄の芸能(2) 八重山芸能				八重山芸能について調べる						
13.沖縄の祭(1) 信仰との関係―御嶽・ニライカナイ―				沖縄の信仰について調べる						
14.沖縄の祭(2) 豊年祭				沖縄の豊年祭について調べる						
15.沖縄の祭(3) 種取祭				沖縄の種取祭について調べる						
16.期末試験										
履修上の注意										
必要のない私語は慎むこと。										
成績評価方法・基準										
期末考査 80%、課題（授業時提出）20%によって評価する。										
教科書 授業前に資料を配布する										
参考書 【沖縄の歴史・政治・社会】[今林直樹][大学教育出版][2,200 円]										
備 考										
質問等については授業終了後に受け付ける。										

授業科目名		英語 I				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	佐藤 恵	必・選	必（服・健） 選（美）	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美 1 年						
授業概要															
英国の祝祭日を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。英国の四つの国（イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランド）の文化的相違を解説しながら、異文化理解と英語力の向上を図る。															
英語 I では Unit 2～Unit 5 を取り上げる。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。						○	○								
英国の生活文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。							○								
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス						前期の学習内容について確認する。									
2. Unit 2 New Year's Day						新年行事について読み、ノートをまとめる。									
3. " Hogmanay, Scotland						スコットランドについて読み、ノートをまとめる。									
4. " Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
5. Unit 3 St. David's Day, Wales						ウェールズの聖人について読み、ノートをまとめる。									
6. " Eisteddfod						ウェールズの祭りについて読み、ノートをまとめる。									
7. " Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
8. Unit 4 St. Patrick's Day, Ireland						アイルランドの聖人について読み、ノートをまとめる。									
9. " The National Colour and Symbol						国の色とシンボルについて読み、ノートをまとめる。									
10. " Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
11. Unit 5 Good Friday						聖金曜日について読み、ノートをまとめる。									
12. " Lent						四旬節について読み、ノートをまとめる。									
13. " Eater Eggs						復活祭の卵について読み、ノートをまとめる。									
14. " Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
15. まとめ						ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。									
16. 期末試験						総復習をして試験に臨む。									
履修上の注意															
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。															
成績評価方法・基準															
平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験 60% 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。															
教科書 [You Can Bank on Britain!] [長岡明・芝垣哲夫] [英宝社] [1,800 円]															
参考書 なし															
備考															
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。															

授業科目名		英語Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	佐藤 恵	必・選	必（健） 選（服・美）	形態	講義	学期	後期	対象	服・健・美１年					
授業概要														
英国の祝祭日を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。英国の四つの国（イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランド）の文化的相違を解説しながら、異文化理解と英語力の向上を図る。														
英語Ⅱでは Unit 6～Unit 9 を取り上げる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。					○	○								
英国の生活文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
１． ガイダンス					前期の学習内容について確認する。									
２． Unit 6 Easter Monday					復活祭の季節について読み、ノートをまとめる。									
３． " Hare Pie					ウサギパイについて読み、ノートをまとめる。									
４． " Exercises					課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
５． Unit 7 St. George's Day, England					イングランドの聖人について読み、ノートをまとめる。									
６． " Morris Dancer					モリスダンサーについて読み、ノートをまとめる。									
７． " Exercises					課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
８． Unit 8 May Day					五月祭について読み、ノートをまとめる。									
９． " 'Obby Oss' Day					木馬祭について読み、ノートをまとめる。									
10． " The International Workers' Day					国際労働者の日について読み、ノートをまとめる。									
11． " Exercises					課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
12． Unit 9 Whitsun					聖霊降臨祭について読み、ノートをまとめる。									
13． " Whitsun Walks					聖霊降臨祭行列について読み、ノートをまとめる。									
14． " Exercises					課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。									
15． まとめ					ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。									
16． 学期末試験					総復習をして試験に臨む。									
履修上の注意														
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。														
成績評価方法・基準														
平常点 40％（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験 60％ 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。														
教科書〔 <i>You Can Bank on Britain!</i> 〕〔長岡明・芝垣哲夫〕〔英宝社〕〔1,800 円〕														
参考書 なし														
備 考														
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名		英会話 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	上之原 博子	必・選	必(服、健)選(美)	形態	演習	学期	前期	対象	服・健・美1年				
授業概要													
中学、高校で学んだ英語を基礎にして、簡単な挨拶、自己紹介等ができるように繰り返し指導する。テキストを用い、やさしい英語の読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、英語でコミュニケーションがとれるようにする。グループワークとして、ロールプレイ、さらには実際に英語の会話文を作り、英語を楽しむながら学ぶことを目指す。また、日本の文化、行事を理解し、日本を訪れた外国人に、英語で説明できるよう指導したい。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 基礎的な会話で他者とのコミュニケーションがはかれる。					○	○			○	○		○	
2. 自分自身に関する事柄について説明できる。					○	○			○	○		○	
3. グループ活動を通して、責任感、自己管理能力を身につける。					○	○			○	○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス。自分の好きな事を話す。自己紹介。					自分の好きな事を考えてくる。								
2.定期的にする事を質問したり、答えたりする。					課題文を暗記してくる。								
3.これからの予定について、短いやり取りができる。					課題文の暗記。花見について調べる。								
4.これからの予定について、詳しいやり取りができる。					課題文の暗記。こどもの日を調べる。								
5.情報を求められたり、相談を受けた時、適切な表現で伝える。					課題文の暗記。								
6.様々な表現を使い、友人を誘う。					課題文の暗記。								
7.様々な表現で、友人にアドバイスをする。					課題文の暗記。日本の風物誌を調べる。								
8.適切な表現を使って、忠告や規則を伝えることができる。					課題文の暗記。								
9.過去にした事について、簡単な質問や答えることができる。					課題文の暗記。								
10.童話を英語で楽しむ。					課題文の暗記。								
11.過去の出来事を話すことができる。					課題文の暗記。夏祭りを調べる。								
12.日常生活で起きた事と、行動の様子を描写できる。					課題文の暗記。会話文を日本語で考える。								
13.自分の経歴や興味のあった事を説明できる。					課題文の暗記。会話文を英文にする。								
14.自分に直接関わる活動を説明できる。					会話文を完成させる。								
15. 物事を複数の観点から検討し、理由や考えを表現できる。					会話文を完成させる。								
履修上の注意													
毎回課題文は暗記し、授業には積極的に参加する事。													
成績評価方法・基準													
授業態度30％、毎回の課題30％、学期末の試験（英語の会話文の発表）40％で評価します。													
教科書 [PEGASUS] [Steven Mitchell] [有限会社 CHEERS][2,500 円]													
参考書：特になし。													
備 考													
質問等については、授業終了時に受付けます。													

授業科目名		英会話 II				単位（総授業時間＋自習時間）				1 (30+15)				
担当者	上之原 博子			必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服・健・美1年			
授業概要														
前期で身につけた英語力を使って、外国人に簡単な英語で対応する基本的な表現や、説明の仕方を習得することを目指す。また、英語の表現方法としてスピーチの練習を行う。トピックは自己紹介や趣味、自分のふるさと等身近な事が中心である。授業は学生の学習進捗状況により進めていく。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 他者とのコミュニケーション能力を身につける。						○	○			○	○		○	
2. 様々な分野で活躍するために自分の意見をまとめて、話せるようにする。						○	○			○	○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. 交通案内：様々な交通機関についての基本的な案内を学ぶ。 スピーチ：自己紹介						日本の交通機関を調べる。自分のことを考えてみる。								
2.日本の旅館について。スピーチ：私の好きな事						旅館の特徴を考える。好きな事を考える。								
3. 観光地について学ぶ。スピーチ：私の好きな場所						自分の身近な観光地を調べる。好きな場所を考えてみる。								
4.街歩きのための道案内。スピーチ：私の好きな物						お勧めの場所を考える。好きな物を考えてみる。								
5.日本のエンターテイメントについて。スピーチ：私の好きなサブカルチャー						興味のあるエンターテイメント（映画、アニメ、漫画など）を調べる。								
6.日本食の紹介①代表的な日本料理 スピーチ：私の好きな日本食						代表的な日本料理を調べる。好きな日本食を考える。								
7.日本食の紹介②気軽に楽しめる日本料理 スピーチ：私好きな郷土料理						気軽に楽しめる日本食を調べる。好きな郷土料理を考える。								
8.国内旅行をアレンジする。スピーチ：即興にチャレンジ						国内旅行をアレンジしてみる。								
9.日本文化体験について。スピーチ：今気になる事						興味のある日本文化を調べる。								
10.日本の年中行事や伝統芸能を紹介する。スピーチ：地元のイベント						紹介したい行事や伝統芸能を調べる。地元のイベントについて考えてみる。								
11.日本のポップカルチャーを紹介する。スピーチ：私の好きなポップカルチャー						興味のあるポップカルチャーを調べる。								
12.日本のお土産を紹介する。スピーチ：日本の良いところ						日本のお土産を考える。日本の良いところを考える。								
13.ケガや病気の対応について。スピーチ：即興にチャレンジ														
14.東京オリンピックでのボランティアについて。スピーチ：私とボランティア						ボランティア活動について考えてみる。								
15.学期を振り返る。														
履修上の注意：積極的に授業に参加することを求める。														
成績評価方法・基準														
平常点50％（授業への参加態度で判断する。）スピーチ50％（内容だけではなく取り組む姿勢を重視する。）スピーチ原稿は回収し、後日添削して返却する。														
教科書 前期に使用した PEGASUS,配布するプリントを使用する。														
参考書：特になし。														
備考														
質問等については、授業終了時に受付けます。														

授業科目名		仏語 I				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	村山 茂	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服・健・美 1 年				
授業概要													
発音の基礎から始め、簡単なあいさつや自己紹介はもちろん、初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。さらにフランスにまつわる様々な情報を盛り込み、多方面からのフランス語理解を努める。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。受講生全体のレベルに合わせて進行する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
初級フランス語入門レベルの文を理解し、表現できるようになる。					○	○				○		○	
フランスの文化に触れ、国際的視野が身につく。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業方針。アルファベ					事後に復習が必要。								
2.アルファベ復習。発音の規則 1					事後に復習が必要。								
3.発音の規則 2					事後に復習が必要。								
4.発音の規則小テスト。フランスについて。数学 1					事前に小テスト準備、事後に復習が必要。								
5.数学 2 簡単なあいさつの表現					事後に復習が必要。								
6.パリに着いた!(空港)1.解説と会話文					事後に復習が必要。								
7.パリに着いた!(空港)2 文法					事後に復習が必要。								
8.パリに着いた!(空港)3 練習問題					事前に予習、事後に復習が必要。								
9.ホテルに着いた! (フロント)1 解説と会話文					事後に復習が必要。								
10.ホテルに着いた! (フロント)2 文法					事後に復習が必要。								
11.ホテルに着いた! (フロント)3 練習問題					事前に予習、事後に復習が必要。								
12.アロー、アロー(郵便、電話)1 解説と会話文					事後に復習が必要。								
13.アロー、アロー(郵便、電話)2 文法					事後に復習が必要。								
14. アロー、アロー(郵便、電話)3 練習問題					事前に予習、事後に復習が必要。								
15.まとめの講義					事後に最終試験のための準備が必要								
16.試験													
履修上の注意													
私語を慎み、積極的に授業に参加すること。辞書については初回、教室にて指示する。													
成績評価方法・基準													
最終回に行う確認のための筆記試験（70～80％）に 20～30％の平常点（積極性などのポイント）を加えて算出し、評価する。試験答案は、後日返却する。													
教科書 〔はじめてのパリー新・改訂版〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2,400 円〕													
参考書：特にないが、必要に応じてプリントを配布する													
備 考													
質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。													

授業科目名		仏語Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	村山 茂	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服・健・美 1 年					
授業概要														
初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。フランスにまつわる様々な情報を盛り込み、フランス映画などをも教材に取り入れて、多方面からのフランス語理解に努める。授業中の授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。仏語Ⅰを引き継ぐ形で進めてゆく。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
仏語Ⅰを引き継ぎ、初級フランス語の基礎を固め、より一層の理解と表現が可能になる						○	○				○		○	
引き続きフランスの文化に触れることで、国際的視野が広がる。						○	○				○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.テラスでお茶を(カフェ)1 解説と会話文						事後に復習が必要。								
2.テラスでお茶を(カフェ)2 文法						事後に復習が必要。								
3.テラスでお茶を(カフェ)3 練習問題						事前に予習、事後に復習が必要。								
4.メトロに乗ろう(地下鉄)1 解説と会話文						事後に復習が必要。								
5.メトロに乗ろう(地下鉄)2 文法						事後に復習が必要。								
6.メトロに乗ろう(地下鉄)3 練習問題						事前に予習、事後に復習が必要。								
7.名所を廻ろう(観光バス)1 解説と会話文						事後に復習が必要。								
8.名所を廻ろう(観光バス)2 文法						事後に復習が必要。								
9.名所を廻ろう(観光バス)3 練習問題						事前に予習、事後に復習が必要。								
10.DVD による学習						事前に疑問点を整理しておく								
11.水を買う（食料品店）1 解説と会話文						事後に復習が必要。								
12.水を買う（食料品店）2 文法						事後に復習が必要。								
13.水を買う（食料品店）3 練習問題						事前に予習、事後に復習が必要。								
14.まとめの講義 1						事後に最終試験のための準備が必要								
15.まとめの講義 2（補足を含む）						事後に最終試験のための準備が必要								
16.試験														
履修上の注意														
初心を忘れず、根気良く継続すること。														
成績評価方法・基準														
最終回に行なう確認のための筆記試験（70～80％）に 20～30％の平常点（積極性などのポイント）を加えて算出し、評価する。試験答案は後日返却する。														
教科書〔はじめてのパリー新・改訂版〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2,400 円〕														
参考書：特になし														
備 考														
質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。														

授業科目名		中国語			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)					
担当者	高橋 亨	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服・健・美１年					
授業概要														
この授業では、中国語で会話をするために必要な基礎的知識を身につけることを目標とします。中国語には、日本語にない母音・子音が多く、「声調」という音声の抑揚があるため、まずはこれらの正確な習得を目指します。発音の練習を終えると、教科書の例文の読解や、受講者相互の会話練習を通して、自己紹介やあいさつ、質問の仕方などの知識を身につけていきます。また、受講者の希望があれば、中国の文化・習慣や旅行で役立つ情報、パイトの接客で使える言い方なども、随時紹介していきます。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
中国語の正確な発音を身につける。					○									
中国語で自己紹介・あいさつなどをできるようにする。					○									
中国の文化などについて学ぶ。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
１．ガイダンス：中国語を学ぶために。					教科書を読んでくる。									
２．第一課：声調と単母音の発音。					事前に教科書の例文の中国語とピンインを自分で書いてみて、中国語の表記に慣れる。また、事後は CD を聞き発音の練習をすること。									
３．第一課：複母音の発音。					同上									
４．第二課：子音(声母)の発音。					同上									
５．第四課：鼻音と注意すべき発音。					同上									
６．第五課：“是”（～です）を用いた文章など。発音練習・例文読解・練習問題					同上									
７．第六課：自己紹介の仕方など。発音練習・例文読解					同上									
８．第六課：自己紹介の仕方など。発音練習・練習問題					同上									
９．第七課：代名詞“这”（これ）“那”（それ・あれ）等を用いた文章など。発音練習・例文読解					同上									
10. 第七課：代名詞“这”（これ）“那”（それ・あれ）等を用いた文章など。発音練習・例文読解					同上									
11. 第八課：疑問詞“什么”（何）“哪个”（どの）等を用いた文章など。発音練習・例文読解					同上									
12. 第八課：疑問詞“什么”（何）“哪个”（どの）等を用いた文章など。発音練習・例文読解					同上									
13. 第九課：数の数え方・年齢の言い方など。発音練習・例文読解					同上									
14. 第九課：数の数え方・年齢の言い方など。発音練習・例文読解					同上									
15. 発音・文法のまとめ。発音テスト					全体的な復習をすること。									
16. 文法テスト					試験の準備。									
履修上の注意														
日本語と異なる発音を身につけるため、発音練習ではしっかり声を出しましょう。また、進行状況により、授業計画が前後する場合があります。														
成績評価方法・基準														
平常点 30％ 発音テスト 20％ 文法テスト 50％														
教科書〔日中いぶこみ交差点〕〔相原茂 等〕〔朝日出版社〕〔2,500 円〕														
参考書 なし														
備 考														
質問等については、授業終了時に受付けます。														

授業科目名		日本語基礎				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	清水 浩一郎		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美 1 年				
授業概要														
本講では、実用的側面及び教養的側面から、日本語の基礎的知識について講義をおこなう。まず講義の前半（2～7 回目）は、日本語の基礎となる事柄と、論理的な文章を書くための方法論について学習する。そして講義の後半（8～14 回目）では、どのようにして現代の日本語が成り立ったのか、或いは日本語とはどのような特徴を持つ言語なのか歴史的経緯をふまえて講義をおこなう。以上を通じて最終的には、各受講者が基本的な日本語運用能力を身に付けると同時に、国語について自分なりの考え方を持てるようになることを目標とする。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
学生あるいは社会人として要求される日本語運用能力を習得する。						○								
日本語の特徴について基礎的な知識を得る。						○	○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス：授業の概要と目的、履修上の諸注意についての説明						宿題 01 の作成（毎回 100～300 字程度の作文を課します）								
2. 日本語の基礎①：慣用句・文法と表記（1）						宿題 02 の作成								
3. 日本語の基礎②：慣用句・文法と表記（2）						宿題 03 の作成及び宿題 01 の復習								
4. 日本語の基礎③：敬語						宿題 04 の作成及び宿題 02 の復習								
5. 日本語の基礎④：敬語の練習問題						宿題 05 の作成及び宿題 03 の復習								
6. 日本語の基礎⑤：文章作法（1）						宿題 06 の作成及び宿題 04 の復習								
7. 日本語の基礎⑥：文章作法（2）						宿題 07 の作成及び宿題 05 の復習								
8. 日本語の特徴①：漢字・ひらがな・カタカナのなりたちや役割						宿題 08 の作成及び宿題 06 の復習								
9. 日本語の特徴②：鎌倉時代までの日本語とその特徴						宿題 09 の作成及び宿題 07 の復習								
10. 日本語の特徴③：室町時代までの日本語とその特徴						宿題 10 の作成及び宿題 08 の復習								
11. 日本語の特徴④：江戸時代までの日本語とその特徴						宿題 11 の作成及び宿題 09 の復習								
12. 日本語の特徴⑤：過去から現代に至る日本語の連続性						宿題 12 の作成及び宿題 10 の復習								
13. 現代語の特徴①：日本語の現状と傾向についての分析と考察①						宿題 13 の作成及び宿題 11 の復習								
14. 現代語の特徴②：日本語の現状と傾向についての分析と考察②						宿題 12 の復習								
15. 講義のまとめ						宿題 13 の復習								
16. 試験														
履修上の注意														
①後期に開講される「国語表現法」を続けて履修することが望ましいです。														
②毎回授業のはじめに読解力強化を意図した小テストを課しますので、遅刻をしないようにしてください。														
成績評価方法・基準														
期末試験（50％）と平常点（15％：平常点は授業への参加状況や小テストなどから総合的に判断）、宿題（35％）によって評価します。宿題は次の授業時に回収・次々回に添削して返却することとし、未提出の宿題がある場合には、評価の対象としないことがあります。														
教科書 講義前に資料を配付します。														
参考書 講義中に適宜紹介します。														
備 考														
①提出された宿題が水準に満たない場合は、再提出を求めます。														
②講義内容に関する質問や宿題の追加添削は、オフィスアワーに受け付けます。詳細についてはガイダンスで説明します。														
③国語に関する疑問がありましたら、随時お寄せください。次回の授業でコメント致します。														

授業科目名		国語表現法				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	清水 浩一郎		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健・美1年				
授業概要														
要約文・履歴書の「志望動機」や「自己 PR」、エントリーシート（ES）で頻出する質問事項への対応について講義します。また、課題の作成と添削を通じて、「ひとつの文章で扱う話題はひとつ」・「大切なことは真っ先に書く」・「設計図」を作成してから文章を書く」など、日本語で物事を表現する際の要点を培います。「読み」については、文章の大意を把握できるようになることを目標とします。「書き」については、作文と添削を繰り返しおこなうことで、単語と単語・文と文の繋がりと文章全体の構成を意識できるようになることを目標とします。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本語を「読み」・「書き」するための要点を身に付ける。						○								
日誌・履歴書等、社会で活躍するために必要な文書を書けるようにする。							○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス：授業の概要と目的、課題・宿題についての説明をします						宿題 01 の作成（毎回 300 字程度の作文を課します）								
2. 「読み」・「書き」の要点について学習します						宿題 02 の作成								
3. 文章の読み方①：文章の大意を把握する方法と要約文の書き方を学びます						宿題 03 の作成及び宿題 01 の復習								
4. 文章の読み方②：要約文を作成します（課題 01）						宿題 04 の作成及び宿題 02 の復習								
5. 実用文書作成①：履歴書の「志望動機」と「自己 PR」の書き方を学びます						宿題 05 の作成及び宿題 03 の復習								
6. 実用文書作成②：「志望動機」と「自己 PR」を作成します（課題 02）						宿題 06 の作成及び宿題 04 の復習								
7. 実用文書作成③：ES で頻出する質問への対応を学びます						宿題 07 の作成及び宿題 05 の復習								
8. 実用文書作成④：「あなたの長所と短所は？」（課題 03-1）						宿題 08 の作成及び宿題 06 の復習								
9. 実用文書作成⑤：「今までに力を入れて取り組んだことは？」（課題 03-2）						宿題 09 の作成及び宿題 07 の復習								
10. 日誌の書き方①：実習日誌の書き方を学びます						宿題 10 の作成及び宿題 08 の復習								
11. 日誌の書き方②：「実習記事」の部分を作成します（課題 04-1）						宿題 11 の作成及び宿題 09 の復習								
12. 日誌の書き方③：「考察」や「反省点」の部分を作成します（課題 04-2）						宿題 12 の作成及び宿題 10 の復習								
13. 日誌の書き方④：実習全体のまとめ・反省・考察等の書き方を学びます						宿題 13 の作成及び宿題 11 の復習								
14. 日誌の書き方⑤：「実習全体のまとめ」を作成します（課題 04-3）						宿題 12 の復習								
15. まとめ						宿題 13 の復習と課題 01～04 の完成								
履修上の注意														
①前期に開講される「日本語基礎」の内容をふまえて授業をおこなうため、当該の講義を履修することが望ましいです。														
②毎回授業のはじめに読解力強化を意図した小テストを課しますので、遅刻をしないようにしてください。														
成績評価方法・基準														
試験は実施しません。提出課題 01～04（40％）と授業中におこなう小テスト（自己採点方式：20％）、宿題 01～13（40％）によって評価します。課題は定期的に回収・添削してフィードバックし、宿題は次の授業時に回収・次々回に添削して返却します。なお、課題と宿題については、未提出のものがある場合評価の対象としないことがあります。														
教科書 講義前に資料を配付します。														
参考書 講義中に適宜紹介します。														
備 考														
①提出された宿題が水準に満たない場合は、再提出を求めます。														
②質問や課題・宿題に関する追加添削は、オフィスアワーに受け付けます。詳細についてはガイダンスで説明します。														

授業科目名		情報基礎学				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)					
担当者	松尾 広	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美2年					
授業概要														
データの集計・加工、グラフ作成、写真の加工を行い、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションしたりできることを目標に、文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報検索、簡単な画像処理などのコンピュータリテラシーについて解説する。またデータを整理、蓄積、利用する方法として簡単なデータベースの作成やほかのアプリケーションとの連携方法、データ処理の方法を論理的に考えることを目的としたプログラミングについての演習を行うことで、情報処理技術の理解を深め、ステップアップを図る。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
Word、Excel、PowerPoint を使って体裁が整った文書を作成できる。							○		○	○			○	
簡単な画像処理ができる。							○		○	○			○	
情報を処理するアルゴリズムを表現できる。							○		○	○			○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス						学習する内容を確認する。								
2. Word による文書作成（ビジネス文書作成、表の作成）						学習内容を確認し、反復する。								
3. Word による文書作成（図形の扱い、クリップアートの利用）						学習内容を確認し、反復する。								
4. Word による文書作成（練習問題）						学習内容を確認し、反復する。								
5. Excel による表計算（表の作成）						学習内容を確認し、反復する。								
6. Excel による表計算（グラフの作成）						学習内容を確認し、反復する。								
7. Excel による表計算（統計データの加工）						学習内容を確認し、反復する。								
8. Excel による表計算（データベース）						学習内容を確認し、反復する。								
9. Photoshop による画像処理（色調補正、選択範囲の設定、レイヤー機能）						学習内容を確認し、反復する。								
10. 簡単な動画の作成、編集						学習内容を確認し、反復する。								
11. PowerPoint によるプレゼンテーション（シンプルなスライドの作成）						学習内容を確認し、反復する。								
12. PowerPoint によるプレゼンテーション（アニメーションの利用）						学習内容を確認し、反復する。								
13. プログラミング						学習内容を確認し、反復する。								
14.まとめの課題 1（Word、Excel 等）						学習内容を振り返る。								
15.まとめの課題 2（自由課題）						学習内容を振り返る。								
履修上の注意														
プリントを保存しておくこと。														
成績評価方法・基準														
受講態度・毎回の授業で提出するファイル 40%、まとめの課題 60%														
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。														
教科書 事前にプリントを配布する。														
参考書 なし														
備 考														
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名		スポーツ身体科学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	土井 豊	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・美1年					
授業概要														
本授業では、今後の健康的生活の設計及びその継続にとって重要な「健康・体力の維持増進」について、「健康の三要素（運動・栄養・休養）」を中心に解説する。特に現代においては、むしろ若年層の人達に運動不足傾向が顕著であることに鑑み、現代人の多くが罹患する可能性がある各種症候群・疾病と運動不足との関連性、ならびに適切な運動実施・継続による健康改善効果等に関する学習を通して、今後の健康・体力づくりに向けての知識と態度・意欲及び行動力（実践力）等を身につけられるよう教育する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
体力と健康に関する基礎的知識を身につける。					○									
運動と健康・体力との関連性に関する認識を深める。						○								
今後の健康・体力づくりへの意欲と実践力を身につける。													○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 「スポーツ身体科学」概説（ガイダンス）					今後の「自身の抱負」をまとめ次回提出。									
2. 「健康とは何か」及び「健康観の変遷」等について					学習内容と感想等をまとめ次回提出。									
3. 「現在の日本における健康の姿」について					同上									
4. 「ライフスタイル（生活習慣）の現状と課題」について					同上									
5. 「体力と健康」：体力の分類及びその重要性について					同上									
6. 「運動と健康」：運動不足と健康について					同上									
7. 「健康的の痩身方法に関する理論と実際」					「誤った減量法」について次回提出。									
8. 「身体組成」及び「自身の肥瘦度」についての測定実習					測定結果と感想等をまとめ次回提出。									
9. 「メタボリックシンドロームとその予防」について					学習内容と感想等をまとめ次回提出。									
10. 「ロコモティブシンドロームとその予防」について					同上									
11. 「骨粗鬆症とその予防」について					同上									
12. 「運動処方の考え方」等について					同上									
13. 「健康増進における栄養・運動・休養の役割」について					同上									
14. 「救急処置 ABC」について					同上									
15. まとめ及び総括					本授業に関する自己評価及び授業評価。									
履修上の注意														
正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。														
成績評価方法・基準														
授業への出席状況ならびにほぼ毎回課すレポートの内容を基に総合的に評価する。その内訳については、出席状況（出席回数と授業態度）50%、レポート評価 50%とする。														
教科書：使用しない。授業前に資料を配布する。														
参考書：適宜紹介する。														
備 考														
・受講人数等の事情により（例えば受講者が 5 人以内の場合など）、授業形態を講義方式からゼミナール（演習）方式に変更する場合があります。														
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー時（曜日日時は掲示で確認）に受付けます。														

授業科目名		スポーツ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60＋30)					
担当者	土井 豊	必・選	選	形態	実技	学期	通年	対象	服・健・美 1 年					
授業概要														
年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。そして、勝利チームの各人には勝ち点を与え称賛する方式を採用して、団体競技の面白みやチームワーク（協働）の大切さ等を学ばせる。また一方では、対戦結果（勝敗）に関わらず、各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。また個人競技においては、個々人の基礎的運動能力ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。					○									
団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。						○		○						
今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。										○			○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス（個人票作成等）					今後の「自身の抱負」をまとめ次回提出。									
2. 身体計測（体位・体格等診断）					今後の自身の目標等について次回提出。									
3. 体力測定Ⅰ（運動能力テスト）					測定内容と結果等をまとめ次回提出。									
4～6. ソフトボール					ルール等の予習、及び技術の強化。									
7～9. ターゲットバードゴルフ					同 上									
10～12. バレーボール&バスケットボール					同 上									
13～14. バレーボール又はバスケットボール&フットサル					同 上									
15. ラジオ体操（第一&第二）の練習					ラジオ体操の復習及び練習。									
16. ラジオ体操（第一&第二）の実技試験					試験後の自己評価をまとめ次回提出。									
17～19. ソフトボール&ターゲットバードゴルフ					復習及び技術の強化。									
20～23. バドミントン&卓球					ルール等の予習、及び技術の強化。									
24～27. 筋肉トレーニングとサーキットトレーニング					トレーニング方法を復習かつ自己鍛錬。									
28. 身体計測（体位・体格等診断）					目標達成状況についてまとめ次回提出。									
29. スポーツ実技試験					試験後の自己評価等をまとめ次回提出。									
30. まとめ及び総評					本授業に関する自己評価及び授業評価。									
履修上の注意														
・ 毎回、運動のできる服装（ウェア）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。														
・ 正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。														
・ また、遅刻 3 回で欠席 1 回と見なすので注意すること。														
成績評価方法・基準														
個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、出席状況 25%、授業加点 25%、レポート 25%、実技試験 25%とする。														
教科書：なし														
参考書：なし														
備 考														
・ 当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。														
・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名		武道			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	佐藤 淳一	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服・健・美1年					
授業概要														
現代武道の1つで世界36カ国に普及し世界統一組織である少林寺拳法を、講義と実技で教授します。単に身体が丈夫になるだけではなく、心と体を調和させながら、他人と競い合う強さではなく、自己と向きあい何事にも負けることのない本当の強さ（自己確立）を体得します。呼吸法や、座禅を行うことにより心身の調整法を学び、どのように相手が攻撃してきても、力の大小、性別に関わらず自分や大切な人を守ることのできる少林寺拳法の護身の技術と心を、少林寺拳法七段で全国指導員の担当教員が伝授します。														
財団法人少林寺拳法連盟に全員所属して、前期で6級（緑帯）取得を目標に教授します。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
少林寺拳法の基礎的技術を体得する					○	○				○				
自己確立について理解することができる					○	○				○				
他と協働しながら楽しく修練できる										○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.少林寺拳法について、ガイダンス、技術体験					シラバスを読む。鍛錬法修得									
2.基本、講義、座禅、構え、運歩法、突き、蹴り基本					正中線鍛錬法実践									
3.基本、講義、座禅 受身、各種構え、攻撃法、防御法					丹田鍛錬法実践									
4.基本、講義、座禅、各種受身、上受け、内受け					鍛錬法実践									
5.基本、講義、座禅、上段、中段直突き、蹴り上げ					体幹鍛錬法 四股									
6.基本、講義、座禅、柔法（小手抜き、守法）					体幹鍛錬法 四股									
7.基本、講義、座禅、柔法（腕十字固め）					体幹鍛錬法 四股									
8.基本、講義、座禅、柔法（寄り抜き）					体幹鍛錬法 振り子突き									
9.基本、講義、座禅、剛法（流水蹴り）					体幹鍛錬法 振り子突き 中段									
10.基本、講義、座禅、単独演武天地拳第一					体幹鍛錬法 振り子突き 下段									
11.基本、座禅、単独演武竜王拳第一					体幹鍛錬法 蹴り									
12.基本、座禅、剛法（内受け突き）					体幹鍛錬法 まわし蹴り									
13.基本、座禅、剛法（下受け蹴り）					昇級レポート作成準備									
14.基本、座禅、柔法（逆小手）					昇級レポート作成準備									
15、6級昇級試験準備					昇級レポート作成、提出									
履修上の注意														
自他の安全に留意し、授業時間内にできない部分を積極的に自習すること。教員が指導します。														
成績評価方法・基準														
実技評価 40%、授業態度（集中して修練しているか 20%、学んだことが礼儀等態度に現われているか 20%） 昇級レポート 20%														
教科書 少林寺拳法級拳士副読本、科目表（財団法人少林寺拳法連盟）														
参考書 はじめよう少林寺拳法（ベースボールマガジン社）														
備考 1回目から修練します。運動のできる服装で来てください。修練前後の清掃は毎回おこないます。 2回目から雑巾を持参してください。授業外での質問はオフィスアワーで受け付けます。														

授業科目名	スタディスキルズ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	大学教職員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	服専1年					
授業概要														
本科目では、本学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。														
④学内の施設を活用した学習方法について教授する。														
⑤「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。														
大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的には、入学前に取り組んだ“e-learning”を復習して理解度を確認し、さらなる理解の向上を目指した演習を行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
大学での学習方法を身につける。					○									
自宅で学習する習慣を身につける。					○									
大学生として必要な基礎学力を身につける。					○									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス、ポートフォリオについて（栗山）					学習目標を確認する。									
2.大学で学ぶということ（学長）					復習し、大学で学ぶ意味を理解する。									
3.大学での学び方について（学科長、栗山）					復習し、授業内容を理解する。									
4.図書館の活用①（村山）					復習し、授業内容を理解する。									
5.基礎学力向上「国語」①（菅並）					復習し、授業内容を理解する。									
6.研究倫理について（栗山）					復習し、研究倫理について理解する。									
7.情報処理教育センターの活用〔OA室〕（松尾）					復習し、授業内容を理解する。									
8.基礎学力向上「国語」②（菅並）					復習し、授業内容を理解する。									
9.基礎学力向上 e-learning①〔OA室〕（栗山）					e-learningの学習をしてくること。									
10.図書館の活用②（村山）					復習し、授業内容を理解する。									
11.基礎学力向上〔OA室〕（栗山）					復習し、授業内容を理解する。									
12.基礎学力向上 e-learning②〔OA室〕（栗山）					e-learningの学習をしてくること。									
13.基礎学力向上「数学」①（菅野）					復習し、授業内容を理解する。									
14.基礎学力向上「数学」②（菅野）					復習し、授業内容を理解する。									
15.基礎学力向上 e-learning③〔OA室〕（栗山）					e-learningの学習をしてくること。									
履修上の注意														
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。														
・事情により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示板で連絡する。														
成績評価方法・基準														
授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）、提出物（50%）により評価する。														
提出物については、後日フィードバックを行う。														
教科書 〔入学前課題学習記録ノート（e-learningの教材）〕〔入学前に配布済み〕														
参考書 なし。授業の中で各担当の教員が指示する。														
備 考														
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。														

授業科目名		スタディスキルズ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	大学教職員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	健専1年					
授業概要														
本科目では、本学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。														
①学内の施設を活用した学習方法について教授する。														
②「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。														
③大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的には、入学前に取り組んだ“e-learning”を復習して理解度を確認し、さらなる理解の向上を目指した演習を行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
大学での学習方法を身につける。					○									
自宅で学習する習慣を身につける。					○									
大学生として必要な基礎学力を身につける。					○									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス、ポートフォリオについて（栗山）					学習目標を確認する。									
2.大学で学ぶということ（学長）					復習し、大学で学ぶ意味を理解する。									
3.大学での学び方について（学科長、栗山）					復習し、授業内容を理解する。									
4.図書館の活用①（村山）					復習し、授業内容を理解する。									
5.情報処理教育センターの活用〔新 OA 室〕（松尾）					復習し、授業内容を理解する。									
6.研究倫理について（栗山）					復習し、研究倫理について理解する。									
7.基礎学力向上（栗山）					復習し、授業内容を理解する。									
8.基礎学力向上 e-learning①〔新 OA 室〕（栗山）					e-learning の学習をしてくること。									
9.基礎学力向上「国語」①（菅並）					復習し、授業内容を理解する。									
10.基礎学力向上 e-learning②〔新 OA 室〕（栗山）					e-learning の学習をしてくること。									
11.基礎学力向上「国語」②（菅並）					復習し、授業内容を理解する。									
12.図書館の活用②（村山）					復習し、授業内容を理解する。									
13.基礎学力向上「数学」①（菅野）					復習し、授業内容を理解する。									
14.基礎学力向上「数学」②（菅野）					復習し、授業内容を理解する。									
15.基礎学力向上 e-learning③〔新 OA 室〕（栗山）					e-learning の学習をしてくること。									
履修上の注意														
・ 毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。														
・ 事情により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示板で連絡する。														
成績評価方法・基準														
授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）、提出物（50%）により評価する。														
提出物については、後日フィードバックを行う。														
教科書 〔入学前課題学習記録ノート（e-learning の教材）〕〔入学前に配布済み〕														
参考書 なし。授業の中で各担当の教員が指示する。														
備 考														
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。														

授業科目名		スタディスキルズ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)					
担当者	大学教職員		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	美1年				
授業概要														
大学生活へスムーズに移行できるように大学の様々な授業で必要とされる、一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識について指導する。本学の歴史や教育内容、大学での学びについての基礎知識、情報教育センター・図書館等の設備仕様の活用法、履修方法等について指導を行う。各自学習目標を設定し、入学前に取り組んだ e-learning の復習を実施すると共に、基礎学力向上のための課題を設定し、さらなる理解の向上を図る。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
大学生生活に必要な基礎的知識・学習能力を身につける。					○									
自主的に課題を解決する能力を身につける。					○									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス、学修ポートフォリオについて					シラバス・学生便覧等の資料を持参する									
2. 大学で学ぶということ（学長）					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
3. 大学での学び（生活美術学科長）					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
4. 図書館の活用1（村山）					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
5. 履修の方法等(授業の受け方、試験に関する心得)（北折）					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
6. 情報処理教育センターの活用（松尾）					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
7. 基礎学力向1（入学前課題の事後指導）e-learning（三上）					e-learning 準備・制作ノートのまとめ									
8. 研究倫理について（森）					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
9. 基礎学力向2（入学前課題の事後指導）e-learning（立花）					e-learning 準備・制作ノートのまとめ									
10. 基礎学力向上3 国語（三浦）					材料の準備・制作ノートのまとめ									
11. 図書館の活用2（村山）					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
12. 基礎学力向上4 国語（大堀）					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
13. ポートフォリオ制作について（鶴巻）					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
14. ノートの取り方・レポートの書き方（瀬戸）					学習ポートフォリオの記入・提出課題の完成									
15. まとめ（1年担任）					学習ポートフォリオの記入・課題のまとめ									
履修上の注意														
授業内容が毎回異なるので、積極的に受講し記録をとること。														
毎回担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡する場合がある。要確認のこと。														
成績評価方法・基準														
提出課題（50%）、授業態度（50%）で評価します。														
提出物については、授業中にフィードバックします。														
教科書 e-learning の教材（他、授業時にプリントを配布する）適宜指示する。														
参考書 適宜指示する														
備考														
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名		ライフデザイン			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	佐々木 晃	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	服・健・美1年					
授業概要														
自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の開学理念である「人間生活を科学し、より良い生活へ」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生活を充実させるための手立て、できたことをノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法、それらをグループで学びあい、集団討議させることでより確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
ライフデザインを学修する上で必要な基礎知識を身に付ける						○	○				○		○	
学修した情報を整理・要約できる技術を身に付ける						○	○				○		○	
学修した知識・技能・態度を社会で総合的に活用できる。						○	○				○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス、ライフデザインを学ぶ意義の説明						より良い生活のために何が必要か考える								
2.自分史作成 ～自己を知る～						自らの埋もれた価値を見出す視点を学ぶ								
3.自己分析・自己理解・自己管理						各種の分析を用いて人間性を科学する								
4.学生生活のデザイン						生活を見直しより豊かな生活を見通す								
5.時事問題理解力、思考力、表現力						情報を取捨選択して活用する能力を培う								
6.社会人に求められるもの						社会で必要な行動・思考・協働を学ぶ								
7.社会で働くための資質・能力						採用担当が重視する社会人基礎力を学ぶ								
8.業界・企業研究						最新の経済動向を踏まえた学びを深める								
9.課題発見能力・協調性・提案力						現状に満足せず次を考える学びを深める								
10.ビジョン構築力						自分や組織の本来の使命を理解する								
11.ライフステージとライフイベント						人生の節目にどんな役割があるかを学ぶ								
12.ライフデザインとライフプラン						両者の概念の違いを予習し把握する								
13.ライフデザインの作成						表現内容を簡潔にまとめる工夫を行う								
14.ライフデザインの発表						内容を平易に伝えるための工夫を行う								
15.キャリア開発に向けて						学修全体を振り返り今後に役立てる								
履修上の注意														
本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。														
成績評価方法・基準														
平常点30％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート70％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）														
・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。														
教科書〔シンプルリスト〕〔ドミニック・ローホー〕〔講談社〕〔630円〕														
参考書 なし														
備 考														
・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。														
・ 質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名	キャリア開発Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)					
担当者	水谷 浩	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専 2 年					
授業概要														
生活者としての消費者力を高め、充実した豊かな生活を送ることができるように、消費生活に関わる各分野の基礎を教授する。家政学を基本として、特に消費生活における契約・悪質商法、衣生活・食生活・住生活、サービス、環境の分野について教授する。さらにこの授業では、消費者力検定受験と級取得を最終目標とするため、各分野の要点解説と消費者力検定の対策が中心の講義となる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
消費生活に関する正しい知識を身につけ消費者力を高める。					○	○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. はじめに：消費者力とは、 検定の概要、衣生活					ワークとプリントで学習内容を振り返る。事前配布のプリントに目を通す。									
2. 食生活					ワークとプリントで学習内容を振り返る。事前配布のプリントに目を通す。									
3. 住生活					ワークとプリントで学習内容を振り返る。事前配布のプリントに目を通す。									
4. 契約・悪質商法 1 契約					ワークとプリントで学習内容を振り返る。事前配布のプリントに目を通す。									
5. 契約・悪質商法 2 悪質商法、1～4 の振り返り					ワークとプリントで学習内容を振り返る。事前配布のプリントに目を通す。									
6. 環 境					ワークとプリントで学習内容を振り返る。事前配布のプリントに目を通す。									
7. サービス、5～7 の振り返り					ワークとプリントで学習内容を振り返る。事前配布のプリントに目を通す。									
8. 試験					ワークとプリントで全範囲を振り返る。									
9. おわりに：セミナーのまとめ、検定の振り返り					誤答した問題を見直す。									
履修上の注意														
消費者力検定を受験するため、履修前に検定申込（掲示で指示）が必要となる。														
成績評価方法・基準														
検定結果 50%、ミニットペーパーと受講態度に対し 50%														
ミニットペーパーは、次回の授業内でフィードバックを行う。														
教科書〔消費者力検定ワークブック〕〔日本消費者協会〕〔756 円〕														
参考書 授業前にプリントを配布する。														
備 考														
検定日前までに各分野の授業を全て実施するため定時以外の時間にも行う場合があり、1 回目に説明する。														
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。														
評価については 1 回目の授業で説明する。														
ミニットペーパーは授業時にフィードバックする。														

授業科目名	キャリア開発Ⅰ		単位（総授業時間＋自習時間）					1(30＋15)					
担当者	鈴木 裕行	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専 1 年				
授業概要													
化学Ⅰ・Ⅱで扱った内容に関連する基礎的な問題の演習を主とし、個々の学生の理解度に合わせて、教員および学修支援員により個別に指導する。また授業で提示された練習問題の解説を行う。さらに管理栄養士の業務の実際と4年次に受験する予定の管理栄養士国家試験についても説明する。													
授業の到達目標				学位授与の方針との関連									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
化学の練習問題を解けるようにする。				○		○							
管理栄養士の業務の概要を理解する。				○		○							
管理栄養士国家試験の概要と、化学の学習との関連を理解する。				○		○							
授業計画の内容				自習（事前・事後学修の内容）									
1. 物質の構成に関連する問題演習と解説				授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。…㊦									
2. 周期表に関連する問題演習と解説													
3. 原子・イオン・分子に関連する問題演習と解説													
4. 化学式に関連する問題演習と解説													
5. 物質量：原子量・分子量の計算に関連する問題演習と解説													
6. 管理栄養士の仕事について、モルの計算に関連する問題演習と解説				㊦および管理栄養士の仕事についての説明をまとめレポートを作成する。									
7. 化学反応式に関連する問題演習と解説				授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。…㊦									
8. 化学結合に関連する問題演習と解説													
9. 酸・塩基、中和に関連する問題演習と解説													
10. 水素イオン濃度とpHに関連する問題演習と解説													
11. 管理栄養士国家試験について、酸化と還元に関連する問題演習と解説				㊦および管理栄養士国家試験についての説明をまとめレポートを作成する。									
12. 酸化数と酸化還元反応に関連する問題演習と解説				授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。…㊦									
13. 気体の性質に関連する問題演習と解説													
14. 溶液の性質に関連する問題演習と解説													
15. 化学反応と熱に関連する問題演習と解説													
履修上の注意													
特に教員・学習支援員に積極的に質問して不明な点を極力残さないような取り組みを求める。													
成績評価方法・基準													
平常点（試問・課題）・・・80%、レポート提出・・・20%													
教科書 【ゼロからは始める化学】[立屋敷 哲][丸善(株)出版事業部][2,376 円]													
参考書 無し													
備考													
選択科目であるが、化学の学力向上を目指したもので、化学Ⅰ・Ⅱの授業と特に関連が深く、かつ管理栄養士関連の情報提供も行うので履修することが望ましい。提出物へのフィードバックとして、コメントを後日提示する。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。													

授業科目名		キャリア開発 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)						
担当者	2 年次担任(森敏美・三浦輝子)		必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	美 2 年					
授業概要															
各コースによる外部講師の講義と現場見学でのノウハウ習得で構成し個々のキャリアスキルをアップさせる。講師は各コースの専門分野で活躍している人物（卒業生他）を予定し、具体的な職業の実体験を聞かせ将来の個々のキャリアをシュミレーションさせる。キャリアに対する具体的な目標設定を持たせ、それに向けてどのような方法で具現化してゆけるのか、紙媒体と、パワーポイントを駆使し、ディスカッションを繰り返し社会に向けての準備を整えさせる。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
						・社会で活躍している先輩等の話を聞き、職業への具体感を見出せる。	○								
						・キャリアスキルを身に付けることができる。	○								
・美術と社会の接点を強く意識できる。						○									
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス						予め、掲示板に準備物等の告知をする									
2. 外部講師による講義（デザイナー）						ミニットペーパーの提出									
3. 外部講師の現場見学（デザイナー）						掲示板確認									
4. 外部講師による講義（漫画家）						ミニットペーパーの提出									
5. 外部講師の現場見学（漫画家）						掲示板確認									
6. 外部講師による講義（工芸家）						ミニットペーパーの提出									
7. 外部講師の現場見学（工芸家）						掲示板確認									
8. 外部講師による講義（ギャラリー経営）						ミニットペーパーの提出									
9. 外部講師の現場見学（ギャラリー経営）						掲示板確認									
10. 外部講師による講義（教員）						ミニットペーパーの提出									
11. 外部講師の現場見学（教員）						掲示板確認									
12. 外部講師による講義（画家）						ミニットペーパーの提出									
13. 外部講師の現場見学（画家）						掲示板確認									
14. 外部講師による講義（クラフト作家）						ミニットペーパーの提出									
15. 外部講師の現場見学（クラフト作家）						掲示板確認									
履修上の注意															
事前に外部講師の紹介を指示するので、掲示板を確認すること。資料制作があるので必ずチェックする事。															
成績評価方法・基準															
授業参加状況（50％） レポート等提出物の内容 50％															
ミニットペーパーにてフィードバックを行う。。															
教科書 資料配布															
参考書 適宜指示する															
備 考															
外部講師との日程調整の為、授業計画にある順番は前後することもある。開講日と内容の詳細は掲示で指示する。何か質問等あれば授業後のオフィスアワーに受付ける。															

授業科目名		キャリア開発Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15＋30)				
担当者	菅並 茂樹		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専 2年			
授業概要													
来るべき就職活動のために「キャリア」に対する意識を高めるとともに、就職活動(試験)の概要を把握し、就職試験に必要な知識・技能のうち、主として日本語に関する能力を向上させることをねらいとする。SPIについては他の授業や就職対策講座で使用されるので時間の関係もあり省略し、あまり触れられないと思われる性格検査、適性検査、事務能力検査について扱う。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・就職に対する意識を高める。								○	○	○	○		
・就職に必要な日本語能力を育成する。					○			○	○	○	○		
・就職試験の状況を把握する								○	○	○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス(授業内容に関する説明、資料の作成)					・自主的な学習に努めること。 ・試験で間違えたところはそのままにせず必ず復習すること。 ・SPIについても調べておくように。								
2.文章の書き方の基礎													
3.就職活動に必要な書類とその作成方法													
4.漢字の書き取り(基本的な漢字、頻出漢字)													
5.漢字の書き取り(頻出漢字、間違えやすい漢字)													
6.「事務能力検査」について													
7.「性格検査」「適性検査」について													
8.就職試験について													
9.													
10.													
11.													
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
各自「キャリア」について考えること。													
成績評価方法・基準													
授業への参加状況(40%)、授業で行う「試験」結果(20%)、レポート(40%)													
試験、レポートは添削の上返却する。													
教科書 使用しない。事前に資料を配布する。													
参考書 授業で紹介する													
備 考													
質問、相談等は授業後やオフィスアワーで受け付けるが、随時来室(不在の時あり)してよい。													

授業科目名		キャリア開発Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	川俣 幸一	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専2年					
授業概要														
栄養士の献立作成業務に欠かせない食品構成表について深く学ぶ。まずは食品構成表の成り立ちを学び、そこには食事調査結果、荷重平均食品群別栄養成分表、推定エネルギー必要量、エネルギー産生栄養素バランスなどが密接に関わっていることを理解する。最終的には食品構成表を用いて、健康な人を対象としたライフステージ別の栄養問題に配慮した献立の作成を目指す。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
食品構成表について理解できる							○		○					
いくつかの食品構成表を用いて、ライフステージ別の栄養問題に配慮した献立をたてることができる					○									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 概要／食事調査結果から荷重平均食品群別栄養成分表のできるまで					事前学習は荷重平均食品群別栄養成分表の予習。事後学習としてレポート作成。									
2. 荷重平均食品群別栄養成分表から食品構成表のできるまで					事前学習は食品構成表の復習。事後学習としてレポート作成。									
3. 食品構成表から献立を作成する（練習）					事前学習は献立展開の復習。事後学習としてレポート作成。									
4. 乳児期・幼児期の食品構成表①（献立の作成）					事前学習は乳児期・幼児期の栄養問題の予習。事後学習としてレポート作成。									
5. 乳児期・幼児期の食品構成表②（栄養価計算）					事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。									
6. 学童期の食品構成表①（献立の作成）					事前学習は学童期の栄養問題の予習。事後学習としてレポート作成。									
7. 学童期の食品構成表②（栄養価計算）					事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。									
8. 思春期の食品構成表①（献立の作成）					事前学習は思春期の栄養問題の予習。事後学習としてレポート作成。									
9. 思春期の食品構成表②（栄養価計算）					事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。									
10. 妊娠期の食品構成表①（献立の作成）					事前学習は妊娠期の栄養問題の予習。事後学習としてレポート作成。									
11. 妊娠期の食品構成表②（栄養価計算）					事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。									
12. 成人期の食品構成表①（献立の作成）					事前学習は成人期の栄養問題の予習。事後学習としてレポート作成。									
13. 成人期の食品構成表②（栄養価計算）					事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。									
14. 老年期の食品構成表①（献立の作成）					事前学習は老年期の栄養問題の予習。事後学習としてレポート作成。									
15. 老年期の食品構成表②（栄養価計算）					事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。									
履修上の注意														
応用栄養学ⅠⅡ、応用栄養学実習ⅠⅡの科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。														
成績評価方法・基準														
課題レポート・・・90%														
受講状況・・・10%														
教科書 なし（適宜プリントを配布する）														
参考書〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,512円〕														
備考														
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する														

授業科目名		キャリア開発Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	2 年次担任		必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	美 2 年			
授業概要													
地方公共団体およびその付属機関等の公的機関、美術に関連する各種工芸工房、デザイン事務所、画材販売等の多様な職種について事前調査を実施する。職業調査後、履修者が希望する企業・団体等でインターンシップを実施できるよう指導する。社会人としてのマナー、仕事の進め方、グループ内のコミュニケーションの能力等のスキル向上を図る。本実習を通して、地域社会の一員としての自覚を持ち、自立的・主体的に行動し、倫理観・生涯学習能力を身につけることを目的とする。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会人として必要な基礎的知識・コミュニケーション能力を身につける。					○	○			○				
主体的に課題を解決する能力を身につける。						○					○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 授業概要について					シラバスを持参する								
2. 職業調査（一般）					職業調査・提出課題の完成								
3. 職業調査（公共団体）					職業調査・提出課題の完成								
4. 職業調査（美術関連・デザイン）					職業調査・提出課題の完成								
5. 職業調査（美術関連・工芸）					職業調査・提出課題の完成								
6. 職業調査 レポート記入（一般企業）					レポート資料準備・提出課題の完成								
7. 職業調査 レポート記入（美術関係）					レポート資料準備・提出課題の完成								
8. 職業調査 レポート記入（美術関連・デザイン）					レポート資料準備・提出課題の完成								
9. 職業調査 レポート記入（美術関連・工芸）					レポート資料準備・提出課題の完成								
10. 社会人のマナーについて					マナーについて調査・提出課題の完成								
11. インターンシップエントリーシート記入（下書き）					エントリーシート下書き準備・提出課題の完成								
12. インターンシップエントリーシート記入（正書）					エントリーシート下書き準備・提出課題の完成								
13. 実習報告書の作成（下書き）					報告書の記入・提出課題の完成								
14. 実習報告書の作成（正書）					報告書の記入・提出課題の完成								
15. 実習報告書の作成 まとめ					報告書の記入・提出課題のまとめ								
履修上の注意													
授業内容が毎回異なるので、積極的に受講し記録をとること。													
毎回担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡する場合がある。要確認のこと。													
成績評価方法・基準													
実習態度（80%）、提出課題（20%）で評価します。													
提出物については、授業中にフィードバックします。													
教科書 資料を配布する													
参考書 適宜指示する													
備 考													
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		キャリア開発Ⅲ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15＋30)				
担当者	内海 陽子		必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	服専３年				
授業概要														
本講義では、AFT 色彩検定 2 級の試験対策講座を行う。色彩は、被服をはじめとする日常生活のあらゆる分野に関連する。特に、ファッション業界やインテリア業界、グラフィック業界、企業のデザイン・宣伝部門など、幅広い分野で活用される「色」についての専門知識について取り上げることで、知識の深化を図り、色彩を活用するための実践力を養う。これらの専門知識を身につけながら、AFT 色彩能力検定 2 級を目指す。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
色彩についての基礎知識を身につける。						○								
色彩を活用し実践するための専門知識を身につける。							○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
１．生活と色、光と色						教科書を熟読し、練習問題を学習する。								
２．色の表示						教科書を熟読し、練習問題を学習する。								
３．色彩調和、配色イメージ						教科書を熟読し、練習問題を学習する。								
４．ヴィジュアルデザインと色彩、プロダクトデザインと色彩						教科書を熟読し、練習問題を学習する。								
５．ファッションと配色						教科書を熟読し、練習問題を学習する。								
６．インテリアデザインと色彩						教科書を熟読し、練習問題を学習する。								
７．エクステリアデザインと色彩						教科書を熟読し、練習問題を学習する。								
８．AFT 色彩検定の試験対策						教科書を熟読し、練習問題を学習する。								
履修上の注意														
AFT 色彩検定 3 級の内容を十分に復習して授業に臨むこと。事前に教科書を熟読し、配布する練習問題を十分に学習してくること。AFT 色彩検定 2 級を受験すること。														
成績評価方法・基準														
課題レポート（50%）、事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価。														
教科書〔AFT 色彩検定 公式テキスト 2 級編〕〔AFT 対策テキスト編集委員会〕〔A・F・T 企画〕〔3,240 円〕														
参考書 使用せず														
備 考														
質問等については、授業終了後受け付ける。														

授業科目名		キャリア開発Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	健康栄養学専攻教員	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専3年					
授業概要														
管理栄養士として働くためには、栄養士免許の取得と管理栄養士国家試験に合格することが必要条件である。特に、管理栄養士国家試験に合格するためには、出題内容を把握した上での継続的な学習が不可欠である。本科目は、管理栄養士国家試験の受験対策として、以下の内容を扱う。 ①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）ごとに過去問を解きながら、修得する必要がある事柄を教授する。 ②出題分野（科目）ごとに問題範囲、頻出事項について解説する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
国家試験受験に必要な知識を身につける。					○	○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.問題集配布、ガイダンス（鈴木、栗山、川俣、福岡）					学習目標を確認する。									
2.基礎栄養学（鈴木）					予習・復習を行い、知識を整理する。									
3.基礎栄養学（鈴木）					予習・復習を行い、知識を整理する。									
4.基礎栄養学（鈴木）					予習・復習を行い、知識を整理する。									
5.基礎栄養学（鈴木）					不得意箇所の克服に努める。									
6.食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）					予習・復習を行い、知識を整理する。									
7.食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）					予習・復習を行い、知識を整理する。									
8.食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）					不得意箇所の克服に努める。									
9.人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（鈴木、曾根）					予習・復習を行い、知識を整理する。									
10.人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（鈴木、曾根）					予習・復習を行い、知識を整理する。									
11.人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（鈴木、曾根）					予習・復習を行い、知識を整理する。									
12.人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（鈴木、曾根）					不得意箇所の克服に努める。									
13.栄養教育論（ ）					予習・復習を行い、知識を整理する。									
14.栄養教育論（ ）					不得意箇所の克服に努める。									
15.ミニテスト（栗山、川俣）					学習した内容全体を復習する。									
16.ミニテスト返却とガイダンス（栗山、川俣）					学習した内容全体を復習する。									
履修上の注意														
・管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。 ・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。														
成績評価方法・基準														
・平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、ミニテスト 20%の結果で評価する。 ・提出物やミニテストは、後日フィードバックを行う。														
教科書 〔管理栄養士国家試験 問題集〕〔大学作成〕 〔クエスチョンバンク 2019〕〔メディックメディア〕〔未定〕（7月発売予定）														
参考書 各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。														
備 考														
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。														

授業科目名		キャリア開発Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	工藤 稜		必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	美2年				
授業概要														
授業前半は講義と鑑賞を通して、過去から現在に至るまでのキャラクターデザイン画風の変遷を紹介、また挿画の様々な役割も提示し、イラスト・漫画における表現の多様性を理解させる。後半は実技演習を行い、イラストの表現力を上げるため、人物の表情、ポーズの描き方、状況の描き方を練習させ、効果的な表現方法を指導する。その結果、より高度な発想や技術を身につけさせることにより、将来、職業としてのイラストレーター、漫画家、アニメーター等の選択肢が持てるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・キャラクターイラストの表現方法の多様性を理解できるようになる。					○									
・キャラクターの様々な表情やポーズ、状況を描けるように、描写力のスキルを上げることができる。									○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス														
2. イラストとは														
3. 日本キャラクターイラスト史 江戸時代～大正														
4. 〃 昭和～現代														
5. キャラクター作画演習 1 スタンプキャラ作画														
6. 〃 2 感情、躍動感追加														
7. 〃 3 様々な状況を描画														
8. アートアニメーションについて 海外作品鑑賞														
9. キャラクター作画演習 4 模擬試験														
10. 〃 5 講評														
11. ヒーローデザイン史 1 東洋と西洋のマスクデザイン変遷														
12. 〃 2 アートからの引用														
13. 〃 3 商業デザインとしてのメカ														
14. 作品鑑賞 学生映画と現代のクリエイターとの関係														
15. まとめ アンケートで各自にフィードバックを行う														
履修上の注意														
課題には積極的に取り組むこと														
成績評価方法・基準														
授業参加状況 50% 実技 50%														
教科書 プリント配布 プロジェクター使用														
参考書 なし														
備 考														
授業終了後オフィスアワーを設けるので活用して欲しい。														

授業科目名	キャリア開発Ⅳ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)					
担当者	水谷 浩		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服専 3 年				
授業概要														
進路決定や就職活動の対策を行い、各自が希望する進路を考察し活動に必要なスキルを身に付けられるように支援する。本学では本授業以外に就職活動を支援する授業を開講しているが、本授業では就活で必要となる履歴書やエントリーシートの作成のための支援、SPI 対策を主に教授する。さらに、服飾文化専攻学生の多くが進路希望をするアパレル業界特有の活動対策、その他の業界対策、家庭科教員の試験対策などについて教授し、個別の希望に応じたバックアップを行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
社会人としての幅広い教養とビジネススキルを身に着ける。						○								
自己管理能力、倫理観、責任感を身に着ける										○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. SPI 対策（菅野、植松）					配布のプリントの内容を振り返る。									
2. 進路を考える（川又）、業界研究、情報収集の方法（井上） （図書館で行う）					情報収集し、課題に取り組む。 SPI の練習をする。									
3. 履歴書（EC）の書き方（井上）					配布プリントに目を通し、内容を振り返る。課題と SPI に取り組む。									
4. 希望進路に合わせた履歴書（EC）の主な項目の作成、着装の注意点（井上）					主な項目のネタを集める。内容を振り返り課題と SPI に取り組む。									
5. 履歴書校正の個別指導（菅野、菅並、植松、川又、井上）、添え状と封書の書き方（井上）					課題と SPI に取り組む。配布プリントの内容を振り返る。									
6. 希望の進路に応じたグループ指導（服飾：井上、一般：菅野、教職：菅並）					進路ごとの情報を収集する。課題と SPI に取り組む。									
7. 履歴書・添え状・封書の確認、面談練習（菅野、菅並、植松、川又、井上）					提出物と着装の確認をする。内容を振り返る。									
8. SPI 試験（菅野、植松）					SPI の練習をする。全範囲を振り返る。									
履修上の注意														
遅刻・欠席をせず、積極的に取り組み、課題を明確にして臨むこと。キャリアサポートⅠも同時に履修することが望ましい。														
成績評価方法・基準														
受講状況（課題の取り組み（提出物）等）60%、SPI 試験 40%														
教科書 適時プリントを配布する。														
参考書 必要に応じて紹介する。														
備 考														
教室移動がある際には掲示にて指示する。														
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。														
評価については 1 回目の授業で説明する。														
提出物や試験結果は授業時にフィードバックする。														
課題が未提出等の際には、評価の対象としないことがある。														

授業科目名		キャリア開発Ⅳ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	健康栄養学専攻全教員	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専4年				
授業概要													
本科目は、4年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。 ①管理栄養士国家試験の模擬試験より、出題分野（科目）ごとに修得すべき事柄を教授する。 ②出題分野（科目）ごとに問題範囲、頻出事項について解説する。 ③応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
国家試験受験に必要な知識を身につける。					○	○	○					○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.問題集配布、ガイダンス（鈴木、栗山、川俣、土井、八巻）					学習目標を確認する。								
2.模擬試験①（栗山、川俣）					知識の修得状況を把握する。								
3.問題解説（全教員）					予習・復習を行い、知識を整理する。								
4.問題解説（全教員）					予習・復習を行い、知識を整理する。								
5.問題解説（全教員）					不得意箇所の克服に努める。								
6.問題解説（全教員）					不得意箇所の克服に努める。								
7.模擬試験②（栗山、川俣）					知識の修得状況を把握する。								
8.問題解決（全教員）					予習・復習を行い、知識を整理する。								
9.問題解説（全教員）					予習・復習を行い、知識を整理する。								
10.問題解説（全教員）					不得意箇所の克服に努める。								
11.問題解説（全教員）					知識の修得状況を把握する。								
12.模擬試験③（栗山、川俣）					知識の修得状況を把握する。								
13.問題解説（全教員）					予習・復習を行い、知識を整理する。								
14.問題解説（全教員）					予習・復習を行い、知識を整理する。								
15.問題解説（全教員）					不得意箇所の克服に努める。								
履修上の注意													
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。 ・模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示で連絡する。													
成績評価方法・基準													
・平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、模擬試験の結果 20%で評価する。 ・提出物や模擬試験は、後日フィードバックを行う。													
教科書 〔管理栄養士国家試験 問題集〕〔大学作成〕 〔クエスチョンバンク 2018〕〔メディックメディア〕※3年次に購入済み													
参考書 各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。													
備 考													
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。													

授業科目名		キャリアサポート I			単位 (総授業時間+自習時間)				1(30+15)				
担当者	大学教職員	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服・健・美 3 年				
授業概要													
A I の人間領域への進出や情報ネットワークの急速な発展により、社会と職業を取巻く環境が大きく変化していることを教える。その上で、S P I ・履歴書・エントリーシート・面接・求人票の見方等の就職活動に必要な知識及びスキルと、変化の時代に対応するキャリアプランの立て方・多様な人とコミュニケーションする際の心の扱い方・数的知識・ビジネスマナー・プレゼンテーション等の社会人の基礎知識を教えている。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 広い視野で進路を考え、選択・決定する習慣を身に付ける										○			
② 就職試験に合格する知識とスキルを身に付ける					○								
③ 社会人の基礎知識を身に付ける					○								
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1.就活準備.スタートアップセミナー (授業がイタズラ・就活の進め方)					授業の目的と就活の進め方を理解すること								
2.社会と職業理解 (社会環境の変化と伸びる職業・消える職業)					授業内容の理解と①の参考書をよく読み、変化の時代におけるキャリアプランを考える習慣を身に付けること								
3.自己分析セミナー (自己の強み・価値観の理解)													
4.キャリアプランセミナー (変化の時代のキャリアプランを考える)													
5.SPI 基礎セミナー I (SPI とは何か、必要な知識と解くコツ)					配布するテキストを繰り返し復習し、基礎計算の知識を身に付けること								
6.SPI 基礎セミナー II (割合・組合せ・速さ等基礎計算の確認)													
7.第 1 回 SPI 模擬試験					模試を通じ SPI の問題形式を知ること								
8.業界・企業研究セミナー (変化の時代の業界・企業研究の基礎)					業界・企業研究の基礎知識を身に付けること								
9.コミュニケーションセミナー I (ネガティブ感情と上手に付き合うコツ)					様々な人々とのコミュニケーションが求められる社会において必要な心の扱い方の基本を学び、普段から実践して身に付けること								
10.コミュニケーションセミナー II (目標を実現するマインドセットのコツ)													
11.コミュニケーションセミナー III (自己肯定感を高めるヒント)													
12.SPI 対策基礎編 I (割合・損益計算) 注 1					配布するテキストを繰り返し復習し、基礎計算問題と応用問題に関する知識と短時間で問題を解くコツを身に付けること								
13.SPI 対策基礎編 II (速さ・組合せ・確率) 注 1													
14.SPI 対策応用編 I (推論・グラフの領域) 注 1													
15.SPI 対策応用編 II (数表・比率) 注 1													
履修上の注意													
継続して復習を行い、十分に内容を理解し実践できるようにすること また、夏期及び春期休暇期間中に実施する SPI 夏期集中セミナー・SPI WEB 模試や、直前総括セミナー、東京就活バスツアー等の課外セミナーにも積極的に参加し、実力向上を図ること 質問や相談等がある場合は学生課窓口で随時受け付けているので利用すること													
成績評価方法・基準													
授業態度 (60%)、課題提出 (30%)、SPI 模試フィードバックの理解度 (10%)													
教科書 授業の際に資料を配布する													
参考書 ① [10 年後、君に仕事はあるのか] [藤原和博] [ダイヤモンド社] [1,512 円] ② [会社四季報業界地図 2019 年版] [東洋経済新報社] [1,296 円] ※平成 30 年 9 月上旬発売													
備考													
注 1：第 1 回 SPI 模試の結果次第で授業内容変更の可能性有													

授業科目名		キャリアサポートⅠ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	大学教職員	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服・健・美3年				
授業概要													
AⅠの人間領域への進出や情報ネットワークの急速な発展により、社会と職業を取巻く環境が大きく変化していることを教える。その上で、SPI・履歴書・エントリーシート・面接・求人票の見方等の就職活動に必要な知識及びスキルと、変化の時代に対応するキャリアプランの立て方・多様な人とコミュニケーションする際の心の扱い方・数的知識・ビジネスマナー・プレゼンテーション等の社会人の基礎知識を教えている。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 広い視野で進路を考え、選択・決定する習慣を身に付ける										○			
② 就職試験に合格する知識とスキルを身に付ける					○								
③ 社会人の基礎知識を身に付ける					○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
16.第2回 SPI 模擬試験					理解出来てない分野を確認し復習すること								
17.ビジネスマナーセミナー（ビジネスマナーの基礎知識）					普段から学んだ内容を実践し身に付けること								
18.プレゼンテーションセミナー（プレゼンテーションの基礎知識）					普段から学んだ内容を実践し身に付けること								
19.SPI 模試振り返り基礎編（基礎計算の確認）注2					今までの学んだ知識を再確認し、苦手分野を克服すること								
20.SPI 模試振り返り応用編（数表・グラフの領域等の確認）注2													
21.就活準備中間レビュー（SPI 性格検査を用いた自己分析と志望先研究）					自己分析と業界・企業研究深化を図ること								
22.ES・履歴書の書き方セミナーⅠ（学生時代に頑張ったことの書き方）					エントリーシートの三大質問事項の書き方の基本を身に付けること								
23.ES・履歴書の書き方セミナーⅡ（自己PRの書き方）													
24.ES・履歴書の書き方セミナーⅢ（志望動機の書き方）													
25.面接対策セミナーⅠ（面接の全体像と集団面接ワーク）					ロールプレイを通じ、面接の実践力を身に付けること								
26.面接対策セミナーⅡ（個人面接ワークと全体振り返り）													
27.人事採用担当者セミナー（採用担当者が見るポイント）					人事担当者の見るポイントを理解すること								
28.就活直前マナーチェック（映像で学ぶ就活NGマナー）					第一印象が与える影響を理解すること								
29.合同業界・企業研究セミナー（合説形式の業界・企業研究）					様々な企業の話を聴き、広い視野を養うこと								
30.内定者報告会（内定に至るプロセスの理解）					内定に至るプロセスを理解し実践すること								
履修上の注意													
継続して復習を行い、十分に内容を理解し実践できるようにすること													
また、夏期及び春期休暇期間中に実施する SPI 夏期集中セミナー・SPI WEB 模試や、直前総括セミナー、東京就活バスツアー等の課外セミナーにも積極的に参加し、実力向上を図ること													
質問や相談等がある場合は学生課窓口で随時受け付けているので利用すること													
成績評価方法・基準													
授業態度（60%）、課題提出（30%）、SPI 模試フィードバックの理解度（10%）													
教科書 授業の際に資料を配布する													
参考書 ① [10 年後、君に仕事はあるのか] [藤原和博] [ダイヤモンド社] [1,512 円]													
② [会社四季報業界地図 2019 年版] [東洋経済新報社] [1,296 円] ※平成 30 年 9 月上旬発売													
備考													
注2：第2回 SPI 模試の結果次第で授業内容変更の可能性有													

授業科目名		キャリアサポートⅡ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	大学教職員	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服・健・美４年					
授業概要														
グループディスカッションと小論文の体験型学習の実施し本試験突破力の養成と、学内における単独企業説明会を開催して業界と企業内容の理解を促進するとともに、一人ひとりの学生の価値観を尊重した個別指導、書類の添削や模擬面接等実際の就職活動で結果が得られるよう実践形式で教えていく。また、グループディスカッションの体験学習を通じて、異なる価値観・意見を持った多様な人々との間で合意に至るプロセスを学んでいく。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 現在の就職環境を正しく理解すること						○								
② グループディスカッション試験・小論文試験に対応する力を身に付けること						○								
③ 直接企業の話を聴き、企業を見る目を養うこと						○								
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.これかの就職活動（今年度の就活動向）						現在の就職環境を理解すること								
2.グループディスカッション体験Ⅰ（GDの目的・自由討論型GD体験）						グループディスカッション試験でよく出題される４パターンを体験し、実際の試験の場で対応する力を身に付けること								
3.グループディスカッション体験Ⅱ（ディベート型・企画型GD体験）														
4.グループディスカッション体験Ⅲ（課題解決型GD体験・振り返り）														
5.小論文対策Ⅰ（小論文の基礎知識・宿題）						小論文を実際を書くことで基本を身に付けること								
6.小論文対策Ⅱ（小論文を書いてみる・振り返り）														
7.学内単独企業説明会（企業名後日発表）						直接企業の人事担当者から、会社の業績・将来性・仕事の内容・教育制度・キャリアプラン・給与・福利厚生制度・選考方法等の話を聴き、企業を見る目を養うこと								
8.〃														
9.〃														
10.〃														
11.〃														
12.〃														
13.〃														
14.〃														
15.〃														
履修上の注意														
授業で学んだことを実際の就職活動で実践し、その結果をPDCAサイクルで検証して実力向上を図ること また、質問や相談、書類の添削及び模擬面接等がある場合は、随時学生課窓口で受け付けているので、十分に活用すること														
成績評価方法・基準														
授業態度（60%）、課題提出（40%）														
教科書 授業の際に資料を配布する														
参考書 なし														
備 考														

家 政 学 部 基 幹 科 目

2. 家政学部基幹科目

授業科目名		家政学原論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	八巻 美智子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美1年					
授業概要														
「家政学とは何か」について学ぶ。近代以降家政学がどのように扱われてきたか、また現在、私たちが抱えている生活の問題点について概説する。家政学部で各自が所属する学科で専攻科目を学びながら人間生活と生活に関わる家政学の独自性に気づきその根本について説明する。さらに、実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解するとともに、各自が自立しよりよく生きるための力を身につけることの重要性を理解させる。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
・家政学の独自性に気づき、その根本について理解する事。						○	○	○			○			
・実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解する。						○	○	○			○		○	
・自立しよりよく生きるための力を身につける。							○	○			○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス						日頃から生活の諸問題に対し自分の意見を持ち行動する事。								
2. 家政学とは						家政学とは何か理解し学ぶ大切さを実感すること。								
3. 家政学をなぜ学ぶのか						家政学をなぜ学ぶのかを理解し、重要性に気が付くこと。								
4. 家政学の特質、対象						家政学の対象の広さを知り、身近な学問と理解する事。								
5. 本学の歴史について						家政学の歴史について自分なりに調べる。								
6. 我が国の家政学史(1) 学制以前～						家政学の歴史について自分なりに調べて発表する。								
7. " (2) 昭和時代～						家政学の歴史について自分なりに調べて発表する。								
8. 諸外国の家政学について（ヨーロッパ）						プリントを見ながら復習すること。								
9. " (アメリカ)						プリントを見ながら復習し憶えてくること。								
10. ここまでのまとめ						プリントを見ながら復習し憶えてくること。								
11. 生活上の諸問題（家庭、衣生活）						講義で学んだことを生かしレポートする題目を決める。								
12. "（食生活）						レポート内容を決める。								
13. "（住生活環境、消費生活）						レポート内容について調べる。								
14. "（福祉、高齢化社会）						レポートをまとめる。								
15. まとめ 今後の家政学						レポートしたことを発表する。								
履修上の注意														
出席を重視。私語は厳禁。														
成績評価方法・基準														
テスト 40%、レポート・発表 30%、授業態度(提出物やその内容、教員の指示に対応しているか)30%														
テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合があります。														
教科書：プリント配布														
参考書：〔家政学原論〕〔朝倉書店〕〔3,132 円〕														
備考														
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名		家族関係学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	八巻 美智子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健・美1年				
授業概要													
「家族とは何か」について概説する。これまでの家族やその在り方、現在や今後の家族やその在り方について解説する。身近な存在である家族は特に成長過程において、大切な存在であることを理解させる。また、家族をめぐる諸問題やその背景にある社会の変化について、いろいろなデータも取り入れて講義する。そのデータを客観的に科学的に考察することで、さまざまな諸問題に対し自発的に解決できる能力を養うことの重要性を理解させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
さまざまな家族について理解する事。					○	○				○		○	
家族を取り巻く諸問題について理解を深める事。					○	○				○		○	
多様化した家族形態について問題点を見つけ改善していく能力を身に付ける事。					○	○				○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス					家族について考える								
2.家族とは、家族の種類と分類					家族の存在について考える								
3.自分と家族					行事と家族について考える								
4.家族の多様化（生活スタイル）					行事と家族について考える								
5.小テスト これまでのまとめ					小テストに向けて学修する								
6.結婚と家族					家族について自分なりの考えをまとめる								
7.家族関係と法律					家族関係と法律について理解を深める								
8.新しい生命の誕生と家族					生命の誕生と家族のかかわりについて理解を深める								
9.子どもの成長と家族					生命の誕生と家族のかかわりについて理解を深める								
10.様々な環境で育つ子ども					さまざまな環境の下で育つ子供について理解する								
11.高齢社会における家族					小テストに向けて学修する								
12.小テスト これまでのまとめ					小テストに向けて学修する								
13.家族のこれからの在り方					レポート課題に取り組む								
14.家族のこれからの在り方					レポート課題に取り組む								
15.まとめの講義					レポート課題について発表する準備を行う								
履修上の注意													
出席を重視。私語は厳禁。													
成績評価方法・基準													
授業参加状況（提出物、授業に積極的に参加しているかなど）20%、小テスト50%、レポート課題30% テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合があります。													
教科書： プリント配布													
参考書：講義時に指示する													
備 考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。 講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。													

授業科目名	家庭経営学（家庭経済学を含む。）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)						
担当者	前田 修也	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健・美1年					
授業概要														
家庭生活を取り巻く環境は大きく変化している。社会のあらゆる面における国際化、少子・高齢化、情報化などである。本講義では、このような変化に対応した家庭経営のあり方を、「家計」という視点から解説する。その中で、現代の日本経済が直面している諸問題を社会保障制度などの基礎知識を織り交ぜながら、国民経済の中の家庭経済の位置と役割や家庭経済の基礎である世帯の変化など家政学の基本的視点を講義する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
現代の日本経済が直面している諸問題を理解することができる						○	○							
社会保障制度などの基礎的知識を獲得することができる						○	○							
家政学の基本的視点を理解することができる						○	○							
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス：講義内容についての概要の説明						1回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
2.家庭経済とは何か①（家庭の経済活動）						2回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
3.家庭経済とは何か②（家庭経済の特質）						3回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
4.国民経済の中の家庭経済①（家庭経済と国民経済との関係）						4回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
5.国民経済の中の家庭経済②（国民経済における家庭経済の収支）						5回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
6.国民経済の中の家庭経済③（家庭経済の経済活動と国民経済）						6回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
7.家庭経済の基礎としての世帯①（世帯規模と世帯構造の変動）						7回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
8.家庭経済の基礎としての世帯②（核家族化）						8回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
9.家庭経済の基礎としての世帯③（少子高齢化）						9回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
10.収支と支出①（世帯の所得）						10回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
11.収支と支出②（世帯の消費構造）						11回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
12.収支と支出③（消費支出に影響を与える要因）						12回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
13.物価①（物価とは何か）						13回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
14.物価②（消費者物価指数の見方）						14回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
15.振り返り						振り返りの授業内容に関してノートを中心にまとめておく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）								
履修上の注意														
私語を慎み、授業への積極的な参加を望みます。														
成績評価方法・基準														
おおむね、振り返り（40%）、ノートの内容（30%）とレポートの内容（30%）で評価します。それぞれフィードバックを行います。														
教科書：開講時に提示します。														
参考書：毎回授業で提示します														
備 考：オフィスアワーに関しては、開講時に話します。														

生活美術学科専攻科目

3. 生活美術学科専攻科目

授業科目名		絵画基礎Ⅰ(映像メディア表現を含む)			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	森敏美・北折整・工藤稜	必・選	必	形態	実技	学期	前期	対象	美１年					
授業概要														
社会と美術との関連を、絵画及び映像メディアの制作により理解させる。さらに、制作に集中する行為を通して、自己管理能力や生涯にわたって美術を愛好する心を育む。														
絵画の制作では、石膏像・静物を対象としたデッサン、風景・人物(着衣)・静物を対象とした着彩を教授する。ここでは対象物を客観的に写生させることを念頭に、伝統的な表現技術および描画材料の基本的な使用方法を指導する。映像メディアの制作では、デジタル技術による絵画表現に関わる映像の制作を教授し、現代的な表現技術について指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・ 絵画の基礎的な表現方法・技術を身に付ける。					○									
・ 表現における自己の課題を発見することができる。									○					
・ 制作を通して表現することの意味を考えることができる。						○	○							
・ 集中して学修する態度を身に付ける。					○					○				
・ 美術に対する興味・愛好を深いものにすることができる。											○			
授業計画の内容(1～13 森・北折担当、14～15 工藤担当)					自習（事前・事後学修の内容）									
1.導入：科目・成績評価・画材等の説明／制作Ⅰ：課題の説明					課題に使用する画材の準備									
2.制作Ⅰ デッサン・石膏像：エスキース制作、構図の決定					課題の継続制作									
3. 〃 ：全体的な形体・明暗の把握					〃									
4. 〃 ：細部の描画、講評(形体・明暗等)					次回課題に使用する画材の準備									
5.制作Ⅱ 着彩・風景：課題の説明、エスキース制作、構図の決定					課題の継続制作									
6. 〃 ：明暗・色彩の把握、講評(形体・色彩等)					次回課題に使用する画材の準備									
7.制作Ⅲ 着彩・着衣人物：課題の説明、エスキース制作、構図の決定					課題の継続制作									
8. 〃 ：全体的な形体・明暗・色彩の把握					〃									
9. 〃 ：細部の描画、講評(比率、色彩等)					次回課題に使用する画材の準備									
10.制作Ⅳ 着彩・静物：課題の説明、エスキース制作、構図の決定					課題の継続制作									
11. 〃 ：全体的な形体・明暗・色彩の把握					〃									
12. 〃 ：調子・材質感の把握					〃									
13. 〃 ：細部の描画、講評(色彩、材質感等)														
14.制作Ⅴ 映像：映像表現の説明、テーマに沿った映像の収集					課題の継続制作									
15. 〃 ：映像の組み立て・完成、講評(精度、説得力等)														
履修上の注意														
・ モチーフ等は常時セットしてあるので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。														
・ 講評会時は自己の作品についてのコメントを発表する。														
成績評価方法・基準														
・ 課題(90%)と授業態度(10%)														
・ 課題については、授業中にフィードバックを行う。														
教科書：特に指定しない。														
参考書：随時参考となる画集・映像等を紹介する。														
備 考														
・ 都合により、モチーフを若干変更することがある。														
・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。														

授業科目名		絵画基礎Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	森 敏美・北折 整	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美１年					
授業概要														
社会と美術との関連について、絵画基礎Ⅰの受講を踏まえ、より専門的に美術表現としての絵画の有効性を理解させる。また、個人の技術上の課題を明確にした上で、持続的に制作する行為を通して、自己管理能力や生涯にわたって美術を愛好し美術活動に取り組む主体性を育む。														
石膏像・静物を対象としたデッサン、風景・人物(ヌード)・静物を対象とした着彩を教授する。ここでは対象物を丹念に観察し客観的且つ正確に写生させることを念頭に、伝統的な表現技術および描画材料の基本的な使用方法を指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・ 絵画の基礎的な表現方法・技術を身に付ける。					○									
・ 表現における自己の課題を解決する専門的な方法を理解することができる。							○							
・ 表現することの意義を社会との関わりにおいて理解することができる。									○					
・ 持続的に学修する態度を身に付ける。										○				
・ 美術に対する興味・愛好在自己実現に繋がり得ることを理解することができる。										○	○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
１．導入：科目・成績評価・画材等の説明／制作Ⅰ：課題の説明					課題に使用する画材の準備									
２．制作Ⅰデッサン・ヌード：エスキース制作、構図の決定					課題の継続制作									
３．〃：全体的な形体の把握					〃									
４．〃：描画					〃									
５．〃：細部の描画、講評(比率、ムーヴマン等)					次回課題に使用する画材の準備									
６．制作Ⅱデッサン・石膏像：課題の説明、エスキース制作、構図の決定					課題の継続制作									
７．〃：全体的な形体の把握					〃									
８．〃：全体的な明暗・空間の把握					〃									
９．〃：描画					〃									
１０．〃：細部の描画、講評(量感、空間等)					次回課題に使用する画材の準備									
１１．制作Ⅲデッサン・着彩・静物：課題の説明、エスキース制作、構図の決定					課題の継続制作									
１２．〃：全体的な形体の把握					〃									
１３．〃：全体的な明暗・色彩・空間の把握					〃									
１４．〃：描画					〃									
１５．〃：講評(絵画の造形性等)、科目の総括														
履修上の注意														
・モチーフ等は常時セットしてあるので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。														
・講評会時は自己の作品についてのコメントを発表する。														
成績評価方法・基準														
・課題(90%)と授業態度(10%)。														
・課題については、授業中にフィードバックを行う。														
教科書：特に指定しない。														
参考書：随時参考となる画集等を紹介する。														
備 考 ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。														
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。														

授業科目名		洋画Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	森 敏美・北折 整	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美２年					
授業概要														
制作Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ毎にデッサン(石膏・人物・静物)、着彩（静物・人物）、構想表現(イメージ表現等)の中から選択し、各自の目標に従って技術の深化と自己表現の拡張を目的とした制作を指導する。														
デッサンは基礎絵画Ⅰ、Ⅱで修得した基本的なデッサンの描き方を継承しつつ更に技術の修得を目指す。着彩は油彩、水彩を基本に応用力を高めさせる。構想表現は各自の世界観や構成力の表現技術を高めさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・基礎的なデッサン力を高められる。					○	○	○							
・着彩の専門的技術を向上する事ができる。					○	○	○							
・構想表現の考え方を身に付けることができる。					○	○	○		○	○				○
授業計画の内容														
1.導入・製作Ⅰ：【選択課題】科目・課題の説明、エスキース制作														
2.（北折・森）作品の全体感・完成予想の把握・本製作														
3. 描き込み														
4. 仕上げ、完成														
5.講評会Ⅰ：各自作品の説明、教員の講評														
6.製作Ⅱ【選択課題】課題の説明・エスキース制作														
7（北折・森）作品の全体感・完成予想の把握・本製作														
8. 描き込み														
9. 仕上げ、完成														
10.講評会Ⅱ：各自作品の説明、教員の講評														
11.制作Ⅲ【選択課題】														
12.（北折・森）作品の全体感・完成予想の把握・本製作														
13. 描き込み														
14. 仕上げ、完成														
15.講評会Ⅲ：各自作品の説明、教員の講評														
履修上の注意														
準備物は授業前に各自用意すること。														
成績評価方法・基準														
課題（制作）90％、平常点 10％(平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する)														
課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う。														
教科書 無し														
参考書 無し														
備 考														
空き時間を有効に利用し制作することを推奨する。オフィスアワーも活用すること。														

授業科目名		洋画Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)				
担当者	森 敏美・北折 整		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年				
授業概要														
制作Ⅰは人体(コスチュームかヌード)をテーマとし、制作Ⅱ、Ⅲは各自設定した課題を申告し、デッサン、着色等を選択する、目標に従って技術の深化と自己表現の拡張を目的とした制作を指導する。														
デッサンは 1 年次に修得した基本的デッサン力と洋画Ⅰで修得した応用デッサンの描き方を継承しつつ、更に高度な技術の修得を目指させる。着色は同じく今までに修得した油彩、水彩の技術を基本に応用力を高めさせる。構想表現は各自の世界観や構成力の表現技術を高めさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・洋画分野を主に専門的な表現技術が高められる					○		○							
・自己の表現力が向上できる					○		○		○					
・世界観や創造力の基盤を獲得できる							○		○					○
授業計画の内容														
1. 導入・制作Ⅰ：【自由制作・人体】科目・課題の説明、制作方針の申告、エスキース制作														
2.（北折・森） 作品の全体感・完成予想の把握・本制作														
3. 描き込み														
4. 仕上げ														
5. 講評会Ⅰ：各自作品の説明、教員の講評														
6. 制作Ⅱ：【自由制作・静物】課題の説明、制作方針の申告、エスキース制作														
7.（北折・森） 作品の全体感・完成予想の把握・本制作														
8. 描き込み														
9. 仕上げ、完成														
10. 講評会Ⅱ：各自作品の説明、教員の講評														
11. 制作Ⅲ：【作品の全体感・完成予想の把握・本制作自由制作・静物】														
12.（北折・森） 作品の全体感・完成予想の把握・本制作														
13. 描き込み														
14. 仕上げ、完成														
15. 講評会Ⅲ：各自作品の説明、教員の講評														
履修上の注意														
準備物は授業時間前に各自用意すること。出席率の悪い学生は放棄とみなす。														
成績評価方法・基準														
課題作品評価90％、平常点10％(平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する)														
教科書 資料配布														
参考書 特に無し														
備考 空き時間を活用し、各自のペースに合わせ制作することを推奨する。 オフィスアワーで技術的なことやテーマ設定に関して質問等することで授業に生かすこと。														

授業科目名		洋画Ⅲ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	北折 整		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年				
授業概要														
主体的に洋画表現を深めるために必要となる、専門的技術及び美的創造力を身に付けさせる。人物写生の他に、個人の内面的なテーマによる着彩等を課す。洋画における絵画空間を意識した上で、洋画Ⅰ・Ⅱで修得した技術を深化させた主題及びコンセプトの具現化を目指して指導する。また、テーマの明確化・醸成をはかるためにドローイングを複数制作させる。さらに、社会と自己の洋画表現との関係性について言葉による説明を求め、表現行為の意義を考察させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・洋画表現の理論を理解し、基礎的・専門的な表現方法・技術を身に付ける。					○									
・社会との関わりにおいて、美術表現の有効性を理解し、これに係る自己の課題を発見することができるようになる。							○		○		○			○
・表現を通して社会の中での自己実現について考えることができるようになる。									○				○	
・自己表現の精度、説得力を意識し、生涯にわたって美術活動を行う力・態度を身に付ける。										○	○			
授業計画の内容														
1. 授業の導入：科目・成績評価・画材等の説明／制作Ⅰ：課題の説明														
2. 制作Ⅰ：ドローイング(1、2)														
3. 〃 ：ドローイング(3、4)														
4. 〃 ：ドローイング(5、6)														
5. 〃 ：講評														
6. 制作Ⅱ：自由制作(制作の意図の決定、エスキース制作)														
7. 〃 ： 〃 （構図・色彩計画決定・描画）														
8. 〃 ： 〃 （描画）														
9. 〃 ： 〃 （描画／仕上げ）														
10. 〃 ：講評														
11. 制作Ⅲ：自由制作(制作の意図の決定、エスキース制作)														
12. 〃 ： 〃 （構図・色彩計画決定・描画）														
13. 〃 ： 〃 （描画）														
14. 〃 ： 〃 （描画／仕上げ）														
15. 制作Ⅲ：自由制作														
履修上の注意														
・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。														
・講評会時は自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。														
成績評価方法・基準														
・課題(90%)と授業態度(10%)。														
・課題については、授業中にフィードバックを行う。														
教科書：特に指定しない。														
参考書：随時参考となる画集等を紹介する。														
備 考														
・都合により、モチーフを若干変更することがある。														
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。														

授業科目名	洋画Ⅲ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	森 敏美		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美３年				
授業概要														
制作Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ毎にドローイング、着彩、構想表現(イメージ表現等)の中から選択し、各自の目標に従って技術の深化と自己表現の拡張を目的とした制作を指導する。(場合によってモデルを使用する事もある)														
ドローイングは1,2年次で修得した基礎デッサンの延長線上にもあるが、各自の表現や世界観を引き出す手法として技術の修得を目指すさせる。着彩は各自に適した技法と支持体との相性をも研究し高めさせる														
構想表現は各自の世界観や構成力の表現技術を更に高めさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・ドローイングの意義、理解度が高められる					○		○		○					
・着彩技術、下地等の必要性が向上					○		○		○					
・個々の表現の世界観やテーマが明確に出来る					○		○		○		○			○
授業計画の内容														
1.導入：科目の説明、授業方針														
2.制作Ⅰ：人体を用いた制作①、自由素材（ドローイング・油彩・水彩画等）														
3. 人体を用いた制作②														
4. 人体を用いた制作③														
5. 人体を用いた制作④ 講評会：相互鑑賞会														
6.製作Ⅱ：自由制作①各自のテーマ申告・エスキース・支持体制作等														
7. 自由制作②下地作り・構図・下描き														
8. 自由制作③本制作														
9. 自由制作④描きこみ														
10 自由制作⑤仕上げ 講評会Ⅱ：相互鑑賞														
11.制作Ⅲ：自由制作①各自のテーマ申告・エスキース・支持体制作等														
12. 自由制作②下地作り・構図・下描き														
13. 自由制作③本制作														
14. 自由制作④描き込み														
15. 自由制作⑤仕上げ 講評会Ⅲ：相互鑑賞														
履修上の注意														
授業の前に予め、必要な準備物を用意しておくこと。														
成績評価方法・基準														
課題（制作）90%、平常点 10%(平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する)														
課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う。														
教科書 特に無し														
参考書 特に無し														
備 考														
空き時間を有効に利用し制作することを推奨する。オフィスアワーも質問等で活用すること。														

授業科目名	日本画Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	及川 聡子		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美2年				
授業概要														
日本画の初歩的な知識・技法の習得を目的とさせる。日本画制作のトータルプロセスをひと通り体験して学びながら、その成果を1点の作品（10号サイズ以上）に仕上げて課題を提出させる。デッサン（写生・素描）からエスキース（作品の構想や構図などを練る下図）へと進み、最終的にタブロー（本画）完成に至るまで、プロセスごとに具体的な技術指導を行いつつ、履修者の進度に応じて概論的な知識の伝授も随時行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
素描力、描写力の向上できる。						○	○							
日本画特有の構図の研究により構成力を身に付けることができる。					○		○		○					
日本画画材の基礎知識、基礎技法を習得できる。					○	○	○		○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 導入 科目の説明					東洋、日本の絵画の鑑賞。									
2. 構想					モチーフやテーマの模索。									
3. デッサン					出来るだけ対象を観察し描写をする。									
4. デッサンからエスキース（小下図）作成					観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。									
5. 大下図の制作 開始					デッサンを常に見返しておくこと。									
6. 大下図の制作 仕上げ 水張り					仕上がりイメージし、構図とともに細部も確認する。									
7. タブロー（本画）制作 トレース 骨描き					骨描きのため線の引き方を練習する。									
8. タブロー（本画）制作 墨にて陰影を施す					墨のぼかしの練習をする。									
9. タブロー（本画）制作 墨での陰影仕上げ					墨の陰影の適確さと美しさの確認。									
10. タブロー（本画）制作 下塗り、下地作り					備品の技法書等で下地について下調べをしておく。									
11. タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での大まかな描き込み					備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べをしておく。									
12. タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での各部分の描き込み					出来るだけ制作を進める。膠の管理。									
13. タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での細部の描き込み					出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。									
14. タブロー（本画）制作 仕上げ					描き始めのイメージを思い起こし、現状をよく認識する。									
15. 講評					難しかった点、努力した点を言葉でまとめておく。									
履修上の注意														
丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。														
毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。														
成績評価方法・基準														
課題作品70％（完成度50％ 意図・発想20％）														
授業態度30％（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）														
講評会等でフィードバックを行う。														
教科書 無し														
参考書 無し														
備考														
授業日 12時半から 13時までをオフィスアワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。														

授業科目名		日本画Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	及川 聡子		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
日本画の基礎的な知識・技法の習得を目的とさせる。1 単位（総授業時間＋自習時間）を「制作1／制作2」と2 期に大別し、制作1 では、主にマチエール研究（墨・岩絵具・箔・胡粉・和紙などの伝統画材だけでなく、他分野の画材とのミクストメディア的な研究を含む）を行わせる。制作2 では、制作1 の研究で学んだ表現技術を活用して日本画制作を実習し、その成果を1 点の作品（10 号サイズ以上）に仕上げ、課題を提出させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
箔押しや盛り上げ等のマチエール技法の習得できる。							○		○				
アクリル絵具や版技法等、他の画材や技法との併用の体験できる。							○		○				
ドーサ引き（滲み止め）により、支持体への意識を高めることができる。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 導入 科目の説明					日本画Ⅰでの経験をふまえ日本画Ⅱで目指す抱負を言葉にしてまとめておく。								
2. 制作1：テストプレート ドーサ引き					ドーサが施されているかいないかでどう描写が違うのか、過去作品で確認する。								
3. 制作1：テストプレート 盛り上げ					自分の思うところまで盛り上げておく。								
4. 制作1：テストプレート 重ね塗り・たらし込み アクリルとの併用					思いついたことは実行しておく。								
5. 制作1：テストプレート 箔押し・絵具を焼く					箔が施された作品を鑑賞しておく。								
6. 制作2：デッサン・資料研究 テーマの探求					モチーフやテーマを事前に考えておく。								
7. 制作2：デッサン・資料研究 テーマの探究					モチーフやテーマについて調べておく。								
8. 制作2：エスキース（小下図）制作開始					観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。								
9. 制作2：エスキース（小下図）仕上げとトレース					念紙作りを済ませておく。								
10. 制作2：タブロー（本画）制作 墨での下描き、もしくは下地作り開始					備品の技法書等で下地について下調べをしておく。								
11. 制作2：タブロー（本画）制作 墨での下描き、もしくは下地作り仕上げ					備品の技法書等で水干と岩絵具について下調べをしておく。								
12. 制作2：タブロー（本画）制作 水干及び岩絵具での制作開始					出来るだけ制作を進める。膠の管理。								
13. 制作2：タブロー（本画）制作 水干及び岩絵具での制作描き込み					出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。								
14. 制作2：タブロー（本画）制作 水干及び岩絵具での制作仕上げ					描き始めのイメージを思い起こし、現状をよく認識する。								
15. 講評					難しかった点、努力した点をまとめておく。								
履修上の注意													
丹念に対象を観察すること。必要な知識、技法を積極的に習得すること。 毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。													
成績評価方法・基準													
課題作品70％（完成度50％ 意図・発想20％） 授業態度30％（出席数。創作意欲や、創作の自主性等） 講評会等でフィードバックを行う。													
教科書 無し													
参考書 無し													
備 考													
授業日 12 時半から 13 時までをオフィスパワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。													

授業科目名		日本画Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	及川 聡子		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年			
授業概要													
日本画の基礎的な知識・技法を踏まえた上で、より高度な美術表現を目指す授業。作品のテーマを意識し、その制作意図を鑑賞者への確に伝えるための思考法や技術を指導する。画材（墨・岩絵具など）や支持体（和紙など）の選定段階から個々のテーマに即して吟味させるなど、材料特性への意識を高め、その特性を効果的に活かした制作を行うことによって、表現の幅を広げさせる。その成果を20号以上の作品に仕上げ課題を提出させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
自己や社会と向き合い、制作のテーマを見いだすことができる。							○		○		○	○	
テーマの表現に必要な知識・技法を習得し、使いこなすことができる。							○		○				○
より良い表現を目指し、技法を工夫・開発する力をつけることができる。									○		○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 導入 科目の説明					日本画Ⅱでの経験をふまえ日本画Ⅲで目指す抱負を言葉にしてまとめておく。								
2. 構想					モチーフやテーマの模索。								
3. デッサン					出来るだけ対象を観察し描写をする。								
4. デッサンからエスキース（小下図）作成					観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。								
5. 大下図の制作 開始					デッサンを常に見返しておくこと。								
6. 大下図の制作 仕上げ 水張り					仕上がりをイメージし、構図とともに細部も確認する。								
7. タブロー（本画）制作 トレース 骨描き					骨描きのため線の引き方を練習する。								
8. タブロー（本画）制作 墨にて陰影を施す					墨のぼかしの練習をする。								
9. タブロー（本画）制作 墨での陰影仕上げ					墨の陰影の適確さと美しさの確認。								
10. タブロー（本画）制作 下塗り、下地作り					備品の技法書等で下地について下調べをしておく。								
11. タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での大まかな描き込み					備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べをしておく。								
12. タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での各部分の描き込み					出来るだけ制作を進める。膠の管理。								
13. タブロー（本画）制作 水干及び、岩絵具での細部の描き込み					出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。								
14. タブロー（本画）制作 仕上げ					描き始めのイメージを思い起こし、現状をよく認識する。								
15. 講評					難しかった点、努力した点をまとめておく。								
履修上の注意													
丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。													
毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。													
成績評価方法・基準													
課題作品70%（完成度50% 意図・発想20%）													
授業態度30%（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）													
講評会等でフィードバックを行う。													
教科書 無し													
参考書 無し													
備考													
授業日 12時半から 13時までをオフィスアワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。													

授業科目名		版画Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	大堀 恵子		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美2年				
授業概要														
版画は自身で下絵を描き製版・印刷をし、創作版画を制作することを通して、版画表現の深さに気付かせ鑑賞の能力を高めさせる。「シルクスクリーン」（孔版）は、製版方法の感光の原理を工夫し、版にあいた孔（あな）をインクが通過して紙に転写する技法であることを理解させる。「木版画」（凸版）は、板目木版の版の特性を生かし、彫刻刀によって表現される線の強弱が特徴の技法であることが理解させる。それぞれの技法を主体的に制作に取り入れ、多様な表現効果を生み出せるように指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
孔版、木版の基礎的な技法と工程を理解し身につけることができる					○		○							
孔版、木版の表現力（色と支持体の工夫）を身につけることができる									○					
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる						○			○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス・授業内容の説明					記録するための制作ノートを用意する									
2. シルクスクリーンについて（ビデオ・作品鑑賞）、色料(マゼンダ、シアン、イエロー) の三原色の実験					第2回作業内容をまとめ次回提出									
3. イメージ決定後、版下を作り製版。					第3回作業内容をまとめ次回提出									
4. 印刷工程の流れを経験する。					第4回作業内容と課題をまとめ次回提出									
5. 版を重ねてみる。					第5回作業内容と課題をまとめ次回提出									
6. 版を重ねる順番をかえてみる					第6回作業内容と課題をまとめ次回提出									
7. 印刷する紙の素材をかえてみる。					第7回作業内容と課題をまとめ次回提出									
8. 講評会					講評会の内容をまとめ記録し次回提出									
9. 木版画について（ビデオ・作品鑑賞）					第9回作業内容をまとめ次回提出									
10. 白黒の対比のエスキースを考え版にうつし彫版する。					第10回作業内容をまとめ次回提出									
11. 印刷工程の流れを経験する。					第11回作業内容と課題をまとめ次回提出									
12. 色（赤、青、黄）の三原色によるエスキースを考え、版にうつし彫版する。					第12回作業内容と課題をまとめ次回提出									
13. 版を重ねてみる。					第13回作業内容と課題をまとめ次回提出									
14. 版を重ねる順番をかえてみる。					第14回作業内容と課題をまとめ次回提出									
15. 講評会					講評会の内容をまとめること。半期の授業の感想を400字でまとめて、制作ノートといっしょに提出すること。									
履修上の注意														
作品の計画又は途中経過と版種別プロセスを記録する制作ノートを作成すること。														
成績評価方法・基準														
課題と作業内容のまとめは授業中にフィードバックをします。提出された感想は後日添削して返却する。 1 提出課題（50%） 2 制作ノート（30%） 3 平常点(取り組む姿勢、意欲 20%)														
教科書 授業前にプリントを配布する														
参考書〔版画ガイドブック〕〔町田国際版画美術館〕〔2,500 円〕														
備考														
ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。														

授業科目名		版画Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	大堀 恵子		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
版画は自身で下絵を描き製版・印刷をし、創作版画を制作することを通して、版画表現の深さに気付かせ鑑賞の能力を高めさせる。「リトグラフ」（平版）は、水と油の反発作用の原理を利用した効果的な表現を工夫し、化学処理により凹凸のない平らな面に、インクののる部分とのらない部分を作って転写して刷り取る技法であることを理解できる。「銅版画」（凹版）は、版面にできたみぞ（凹部）にインクをつめプレス機で紙に写し取る技法であることを理解できる。それぞれの技法を主体的に制作に取り入れ、多様な表現効果を生み出せるように指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
平板、銅版の基礎的な技法と工程を理解し身につけることができる							○						
平板、銅版の表現力（色と支持体の工夫）を身につけることができる									○				
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる										○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 授業内容の説明					記録するための制作ノートを用意する								
2. リトグラフについて（ビデオ・作品鑑賞）					第2回作業内容をまとめ次回提出								
3. 転写カーボン紙、紙の空刷り、版をつくる。					第3回作業内容をまとめ次回提出								
4. 版に描画					第4回作業内容をまとめ次回提出								
5. 製版工程					第5回作業内容をまとめ次回提出								
6. 印刷工程（主版）					第6回作業内容と課題をまとめ次回提出								
7. 制作 印刷工程（グラデーション）					第7回作業内容と課題をまとめ次回提出								
8. 講評会					講評会の内容をまとめ記録し次回提出								
9. 銅版（板紙凸凹版含む）について（ビデオ・作品鑑賞）					第9回作業内容をまとめ次回提出								
10. 版に描画					第10回作業内容をまとめ次回提出								
11. 製版工程					第11回作業内容をまとめ次回提出								
12. 印刷工程の流れを経験する					第12回作業内容と課題をまとめ次回提出								
13. 印刷する紙の素材をかえてみる					第13回作業内容と課題をまとめ次回提出								
14. 印刷する紙の色をかえてみる					第14回作業内容と課題をまとめ次回提出								
15. 講評会					講評会の内容をまとめること。半期の授業の感想を400字でまとめて、制作ノートといっしょに提出すること。								
履修上の注意													
作品の計画又は途中経過と版種別プロセスを記録する制作ノートを作成すること。													
成績評価方法・基準													
課題と作業内容のまとめは授業中にフィードバックをします。提出された感想は後日添削して返却する。 1 提出課題（50％） 2 制作ノート（30％） 3 平常点(取り組む姿勢、意欲 20％)													
教科書 授業前にプリントを配布する													
参考書【版画ガイドブック】〔町田国際版画美術館〕〔2,500 円〕													
備 考													
ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。													

授業科目名		版画Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	大堀 恵子		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年			
授業概要													
版画Ⅰ、Ⅱで経験した版種の基本的な制作工程をふまえて、「版」による多様な表現を試み、版の重要な基本的性質のひとつである複数性を利用し、協働して物事に取り組み受講生全員による版画集を制作させる。版画は直接筆や鉛筆を使って描いていく絵画と違い、版という間接的な素材と制作工程を経ることによって絵画表現とは異なった表現効果がある。これらの試行錯誤を自身の制作ノートの中に記録として残し、制作の充実がはかれるように指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
版の基礎的な技法と工程を理解し身につけることができる							○						
展覧会を見て、調べた情報を整理し制作に生かす技術を習得することができる									○				
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる										○	○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンスー授業内容の確認					記録するための制作ノートを用意する								
2. 制作Ⅰ テーマ・エスキース					第2回作業内容をまとめて次回提出								
3.Ⅰ 版制作・製版					第3回作業内容をまとめて次回提出								
4.Ⅰ 試刷り					第4回作業内容と課題をまとめて次回提出								
5.Ⅰ 本刷り					第5回作業内容と課題をまとめて次回提出								
6. 制作Ⅱ 版制作・製版					第6回作業内容をまとめて次回提出								
7.Ⅱ 試刷り					第7回作業内容と課題をまとめて次回提出								
8.Ⅱ 本刷り					第8回作業内容と課題をまとめて次回提出								
9. 制作Ⅲ 版制作・製版					第9回作業内容と課題をまとめて次回提出								
10.Ⅲ 試刷り					第10回作業内容と課題をまとめて次回提出								
11.Ⅲ 本刷り					第11回作業内容と課題をまとめて次回提出								
12. 版画集制作・表紙のデザイン検討・印刷					第12回作業内容をまとめて次回提出								
13. 版画集制作・中表紙のデザイン検討・印刷					第13回作業内容をまとめて次回提出								
14. 版画集にまとめる					第14回作業内容をまとめて次回提出								
15. 講評会					講評会の内容をまとめること。半期の授業の感想を400字でまとめて、制作ノートといっしょに提出すること。								
履修上の注意													
制作ノートにそれぞれの制作の試行錯誤をまとめて記録すること。													
成績評価方法・基準													
課題と作業内容のまとめは授業中にフィードバックをします。提出された感想は後日添削して返却する。 1 提出課題（50％） 2 制作ノート（30％） 3 平常点（取り組む姿勢、意欲 20％）													
教科書 授業前にプリントを配布する													
参考書 画集等を紹介する。													
備考													
ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。													

授業科目名		壁画Ⅰ			単位（授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	森 敏美		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美２年				
授業概要														
絵画のルーツ（美術・工芸・デザインの源）としての壁画を見直し、様々な壁画の技法を学ばせる。ここでは建築アートとしての壁画のうち、モザイクの技法を修得させる。モザイクの技法も様々あるが、実際の建築物或いは造形物に取り付けることを想定し、その取り付ける場所の環境、状況を把握する論理的思考力、創造的実践力と表現力を身につけ、美術を通して地域社会に貢献できる（生活と美の融合を実践し得る数少ない美術のジャンルの一つ）ものとして壁画を学ばせる。														
授業の目的(到達目標)					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・モザイクの歴史と技法を、制作を通して身に付ける事ができる。					○	○	○							
・建築アートがどのようなものか知ることが出来る。					○	○	○							
・地域社会と協働でプロジェクトを行う術を学べる。									○		○			
授業計画の内容					事前・事後学修の内容									
1.ガイダンス：画集で作品紹介。材料、用具等の説明。					予め関連画集等を、図書館等で調べる									
2.協働で行う実践例を紹介し、具体例を通し計画を立てる。					出来たら設置されている施設を見学									
3.下絵制作：模写をする為、画集から選考し下絵を作る。					図書館等で適当な画集を調べる									
4.材料研究：模写の材料を選択し、材料の加工に入る。					材料や下絵の準備を計画									
5.制作：パネル制作・材料加工準備。					時間内に間に合うように段取りする									
6.パネル周辺からモザイクをはり出す。					モザイク片の大きさに注意して貼る									
7.モチーフの中心部を手がける。					モザイクの流れを見直す									
8.モチーフを仕上げて行く。					時間をかけて丁寧に									
9.モチーフと周辺のバランスを見て行く。					ピースの大きさを揃える									
10.周辺部分とモチーフ絵柄の部分に合わせて行く。					モザイクの流れを見てゆく									
11.次第に完成に近づく。					足りない時間は、授業の合間に									
12.細部を仕上げて行く。					丁寧に仕上げ修正も行う									
13.全体のバランスを見て仕上げる。					時間外も有効に活用									
14.作品完成、片付け、材料整理。					不備な点は修正する									
15.講評会（作品に関するフィードバック）					各自、制作に関しての意見を述べる									
履修上の注意														
時間に遅れない事、授業内で足りない分は、空き時間も利用し完成させる。														
成績評価方法・基準														
課題制作 90%、平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）														
課題に関しては、毎回講評会を通じて学生と相互の作品に関するフィードバックを行う。														
教科書 資料配布(壁画制作の手引き)														
参考書 図書館、壁画工房所蔵のモザイク関係の図書														
備 考														
オフィスアワーの有効活用すること。														

授業科目名		壁画Ⅱ			単位（授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	森 敏美		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
絵画のルーツとしての壁画を見直し、美術・工芸・デザインに関連させる様々な壁画の技法を学ばせる。ここでは建築アートとしての壁画のうち、ステンドグラスの技法を修得させる。													
光の壁画としてステンドグラスは壁画の中に位置付けられるが、ここでは基本的なステンドグラスの技法を修得し、表現力と創造力の育成を図らせる。建築空間に美的感性を見出し、空間演出を実践し得る美術表現分野における高度な専門知識を身に付け、文化・自然・社会に関連付けて壁画を学ばせる。													
授業の目的(到達目標)					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・モザイクの歴史と技法を、制作を通して身に付ける事ができる。					○	○	○						
・建築アートがどのようなものか知ることが出来る。					○	○	○						
・地域社会と協働でプロジェクトを行う術を学べる。									○		○		
授業計画の内容					事前・事後学修の内容								
1. ガイダンス：図書館の画集や工房の資料を利用し説明。					予め関連画集等を、図書館等で調べる								
2. 下絵制作：模写をする為、画集等を見てコピーしトレースする。実際に取り付けられた実践例を示し参考にする					学内に設置されたステンドを予め見ておく								
3. 制作：型紙制作とガラスのカット練習。					怪我に注意し練習を繰り返す								
4. ガラスカット練習（型紙を使う）					正確に作れるように留意する								
5. 絵付け（ラインをひく）練習。					筆捌きの練習を繰り返す								
6. ぼかし絵付け 練習。					きれいにぼかせる様にする								
7. 本制作用作品カット・ガラス組み。					失敗したものは作り直す								
8. 本番絵付け（ライン入れ） 釜入れ。					デザインによって何回か行う								
9. 本番ぼかし絵付け 釜入れ。					ラインに沿うように絵付け								
10. シルバーステイン作業 釜入れ。					必要の無い人はしません								
11. ガラス調整。					大きさを正確に								
12. コパーテープ巻き。					中心を外さないように正確に巻く								
13. ハンダ付け。					火傷をしないように練習								
14. 仕上げ。					表面がきれいになる様に仕上げる								
15. 講評会（作品に関するフィードバック）					反省点等メモをする								
履修上の注意													
時間に遅れない事、授業内で足りない分は、空き時間も利用し制作を行なう。													
成績評価方法・基準													
課題制作 90%、 平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）													
課題に関しては、毎回講評会を通じて学生と相互の作品に関するフィードバックを行う。													
教科書 資料配布(壁画制作の手引き)													
参考書 図書館、壁画工房内のステンド関係の図書													
備 考													
わからない事はオフィスアワーを有効に利用すること													

授業科目名		壁画Ⅲ			単位（授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	森 敏美		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年			
授業概要													
建築アートとしての壁画(モザイク・ステンドグラス・フレスコ)の技法を活かし、実際の建築物或いは造形物に取り付けることを想定し、その取り付ける場所の環境、状況を把握する論理的思考力と創造力の育成、表現力を身につけ、地域の学校や施設に壁画の設置を想定し、エスキースやマケットを制作する。場合によっては地域の関係者とともに話し合い様々な問題点に柔軟に対応し、解決する事ができるコミュニケーション能力を身につける。													
授業の目的(到達目標)					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・壁画Ⅰ,Ⅱで学んだ各技法の応用力を高められる。					○		○						
・空間演出としての、壁画の認識を深めることが出来る。					○		○						
・地域との様々なコミュニケーション能力を高められる。									○	○	○	○	○
授業計画の内容					事前・事後学修の内容								
1. ガイダンス：個々で行う技法を選択し申告する					メモを取る								
2. 制作：エスキース・マケット・材料研究等					図書館等を利用し資料収集								
3. 実際に設置する場合と、応用制作の緒問題を検討する					必要と有れば設置希望現場を見ておく								
4. 本制作（パネル製作等）					予め使う材料等調べておく								
5. 材料準備					材料を精査する								
6. 作業1 制作に入る					制作にあたってメモ、ノートを作る								
7. 作業2 制作過程を確認					わからない所は聞くこと								
8. 作業3 全体像を把握する					計画を見直すことも								
9. 作業4 全体像の作りこみ					中間チェックに向けた準備								
10. 作業5 各部位の作りこみ 中間チェック					足りない時間は各自補う								
11. 作業6 各部位の確認					丁寧に見直す								
12. 作業7 詳細の作りこみに入る					必要が有れば時間外も制作する								
13. 作業8 詳細のバランス確認					引き続き、時間外も有効に活用する								
14. 作業9 仕上げ、完成					講評会に向けたチェック								
15. 作業10 講評会（作品に関するフィードバック）					反省点等メモをとる								
履修上の注意													
時間に遅れないこと。授業で補えないときは空き時間を利用し制作を行う。													
成績評価方法・基準													
課題（制作）90%、平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）													
課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う													
教科書 資料配布(壁画制作の手引き)													
参考書 図書館、壁画工房内の壁画関連の図書													
備 考													
オフィスアワーを有効に活用する													

授業科目名		彫刻基礎Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	佐藤 淳一		必・選	必	形態	実技	学期	前期	対象	美1年				
授業概要														
彫刻の導入部分である。教員の作品や制作活動を紹介し興味を喚起し、造形活動に主体的に取り組むための基礎的態度を身に付けさせる。彫刻的感覚を鍛えるために「触覚」を意識させるテーマでトレーニングする。彫刻の基礎的造形要素である、量感、塊、動勢、空間、表面を塑造により学ばせる。デッサンを重視し石膏像を使用し造形要素を意識させる。友人の頭部を制作し、心棒作りから石膏取りまでの作業を教授する。立体の意識を身に付けるために教材の面取りの像も参考にさせながら制作し、造形力と基礎的スキルを身に付けさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
彫刻の基礎的造形力を身につける					○									
身体感覚としての触覚を意識する					○	○			○					
作業を他と協働して行うことができる									○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、触覚トレーニング 1					シラバスを読む。課題提出									
2.触覚トレーニング 2、制作素材（粘土）説明と実技					「手」デッサン、課題提出									
3.石膏像のデッサン、粘土練り					自由課題デッサン、石膏デッサン									
4.制作 1（芯作り、荒付け 面）					自由課題デッサン、石膏デッサン									
5.制作 2（塊と動勢）					制作継続									
6.制作 3（全体と部分）					制作継続									
7.制作 4（細部、表面）					制作継続									
8.友人の頭部（モデル法、骨、荒付け、面、塊と量感）					頭蓋骨デッサン									
9.友人の頭部（動勢）					頭蓋骨デッサン									
10.友人の頭部（全体と部分、空間）					制作継続									
11.友人と頭部（細部、密度）					制作継続									
12.石膏取り（解説、型作り）					作業到達目標まで進める									
13.石膏取り（粘土抜き、型作り）					作業到達目標まで進める									
14.石膏取り（張り込み、割り出し）					作業到達目標まで進める									
15.講評会					制作のまとめ作成									
履修上の注意														
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も自習する事。作業の安全に留意して怪我をしないようにしてください。														
成績評価方法・基準														
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%）提出レポート 20%														
教科書 授業前に資料配布														
参考書 彫刻をつくる（美術出版社）、授業内で紹介														
備考														
1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。														

授業科目名		彫刻基礎Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)			
担当者	佐藤 淳一		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美1年			
授業概要													
軟石を使用して動物彫刻を制作させる。八木山動物園で実際の動物を観察しその生命力を具象的に表現させる。造形活動に主体的に取り組むための基礎的技術を身につけさせる。「触覚」を意識し素材の良さを引き出させる。彫造の基礎的造形要素である、量感、動勢、空間、表面を学ばせる。マケットを制作し塑像、石膏取りを行わせる。彫造の意識を身につけるために稜線をつなぐ面取りも参考にさせながら制作させる。身体を使い方と、彫造法による造形力の養成を行い、彫刻の基礎的スキルを教授する。主に大学内で自己作品の発表展示を行うことにより彫刻と空間の関係を学ばせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
彫造の基礎的造形技術を身につける					○		○			○			○
身体感覚としての素材感覚を意識する					○			○				○	
作業を他と協働して安全に行うことができる										○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、触覚トレーニング 1					シラバスを読む。課題提出								
2.触覚トレーニング 2、制作素材（安山岩）説明と実技					動物骨格研究、課題提出								
3.動物のデッサン、マケット制作					動物骨格研究、自由課題デッサン、								
4.マケット制作（芯作り、荒付け 面）					マケット完成まで進める								
5.荒彫り、（稜線をつなぐ面、触覚による彫刻法）					制作継続								
6.荒彫り（稜線をつなぐ面、動勢、全体と部分）					制作継続								
7.制作（谷彫、量感表現法）					制作継続								
8.制作（塊と量感）					制作継続								
9.制作（動勢表現法）					制作継続								
10.制作（全体と部分、空間）					制作継続								
11.制作（細部、密度）					制作継続								
12.制作（密度表現、設置場所検討Ⅰ）					作業到達目標まで進める								
13.制作（空間表現、設置場所検討Ⅱ）					作業到達目標まで進める								
14.制作（場と彫刻、設置場所検討Ⅲ）					作業到達目標まで進める								
15.講評会					自己作品ポスター制作、まとめ								
履修上の注意													
授業日と動物園開園日が合わないときは、各自でデッサンします。各種美術展の見学レポートの提出、時間外も自習する事。作業中は自分だけでなく、他の人も怪我をしないように十分に安全に配慮してください。													
成績評価方法・基準													
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%）提出レポート 20%													
教科書 授業前に資料配布													
参考書 彫刻をつくる（美術出版社）、授業内で紹介													
備考 1 回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。													

授業科目名		彫刻Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	佐藤 淳一		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美2年			
授業概要													
人体塑像の制作を行わせる。彫刻作家の作品等を紹介し興味を喚起し、造形活動に積極的に取り組む態度を身に着けさせる。人体からインスパイアされたイメージを「触覚」を意識させながら定着させる。人体彫刻の基礎的造形要素である、立つということ、量感、塊、動勢、空間、表面を塑造により学ばせる。デッサンを重視し造形要素を定着させる。心棒作りから塑造までの作業を教授する。人体から感得したイメージを抽象彫刻に展開する方法を教授し、造形力と自己イメージの彫刻的展開力を身につけさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
人体彫刻の基礎的造形を把握できる					○	○	○						
人体の抽象化について理解できる					○		○		○				
作業を他と協働して行うことができる									○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、触覚トレーニング 1					シラバスを読む。課題提出								
2.触覚トレーニング 2、人体の構造、説明と実技					「手」デッサン、課題提出								
3.人体のデッサン、粘土練り					自由課題デッサン、人体構造研究								
4.制作 1（芯作り、荒付け 面）					制作継続								
5.制作 2（塊と動勢）					制作継続								
6.制作 3（全体と部分）					制作継続								
7.制作 4（細部、表面）					制作継続								
8.講評					まとめ								
9.抽象彫刻について（人体からの抽象化）					作品研究								
10.抽象彫刻の制作 1（全体と部分、動勢、空間）					制作継続								
11.抽象彫刻の制作 2（細部、密度）					制作継続								
12.石膏取り（解説、型作り）					作業到達目標まで進める								
13.石膏取り（粘土抜き、型作り）					作業到達目標まで進める								
14.石膏取り（張り込み、割り出し）					作業到達目標まで進める								
15.講評会					制作のまとめ作成								
履修上の注意													
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も自習する事。作業の安全に留意すること。													
成績評価方法・基準													
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%） 提出レポート 20%													
教科書 授業前に資料配布													
参考書 彫刻をつくる（美術出版社）、授業内で紹介													
備 考 1 回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。													

授業科目名		彫刻Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)				
担当者	佐藤 淳一		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年				
授業概要														
石材、木材、金属、FRP 等を素材として取り上げ、造形思考を進化させる。主として抽象表現を取り上げて自己のイメージを独創的に作品として表現させる。教員の活動や様々なアートによる環境造形活動を紹介し興味を喚起し、場所との関連による造形活動に主体的に取り組むための基本的態度を身につけさせる。環境彫刻の要素である、場と空間を意識させる。野外アート展、各種公募展に出品させることにより自己の作品のオリジナリティを確認し、場や空間、環境とどのように自己の作品を調和させてゆくのか研究させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
様々な素材による基礎的造形力を身につける							○		○					○
場と空間を意識することができる							○				○	○		○
制作活動を他と協働して行うことができる									○		○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、					シラバスを読む。課題提出									
2.場と空間 説明と実技					アートプロジェクト作品集、課題提出									
3.学内の設置場所を想定					アイデアスケッチ									
4.素材選択作業					アイデアスケッチ									
5.制作1（デッサン、荒作り）					制作継続									
6.制作2（場と動勢）					制作継続									
7.制作3（場と量感）					制作継続									
8.制作4（場と空間）					制作継続									
9.制作5（密度）					制作継続									
10.制作6（全体と部分、空間）					制作継続									
11.制作7（細部、密度）					制作継続									
12.制作8（対候性）					制作継続									
13.制作9（安全性）					制作継続									
14.制作10（広報、設置準備）					作業到達目標まで進める									
15 野外アート展.設置					制作のまとめ作成									
履修上の注意														
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も自習する事。自分だけでなく他の人の作業の安全にも充分留意してください。														
成績評価方法・基準														
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%）提出レポート 20%														
教科書 授業前に資料配布														
参考書 彫刻をつくる（美術出版社）、授業内で紹介														
備考 1 回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。														

授業科目名		彫刻Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	佐藤 淳一		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年			
授業概要													
2年生までの基礎的造形思考、技術をさらに発展させて自己の造形思考を磨き、作品として完成させて公募展で発表し、野外アート展を企画しながら、彫刻の可能性を研究させる。場と空間を意識するために身体感覚を活用し彫刻的感覚を鍛える。野外彫刻の基礎的造形要素である、場と空間、量感、動勢、表面をマケットにより試行し研究させる。アイデアスケッチやデッサンを重視し創造力を鍛える。自己に合った素材を見出しその良さをどのように引き出せば良いか研究させる。アイデアから展覧会企画までの作業を教授する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
実材彫刻による造形を展開できる							○		○	○			○
場と空間に対して意識し彫刻を設置できる							○					○	○
作業や企画・実施を他と協働して行うことができる											○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、					シラバスを読む。課題提出								
2.作品研究（ブランクーシ、ミシュトロビッチ）					各作家作品集研究、課題提出								
3.作品研究（ジャコメッティ、イサムノグチ）					各作家作品集研究、デッサン								
4.素材研究（石材、木材、金属、その他）					素材研究継続								
5.テーマ研究（野外彫刻展、現代日本彫刻展）					彫刻論、造形論研究、彫刻展研究								
6.デッサン、マケット制作					制作継続								
7.制作1（素材荒作り）					制作継続								
8.制作2（面、塊と量感）					制作継続								
9.制作3（動勢）					制作継続								
10.制作4（全体と部分、空間）					制作継続								
11.制作5（細部、密度）					制作継続								
12.制作6（表面、密度）					作業到達目標まで進める								
13.制作7（地肌、密度）					作業到達目標まで進める								
14.制作8（作品と場）					作業到達目標まで進める								
15.野外彫刻展、講評会（プレゼン）					制作のまとめ作成								
履修上の注意													
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も自習する事。自分だけでなく他の人の作業の安全にも充分留意してください。													
成績評価方法・基準													
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%）提出レポート 20%													
教科書 授業前に資料配布													
参考書 彫刻をつくる（美術出版社）ジャコメッティ（みすず書房）													
備考 1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。													

授業科目名		工芸基礎（プロダクト制作を含む）Ⅰ・Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）			各 2(60)						
担当者	立花 布美子	必・選	I（必） II（選）	形態	実技	学期	I・前 II・後	対象	美 1 年					
授業概要														
工芸基礎Ⅰ・Ⅱでは、制作や鑑賞を通して現代の“やきもの”の文化、生活の関わりについて理解を深めるよう、基礎的知識であるやきものの歴史、陶土と磁土の違いについて教授し、また、土練りの特徴、手びねりにおける3つの基礎的な成形方法を経て、乾燥から本焼きまでの作業工程を習得できるよう指導する。同時に各技法により使用する道具、機械、窯（種類）の特徴について教授した上で、完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションができるよう、主体的に制作に取り組む力を身につけさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
やきものに関する基礎知識を身につけることができる。					○									
やきものに関する文化、生活での関わりについて理解を深めることができる。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス プロダクト制作とは 製陶法（歴史、陶土・磁土、釉薬、作業工程等）					配布プリントを熟読すること（特に作業工程）									
2. 土練り（荒練り、菊練り）、紐づくり練習					参考書、配布プリント参照、復習									
3. 【手びねり成形】①つまみ出し成形による飯碗制作					つまみ出し成形の特徴を復習									
4. ②つまみ出し成形による飯碗仕上げ					仕上げ作業の復習									
5. ③紐づくり成形によるマグカップ制作（切立・各自デザインの2種）					紐づくり成形の特徴を復習（切立とは）									
6. ④紐づくり成形によるマグカップ仕上げ（切立）					仕上げ作業の復習									
7. ⑤紐づくり成形によるマグカップ仕上げ（各自デザイン）					〃									
8. 【タタラ（板）成形】①板皿制作 粘土をスライスする					タタラ（板）成形の特徴を復習									
9. ②板皿制作 形のデザイン、（石膏による押し型成形も含）					押し型成形について予習									
10. ③陶箱制作 顔料の練込み・粘土をスライスする					練り込みについて予習									
11. ④陶箱制作 カット・組み立て、仕上げ					仕上げ作業の復習									
12. 釉掛け（飯碗・マグカップ） ＊釉薬の掛け分け					釉掛け作業の復習									
13. 釉掛け（板皿） ＊下絵付けによる装飾					下絵付けについて予習									
14. 釉掛け（陶箱） → 窯詰め（本焼き）					釉掛け作業の復習									
15. 窯出し 講評					まとめ									
履修上の注意														
工芸基礎科目であるため、欠席・遅刻の無いよう授業に臨むこと。 遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする														
成績評価方法・基準														
授業参加状況 50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品 50% 各課題について、講評会でフィードバックを行う。														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書〔基礎の陶芸1：器のつくりかた〕〔田中見依〕〔美術出版〕〔2,376 円〕 〔新技法シリーズ 102 陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3,024 円〕														
備考 質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ			単位 (総授業時間＋自習時間)			各 2(60)						
担当者	三浦 輝子		必・選	Ⅰ (必) Ⅱ (選)	形態	実技	学期	Ⅰ-前 Ⅱ-後	対象	美1年				
授業概要														
染織技法の基礎となる「染め」「織り」について実習を行う。織計画に基づく組織図の記入方法及び浸染による糸染めについて指導を行い、色系効果では平織の色系配列によるパターンの可能性に関する研究を行う。染め実習では染色器具・染料・助剤等の役割、織り実習では三原組織と織機の構造を理解し、染織分野における基礎的な工程を把握する。織設計では図案に基づき素材を選択、浸染実習による糸染めを行う。卓上機を用いた制作工程を通して、織機の構造を理解しながら、設計したデザイン案に沿って織り作品を制作できるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
染織実習を学習する上で必要な基礎知識を身につける。					○									
織物の基礎である平織の技術を身につける。					○		○							
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス染織の基礎知識について					染色に関する資料収集・制作ノート作成									
2. 織り実習：色系効果 平織りの組織図と色系配列について					織物に関する資料調査・制作ノートのまとめ									
3. 〃 織計画 デザイン					図案に関する研究調査・制作ノートのまとめ									
4. 〃 糸量の計算					素材に関する研究・制作ノートのまとめ									
5. 浸染実習：糸の総分け					浸染実習準備・制作ノートのまとめ									
6. 〃 精練					浸染実習準備・制作ノートのまとめ									
7. 〃 浸染 1色目					染色実習準備・制作ノートのまとめ									
8. 〃 浸染 2色目					染色実習準備・制作ノートのまとめ									
9. 〃 糸巻き 色見本帳制作					見本帳作成準備・制作ノートのまとめ									
10. 織り実習：整経					織機に関する調査・制作ノートのまとめ									
11. 〃 機上げ (卓上機)					織実習準備・制作ノートのまとめ									
12. 〃 織り作業① (下部)					織実習準備・制作ノートのまとめ									
13. 〃 織り作業② (上部)					織実習準備・制作ノートのまとめ									
14. 〃 仕上げ					講評会用備品準備・制作ノートのまとめ									
15. 講評会					講評会準備・制作ノートを完成させる									
履修上の注意														
染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。														
実習費として実費 (4,000 円程度) を徴収する。														
成績評価方法・基準														
提出課題 (80%)、授業態度 (20%) で評価します。														
作品課題については、授業中にフィードバックします。														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200 円〕														
備 考														
受講人数等の事情により、シラバスの修正 (授業計画等) が生じる場合があります。														
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付けます。														

授業科目名		工芸基礎（プロダクト制作を含む）Ⅰ・Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）			各 2(60)						
担当者	井上 直美		必・選	Ⅰ（必） Ⅱ（選）	形態	実技	学期	Ⅰ・前 Ⅱ・後	対象	美 1 年				
授業概要														
漆芸技法の中でも基礎といえる摺漆技法を通し、漆の特性と可能性を理解出来る様に指導する。摺漆はお椀 2 客に 10 回以上漆を抜き重ねる。さらに漆の特性と性質を理解する為に、後半にお椀の制作と並行して、塗り皿への加飾を指導する。塗り皿の表面へ金箔、銀箔を使った箔絵の加飾（箔の扱いも覚える事が出来る）と色漆を使った文様、柄などの色付、絵付をして、加飾の多様な表現が出来る力を身に付けれる様に指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
摺漆を理解し、お椀を完成出来る。					○		○							
箔絵を通し、箔の扱いが出来る様になる。					○		○							
漆の特性を活かし、漆絵を表現出来る様になる。					○		○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 講義・漆について。授業の説明・注意、作品の紹介、ビデオ鑑賞					配布したプリントを読んでもくる									
2.材料配布・木地調整・木地固め					プリントを基に素材について理解してくる									
3.目止め、塗り皿のデザイン考察					絵のデザインの資料を用意しておく									
4.目止め研ぎ、箔絵作業（金箔、銀箔を貼って絵や文様を見せる）					箔絵のデザインを考察しておく									
5.述べ摺り 漆 1：灯油 2 箔絵下書き 漆絵作業（既存の色漆を使って自由に絵を描く）					箔絵のデザインを完成させる									
6.述べ摺り 漆 1：灯油 1 箔絵マスキング 漆絵下書き					漆絵のデザインを考察しておく									
7.述べ摺り 漆 2：灯油 1 箔貼り 1 回目 マスキング					漆絵のデザインを完成させる									
8.述べ摺り 漆 3：灯油 1 箔貼り 2 回目 色漆塗り 1 色目					色漆の色を決めておく									
9.生摺り 1 回目 箔貼り 3 回目 色漆塗り 2 色目					色漆の残りの色を決めておく									
10.生摺り 2 回目 箔仕上げ 色漆塗り 3 色目					箔絵の足りない部分を完成させる									
11.生摺り 3 回目 摺り漆 色漆塗り 4 色目					色漆の色塗りを完成させる									
12.生摺り 4 回目 調整 仕上げ					摺りの足りない回数を終わらせる									
13.生摺り 5 回目 サイン サイン					サインを考察しておく									
14.生摺り 6 回目 サイン					足りない仕上げをしておく									
15.磨き・合評会					完成後の扱い方をまとめておく									
履修上の注意														
作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる。忘れ物をしない。														
成績評価方法・基準														
授業態度（50％）➡積極性、普段の姿勢、理解度など														
作品提出（50％）➡完成度、デザイン、センス、成長率														
講評会でフィードバックする。														
教科書 授業中に適宜資料を配布する。														
参考書 〔やさしく身に付くうるしのはなし 1〕〔日本漆工協会〕〔2,160 円〕														
備 考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。														

授業科目名		木工 I			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	落合 里麻		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美 2 年				
授業概要														
本授業では、木材を加工するための基礎的な技術習得から始め、2 つの課題に取り組ませる。課題 1 では、鋸、鑿、鉋等の手道具を使って木のネームタグを制作させる。課題 2 では、各自がトレイをデザインし、制作図を描いた上で鑿を使って制作させる。その過程で、道具の仕立て方や刃の研ぎ方を指導し、素材の特徴を活かした美しい仕上げにするためのポイント等について解説する。課題 1 と 2 では比重の異なる木材を用いることで、硬さや加工性の違いについて学ばせる。 s														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
手道具の基本的な使い方、仕立て方、刃の研ぎ方を習得できる。					○									
アイディアを展開する力や制作意図を伝える力を身につけられる。						○								
木の特徴を理解し、デザインに活かせる。					○									
「使う」ことを考慮したデザインと仕上げの塗装を行える。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス、手道具や木工機械についての安全指導					ガイダンス、安全指導の内容を復習する。									
2.〈課題 1〉内容説明、道具の調整と研ぎ方					デザインを考える。									
3. 〃 道具の調整と研ぎ方					道具の刃を研いでおく。									
4. 〃 デザインの確定、加工の練習					〃									
5. 〃 木取り、平面の加工					〃									
6. 〃 墨付け、穴の加工					〃									
7. 〃 仕上げ、塗装 〈課題 2〉内容説明					デザインを考える。									
8.〈課題 2〉デザインの確定					デザインの細部まで考え、決定する。									
9. 〃 制作図を描く					図面の描き方を参考書等で予習する。									
10. 〃 鑿の仕立てと調整					鑿の仕立てを終わらせておく。									
11. 〃 材料に形を転写、電動糸鋸盤で形を切り出す					制作を進める。道具の刃を研いでおく。									
12. 〃 全体の加工					〃									
13. 〃 全体の加工と細部の調整					〃									
14. 〃 仕上げの研磨					制作を進める。									
15. 〃 塗装、講評					〃									
履修上の注意														
・作業に適した服装で履修すること。														
・材料と手道具を各自で購入する必要があるため、その点を考慮して履修すること。														
・授業外に制作を進めておくこと。														
成績評価方法・基準														
課題作品 80%、授業態度 20%で評価する。講評会等でフィードバックを行う。														
教科書 特に定めない。														
参考書 〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔(株) ボーンデジタル〕〔2,700 円〕 〔木材工芸用語辞典（増補版）〕〔成田壽一郎〕〔理工学社〕〔2,808 円〕														
備 考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		木工Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	落合 里麻		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年				
授業概要														
本授業では、木工Ⅰで学んだ内容を基に2つの課題に取り組む。課題1では、手道具と木工機械を使い、差し物の基本となる箱を制作させる。課題2では、直方体の木材から、削り出しの技法によって植物をモチーフとした置物を制作させる。その過程で、様々な道具の使い方や治具の作り方を指導し、素材の特徴を活かした美しい仕上げにするためのポイント等について解説する。課題を通して、木材の性質とデザインの関係について学ばせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
手道具や木工機械の基本的な使い方を習得する。					○									
制作図や木取り図の作成を通して、計画的に作業を進める能力を身につける。							○							
木の特徴を理解し、その特徴を活かしたデザインを習得する。					○		○							
「使う」ことを考慮したデザインと仕上げの塗装を行う。					○									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. 〈課題1〉内容説明、手道具や木工機械についての説明					デザインを考える。									
2. 〃 アイディアスケッチ、加工の練習					〃									
3. 〃 デザインの確定					図面の描き方を参考書等で予習する。									
4. 〃 制作図、木取り図を描く					次回までに制作図を仕上げる。									
5. 〃 部材取り、墨付け、加工					道具の準備と調整を行う。									
6. 〃 墨付け、加工					道具の刃を研いでおく。									
7. 〃 墨付け、加工					〃									
8. 〃 墨付け、加工					〃									
9. 〃 仕上げの研磨					デザインを考える。									
10. 〈課題2〉アイディアスケッチ、制作図を描く					次回までに制作図を仕上げる。									
11. 〃 材料に形を転写、墨付け、加工					制作を進める。道具の刃を研いでおく。									
12. 〃 墨付け、加工					〃									
13. 〃 加工、細部の調整					〃									
14. 〃 仕上げの研磨					制作を進める。									
15. 〃 塗装、講評					〃									
履修上の注意														
・作業に適した服装で履修すること。														
・材料と手道具を各自で購入する必要があるため、その点を考慮して履修すること。														
・授業外に制作を進めておくこと。														
成績評価方法・基準														
課題作品 80%、授業態度 20%で評価する。講評会、課題提出時にフィードバックする。														
教科書 特に定めない。														
参考書 〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔(株) ボーンデジタル〕〔2,700円〕 〔木材工芸用語辞典（増補版）〕〔成田壽一郎〕〔理工学社〕〔2,808円〕														
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		木工Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	落合 里麻		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年				
授業概要														
本授業では、はじめに家具デザインの基本について学び、2つの課題に取り組ませる。課題1では、スツールをデザインし、制作させる。椅子やスツールに用いることのできる木材には、ある程度の硬さや粘りが必要とされること、目的や使い方によって適した樹種が異なることなどについて解説する。課題2では、インテリアとして使うことのできる木の実用品をデザインし、制作させる。各課題とも、デザインを決定する前段階で模型を制作し、計画的なデザイン展開と制作の進め方について指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ほぞ組みなど、木材の基本的な接合技術を習得できる。					○									
制作図や木取り図の作成、模型の制作を通して、計画的に作業を進める能力を身につけられる。										○				
木の特徴を理解し、見た目の美しさだけでなく日常生活での使用に耐える設計技術を習得できる。							○							
「使う」ことを考慮したデザインと仕上げの塗装を行えられる。														○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.〈課題1〉内容説明、手道具や木工機械についての説明					身の周りのスツールの寸法や構造等を調べる。									
2. 〃 アイディアスケッチ、模型の制作					デザインを考える。模型を複数制作する。									
3. 〃 模型の制作、デザインの確定					図面の描き方を参考書等で予習する。									
4. 〃 制作図、木取り図を描く					制作図を仕上げる。									
5. 〃 部材取り、墨付け、加工					道具の準備と調整を行う。									
6. 〃 墨付け、加工					道具の刃を研いでおく。									
7. 〃 墨付け、加工					〃									
8. 〃 墨付け、加工					〃									
9. 〃 仕上げの研磨					デザインを考える。									
10.〈課題2〉アイディアスケッチ、制作図を描く					制作図を仕上げる。									
11. 〃 部材取り、墨付け、加工					制作を進める。道具の刃を研いでおく。									
12. 〃 墨付け、加工					〃									
13. 〃 細部の調整					〃									
14. 〃 仕上げの研磨					制作を進める。									
15. 〃 塗装、講評					〃									
履修上の注意														
・作業に適した服装で履修すること。														
・材料と手道具を各自で購入する必要があるため、その点を考慮して履修すること。														
・授業外に制作を進めておくこと。														
成績評価方法・基準														
課題作品 80%、授業態度 20%で評価する。講評会等でフィードバックを行う。														
教科書 特に定めない。														
参考書 〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔(株) ボーンデジタル〕〔2,700円〕 〔木材工芸用語辞典（増補版）〕〔成田壽一郎〕〔理工学社〕〔2,808円〕														
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		陶芸Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	立花 布美子		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美2年				
授業概要														
工芸基礎で修得した知識や技法、作業工程などを含めた基礎的スキルを更に深める。石膏型による型おこし成形に取組み、より完成度の高い「製品」を意識した機能性且つ美的デザインに仕上げさせる。石膏の特徴や保存について、また、原型作りの注意点を説明する。各自施す装飾技法により進度が異なるため、作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけていくよう指導していく。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うことで発想の展開力を追求させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
石膏型による型おこし制作において基礎知識を含めた専門技術を身につけることができる。					○									
「型」を使用した制作についての意味を理解することができる。						○		○						
制作、プレゼンを通しての展開力、判断力を身につけることができる。									○		○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス 型おこし(押し型)成形とは 石膏について					型おこし(押し型)成形について予習									
2. デザイン ①原型づくり														
3. ②原型づくり 仕上げ														
4. ③原型づくり 仕上げ					石膏取りについて予習									
5. 石膏型づくり（凹型）					カリ石鹼について予習									
6. 石膏型づくり（凸型） カリ石鹼の理解														
7. 石膏型仕上げ ①型おこし														
8. ②型おこし後、随時バリ取り仕上げ					各自の計画表の見直し、修正									
9. ③型おこし後、随時バリ取り仕上げ														
10. バリ取り仕上げ														
11. ①仕上げ 各自装飾														
12. ②仕上げ 各自装飾														
13. ①各自装飾 釉掛け（掛け分けも可）														
14. ②各自装飾 釉掛け（掛け分けも可）														
15. 窯出し プレゼンテーション 講評					まとめ									
履修上の注意														
各自の計画表に沿って作業を進めること。 遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする。														
成績評価方法・基準														
授業参加状況 50％（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品 50％ 各課題について、講評会でフィードバックを行う。														
教科書 授業前にプリントを配布する														
参考書〔陶芸を学ぶ①〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7,344 円〕														
備 考														
作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		陶芸Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)				
担当者	立花 布美子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象		美2年				
授業概要														
工芸基礎で修得した知識や技法、作業工程を含めた基礎的スキルを更に深めさせる。組み物制作に取り組む事により同じ形・大きさに揃える観察力を高め、計画的に制作を行わせる。機能的且つ美的デザインによる加飾を施し、窯詰め作業、土練機の使用において、学生同士協働するためのコミュニケーションを図りながら、自他作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけるよう教授する。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うよう指導していく。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
組み物制作において基礎知識を含めた専門技術を身につける。								○						
電動ろくろ制作において基礎知識、技術を身につける。						○								
窯詰め作業を協働することで、コミュニケーション能力を高める。									○	○				
粘土、作品の保存管理において主体的に問題解決し、作業計画を立てるようになる。							○					○		
授業計画の内容								自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス 製陶法の復習 トンボ、化粧泥による加飾の説明								トンボ、化粧掛けについて予習						
2. どちらかを選択【A】電動ろくろ成形：菊練り練習 【B】手びねり成形：組み物デザイン														
3. 【A】練習1 菊練り、土殺し				【B】デザインに合わせたトンボの制作				各自の制作工程の予習						
4. 練習2 土殺し～土取り～バイ挽きまで				①-1 制作（つまみ出し or 紐づくり）										
5. 練習3 "				①-2 制作、削り仕上げ（化粧泥による加飾）										
6. ①-1 土殺し～水挽きまで				①-3 削り仕上げ（化粧泥による加飾）										
7. ①-2 削り仕上げ（化粧泥による加飾）				②-1 制作、削り仕上げ（化粧泥による加飾）										
8. ②-1 土殺し～水挽きまで				②-2 制作、削り仕上げ										
9. ②-2 削り仕上げ（化粧泥による加飾）				②-3 制作、削り仕上げ（化粧泥による加飾）										
10. ③-1 土殺し～水挽きまで				①②仕上げ（化粧泥による加飾）										
11. ③-2 削り仕上げ（化粧泥による加飾）				①②仕上げ（化粧泥による加飾）										
12. ④-1 土殺し～水挽きまで				釉掛け（透明釉）										
13. ④-2 削り仕上げ（化粧泥による加飾）				釉掛け（ワラ白釉）										
14. 釉掛け：透明釉（掛け分け可）														
15. 窯出し 講評								まとめ						
履修上の注意														
工芸基礎Ⅰ、Ⅱ（陶芸）のどちらかを履修していることが望ましい。 各自の計画表に沿って作業を進めること。 遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする。														
成績評価方法・基準														
授業参加状況 50％（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品 50％ 各課題について、講評会でフィードバックを行う。														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書 〔基礎の陶芸 2: 器の飾りかた〕〔田中見依〕〔美術出版〕〔2,376 円〕 〔新技法シリーズ 102 陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3,024 円〕														
備 考														
作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		陶芸Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	立花 布美子		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年			
授業概要													
陶芸Ⅰで修得した石膏型の技術を応用した「鑄込み成形」による制作に取り組む授業である。機能的且つ美的デザインであり、鑄込みに適した原型作りを指導する。石膏の扱い方の復習、泥漿作りから攪拌機の操作、泥漿の保存法を教授する。学生同士協働するためのコミュニケーションを図りながら効率良く制作ができるよう指導し、成形から焼成までの全体的な流れの中で問題を発見、解決する能力を身につけるよう教授する。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うことで発想の展開力を追求させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
鑄込み成形、泥漿について基礎知識を含めた専門技術を身につけることができる。					○	○	○						
「型」を使用した制作について理解できる。								○	○				
制作、プレゼンを通しての展開力、判断力を身につけることができる。										○		○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 石膏の扱い方復習 泥しょう鑄込みとは					泥しょう鑄込みについて予習								
2. 鑄込み成形①デザイン													
3. ②原型づくり													
4. ③石膏型づくり（凹型）													
5. ④石膏型づくり（凸型）					珪酸ソーダ（水ガラス）について予習								
6. ⑤泥しょうづくり（攪拌機、珪酸ソーダの扱い方）													
7. ⑥泥しょうづくり（泥しょうの保存法）					攪拌機の取り扱いについて予習								
8. ⑦鑄込み 型外し													
9. ⑧鑄込み 型外し バリ取り					各自の計画表の見直し、修正								
10. ⑨鑄込み 型外し バリ取り仕上げ													
11. ⑩鑄込み 型外し バリ取り仕上げ(ヤスリがけ)													
12. ⑪仕上げ（ヤスリがけ）													
13. 加飾 釉掛け（掛け分けも可）													
14. 加飾、釉掛け（掛け分けも可）													
15. 窯出し 講評					まとめ								
履修上の注意													
各自の計画表に沿って作業を進めること。													
遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする。													
成績評価方法・基準													
授業参加状況 50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品 50%													
各課題について、講評会でフィードバックを行う。													
教科書 授業前にプリントを配布する													
参考書〔陶芸を学ぶ①〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7,344 円〕													
備考													
作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。													
質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける。													

授業科目名		漆芸Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	井上 直美		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美２年			
授業概要													
木地の下地と塗りの基礎を学び、塗りの技術を身に付けるために、既存の木地・皿盆を利用して、漆芸の基本の１つである漆塗り（髹漆：きゅうしつ）の工程を指導する。木地は、径 27cm と径 30cm の皿盆 2 枚を用意し、木地の調整から固めをし、丈夫にする為に、下地を地の粉や研の粉研を用いた錆などで丁寧にすすめて行く。下地工程の後、黒中塗りと塗面の水研ぎを何回か繰り返し、塗りと砥ぎの工程を理解出来る様に指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
木地の調整と固めの仕組みを理解出来る					○	○	○						
下地工程を理解し、きちんと下地付けを完成出来る					○	○	○						
塗りと研ぎの技術を身に付けれる					○	○	○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業の説明・ビデオ鑑賞					ビデオの内容をまとめておく								
2.木地調整と木地固め					プリントを基に工程を復習								
3.蒨地 裏 1回目 （まきじ） 地の粉					地の粉について復習しておく								
4.蒨地 表 1回目					前回のムラがないか確認								
5.蒨地 裏 2回目					1 回目の蒨地との違いを覚える								
6.錆付 表 1回目 （さびつけ） 砥の粉					地の粉との違いを覚える								
7.錆付 裏 1回目					錆の特性をまとめる								
8.空研ぎ					ムラがないか確認								
9.錆付 表 2回目					1 回目の錆付との違いを覚える								
10.空研ぎ・固め・捨て塗り 表					空研ぎを 8 割してておく								
11.捨て塗り 裏					空研ぎを完成させておく								
12.水研ぎ					はみ出した部分を研いでおく								
13.下塗り 表					終わらない水研ぎを終了させる								
14.下塗り 裏					足りない塗りを重ねておく								
15.水研ぎ					水研ぎをすすめておく								
履修上の注意 作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる。（工芸基礎Ⅰ・Ⅱ（漆芸）を履修していなくても受講可）													
成績評価方法・基準													
授業態度（50％）⇒意欲、柔軟性、理解度など。													
作品進度（50％）⇒完成度、デザイン、センス、個性の表現。													
講評会でフィードバックする。													
教科書 授業中に適宜資料を配布する。													
参考書 〔やさしく身に付くうるしのはなし 2〕〔日本漆工協会〕〔2,160 円〕													
備考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。 工芸基礎で漆を選択していなくても履修可能です。													

授業科目名		漆芸Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)				
担当者	井上 直美		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年				
授業概要														
色漆を用いて絞漆、仕掛け漆を制作させ、変わり塗りの皿盆2枚（径27cm 30cm）の制作を指導する。 （前期に黒塗りをした盆皿に加飾を施す）変わり塗りの為の色漆を、顔料と木地呂漆を練り合わせ、作り、ゴミを除く為に和紙を使って漉させる。その色漆を使い、絞漆を作ったり、仕掛けの漆を調合し、色わり塗りの仕掛けを施して土台を作らせる。その後、希望の仕上げをする為に色を塗り重ね、終了したら丁寧に研ぎ出し、仕上げをして自在に色彩・柄などを楽しみ、表現出来る能力が身に付く様に指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
色漆を作れる様になり、色漆が出来上がる工程を理解することが出来る。					○		○							
変わり塗りの仕組みを理解し、自己表現出来る様になる。					○		○							
研ぎ出しや磨きの仕上げを出来る様になる。					○		○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.中塗 表 変わり塗りの説明と色漆の調合					黒塗りと研ぎを終わらせておく									
2.中塗 裏 漆の特性と絞漆のの作り方（しぼうるし）					色の組み合わせを考慮しておく									
3.水研ぎ・固め 変わり塗りの応用と下付方法					変わり塗りの仕方を考えておく									
4.裏・上塗り 絞漆で下付 1回目					カラーチャートや作品集を用意する									
5.種蒔き 絞漆で下付 2回目					実験希望者は手板を用意									
6.種を落とす・掃除 色漆 1色目					手板での実験 1回目									
7.色漆 1色目 色漆 2色目					手板での実験 2回目									
8.色漆 2色目 色漆 3色目					手板での実験 3回目									
9.研ぎ出し むり込み					下付を終了させておく									
10.述べ摺り 1回目 漆1：灯油 1					塗り込みを終了させておく									
11.述べ摺り 2回目 漆3：灯油 1					研ぎ出しを終了させておく									
12.生摺り					述べ摺りを追加する									
13.磨き・生摺り					摺りを追加する									
14.磨き・サイン・仕上げ					磨きを終了させておく									
15.まとめ・合評会					仕用上の注意をまとめる									
履修上の注意 作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる（工芸基礎Ⅰ・Ⅱ（漆芸）を履修していなくても受講可）														
成績評価方法・基準														
授業態度（50%） ➡授業に対する意欲、積極性、理解度など。														
作品進度（50%） ➡完成度、デザイン、センス、個性の表現														
講評会でフィードバックする。														
教科書 授業中に適宜資料を配布する。														
参考書 〔やさしく身に付くうるしのはなし2〕〔日本漆工協会〕〔2,160円〕														
備 考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。														

授業科目名		漆芸Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	井上 直美	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年				
授業概要													
漆芸の中でも高度とされる乾漆技法を学び、造形としても展開できる漆の特性と可能性を追求する能力を身に付け、漆芸における個性的なm、表現を楽しみながら展開出来る能力を身に付けれる様に指導する。前期は素地政策を中心に乾漆の作品を 2 点以上制作させる。制作する物を決め粘土で形を起こし、石膏で原型を制作させる。和紙や麻布、木綿などを用いて漆で厚みを付けていく。強度や使用目的に合わせて素地の材料や厚みを工夫しながら進めるように指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
乾漆の性質に合った原型を作れる様になる。					○		○			○		○	
布を貼り重ねていく工程を理解出来る。					○		○			○		○	
乾漆の技法を理解し、身に付けれる。					○		○			○		○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.乾漆の説明・ビデオ鑑賞イメージを図面におこす					作品のスケッチをしておく								
2.原型作り（器・オブジェなど自由）原型の細部調整					細部のデザインを決定しておく								
3.石膏型制作 石膏型の調整					粘土を完成させておく								
4.型に剥離剤を塗る 剥離剤の表面を整える					石膏の工程を終了させておく								
5.麻布を貼る 1 枚目					剥離材の研ぎを終了させておく								
6.空研ぎ・錆付け					のりを煮ておく								
7.麻布を貼る 2 枚目					研ぎを終了させておく								
8.空研ぎ・錆付け					のりを煮ておく								
9.麻布を貼る 3 枚目					研ぎを終了させておく								
10.空研ぎ・錆付け					のりを煮ておく								
11.麻布を貼る 4 枚目					研ぎを終了させておく								
12.空研ぎ・錆付け					錆付けを追加しておく								
13.空研ぎ・固め・黒中					研ぎと固めを終了させておく								
14.縁の始末・固め					縁の始末の追加								
15.黒中					色、模様などを考慮しておく								
履修上の注意													
作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる。（工芸基礎Ⅰ・Ⅱ（漆芸）を履修していなくても受講可）													
成績評価方法・基準													
授業態度（50％）⇒意欲、積極性、理解度など													
作品進度（50％）⇒完成度、デザイン、センス、個性の表現													
講評会でフィードバックする。													
教科書 授業中に、適宜資料を配布する。													
参考書 〔やさしく身に付くうるしのはなし3〕〔日本漆工協会〕〔2,160 円〕													
備 考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。													
工芸基礎、漆芸Ⅰ・Ⅱを選択していなくても履修可能です。													

授業科目名		染織Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	三浦 輝子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美2年					
授業概要														
絞り染め、蠟けつ染に関する技術の取得、伝統的な染色技法を用いた作品制作を行う。絞り染めでは、技法の調査・研究を行い、手ぬぐいを制作する。デザインの考案、技法の検討、染色等の工程を通し、染色技法の基礎的知識を教授する。ろうけつ染では、ソーピングワックスを使用した風呂敷制作を行い、防染素材、道具の使用方法について指導する。絞り、蠟の素材による表現効果の違いを理解し、素材研究について深く考察できる力を養う。作品制作を通し、染織に関する専門知識を身に付けることができる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
染め実習を学習する上で必要な知識を身につける。					○		○							
絞り染めの技術を身につける。						○	○							
蠟けつ染の技術を身につける。						○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス 授業概要 染色用具・染料・助剤について					染色に関する資料収集・制作ノート作成									
2. 絞り染め : 精錬 下図作成					下図に関する研究・制作ノートのまとめ									
3. // : 青花で下図を写す 青花に沿って縫う					下図に関する研究・制作ノートのまとめ									
4. // : 絞り					絞り技法の調査・制作ノートのまとめ									
5. // : 染料の計算 浸染					絞り技法の調査・制作ノートのまとめ									
6. // : 括りほどこき					制作に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
7. // : 仕上げ					制作に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
8. 蠟けつ染め: 精錬 下図作成					蠟けつ染に関する資料収集・制作ノート作成									
9. // : 下図原寸拡大					図案作成・制作ノートのまとめ									
10. // : 青花で下図を写す					制作準備・制作ノートのまとめ									
11. // : 蠟伏せ（表）					制作に関する材料準備・制作ノートのまとめ									
12. // : 蠟伏せ（裏）					制作に関する材料準備・制作ノートのまとめ									
13. // : 染料の計算 地染め					染料計算等の準備・制作ノートのまとめ									
14. // : 脱蠟 ソーピング 乾燥					講評会用備品準備・制作ノートのまとめ									
15. 講評会					講評会準備・制作ノートを完成させる									
履修上の注意														
染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。 実習費として実費（3,000 円程度）を徴収します。														
成績評価方法・基準														
提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。 作品課題については、授業中にフィードバックします。														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200 円〕														
備考														
受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。 質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名		染織Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	三浦 輝子		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
高機実習前の実習として、卓上機を使用した織実習を実施する。織機の構造、制作工程を理解し、組織図等の織計画を設計する。織設計を基に制作を行い、織物制作に関する一連の工程を理解できるよう教授する。ノッティングの技法を用い、タピストリー又は敷物を制作させる。必要に応じて、糸の精錬・天然染料を用いた染色実習等も実施する。織物の使用目的に応じた素材選択の研究を行い、染織に関する専門的な知識と高機制作に備えた基礎的スキルを習得できるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
織り実習を学習する上で必要な基礎知識を身につける。					○		○						
織の工程・卓上機の構造及び使用手順を身につける。					○		○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 授業概要 織機の構造・用具について					染織に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
2. ノッティング 下図作成 資料調査					下図に関する研究・制作ノートのまとめ								
3. 下図完成					下図に関する研究・制作ノートのまとめ								
4. 下図原寸拡大					素材研究・制作ノートのまとめ								
5. 素材の選定 糸量の計算					素材研究・制作ノートのまとめ								
6. 糸巻き 整経					素材研究・制作ノートのまとめ								
7. 整経					素材研究・制作ノートのまとめ								
8. 箆通し					素材研究・制作ノートのまとめ								
9. 綜統通し					素材研究・制作ノートのまとめ								
10. 織り①（下部）					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
11. 織り②（中央部）					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
12. 織り③（上部）					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
13. 織り④（仕上げ） //					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
14. 端糸の始末					講評会用備品準備・制作ノートのまとめ								
15. 講評会					講評会準備・制作ノートを完成させる								
履修上の注意													
染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。													
教材費として実費（2,000 円程度）を徴収します。													
教材費の他、作品に使用する糸は各自購入すること。													
成績評価方法・基準													
提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。													
作品課題については、授業中にフィードバックします。													
教科書 授業前にプリントを配布する。													
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200 円〕													
備考													
受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。													
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		染織Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	三浦 輝子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年					
授業概要														
染織Ⅰ、Ⅱの実習を踏まえ、高機を使用した格子タペストリーの織物制作を行う。各自の計画に基づき、糸の浸染実習を実施し、デザイン性を高めた作品制作ができるよう指導する。織機の構造、タイアップ方法、糸量の計算等について理解し、使用目的に応じた素材選択ができるよう教授する。多様な織機の種類、構造について理解を深め、自身に適した技法を探り、各自の設定するテーマに沿って作品展開できる創造的実践力を養うことができるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
織り実習を学習する上で必要な知識を身につける。					○									
織の工程・高機の構造及び使用手順を身につける。					○		○							
染色														
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス 授業概要					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
2. 織機の構造について 織物計画					下図に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
3. 下図に関する調査 下図作成					下図作成・制作ノートのまとめ									
4. 下図作成					下図作成・制作ノートのまとめ									
5. 原寸拡大					素材研究・制作ノートのまとめ									
6. 素材の選定 糸量の計算					素材研究・制作ノートのまとめ									
7. 糸巻き 整経					素材研究・制作ノートのまとめ									
8. 整経					材料準備・制作ノートのまとめ									
9. 箆通し					材料準備・制作ノートのまとめ									
10. 綜統通し					素材研究・制作ノートのまとめ									
11. 織り①（下部）					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
12. 織り②（中央部）					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
13. 織り③（上部）					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ									
14. 端糸の始末 仕上げ					講評会用備品準備・制作ノートのまとめ									
15. 講評会					講評会準備・制作ノートを完成させる									
履修上の注意														
染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。 作品に使用する糸は各自購入すること。														
成績評価方法・基準														
提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。 作品課題については、授業中にフィードバックします。														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200 円〕														
備 考														
受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。 質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名	デザイン基礎・平面Ⅰ（映像メディア表現を含む）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋30)					
担当者	三上 秀夫		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	美1年				
授業概要														
デザインの「導入」と「発展」を意識させる。単純な図形や形態による構成や制作をとおして基礎的なデザイン知識や基本的デザインスキルを身につけることを目的とさせる。デザインを文化・自然・社会と関連付けることで広くデザインの構成原理の理解を深め、今後の美術活動で基礎的な発想力として活用できることを目指させる。画面構成を中心とした印刷関連・映像他デザインのマルチメディア展開も見据えた最初の一步であることを認識させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
基礎的なデザインスキルを身につけることができる。					○		○							
創造力・表現力を身につけることができる。									○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）					次回の課題について情報を集める。									
2. レタリング 制作1 自分の名刺をつくる 課題説明					文字、特にフォントについて調べる									
3. レタリング 制作2 アイディアスケッチ 下描き					名刺について調べる。									
4. レタリング 制作3 制作 完成 講評					完成させ提出する。									
5. 平面構成 「アルファベット」 英単語を用いた構成を考える 課題説明					英単語を調べる。									
6. 平面構成 「アルファベット」 説明 アイディアスケッチ 下描き					彩色の道具について各自、確認しておく。									
7. 平面構成 「アルファベット」 下描き 色塗り					透明水彩、不透明水彩について調べる。									
8. 平面構成 「アルファベット」 色塗り 完成					色の塗り方、筆の扱いについて調べる。									
9. 平面構成 「アルファベット」 講評					完成させ提出する。									
10. 平面構成 「点による構成」（抽象） 幾何学構成 課題説明					テキスト（プリント問題）を完成する。									
11. 平面構成 「点による構成」（抽象） アイディアスケッチ 下描き 色塗り					課題の「条件」を再確認する。									
12. 平面構成 「点による構成」（抽象） 色塗り 完成					修正ややり直しをする。									
13. 平面構成 「点による構成」（抽象） 講評					完成させ提出する。									
14. 映像メディア表現 講義と演習（映像による解説） 課題「点を動かす」					各自制作を進める。									
15. 映像メディア表現 課題作品の発表					完成させ提出する。									
履修上の注意														
絵具は、不透明を使用する。他の用具、材料については授業でその都度指示する。														
成績評価方法・基準														
提出課題 40%（必ず提出すること）、授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。提出された課題は、講評会において受講者全員で内容を確認し、フィードバックとする。														
教科書 無し 授業時にプリントを配布する														
参考書 無し														
備 考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名		デザイン基礎・平面Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋30)				
担当者	三上 秀夫		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美1年				
授業概要														
デザインの「導入」と「発展」を意識した授業である。単純な図形や形態による構成や制作をとおして基礎的なデザイン知識や基本的デザインスキルを身につけることを目的とさせる。デザインを文化・知識・社会と関連付け、広くデザインにおける表現上のデザインセンスを養うことを目的とさせる。今後の美術活動で基礎的な発想力として活用できることを目指させる。画面構成と色彩構成を中心とした印刷関連・映像他デザインのマルチメディア展開を見据させる。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
基礎的なデザインスキルを身につけることができる。						○		○						
創造力・表現力を身につけることができる。										○				
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 平面構成 「点による構成」（具象）説明						次回の課題について画像を集める。								
2. 平面構成 「点による構成」（具象）制作1 写真の拡大コピー トレース 下描き						課題制作を進めておく。								
3. 平面構成 「点による構成」（具象）制作2 色塗り						課題制作を進めておく。								
4. 平面構成 「点による構成」（具象）講評						完成させ提出する。								
5. 平面構成 「点による構成」（音）説明 音を聴く						課題制作を進めておく。								
6. 平面構成 「点による構成」（音）制作1 アイディアスケッチ 下描き						課題制作を進めておく。								
7. 平面構成 「点による構成」（音）制作2 色塗り						課題制作を進めておく。								
8. 平面構成 「点による構成」（音）講評						完成させ提出する。								
9. 平面構成 「イメージ1」説明						資料収集する。								
10. 平面構成 「イメージ1」制作1 アイディアスケッチ 下描き						資料をまとめる。								
11. 平面構成 「イメージ1」制作2 色塗り						暖色、寒色について調べる。								
12. 平面構成 「イメージ1」講評						完成させ提出する。								
13. 平面構成 「イメージ2」説明 アイディアスケッチ 下描き						資料収集する。資料をまとめる。								
14. 平面構成 「イメージ2」制作 色塗り						各自制作を進める。								
15. 平面構成 「イメージ2」講評						完成させ提出する。								
履修上の注意														
絵具は、不透明絵具を使用する。他の用具、材料については授業でその都度指示する。														
成績評価方法・基準														
提出課題 40％（必ず提出すること）、授業態度（20％）、講評での発表の内容（40％）で評価する。提出された課題は、講評会において受講者全員で内容を確認することでフィードバックとする。														
教科書 無し 授業時にプリントを配布する														
参考書 無し														
備考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名	デザイン基礎・立体Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+30)					
担当者	落合 里麻		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	美１年				
授業概要														
本授業では、主に紙を用いた４つの課題に取り組みさせる。「折り」による課題では、平面状の紙から立体が生成する仕組みを通して、素材の特性による効果と造形表現の美しさ、可能性を見いだせるよう指導する。ポップアップの課題では、具象的な表現ではなく、造形的要素のみを用いた発想と表現に取り組ませる。正多面体の課題では、幾何形体の基本的な知識を教授し、今後の実材による制作の基礎を築かせる。各課題を通して、意図に沿った造形、問いに対する答えを探す試行錯誤、手を使った思考の訓練をさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
素材の特性を造形表現として活かす能力を身につけられる。					○									
形態を生みだし、定着させる発想を独創的にできる。							○							
作り出した形態に無駄がなく、丁寧に仕上げる技術を身につけられる。					○									
幾何形体についての基本的な内容を理解できる。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス					必要な道具を用意する。									
2.〈課題1〉平面から立体を生成する 1 / 直線による折り					課題を進める。									
3.														

授業科目名		デザイン基礎・立体Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+30)				
担当者	落合 里麻		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美1年				
授業概要														
本授業では、はじめの2 課題はスタイロフォームを使い、立方体から形を切り出すことで、美しい立体・空間を作ることに取り組ませる。この工程を通して、立体を再構成する効果と造形表現の可能性を見いだせるよう指導する。各課題を通して、意図に沿った造形、問いに対する答えを探索試行錯誤、手を使った思考の訓練を行わせる。また、後半は実材（木材）によるデザインの展開に取り組ませる。「使う」という目的と材料の特性を考慮した上でデザインを総合的に検討し、視覚的、触覚的に魅力のあるペーパーナイフを完成させられるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
素材の特性を造形表現として活かす能力を身につける。						○								
形態を生みだし、定着させる発想が独創的である。						○								
作り出した形態に無駄がなく、丁寧に仕上げる技術を身につける。							○							
実材を使い、「使う」という目的に見合ったデザインができる。														○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス					必要な道具を用意する。									
2.〈課題 1〉 分割による構成 / アイディアスケッチ、試作					課題を進める。									
3.〃 / 試作、本番材での制作					〃									
4.〃 / 本番材での制作、まとめ					〃									
5.〈課題 2〉 造形による印象の操作 / アイディアスケッチ、試作					〃									
6.〃 / 試作、本番材での制作					〃									
7.〃 / 本番材での制作、まとめ					〃									
8.〈課題 3〉 実材による展開 ・ ペーパーナイフ / アイディアスケッチ					デザインを決定する。									
9.〃 / デザイン決定					課題を進める。									
10.〃 / 材料への転写					〃									
11.〃 / 外形の切り出し					〃									
12.〃 / 切削加工					〃									
13.〃 / 切削加工					〃									
14.〃 / 仕上げ、塗装					〃									
15. 講評					授業を振り返り、ポイント等をノートに記録する。									
履修上の注意														
・カッター、定規、接着剤、紙やすり等は各自で用意すること。														
・材料と小刀を購入する必要がある。														
・授業外に制作を進めておくこと。														
成績評価方法														
・基準課題作品 80%、授業態度 20%で評価する。講評会等でフィードバックを行う。														
教科書 特に定めない。														
参考書 その都度、紹介する。														
備 考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		視覚デザイン I			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	三上 秀夫	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美2年					
授業概要														
グラフィックデザインにおける「表現力」とイメージの「伝達力」を身につけ活用できることを目標とさせる。イラストレーションをとおして、身の回り、地域の問題解決に向けた課題を設定しプロモーションも含めた企画を提案させる。創造力、思考力、コミュニケーション能力を養うことを目的とし、グループで検討を進め、中間と最後にプレゼンテーションを行わせる。調査等行いながら画材・素材・用具の研究とPC操作、ソフトを用いた両方面からのグラフィック制作を行わせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
基礎的な力を身につけることができる。					○	○								
専門的な力を身につけることができる。							○							
創造力、思考力、コミュニケーション能力を身につけることができる。									○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）					次回の課題について情報を集める。									
2. キャラクターデザイン 調べた情報の発表 テーマ設定					テーマに沿って情報を集め調べる									
3. キャラクターデザイン 情報収集					各自の役割に沿って調べる。									
4. キャラクターデザイン 色彩計画 プロモーション計画					完成させ提出する。									
5. キャラクターデザイン 発表 次の課題の説明					水張りに必要な用具を準備する。									
6. イラスト「自分を表現する1」 アイディアスケッチ コピー下描き 水張りパネルの説明と制作														
7. イラスト「自分を表現する1」 彩色					透明水彩、不透明水彩について調べる。									
8. イラスト「自分を表現する1」 講評 次の課題の説明					次の課題の準備、取材を進める。									
9. イラスト「自分を表現する2」 アイディアスケッチ					B3 ケント紙水張りを事前にする。									
10. イラスト「自分を表現する2」 彩色														
11. イラスト「自分を表現する2」 講評 次の課題の説明														
12. イラスト「新聞広告1」 アイディアスケッチ 制作					B3 ケント紙水張りを事前にする。									
13. イラスト「新聞広告1」 講評 次課題の説明 準備 取材					完成させ提出する。									
14. イラスト「新聞広告2」 アイディアスケッチ 制作					B3 ケント紙水張りを事前にする。									
15. イラスト「新聞広告2」 講評 次課題の説明 準備 取材					完成させ提出する。									
履修上の注意														
B3 パネル、ケント紙水張りを事前にしておくこと。絵具は不透明絵具を使用する。他、材料について授業で指示する。														
成績評価方法・基準														
提出課題 40%（必ず提出すること）、授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。提出された課題は、講評会において受講者全員で内容を確認する。（フィードバック）														
教科書 無し 授業時にプリントを配布する														
参考書 無し														
備考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付ける。														

授業科目名		視覚デザインⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	三上 秀夫	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年					
授業概要														
グラフィックデザインにおけるイラストならではの「表現力」と、イメージ「伝達力」といった特徴と魅力を再確認させる。イラストでよりよい説明・伝達が行えることを目的とさせる。具体的な表現媒体を意識した課題を設定し、各自の特徴や個性を盛り込んだ表現力を重視させる。創造力、思考力、コミュニケーション能力を養うことを目的とし、表現は手描き、グラフィックソフト等を用い、プレゼンテーションは、紙芝居形式から視聴覚器機を使ったものまで幅を持たせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
基礎的な力を身につけることができる。					○									
専門的な力を身につけることができる。							○							
創造力、思考力、コミュニケーション能力を身につけることができる。									○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）					次回の課題について情報を集める。									
2. 絵本制作 テーマ設定														
3. 絵本制作 情報収集														
4. 絵本制作 計画、スケジュール確認														
5. 絵本制作 素材、材料の確認 アイディアスケッチ 下描き														
6. 絵本制作 ストーリー確認														
7. 絵本制作 中間発表（進捗状況確認）														
8. 絵本制作 中間発表での意見や感想を制作に生かす。														
9. 絵本制作 完成														
10. 絵本制作 発表 次課題の説明 準備物の確認					作品写真等の準備をする。									
11. ポートフォリオ制作 課題説明 作例紹介														
12. ポートフォリオ制作 資料確認														
13. ポートフォリオ制作 資料の加工 整理														
14. ポートフォリオ制作 ファイリング 製本														
15. ポートフォリオ制作 提出 講評					完成させ提出する。									
履修上の注意														
用具、材料については授業でその都度指示する。														
成績評価方法・基準														
提出課題 40％（必ず提出すること）、授業態度（20％）、講評での発表の内容（40％）で評価する。提出された課題は、講評会において受講者全員で内容を確認する。（フィードバック）														
教科書 無し 授業時にプリントを配布する														
参考書 無し														
備 考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日時は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名		視覚デザインⅢ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	三上 秀夫		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年				
授業概要														
グラフィックデザインという位置付けで幾何学構成を体験させる。作例を研究し、表現方法、制作方法について考えさせる。また、その構造や仕組みについて掘り下げ、具体的な材料・素材を用いた表現を行う実践的な授業であり、構成における比率や数、配色における数量的な割合に注目した構成と色彩による理論的思考力、創造力、表現力を養わせる。材料や道具の具体的な使い方を経験することで高い制作技術を身につけさせる。その技術や経験を卒業制作に結びつけるようにさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
構成と色彩による理論的思考力、創造力、表現力を身につけることができる。							○		○					
自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につけることができる。										○	○	○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）					次回の課題について情報を集める。									
2. テーマ「抽象」 制作1 課題説明 機材、用具、材料の説明					材料の購入を事前に行う。									
3. テーマ「抽象」 制作2 アイディアの検討 ラフスケッチ 計画 下描き														
4. テーマ「抽象」 制作3 作業 機材、道具、材料の確認														
5. テーマ「抽象」 制作4 作業 進行具合の確認														
6. テーマ「抽象」 制作5 細部の修正														
7. テーマ「抽象」 制作6 仕上げ 完成														
8. 講評・まとめ					加筆、修正を行う。									
9. テーマ「イラスト」 制作1 課題説明 用具、材料の説明														
10. テーマ「イラスト」 制作2 アイディア ラフスケッチ 計画 下描き					作品写真等の準備をする。									
11. テーマ「イラスト」 制作3 作業 機材、道具、材料の確認														
12. テーマ「イラスト」 制作4 作業 進行具合の確認														
13. テーマ「イラスト」 制作5 細部の修正														
14. テーマ「イラスト」 制作6 細部の確認 完成														
15. 講評・まとめ					完成させ提出する。									
履修上の注意														
用具、材料については授業でその都度指示する。														
成績評価方法・基準														
提出課題 40%（必ず提出すること）、授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。提出された課題は、講評会において受講者全員で内容を確認する。（フィードバック）														
教科書 無し 授業時にプリントを配布する														
参考書 無し														
備考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日時は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名	情報デザイン I				単位（総授業時間＋自習時間）				2(90＋30)					
担当者	鶴巻 史子		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美 2 年				
授業概要														
情報デザイン I では、情報デザインの基礎となる知識・技法・スキルを学び、基礎的な表現力と発想力を身につけさせる。情報デザインの様々な事例を参照しながらデザインへの理解を促すと共に、その概念を把握させる。複雑な内容やイメージしづらいモノゴトの仕組みを整理し、視覚的表現によってわかりやすく伝えるための表現力とデザインセンスについて、コンピュータとグラフィックソフトを用いた演習を通して指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
情報デザインの基礎となる知識・技法・スキルを学べる。					○				○					
情報をヴィジュアル化し視覚的表現ができる。							○		○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス					情報デザインの調査、制作プロセスまとめ									
2. 情報デザインの事例					情報デザインの調査、制作プロセスまとめ									
3. 課題 1 情報グラフィックデザイン演習 テーマ設定					作品テーマの調査、制作プロセスまとめ									
4. アイデアスケッチ					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
5. ヴィジュアル化					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
6. デザイン検討					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
7. プレゼン、リフレクション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ									
8. インフォグラフィックスの事例					情報デザインの調査、制作プロセスまとめ									
9. 課題 2 インフォグラフィックス演習 情報収集					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
10. 情報整理 テーマ設定					作品テーマの調査、制作プロセスまとめ									
11. アイデアスケッチ					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
12. ヴィジュアル化					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
13. デザイン検討					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
14. 仕上げ、プレゼン準備					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
15. プレゼン、リフレクション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ									
履修上の注意														
情報設計概論 I ・ II を履修していること。毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。制作データは USB メモリ等に保存し持参する。材料費（500 円程度）を徴収する。														
成績評価方法・基準														
課題制作 70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 30% 作品課題については、授業中にフィードバックする。														
教科書 適宜指示する														
参考書 プリントを配布する、適宜指示する														
備 考														
機器に限りがあるため定員を定める場合がある。なお、受講人数等の状況によりシラバスの内容を変更することがある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名		情報デザインⅡ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(90＋30)			
担当者	鶴巻 史子		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
情報デザインⅡでは、情報デザインの専門的な知識・技法・スキルを学ばせる。生活の中や身の回りにある情報をリサーチし、その中から課題を見つけ、問題を解決する力を身につけさせる。情報の収集・分析・選別・再構築というプロセスを通して、ユーザーが直感的に理解できる視覚的表現（静止画、動画）について、コンピューターとグラフィックソフトを用いたムービーインフォグラフィックスに関する演習を行い、高度な表現と技法を習得できるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
情報デザインの課題を見つけ問題を解決できる					○				○				
ユーザーが直感的に理解できる視覚表現ができる							○		○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス					情報デザインの調査、制作プロセスまとめ								
2.情報コンテンツデザインの事例					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
3.課題1 コンテンツデザイン演習 情報収集					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
4. アイデアスケッチ					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
5. ヴィジュアル化					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
6. デザイン検討					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
7. プレゼン、リフレクション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
8.プロジェクションマッピングの事例					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
9.課題2 プロジェクションマッピング演習 情報収集					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
10. 情報整理 テーマ設定					作品テーマの調査、制作プロセスまとめ								
11. アイデアスケッチ					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
12. ヴィジュアル化					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
13. デザイン検討					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
14. 仕上げ					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
15. プレゼン、リフレクション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
履修上の注意													
情報デザインⅠを履修していること。毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。制作データはUSBメモリ等に保存し持参する。材料費（500円程度）を徴収する。													
成績評価方法・基準													
課題制作 70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 30% 作品課題については、授業中にフィードバックする。													
教科書 適宜指示する													
参考書 プリントを配布する、適宜指示する													
備考 機器に限りがあるため定員を定める場合がある。なお、受講人数等の状況によりシラバスの内容を変更することがある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		インテリアデザインⅠ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+15)				
担当者	湯目 俊彦		必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美2年			
授業概要													
インテリアを生活空間としてとらえ、日本の生活空間の生い立ちと西洋の生活空間との違いをとらえ、かつ比較しながら検証させる。インテリアを構成するスペースエレメント（空間部位）、フィックスエレメント（固定部位）、ファニッシングエレメント（可動部位）等、様々なインテリアエレメントの知識と生活空間の構成する目的を習得させ、今後のマーケットの必要なエレメントの解説し、日本の過去の生活文化と現代の生活空間の今後のあり方、生活者への提案の仕方の理解を深めさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本と西洋の生活空間の生い立ちと生活文化を理解できる。					○	○	○						
生活空間を構成するエレメントの知識を習得出来る。					○	○	○						
今後の日本の生活空間とエレメントのあり方を考えられる。					○		○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.インテリアデザイン概論					講義内容を資料に基づいて復習する								
2.西洋と日本の生活空間の歴史（古代から中世）					講義内容を資料に基づいて復習する								
3.西洋と日本の生活空間の歴史（近代から現代）					講義内容を資料に基づいて復習する								
4.建築を含めたスペースエレメント					建築の基礎の重点視した内容を把握								
5.窓・建具、床材の知識					床材の種類の重点視した内容を把握								
6.設備機器の知識					SK のパーツを確認する、								
7.内装仕上げ材の歴史と種類					内装仕上げ材の種類を把握する								
8.内装仕上げ材の知識					内装仕上げ材の用途機能を復習する								
9.カーペット、絨毯の歴史と知識					カーペットの素材、機能を復習する								
10.ウィンドカバーリングの歴史と知識					窓飾りのスタイルを復習する								
11.照明の基礎と知識					事前に照明の知識を把握する								
12.インテリアアクセサリーとカラーコーディネート					色彩心理学を事前に把握してくる								
13.西洋と日本の家具の歴史					講義内の重点視した内容をマーク								
14.家具の種類と材料・構造の知識					事前に家具のカタログ等を見ておく								
15.前期授業のまとめ					再度の重要ポイントを復習すること								
履修上の注意													
配布した資料を見ておくこと。欠席した場合は必ず資料を入手すること。													
成績評価方法・基準													
最終授業での前期講義内容の考査（50％）授業態度（30％）意欲(20％)													
考査結果をフィードバックする													
教科書 無し授業時にプリント配布													
参考書 無し授業時にプリント配布													
備 考 授業終了またはオフィスアワー時に質問を受け付ける。6～12 まで DVD 使用													

授業科目名	インテリアデザインⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+15)					
担当者	湯目 俊彦		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
TV ボードを自分でデザインさせ、製図前期で履修した内容をふまえて三面図を描き、それをもとにパネル図を描き、それぞれのパネルを制作し組み立てさせる。実際の商品をモデリングすることにより、構造や仕上がりをチェックし体験させる。又自分でデザインした TV ボードのスタイル、カラーイメージを基に、与えられた室内空間を指定したエレメントを、自分のイメージで選定し、コーディネートをプランニングすることにより、プレゼンテーションボードを作成させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
自分で TV ボードをデザイン出来るようになる。					○		○					○	○
自分でデザインしたモデルを作成出来るようになる。					○		○					○	○
プレゼンテーションボードを作成出来るようになる。					○		○					○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.家具のデザインの基礎知識と作図の知識					課題の TV ボードのカタログを用意								
2.TV ボードのデザインの作図（ラフスケッチ）					TV ボードに合わせたサイズを決める								
3.TV ボードの三面図作成、表面材の選定					ラフスケッチを基に図面化の準備								
4.三面図に基づいたパネル図作成					各パネルのチェックを行う								
5.デザインした AV ボードのモデル模型制作(パネル制作)					パネルに合せたスチレンボード用意								
6.デザインした AV ボードのモデル模型制作(部品製作)					スチレンボードにサイズを記入								
7.デザインした AV ボードのモデル模型制作（シート貼り）					パネルを事前に仮組みしてみる								
8.デザインした AV ボードのモデル模型制作（組み立て）					シートを張り終えておく								
9.デザインした AV ボードのモデル模型制作(仕上げ)					ディテールを再確認しておく								
10.デザインされたモデルを組み入れたインテリアの提案					イメージに合った資料を持参する								
11.プランニングの為のフィックスエレメント選定					イメージに合せた素材を選択する								
12.プランニングの為のファニッシングエレメント選定					イメージに合せた素材を選択する								
13.プランニング平面図作成					配布した図面にレイアウト準備								
14.プランニングボード貼付け作成					エレメントの配置を考えておく								
15.プランニングコンセプト作成					コンセプトを事前に考えておく								
履修上の注意													
シートは支給するが期日を厳守する。各自カッター、紙ヤスリ、接着剤等を用意する。													
成績評価方法・基準													
課題の三面図、モデル、プランニングボードの期限内提出(10%)、それぞれの仕上がり、コンセプト（40%）													
授業態度(遅刻・居眠り）（30%）意欲(20%)													
提出された課題に対してフィードバックする。													
教科書 なし													
参考書 なし													
備 考													
授業終了時またはオフィスアワーに質問を受け付ける。													
各自カッターでのカット作業等でけがをしないよう気をつけること。													

.授業科目名		生活美術概論 I			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	今林 直樹		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美2年				
授業概要														
日本や世界には数多くの「生活美術品」があり、本講義では、こうした生活の中にある「生活美術品」について紹介する。具体的には、「ガラス工芸品」「陶磁器」「服飾」を取り上げ、これら「生活美術品」がどのような歴史的、社会的背景を持ち、どのように形成されて来たのかを説明する。あわせて、日本と世界の生活美術品の比較を通して、生活美術の多様性について説明する。「生活」と「美術」を一体として取り上げる視点を堅持して説明していく。														
授業時に課題を課し、授業内容に関する感想や考察を書かせ、翌週の授業で解説する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
生活美術について理解できる。					○	○	○							
生活美術の歴史的、社会的背景について理解できる。					○	○	○							
今後の生活美術の課題について考察できるようになる。						○	○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.生活美術とは何か					生活美術について調べる									
2.ガラス工芸の歴史(1) 古代					古代のガラス工芸について調べる									
3.ガラス工芸の歴史(2) 中世					中世のガラス工芸について調べる									
4.ガラス工芸の歴史(3) 近世					近世のガラス工芸について調べる									
5.ガラス工芸の歴史(4) 近代					近代のガラス工芸について調べる									
6.ガラス工芸の歴史(5) 現代					現代のガラス工芸について調べる									
7.日本の陶芸史(1) 古代～中世					古代から中世の日本の陶芸を調べる									
8.日本の陶芸史(2) 近世					近世の日本の陶芸を調べる									
9.日本の陶芸史(3) 近代～現代					近代から現代の日本の陶芸を調べる									
10.世界の陶芸史(1) ヨーロッパ					ヨーロッパの陶芸史を調べる									
11.世界の陶芸史(2) 中国					中国の陶芸史を調べる									
12.世界の陶芸史(3) イスラム					イスラムの陶芸を調べる									
13.ヨーロッパの服飾史(1) 古代～中世					ヨーロッパ古代から中世の服飾を調べる									
14.ヨーロッパの服飾史(2) 近代					ヨーロッパ近代の服飾を調べる									
15.ヨーロッパの服飾史(3) 現代					ヨーロッパ現代の服飾を調べる									
16. 期末試験														
履修上の注意														
必要のない私語は慎むこと。														
成績評価方法・基準														
期末考査 80%、課題（授業時提出）20%によって評価する。課題提出後フィードバックを行う。														
教科書 使用しない 授業前に資料を配布する														
参考書 無し														
備考														
質問等については授業終了後にオフィスアワーを設け受け付ける。														

授業科目名	生活美術概論Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	今林 直樹		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
フランスの装飾文化について紹介する。フランスの装飾文化の特徴について具体例を挙げながら説明するとともに、その形成史について中世から現代までを取り上げて説明する。具体的には、中世のタペストリーやステンドグラス、ルネサンス期のゴブラン織、バロック期の庭園や工芸品、ロココ期の磁器や服飾、アンピール期のインテリア、その他、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム、アール・デコ、モダンの装飾について説明する。また、フランスの地方に残る装飾文化についても触れる。													
授業時に提出する課題を与える。課題については翌週の授業で解説する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
フランスの装飾文化について理解できる。					○	○	○						
装飾文化の歴史的、社会的背景について理解できる。					○	○	○						
今後の装飾文化の課題について考察できるようになる。						○	○						○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.フランスの装飾文化とは何か					装飾文化について調べる								
2.中世期の装飾文化(1) タペストリー					タペストリーについて調べる								
3.中世期の装飾文化(2) ステンドグラス					ステンドグラスについて調べる								
4.ルネサンス期の装飾文化(1) ゴブラン織					ゴブラン織について調べる								
5.ルネサンス期の装飾文化(2) タペストリー					タペストリーについて調べる								
6.バロック期の装飾文化(1) バロック様式					バロック様式について調べる								
7.バロック期の装飾文化(2) 庭園装飾					庭園装飾について調べる								
8.ロココ期の装飾文化(1) ロココ様式					ロココ様式について調べる								
9.ロココ期の装飾文化(2) シノワズリ					シノワズリについて調べる								
10.ロココ期の装飾文化(3) ゼーヴル磁器					ゼーヴル磁器について調べる								
11.アンピール期の装飾文化 新古典様式					新古典様式について調べる								
12.アール・ヌーヴォー(1) 特徴と作家たち					アール・ヌーヴォーについて調べる								
13.アール・ヌーヴォー(2) ジャポニスム					ジャポニスムについて調べる								
14.モダンの装飾文化					モダンの装飾文化について調べる								
15.フランスの地方の装飾文化― ブルターニュ・プロヴァンス					地方の装飾文化について調べる								
16. 期末試験													
履修上の注意													
必要のない私語は慎むこと。													
成績評価方法・基準													
期末考査 80%、課題（授業時提出）20%によって評価する。課題提出後フィードバックを行う。													
教科書 授業前に資料を配布する													
参考書 無し													
備 考													
質問等については授業終了後にオフィスアワーを設け受け付ける。													

授業科目名	情報設計概論 I				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	鶴巻 史子		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美1年				
授業概要														
情報設計概論 I では、情報グラフィックデザインの事例を紹介しながらデザインへの理解を促すと共に、様々な表現を理解し、デザインへの視野を広げさせる。コンピューターとグラフィックソフト（主に Illustrator）の基礎的な操作方法を説明し、情報と視覚表現における効果的なレイアウトや配色について演習を行い、情報のヴィジュアル化と表現技法について指導する。また、デザインリサーチについての基礎的な知識を身につけられるよう教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
情報グラフィックデザインにおける様々な表現が理解できる。					○		○							
Illustrator の基本的な操作と表現技法を身につけることができる。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス					情報設計の調査、制作プロセスまとめ									
2. 課題 1 情報設計リサーチ					情報設計の調査、制作プロセスまとめ									
3. リサーチ結果発表					情報設計の調査、制作プロセスまとめ									
4. ネットリテラシー、情報リテラシー、CP 基礎操作					CP 操作の調査、制作プロセスまとめ									
5. Illustrator の基本操作と原理					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
6. 課題 2 Illustrator 基礎演習					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
7. 課題 3 情報グラフィック基礎演習① 情報収集					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
8. アイデアスケッチ①					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
9. 制作①					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
10. 仕上げ①、プレゼンテーション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ									
11.情報グラフィックデザインの事例					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
12. 課題 4 情報グラフィック基礎演習② 情報収集					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
13. アイデアスケッチ②					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
14. 制作②					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
15. 仕上げ②、プレゼンテーション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ									
履修上の注意														
毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。制作データは USB メモリ等に保存し持参すること。材料費（500 円程度）を徴収する。														
成績評価方法・基準														
課題制作 70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）30% 作品課題については、授業中にフィードバックする。														
教科書 適宜指示する														
参考書 プリントを配布する、適宜指示する														
備 考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名	情報設計概論Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	鶴巻 史子		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美1年				
授業概要														
情報設計概論Ⅱでは、情報グラフィックデザインの事例を紹介しながらデザインへの理解を促すと共に、様々な表現を理解し、デザインへの視野を広げさせる。コンピューターとグラフィックソフト（主にPhotoshop）、デジタルデバイスの基礎的な操作方法を説明し、情報設計に必要な考え方について指導する。デザインプロセス（リサーチ・アウトプット・フィードバック）とプレゼンテーションを通して、他者へ向けて制作意図を伝える力を育めるよう教授する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
情報グラフィックデザインにおける様々な表現が理解できる					○		○							
Photoshopの基本的な操作と表現技法を身につけることができる。						○								
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス					情報設計の調査、制作プロセスまとめ									
2. Photoshopの基本操作と原理					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
3. 課題1 Photoshop 基礎演習					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
4. 課題2 情報グラフィック基礎演習 情報収集					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
5. アイデアスケッチ					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
6. 制作					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
7. 仕上げ、プレゼンテーション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ									
8. デザインワークショップ①					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
9. デザインワークショップ②					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
10. 課題3 情報グラフィック演習 情報収集					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
11. 情報整理					作品テーマの調査、制作プロセスまとめ									
12. アイデアスケッチ					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
13. デザイン検討					デザインの調査、制作プロセスまとめ									
14. 制作					制作技法の調査、制作プロセスまとめ									
15. 仕上げ、プレゼンテーション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ									
履修上の注意														
情報設計概論Ⅰを履修していることが望ましい。毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。材料費（500円程度）を徴収する。														
成績評価方法・基準														
課題制作 70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）30% 作品課題については、授業中にフィードバックする。														
教科書 適宜指示する														
参考書 プリントを配布する、適宜指示する														
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名	デザイン概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	三上 秀夫		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美2年				
授業概要														
デザインの事例を画像や映像で紹介する。簡単な課題を課し、それをとおしてデザインの基礎概念を受講者全員で確認させる。それをきっかけとして客観的、理論的思考力を身に付け、身の回りから人間生活、社会、自然と、様々な状況において自発的にデザインできるようにさせる。また「よいデザインとは」を問題意識として掲げ倫理観と総合的な思考力を養うことで社会の問題をデザインで柔軟に対応し解決できることを目指させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
基礎的な知識を身につけることができる。					○	○								
客観的、理論的思考力を身につけることができる。							○		○					
倫理観と総合的な思考力を身につけることができる。											○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1．ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）					日常の中から「デザイン」に注目する。									
2．「デザインとは何か」 デザインの用語、 ジャンルについて					デザインの専門用語を整理する。									
3．「デザインとは何か」 美術とデザインの違いについて					美術の各分野、ジャンルを確認する。									
4．「デザインとは何か」 主にデザインで用いられる材料や加工の方法について					大量生産に適した素材を調べる。気に入った製品を選び、次回紹介する。									
5．「デザインとは何か」 著名なデザイナーと、そのデザインについて					授業で紹介した製品やデザイナーについてさらに調べる。									
6．「デザインとは何か」 のまとめとモダンデザイン					まとめや感想を次回発表する。									
7．「デザインとは何か」 のまとめとユニバーサルデザイン					ユニバーサルデザインの例を調べる。									
8．「デザインとは何か」 のまとめとグッドデザイン					過去のグッドデザインについて調べる。									
9．デザインの問題点を考える					身近な問題点に注意してみる。									
10. 広告について（新聞、雑誌、テレビ他）					広告媒体を調べる。									
11. デザイン史概略 産業革命					プリントから時代の流れを整理する。									
12. デザイン史概略 19世紀の建築、工芸、工業製品					プリントから時代の流れを整理する。									
13. デザイン史概略 美術工芸運動					プリントから時代の流れを整理する。									
14. 現代のデザインの仕事からモダンデザインを考える					身近な製品のデザインを自分で考える。									
15. タイプフェイスからモダンデザインを考える まとめ					モダンデザインについてレポートを作成する。									
履修上の注意														
課題（レポート、実技）の提出あり。														
成績評価方法・基準														
提出課題 40％（必ず提出すること）授業態度（20％）、授業での発表（40％）で評価する。提出された課題は次回、受講者全員で内容を確認する。（フィードバック）														
教科書 無し 授業時にプリントを配布する														
参考書 無し														
備考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名		美学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	太田 峰夫		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美２年			
授業概要													
美しいものや恐ろしいものにふれた時の精神の働きを、人々はこれまでどのように捉え、理論化してきたのか。本講義ではカントの美学を中心に、古代と近現代の芸術理論を取り上げ、それぞれの時代の議論の特徴について教える。同時に、個々の芸術理論と同時代の芸術作品、ないしそれ以降の芸術作品にも具体例に触れることで、芸術理論（たとえばカントの美の無関心性をめぐる議論）が芸術創作の現場や、われわれ自身の芸術鑑賞のあり方にいかに深い影響を及ぼしているかについても教える。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
美にふれた時の精神の働きについて、古代・近現代の美学理論がこれまでどのように論じてきたかを具体例と関連づけながら説明できる。					○	○	○		○				
近代において芸術が倫理や宗教の縛りからいかに解き放たれ、自立した領域となったかを思想的に説明できる。					○	○	○		○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.序論（美学とは）					学問領域としての「美学」の歴史について事典で調べておく（予習）。配布資料の課題を行うこと（復習）。								
2.古代ギリシャ・ローマにおける美の理論					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
3.古代ギリシャ・ローマの芸術観（模倣・比率）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
4.近代の芸術観（ルネサンス以降）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
5.カントにおける美の定義（１）（想像力と理解力）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
6.カントにおける美の定義（２）（美的判断力、美の定義）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
7.カントにおける美の無関心性（１）（所有欲からの解放）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
8.カントにおける美の無関心性（２）（倫理からの解放）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
9.美的質（美・優美・崇高）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
10.カント美学の残したものの（１）（美術１）（鑑賞の側の変化）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
11.カント美学の残したものの（２）（美術２）（創作の側の変化）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
12.カント美学の残したものの（３）（音楽への影響）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
13.カント美学の残したものの（４）（前衛芸術への影響）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
14.カント美学の残したものの（５）（現代アートへの影響）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
15.まとめ					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
履修上の注意													
授業前にプリントを配布する。配布資料を学期末まで管理し、各回に与えられた課題を行うこと（週あたり予習２時間、復習２時間）。													
成績評価方法・基準													
学期末の筆記試験の成績（70％）と授業内課題への取り組み（30％）をもとに評価する。授業内課題、および試験に対してはフィードバックを行う。													
教科書 なし													
参考書 〔美学への招待〕〔佐々木健一〕〔中公新書〕〔842円〕													
備 考 火曜４限をオフィスアワーとする。													

授業科目名		美学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)			
担当者	太田 峰夫		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
この講義ではタイトルや美術批評などの実例に基づき、われわれの芸術鑑賞体験が周囲の「語り」に大きく影響されていること、および芸術をめぐるそうした「語り」が歴史的な条件に応じて変化するものであることを教える。そしてこのように美的体験における言葉の役割を確認した後、贋作やゴーストライターの作品、コピーなども見方を変えれば美的な価値を持ちうることを明らかにし、自身の美的判断に頼ることには功罪両面があることを教える。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
美的体験の中で言葉が果たしている役割の重要性について説明できる。						○	○		○		○		○
鑑賞対象のオーセンティシティ（正統性）が美的体験の中で果たしている多面的な役割について説明できる。						○	○		○		○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.序論（1）（美的体験と概念的な理解の関係について）					学問領域としての「美学」の歴史について事典で調べておく（予習）。（予習）、配布資料の課題を行うこと（復習）。								
2.タイトルと作品の関係について					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
3.タイトルの歴史					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
4.タイトルの場所					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
5.解説と批評の役割（1）（作り手自身の言葉）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
6.解説と批評の役割（2）（コメンテーター達の言葉）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
7.ブリロ・ボックスとダントー（1）（芸術と言語）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
8.ブリロ・ボックスとダントー（2）（芸術理論と歴史）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
9.ブリロ・ボックスとダントー（3）（芸術終焉論）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
10.偽作の美的価値と言葉の役割					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
11.「ゴーストライターの作品」ではなぜいけないのか					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
12. コピーを味わう（1）（音楽・文学）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
13. コピーを味わう（2）（版画・彫刻・画集）					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
14.オーセンティシティと美的体験の関係について					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
15.まとめ					配布資料の課題を行うこと（予習・復習）。								
履修上の注意													
授業前にプリントを配布する。配布資料を学期末まで管理し、各回に与えられた課題を行うこと（週あたり予習2時間、復習2時間）。													
成績評価方法・基準													
学期末の筆記試験の成績（70％）と授業内課題への取り組み（30％）をもとに評価する。授業内課題、および試験に対してはフィードバックを行う。													
教科書 なし													
参考書 〔美学への招待〕〔佐々木健一〕〔中公新書〕〔842円〕													
備 考 火曜4限をオフィスアワーとする。													

授業科目名		美術鑑賞Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				4(60+120)					
担当者	瀬戸 典彦		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美2年				
授業概要														
①日本が誇る貴重な文化遺産を鑑賞する機会を提供する。②それらの文化遺産の概要、価値、意味について考察を促す。③文化財、特に国宝が集中する関西エリアの魅力について解説する。④美術鑑賞研修旅行（対象地区：関西エリア）において、想定される鑑賞対象に関する情報を提供する。⑤関西エリアの文化遺産、文化施設、文化事業に関する主体的な調査とプレゼンテーションを支援する。⑥関西鑑賞旅行を効率的に実践するための情報共有を促す。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本の文化財、文化事業の概要と意味について説明できる。						○	○	○						
美術鑑賞研修旅行（大阪・奈良・京都方面）における研修対象を主体的に選定し、それら研修対象に関する事前調査と発表を実践できる。						○	○			○				
関西研修旅行において、自主研修／調査を実践できる。						○	○					○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. オリエンテーション「世界の中の日本文化」						関西の文化一般に関する状況調査								
2. 大阪・奈良・京都の美術と文化事業について						関西の美術と文化事業に関する状況調査								
3. 情報機器を用いたプレゼンの方法／レジメの作成方法						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
4. 鑑賞旅行における鑑賞対象（興福寺、東大寺関連）						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
5. 鑑賞旅行における鑑賞対象（奈良国立博物館関連）						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
6. 鑑賞旅行における鑑賞対象（法隆寺、新薬師寺等）						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
7. 鑑賞旅行における鑑賞対象（平等院関連）						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
8. 鑑賞旅行における鑑賞対象（京都寺院関連-市内、東寺等）						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
9. 鑑賞旅行における鑑賞対象（京都寺院関連-北山、東山等）						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
10. 鑑賞旅行における鑑賞対象（京都寺院関連-神護寺、三千院等）						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
11. 鑑賞旅行における鑑賞対象（（京都近辺の博物館・美術館）						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
12. 鑑賞旅行における鑑賞対象（大阪近辺の博物館・美術館）						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
13. 鑑賞旅行における鑑賞対象（大阪仏教美術関連）						プレゼン準備、レジメ作成の準備								
14. 鑑賞旅行における鑑賞対象（他の関西エリア内にある文化財／施設について）						旅行計画立案								
15. まとめ：鑑賞旅行計画立案						旅行計画立案								
履修上の注意														
美術鑑賞研修旅行（9月上旬）への参加と研修ファイルの提出が単位取得の必須条件となります。														
旅行代金概算：63,000 円（拝観料／食費等及び京都からの復路分移動費を除く）														
成績評価方法・基準														
プレゼン評価用紙／内容：30％														
プレゼンテーション：50％（レジメ：10％ 受講生の評価：40％／フィードバックを行う）														
研修旅行ファイルの内容：20％														
教科書 その都度、資料を配布する。														
参考書 その都度、参考資料を配布する。														
備 考 オフィスアワー（前期）月曜日 15：00～16：00 17：00～18：00														

授業科目名		美術鑑賞Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)					
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美2年					
授業概要														
①18 世紀から印象派に至る過程について理解を促す。②印象派後のエコール・ド・パリ、ダダ、シュール・リアリズム、抽象表現主義等に関するケーススタディーをとおし、それらの理論的背景について論じる。③作品を成立させる理論に着目させ、鑑賞の対象として意識させる。④自己の作品に関するステートメントの作成及びプレゼンテーションの実践について、指導する。⑤歴史上の美術家と自身との関係について考察を促す。⑥課題の発見を支援し、作品とステートメントをとおして、問題を共有する力を培う。⑦当授業を受講するクラスメート達の作品鑑賞をとおし、違いを認識させ、それらの違いを個性として受容することの意味について考察を促す。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
18 世紀後半以降のアートシーンについて、説明できる。					○	○								
現代美術に至る経緯と脈絡を論述できる。					○	○	○							
現代美術の脈絡と自己の作品の関係について、説明できる。					○	○			○					
現代社会の問題を主題として作品を構想できる。														○
作品から他者の視点を洞察し、その価値を評価することができる。											○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.オリエンテーション:「もの」が「アート」になるメカニズムについて					「美術史Ⅰ」の復習									
2.クールベ以降のヨーロッパ美術1(ロダンとシンボリズムの作家達等)					クイズの「解答例・解説集」による復習									
3.クールベ以降のヨーロッパ美術2(マネ、モネ等)-小テスト					クイズの「解答例・解説集」による復習									
4.印象派(後期印象派、新印象派を含む)の表現-外界を写すことと内面を表現することの違いについて					ワークシート作成									
5.印象派以降(フォービズム、キュビズム)					ワークシート作成									
6.エコール・ド・パリとその周辺の作家達について					ワークシート作成									
7.映画「モディリアーニ」の虚と実について					ワークシート作成									
8.未来派、ダダ、シュール・リアリズムについて					ワークシート作成									
9.抽象表現主義とその周辺の作家達について					ワークシート作成									
10.近代美術家の悲劇性について					ワークシート作成									
11.鑑賞行為／鑑賞教育の意味について-「視点の共有と違いの受容」					ワークシート作成									
12.アーティスト・ステートメントとは(事例研究)					アーティスト・ステートメントドラフト作成									
13.アーティスト・ステートメントの書き方					アーティスト・ステートメント作成									
14.アーティストとしてのプレゼンテーションについて					アーティスト・プレゼンテーション準備									
15.プレゼンテーション					ワークシート作成									
履修上の注意														
毎回、クイズ解答紙、ワークシート等を提出すること														
成績評価方法・基準														
小テスト:10%(フィードバックを行う) ワークシート:50% プレゼン:20%(フィードバックを行う) ステートメント:20%														
教科書〔つくる美術史のテキスト〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕														
参考書〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕 〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕														
備考														
オフィスアワー（後期）火曜日 10：00～11：00 火曜日 14：00～15：00														

授業科目名		色彩学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	大堀 恵子		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美1年			
授業概要													
たくさんある中の色を正確に伝え、記録し、表現するための基本的な色の用語や、色のしくみについての講義と配色練習を行い実践できる能力を身につけさせる。													
目的に合った配色を得るために、色材を使って色再現を行ない、色の基本概念である色料の三原色の基本原則を理解させる。そして、指定された場所に色票を貼付し演習することによって、色彩の基礎から応用の段階までを系統的に色への理解を深める能力を身につけさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
色彩学の基本的な用語、しくみについて理解し、身につけることができる					○	○	○						
色彩学の課題への取り組みと、仕上げる表現を身につけることができる									○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 授業内容の説明					課題ファイルと講義ノートを用意すること								
2. 色相環をつくる（色再現）					定規、パレット、筆、水彩絵具を用意すること								
3. 明度スケール、彩度スケールをつくる（色再現）					定規、パレット、筆、水彩絵具を用意すること								
4. 色が見える仕組みについて（光、物、視覚）					復習してくること								
5. 色の混色について（加法、並置、減法）					復習してくること								
6.色の属性について（有彩色と無彩色、色相、明度、彩度）					復習してくること								
7. 色の属性について（トーン）					課題を完成させること、復習してくること								
8. 色の対比について					課題を完成させること、復習してくること								
9. 色の感じ方について					課題を完成させること、復習してくること								
10. 配色について ①色相をもとにした配色					課題を完成させること、復習してくること								
11. 〃 ②彩度をもとにした配色					課題を完成させること、復習してくること								
12. 〃 ③トーンをもとにした配色					課題を完成させること、復習してくること								
13. 〃 ④配色の応用					課題を完成させること、復習してくること								
14. 〃 ⑤配色の応用					課題を完成させること、復習してくること								
15. まとめ					課題の整理								
16. 期末試験													
履修上の注意													
出席すること。準備物（着彩用具、ハーモニックカラーチャート、配色カード、はさみ、のり）と毎回出される課題を忘れないこと。													
成績評価方法・基準													
1.平常点（取り組む姿勢、意欲20％） 2.試験（40％） 3.講義ノート・演習課題ファイル（40％） 課題については、授業中にフィードバックをします。													
教科書〔ハーモニックカラーチャート〕〔配色カード 日本色彩研究所〕〔2,500円〕													
参考書 無し													
備考													
ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。													

授業科目名		色彩学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)				
担当者	大堀 恵子		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
基礎としての色彩に対する考え方を体系化されたシステムを使って色になれる能力を身につけ、色彩弁別器による検査と色感テストを行い、自分の色差の確認をさせる。そして、1年次で感得した配色の中の対比の効果を色材を使って、直線、曲線等の具体的な形を使わないトレーニングをさせる。そのことにより画面全体を変化と統一感がある色面構成への展開ができる様に指導する。また、作品鑑賞により外国と日本の文化理解ができるように指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
色彩学の基本的な用語、しくみについて理解し、身につけることができる。							○						
色彩学の課題への取り組みと仕上げの表現が身につけれる。									○		○		
													○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス：授業内容の説明					課題ファイルと講義ノートを用意すること								
2. 演 習：色相環をつくる（色再現）					定規、パレット、筆、水彩絵具を用意すること								
3. 実 験：色彩弁別器による検査（No.1～No.50）					検査を行った結果についてまとめること								
4. 実 験：色彩弁別器による検査（No.51～No.100）					検査を行った結果についてまとめること								
5. 実 験：色彩弁別器による検査（No.51～No.100）					検査を行った結果についてまとめること								
6. 講 義：対比の効果について（同時対比・継続対比）					課題を完成させること・復習してくること								
7. 講義、演習：対比効果の応用と展開 ― 同時対比（彩度）					課題を完成させること・復習してくること								
8. 講義、演習：対比効果の応用と展開 ― 同時対比（彩度）					課題を完成させること・復習してくること								
9. 講義、演習：対比効果の応用と展開 ― 同時対比（明度）					課題を完成させること・復習してくること								
10. 講義、演習：対比効果の応用と展開 ― 継続対比（補色）					課題を完成させること・復習してくること								
11. 講義、演習：対比効果の応用と展開 ― 白と黒の直線構成					課題を完成させること・復習してくること								
12. 講義、演習：対比効果の応用と展開 ― 補色による直線構成					課題を完成させること・復習してくること								
13. 講義、演習：対比効果の応用と展開 ― 白と黒の曲線構成					課題を完成させること・復習してくること								
14. 講義、演習：対比効果の応用と展開 ― 補色による曲線構成					課題を完成させること・復習してくること								
15. 講 義：まとめ					課題の整理								
履修上の注意													
出席すること。着彩用具一式、定規、準備物（ハーモニックカラーチャート）と課題を忘れないこと。													
成績評価方法・基準													
1.平常点（取り組む姿勢、意欲 20％） 2. 試験（40％） 3. 講義ノート・演習課題ファイル（40％）													
教科書〔ハーモニックカラーチャート 201-L〕〔日本色彩研究所〕〔2,500 円〕													
参考書													
備 考													
ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。													

授業科目名		ガラスアートⅠ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)				
担当者	森合 暢子		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美2年				
授業概要														
ガラス工芸の技法の一つであるバーナーワークを酸素バーナーの構造、エアバーナーとの違い、道具の扱い方、安全面への考慮、後かたづけを含めて基本的な技法を教える。ガラス素材の性質や知識も学び、後半は自分で酸素バーナーの扱い方を覚え安全で自由にガラス作品を制作出来るようにするのが目標。使用するガラスは耐熱ガラスで、割れにくいので加工しやすい。色も様々あり、混色も可能で小さい物から組み合わせて大きな作品まで作ることが出来る。バーナーワークで作るガラス作品の可能性を感じる授業を行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
① 安全なバーナーの取り扱いが出来るようになる。					○									
② 自分でイメージした形をガラスで形作れるようになる											○			
③ 様々な技法を学びガラスの可能性を知る事が出来る。							○		○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガラス工芸の知識と授業の内容について（座学）（ガイダンス）					指定する参考書かガラス関連の本に目を通しておく。									
2. 安全な作業の手順 道具の説明 ガラスを溶かしてみよう。					配布したプリントを読む。									
3. ガラスを溶かすに慣れる 基礎的な形の制作					事前に参考書籍やプリントを読む。									
4. 基礎的な形を作れるようになる ・丸い形や葉っぱの実演					“									
5. 自由制作 ・くまの実演					“									
6. 自由制作 ・ブタ、猫の実演					“									
7. 自由制作 ・魚の実演					“									
8. 自由制作 ・鳥などの実演					“									
9. 自由制作 ・イルカの実演					“									
10. リクエストの実演					事前に作りたい物を絵に描く。									
11. リクエストの実演					“									
12. 自分の作りたい物をイメージを自由制作する。					“									
13. 自由制作 ・花の実演					“									
14. 講評会					“									
15. 学外研修 松島藤田喬平ガラス美術館での見学					“									
履修上の注意														
安全のため、服装や髪型（結ぶ）など講師の指示に従うこと。														
成績評価方法・基準														
授業中の態度（50％）														
制作への姿勢（50％）														
講評会での作品はその日のうちに返却します。講評会でフィードバックを行います。														
教科書 授業前にプリント配布														
参考書〔家庭ガラス工房バーナーワーク〕〔松村潔〕〔ぼるぷ出版〕〔2,800 円〕														
備考														
・材料費を徴収。・質問等は授業中に受け付けます。														

授業科目名		ガラスアートⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)				
担当者	山口 綾子		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年				
授業概要														
ガラス工芸の中でも“バーナーワーク”という分野から“トンボ玉”を中心に制作を指導する。主に、硬質ガラス（佐竹ガラス）とエアバーナーを使用する。この授業では、ガラスアートⅠ・Ⅳで扱うガラスと器具が異なる。素材や器具の違い・種類によって扱いが変わることを理解し、正しく安全に扱えるようにする。基本的なトンボ玉の技法を紹介しながら、基礎造形と技法を身につけられるようにしたい。日常生活において、利用できる作品としてのトンボ玉活用方法も、合わせて指導する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
・ガラスと炎の特性を知ることができる。						○		○						
・素材の扱い方の習得と、トンボ玉の基本技法が身につけられる。										○		○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. 使用材料・道具の説明。デモンストレーション。						制作に必要な資料の収集をすること。 自由制作に必要なデザインやテーマなどをまとめる。11回目の授業で提出。								
2. ガラスを溶かす・伸ばす・丸くする・下玉を作る。														
3. 技法1 点打ち①（ドット・同心円）														
4. 技法1 点打ち②（花模様）														
5. 技法2 巻付（マーブル模様）														
6. 技法3 ひっかき（ジグザグ模様）														
7. 技法4 スキ掛け（被せガラス）						ガラスについてまめ知識を出題。自身で調べる。11回目の授業で提出								
8. 技法5 レース（レース棒を引く）。														
9. 技法6 パーツ（小菊文様のパーツ）														
10. レース玉、パーツ玉														
11. 自由制作 基本技法1～6を使用したトンボ玉制作 ① デザイン・テーマを決める						制作内容をまとめ、技法の考察などを随時行う。								
12. 自由制作 基本技法1～6を使用したトンボ玉制作 ② 試作・練習（テストピース作成）														
13. 自由制作 基本技法1～6を使用したトンボ玉制作 ③ 練習														
14. 自由制作 基本技法1～6を使用したトンボ玉制作 ④ 仕上げ														
15. 自由制作 基本技法1～6を使用したトンボ玉制作 ⑤ 講評														
履修上の注意														
ガラスアートⅠを履修することが望ましい。														
成績評価方法・基準														
課題達成 30% 作品の完成度 30% 制作への取組 40%（出席・作業に対する姿勢・進捗状況） 講評会の時にフィードバックします。														
教科書 事前にプリントなどを配布する。														
参考書 [トンボ玉][小暮紀一][ほるぷ出版][2,808円]														
備考														
質問などは、授業後12:30までオフィスアワーを設けます。														

授業科目名	ガラスアートⅢ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	山口 綾子		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年				
授業概要														
ガラス工芸の中でも“バーナーワーク”という分野から“トンボ玉”を中心に制作を指導する。主に、硬質ガラス（佐竹ガラス）とエアバーナーを使用する。この授業では、ガラスアートⅠ・Ⅳで扱うガラスと器具が異なる。ガラスアートⅡで学んだ基礎技法をもとに、各自に技法の研鑽と活用を促す。さらにトンボ玉の技法の応用を紹介しながら、表現技法の幅を広げられるようにしたい。日常生活において、利用できる作品としてのトンボ玉活用方法も、合わせて指導する														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・ガラスと炎の特性を知ることが出来る。					○									
・素材の扱い方の工夫により、技法の習熟度を高める事が出来る。							○		○			○		
・広い視野でデザインを考えられるものづくりができるようになる。										○	○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.オリエンテーション 授業内容の説明					制作主題を設定し計画表の作成をする。									
2.課題Ⅰ 表面加飾 ① 点打ち														
3. 表面加飾 ② ひっかき					資料収集									
4. 表面加飾 ③ コーティング														
5.課題Ⅰ 表面加飾 ①～③を使用した作品制作														
6.課題Ⅱ 玉の形の工夫 ねじり玉・勾玉														
7.課題Ⅲ パーツを使った加飾 ① レース					収集した資料をまとめ、10回目の授業に提出。									
8. パーツを使った加飾 ② パーツ														
9.課題Ⅱ・Ⅲの技法を使った作品制作														
10.課題Ⅳ 自由制作 ①デザイン決定					制作の進捗に応じて課題の考察・まとめを行う。完成形を考慮し、仕上げの工夫・その他の付属品の準備をする。									
11. ②試作・練習（テストピース作成）														
12. ③試作・練習（プレゼンテーションを考える）														
13. ④試作・練習（まとめ）														
14. ⑤完成（仕上げ）														
15. ⑥講評会														
履修上の注意														
習熟度に応じて応用技法も追加する。														
成績評価方法・基準														
課題達成 30%														
作品の完成度 30%														
制作への取組 40%（出席・作業に対する姿勢・進捗状況）														
講評会の時にフィードバックします。														
教科書 事前にプリントなどを配布する。														
参考書 〔トンボ玉〕〔小暮紀一〕〔ほるぷ出版〕〔2,808 円〕														
備 考 質問などは、授業内 または 授業後オフィスアワーを設けます。														

授業科目名		人形Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	福田 一実		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美2年				
授業概要														
球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作するよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージを膨らませて実寸代でデッサンをさせ、設計図を作り、人形のキャラクターを考えながら人形を通して表現できるようにさせる。関節は首、方、股間のみとし、サイズは頭部8cmの3.5頭身もしくは4頭身のデフォルメの人形を制作させる。原則として人形Ⅰではドールアイを使用せず描き目にし、その表現について研究させる。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
人形の造形について研究しながら学ぶことが出来る。								○				○		
球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。						○				○				
オリジナルな人形を完成させることができる。										○		○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。						完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。								
2. 下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。						解剖学の本などを参考にし人体の研究をする。								
3.芯を削り、形を作る。														
4. 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。						しっかり乾燥させてくる。								
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。						顔の造形、表情について観察してくる。								
6. 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。						やすりがけ								
7.足、脚の造形。						やすりがけ								
8. 乾燥させ、すべてを磨く。						やすりがけ								
9. 関節の球を作る。芯材を抜く。頭部に耳を造形する。						やすりがけ								
10. 球を磨き、各関節に固定する。						穴を開ける場所をしっかりと確認する。								
11. 球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、肩、脚に固定する。						全体のバランス確認。								
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。						細かなキズなどをチェックする								
13. 塗装する。着色、メイク。						メイクのイメージ、資料集め								
14.髪を貼る。						ヘアスタイルのイメージ、資料集め								
15.組み立て完成させる。講評。														
履修上の注意														
人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。														
成績評価方法・基準														
課題作品 50%、授業態度 50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講評会でフィードバックします。														
教科書〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2,880 円〕														
参考書〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2,700 円〕														
〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2,000 円〕														
備 考														
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明します。														
質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。														

授業科目名		人形Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	福田 一実		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作するよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージをふくらませて実寸大でデッサンをさせ、設計図を作り、人形のキャラクターを考えながら人形を通して表現できるようにする。人形Ⅱでは頭部8cmの5頭身の人形を制作し、関節は首、肩、股間、手首、足首とする。個々の進行状況により腕、脚のカットやドールアイの使用を習得させ、人形の表現について研究させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
人形の造形について研究しながら学ぶことが出来る。							○				○		
球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。									○				
オリジナルな人形を完成させる。									○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。					完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。								
2. 下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。					解剖学の本などを参考にし人体の研究をする。								
3.芯を削り、形を作る。													
4. 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。					しっかり乾燥させてくる。								
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。					顔の造形、表情について観察してくる。								
6. 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。					やすりがけ								
7.足、脚の造形。					やすりがけ								
8. 乾燥させ、すべてを磨く。					やすりがけ								
9. 関節の球を作る。芯材を抜く。頭部に耳を造形する。					やすりがけ								
10. 球を磨き、各関節に固定する。（頭を開き、瞳を入れる）					穴を開ける場所をしっかりと確認する。								
11. 球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。					全体のバランス確認。								
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。					細かなキズなどをチェックする								
13. 塗装する。着色、メイク。					メイクのイメージ、資料集め								
14.髪を貼る。					ヘアスタイルのイメージ、資料集め								
15.組み立て完成させる。講評。													
履修上の注意													
人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。													
成績評価方法・基準													
課題作品 50%、授業態度 50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講習会でフィードバックします。													
教科書 〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2,880 円〕													
参考書 〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2,700 円〕 〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2,000 円〕													
備 考													
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明します。 質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。													

授業科目名		人形Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	福田 一実	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年				
授業概要													
球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作させる。また、人体の造形についても追求し作品としての完成度をあげるよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージをふくらませて実寸大でデッサンをさせ、設計図を作り、人形のキャラクターを考えながら人形を通して表現できるようにする。人形Ⅲでは頭部8cmの6頭身の人形を制作させる。関節は腕、脚のカットやドールアイを使用し、全関節人形を完成させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
人形の造形について研究しながら学ぶことが出来る。							○			○	○		
球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。							○		○				
オリジナルな人形を完成できる。									○		○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。					完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。								
2. 下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。					解剖学の本などを参考にし人体の研究をする。								
3.芯を削り、形を作る。													
4. 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。					しっかり乾燥させてくる。								
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。					顔の造形、表情について観察してくる。								
6. 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。					やすりがけ								
7.足、脚の造形。					やすりがけ								
8. 乾燥させ、すべてを磨く。間接部を切断。					やすりがけ								
9. 芯材を抜き、頭部に瞳を入れ、頭部に耳を造形する。球を作る。					やすりがけ								
10. 球を磨き、各関節に固定する。頭部を閉じる。					穴を開ける場所をしっかりと確認する。								
11. 球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。					全体のバランス確認。								
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。					細かなキズなどをチェックする								
13. 塗装する。着色、メイク。					メイクのイメージ、資料集め								
14.髪を貼る。					ヘアスタイルのイメージ、資料集め								
15.組み立て完成させる。講評。													
履修上の注意													
人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。													
成績評価方法・基準													
課題作品 50%、授業態度 50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講演会でフィードバックします。													
教科書〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2,880 円〕													
参考書〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2,700 円〕 〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2,000 円〕													
備 考													
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明します。													
質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。													

授業科目名		マンガⅠ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	鹿野 明子		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美2年			
授業概要													
マンガとそれを取り巻く様々なコンテンツと社会とのかかわりについて教授する。マンガの発生から現在に至る歴史の解説を代表的な作品を示し教授する。マンガの定義づけを様々な観点から、或いは事例を示し理解させる。フランスやアメリカ等の海外マンガの現状を伝え、日本のマンガと対比させる。マンガと著作権の関係をとり上げコンプライアンスの重要性を認識させる。また、雑誌等の広告を想定した小作品の制作を課し、情報伝達手段としてのマンガの技法と魅力を教授する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
マンガの定義と歴史を知ることができる。							○						
マンガを用いてわかりやすく情報を伝える技術を習得できる。									○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス マンガの定義／マンガを構成する要素					道具を準備する								
2.マンガ史① マンガの作りかた					前マンガや、手塚治虫以前のマンガを読んでもみる								
3.マンガ史② 4コママンガⅠ					現在のマンガの、土台となった作品を読んでもみる								
4.プロとアマチュア 4コママンガⅡ					作品のもとになる事象を紙に書き出しておく								
5.マンガとタブー 4コママンガⅢ					オチにとらわれすぎずにネームを作成する								
6.著作権とマンガ 4コママンガⅣ					作品のおもしろさを生かす画面の構成に留意する								
7.キャラクターについて 4コママンガⅤ					丁寧に作業を進めておく								
8.マンガのジャンル① 4コママンガⅥ					レポートマンガの主題を用意しておく								
9.マンガのジャンル② レポートマンガⅠ					広告の一環として作られたマンガを多数読み、留意点を考えておく								
10.マンガのジャンル③ レポートマンガⅡ					画面の華やかさについても考慮しネームを進める								
11.マンガと文学 レポートマンガⅢ					作画に必要な資料を収集しておく。24年組の作品を読んでもみる								
12.外国から見た日本のマンガ レポートマンガⅣ					丁寧に作業を進める 興味のある作品を読んでもみる								
13.宮城県出身のマンガ家① レポートマンガⅤ													
14.宮城県出身のマンガ家② レポートマンガⅥ													
15.講評会 まとめ（学生にフィードバックする）					講評会までに作品を仕上げる								
履修上の注意 自身に合った画材を用意する。必須ではないが、デザイン・絵画・製図の知識と技術は課題の作成の大きな力となる。遅刻3回で欠席1とする。													
成績評価方法・基準													
課題作品 70% 授業態度 30%													
教科書 なし													
参考書 なし													
備考 都合により、授業計画の順番等を変更する事がある。オフィスアワーはガイダンスにて公表。													

授業科目名		マンガⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	安孫子 三和		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美2年			
授業概要													
マンガ制作の面白さと発想方法、画面の見せ方を教授する。ストーリー制作の基礎にあたるテーマ（世界観）やキャラクターのビジュアルによる印象の違い、性格設定、役割、セリフ、モノログ、コマの割り方などを実戦形式で指導し、オリジナルの小作品を作れるようにさせる。また、つけペンとインク、スクリーントーンの練習課題をもうけ、画面構成に必要な背景や効果も身につけられるようにすると同時に年代別の人物や動物クロッキーからデフォルメ化の練習をおこして、より豊かな表現が出来るようにする。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
マンガの基礎的な技術習得と考え方を身につけることができる。					○		○				○		
学修した内容を深めて発展した表現を身につけることができる。							○		○		○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業説明 原稿基本枠制作 キャラクタートレーニング					原稿用紙2枚・筆記具持参。初回のキャラクター作画を鉛筆画で描く。								
2.好きなマンガ丸ごと1ページ模写 (1) 下絵トレス					既存マンガ1p コピー2～3種、持参（A4□B4 いずれか）人物・背景・効果も入っているものをセレクト。トレス台を使って描き写す。								
3.好きなマンガ丸ごと1ページ模写 (2) ペン入れ					トレス台を使いながらアナログペン入れ ＜完成提出＞								
4.ペントーン効果トレーニング (1) 擬音・ふきだし・集中線					用紙配布・アナログ制作								
5. ペントーン効果トレーニング (2) トーンフラッシュ・背景					背景（山自然・教室・玄関先風景）をよく見て作画をイメージしてくる								
6. ペントーン効果トレーニング (3) 背景					＜完成提出＞								
7.クロッキー (1) 中高老年					資料写真（40代・70代・100歳～くらいの男女各1名づつ・バストショットか全身写真）各自セレクトして持参								
8. " (2) 動物・幼児					資料写真（爬虫類・鳥類・魚類を含む写真6点・幼児も2点）各自セレクトして持参								
9.詩小説童話のマンガ化2ページ (1) プロット・ネーム					題材を準備し読み込み、どこをどう表現するか決めておく。授業時間には即制作に入ること必須。 （環境がある者はデジタル制作も可）								
10. 詩小説童話のマンガ化2ページ (2) 下絵					ネームチェック OK の者から原稿用紙に下絵作画（デジタル可）								
11. 詩小説童話のマンガ化2ページ (3) ペン入れ					背景もある場合は資料を準備しておく								
12. 詩小説童話のマンガ化2ページ (4) 仕上げ					＜完成提出＞ デジタルはプリントアウトして提出								
13.カラー作画 (1)					ハガキLサイズ用紙配布□彩色画材は各自自由セレクト								
14. " (2)					彩色作画								
15. " (3) ・ まとめ講評会					＜全完成提出＞コメント票配布。 1 作品ごとに全員でコメント記入する								
履修上の注意													
授業の始まりにその回の説明をするのできちんと定刻に来る。時間厳守。（遅刻は45分単位で0.25欠席とする。）制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。													
成績評価方法・基準													
出席、課題などから総合的に評価。課題作品:アイデア 40%（発想・視点・キャラクター・ストーリー構成） 絵 40%（画力・丁寧さ・仕上げ） 受講態度 20%（準備物・集中度・進行速度） 提出された課題は、期末後コメントとフィードバックを記して返却します。													
教科書 必要に応じて、そのつど資料を配布する													
参考書 〔人を惹きつける技術〕〔小池一夫〕〔講談社〕〔838 円〕 〔快描教室プラス〕〔菅野博之〕〔美術出版社〕〔1,512 円〕													
備 考													
オフィスアワーは授業後にも受付ますが、各人ごとに席を回って制作指導に努めるので、極力時間内に質問疑問は申し出てください。													

授業科目名		マンガⅢ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60)			
担当者	安孫子 三和		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美3年			
授業概要													
マンガⅡの基礎編から発展させた、ストーリーマンガやカラー作品の作り方を指導する。既存の風景（背景）写真を使い、トレース台を用いて、必要な線と省略する線の区別の仕方や、その画面に人物（キャラクター）を入れ込む時の注意点や効果的な見せ方を実戦形式で身につけさせる。また、ストーリー作品制作ではアイデア、プロット、ネーム、下絵、ペン入れ、仕上げと順に追って各人と対話して進め、実際のマンガ編集者との打合せに近い形式を体感してもらいつつ、各人の作画個性にあった、より豊かな表現の作品完成を目指す。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
マンガの基礎的な技術習得と考え方を身につけることができる。					○		○			○	○	○	○
学修した内容を深めて発展した表現を身につけることができる。							○		○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業説明 キャラクタートレーニング・ 記憶スケッチ					マンガⅡでやったキャラトレをもう一回。背景をテーマを設けて記憶だけでラフスケッチ（鉛筆可）								
2.背景トレース+人物（1） 下絵					背景に人物を配置する作画。資料の背景写真を 2～3 種類セレクトしてコピー持参。人物に合わせて背景拡大あり アナログ制作								
3. (2) ペン入れ					人物が目立つように主線を強く、背景は細線で陰影も考えて表現する								
4. (3) ペン入れ完成					トーン処理はフリー ＜完成提出＞								
5.オリジナルショートストーリー制作 （1）プロット・ネーム					4～8 ページ自由選択。ネタは考えておく。授業開始に即あらずじプロットが書き出せるように。ネームは 2～3 回修正が入るのが普通								
6. オリジナルショートストーリー制作 （2）ネーム修正					ネーム・コマ割り・セリフもチェックあり								
7. オリジナルショートストーリー制作 （3）ネーム完成・下絵					ネームチェック OK の者は下絵原稿に入る。（環境がある者は原稿デジタル制作可）								
8. オリジナルショートストーリー制作 （4）下絵人物					背景資料なども準備して作画								
9. オリジナルショートストーリー制作 （5）下絵背景					トレース台使用可								
10. オリジナルショートストーリー制作 （6）ペン入れ人物													
11. オリジナルショートストーリー制作 （7）ペン入れ背景効果					デジタルも進行チェックする								
12. オリジナルショートストーリー制作 （8）トーン・仕上げ					＜完成提出＞デジタルはプリントアウト提出。								
13.カラー作画（1）					カラー用紙 B5 画材ともに各自準備。 人物・背景入れて彩色（デジタル可）								
14. (2)					彩色								
15. (3) ・ まとめ講評会					＜完成提出＞デジタルはプリントアウト提出。コメント票配布。 1 作品ごとに全員でコメント記入する								
履修上の注意													
授業の始まりにその回の説明をするのできちんと定刻に来る。時間厳守。（遅刻は 45 分単位で 0.25 欠席とする。）制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。													
成績評価方法・基準													
出席、課題などから総合的に評価。													
課題作品:アイデア 40%（発想・視点・キャラクター・ストーリー構成）													
絵 40%（画力・丁寧さ・仕上げ） 受講態度 20%（準備物・集中度・進行速度）													
提出された課題は、期末後コメントとフィードバックを記して返却します。													
教科書 必要に応じて、そのつど資料を配布する													
参考書 とくに無し。													
備 考 オフィスアワーは授業後にも受付ますが、各人ごとに席を回って制作指導に努めるので、極力時間内に質問疑問は申し出てください。													

授業科目名		製図 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1 (15+15)				
担当者	湯目 俊彦		必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美2年			
授業概要													
製図を履修する上での、製図の道具とそれぞれの使い方により、様々な平面図形をそれぞれの図法に基づき演習させ、製図の基本を学ばせる													
正投影図第法と三角投影図法（三面図）の原理を理解させる。立体の基本と名称を理解し、角錐を例として、三面図と切断面図、展開図のそれぞれの作図を演習させ、他の授業の制作図にも流用出来るようにさせる。例題として二つの物体（おもちゃ）を正規（JIS）な製図様式で、三角投影図法(三面図)を作図演習させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
様々な平面図形をそれぞれの図法に基づき作図出来るようになる。					○				○				
立体の基本を理解し三面図と展開図を作図出来るようになる。					○				○				
例題を JIS 様式で三面図を作図出来るようになる。					○				○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.製図用具の説明と使い方					次回までに用意する製図用具を用意								
2.線と文字、縮尺の知識					縮尺の仕方の復習								
3.直線と角の作図					配布した作図の仕方の予習								
4.多角形の作図					配布した作図の仕方の予習								
5.円と円弧の作図					配布した作図の仕方の予習								
6.渦巻き線の作図					配布した作図の仕方の予習								
7.分割の方法、作図					配布した作図の仕方の予習								
8.第一角投影図（三面図）の基本と作図					三面図の基本の予習								
9.角錐の三面図の作図					三面図の基本の予習								
10.角錐の切断面の作図					切断面の作図の予習								
11.角錐の展開図の作図					角錐の展開図の予習								
12.おもちゃの家の三面図作図(各面の下描き)					事前配布資料の予習								
13.おもちゃの家の三面図作図（各面の仕上げと寸法記入）					事前配布資料の予習								
14.おもちゃのバスの三面図作図(各面の下描き)					事前配布資料の予習								
15.おもちゃのバスの三面図作図(各面の仕上げと寸法記入)					事前配布資料の予習								
履修上の注意 指定された製図用具を用意する。0,3mm/0,5mm シャープペン、墨入れペン 三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ													
成績評価方法・基準													
課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり（40%）授業態度(遅刻・居眠り）(30%) 意欲(20%)提出された課題に対してフィードバックする													
教科書 授業前にプリントを配布													
参考書 なし													
備考 授業終了時またはオフィスアワーに質問を受け付ける。 期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。													

授業科目名		製図Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（15+15）					
担当者	湯目 俊彦	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美2年					
授業概要														
前期で履修した内容をもとに、製品化された商品の三面図を縮尺変更し作図化させる。 一部製品自体（iPhone 等）を計測し、三面図として作図させる。 ダイニングチェア、ソファ、テーブル、収納家具の構造・仕様等の知識を履修しながら、それぞれの構造知識に基づいて三面図を作図完成させる。 インテリア製図の基礎を学び、マンション、木造一戸建ての構造、仕様の基礎も学び、それぞれの構造、仕様に基づいて平面図を作図完成させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
製品化された商品を三面図に作図出来るようになる。									○					○
インテリア平面図の基礎を習得し三図面を作図出来るようになる。									○					○
インテリアの三面図を習得し、構造の基礎の知識を習得できる。									○					○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.花瓶の二面図作図					前期の三面図の基礎を見ておく									
2.Phoneの三面図作図（自分のiPhoneを計測作図）i					事前に自分のiPhone等の計測をする									
3.椅子の三面図作図（下書き）					作図が未完了の場合は事後完成する									
4.椅子の三面図作図					作図が遅れている場合は補習する									
5.ソファの三面図作図（下書き）					授業中に未完了は次回まで完成する									
6.ソファの三面図作図					作図が未完了の場合は事後完成する									
7.テーブルの三面図作図					配布された資料を予習しておく									
8.収納家具の三面図作図（下書き）					授業中に未完了は次回まで完成する									
9.収納家具の三面図作図					作図が遅れている場合は補習する									
10.インテリア製図の基礎と作図準備					配布された資料を予習しておく									
11.マンション平面図（下書き）					授業中に未完了は次回まで完成する									
12.マンション平面図					作図が遅れている場合は補習する									
13.マンション立面図					配布された資料を予習しておく									
14.木造住宅平面図（下書き）					授業中に未完了は次回まで完成する									
15.木造住宅平面図					作図が遅れている場合は補習する									
履修上の注意 指定された製図用具を用意する。0,3mm/0,5mm シャープペン、墨入れペン 三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ														
成績評価方法・基準														
課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり（40%）授業態度(遅刻・居眠り)（30%） 意欲(20%)提出された課題をフィードバックする。														
教科書 授業前にプリントを配布														
参考書 なし														
備考 授業終了時またはオフィスアワーに質問を受け付ける。 期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。														

授業科目名		図学 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+15)					
担当者	湯目 俊彦	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美3年					
授業概要														
前半で、透視図法の原理と種類を理解し透視図法の基礎を習得させる。														
その後、透視図法の基礎である立方体を1点、2点、3点透視図法で作図させる。														
また円柱・円錐の透視図法も合わせて、それぞれ作図習得させる。														
製品化された商品や、2年時習得した製図課題をそれぞれ1点,2点透視図法で作図習得させる。														
また室内インテリアの透視図も1点2点それぞれの透視図法で作図させ、一部着色をさせ、仕上げさせ完成させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
透視図法の原理と種類、それぞれの基礎を習得出来る。					○				○					
立体の透視図法のプロセス、技術表現力を習得出来る。					○				○					
室内空間の透視図法を理解し、技術表現力を習得出来る。					○				○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス,透視図法の原理と種類					透視図法の名称を復習する									
2.立方体を1点透視図法で描く					VP位置の違いを復習する									
3.立方体を2点透視図法で描く					2点のVP位置の違いを復習する									
4.立方体を3点透視図法で描く					3点のVP位置の違いを復習する									
5.立方体を透視図法で陰影を描く					事前に陰影の描き方を予習しておく									
6.円と円柱、円錐を透視図法で描く					正確な円弧の描き方を予習しておく									
7.透視図法での増殖と分割					各仕方を復習し、記憶しておく									
8.コップを1点透視図法で描く					正確な円弧の描き方を予習しておく									
9.ソファを1点透視図法で描く					配布した資料を事前に予習しておく									
10.ソファを2点透視図法で描く					1点透視図法との違いを予習しておく									
11.リビングAを1点透視図法で描き着色する					授業中に着色未完了は事後完成する									
12.リビングAを2点透視図法で描く					事前に描き方を予習しておく									
13.おもちゃの家を等角図法で描く					事前に資料を予習しておく									
14.おもちゃの家を2点透視図法で描く					授業中に未完了は事後完成する									
15.リビングBを1点透視図法で描き着色する					授業中に着色未完了は事後完成する									
履修上の注意 指定された製図用具を用意する。0,3mm/0,5mm シャープペン、墨入れペン 三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ														
成績評価方法・基準														
課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり（40%）授業態度(遅刻・居眠り)（30%） 意欲(20%)提出された課題に対してフィードバックする。														
教科書 授業前にプリントを配布														
参考書 なし														
備考 授業終了時またはオフィスアワーに質問を受け付ける。 期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。														

授業科目名		図学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+15)				
担当者	湯目 俊彦		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美3年			
授業概要													
前期で習得した透視図法の基礎をもとに、インテリア空間を1点透視図法及び2点透視図法により作図させる。また作図した完成図に着色を施させ、表現力も伴わせて習得させる。インテリア空間を2点透視図法で作図させる事により、視覚調整の知識・技術を習得させ空間把握の表現力を向上させる。建築物の1点透視図法、2点透視図法を習得し実際の建物を透視図法により作図し着色を施す事により、ビジュアル的な空間表現力を習得させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
室内を透視図法で作図しインテリア空間の表現力を習得出来る。									○				○
透視図法で作図した物に着色を施し表現力を身につけることが出来る。									○				○
建物の透視図法を習得する事により絵画等に影響させることが出来る。									○				○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ダイニングキッチンAを1点透視図法で描く（足線下書き）					授業中に未完了は次回まで完成する								
2.ダイニングキッチンAを1点透視図法で描く（実線着色）					授業中に未完了は事後完成する								
3.ダイニングキッチンBを2点透視図法で描く(下書き,足線)					授業中に未完了は次回まで完成する								
4.ダイニングキッチンBを2点透視図法で描く(視覚調整)					視覚調整の仕上がり確認し修正する								
5.和室をD点図法で描く（下書き）					授業中に未完了は次回まで完成する								
6.和室をD点図法で描く（実線着色）					授業中に未完了は事後完成する								
7.寝室を2点透視図法で描く（下書き）					授業中に未完了は次回まで完成する								
8.寝室を2点透視図法で描く（実線着色）					授業中に未完了は事後完成する								
9.建物Aを1点透視図法で描く					事前に配布資料を予習しておく								
10.建物Bを2点透視図法で描く					事前に配布資料を予習しておく								
11.建物Cを2点透視図法で描く(下書き)					授業中に未完了は次回まで完成する								
12.建物Cを2点透視図法で描く(実線)					授業中に未完了は事後完成する								
13.大学建物を2点透視図法で描く（下書き）					授業中に未完了は次回まで完成する								
14.大学建物を2点透視図法で描く（実線）					授業中に未完了は次回まで完成する								
15.大学建物を2点透視図法で描く（拡大着色）					授業中に未完了は事後完成する								
履修上の注意 指定された製図用具を用意する。0,3mm/0,5mm シャープペン、墨入れペン 三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ													
成績評価方法・基準													
課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり（40%）授業態度(遅刻・居眠り)（30%） 意欲(20%)提出された課題に対してフィードバックする													
教科書 授業前にプリント配布													
参考書 なし													
備考 授業終了時またはオフィスアワーに質問を受け付ける。 期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。													

授業科目名		写真Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+15)				
担当者	飯沢 耕太郎		必・選	選	形態	集中講義	学期	前期	対象	美3年				
授業概要														
写真評論家、写真史家としての活動を踏まえ、写真という表現媒体のあり方を考察する。特に現代日本の写真表現を重視し、写真家たちの活動を DVD や写真集などを参考にして幅広く紹介したい。具体的には、まず「写真とは何か」を幅広く考察し、写真集、写真コレクション、写真展などについて事例を挙げて詳述する。次に、「現代日本写真の展開」について、戦後写真史の流れに添って講義していく。あわせて、ここ数年の最新のトピックにも目配りしていきたい。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
写真の表現としての面白さ、魅力について理解を深め、写真家たちからその表現の姿勢を学びとり、自らの創作活動に活かしていく。レポート作成を通じて、その理解を確認する。						1	2	3	4	5	6	7	8	9
写真の歴史に憑いて基本的な知識を得る。						○	○	○						
写真家たちの表現の姿勢について学ぶ。										○				
写真家たちの活動のあり方を今後の活動に活かす。												○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.写真とは何か（Ⅰ）原点としてのダイアン・アーバス						アーバスの作品について予備知識を得る。								
2.写真とは何か（2）写真の発明とその展開						写真史の本などで予備知識を得る。								
3.写真とは何か（3）写真集の成立、『自然の鉛筆』						写真史の本などで予備知識を得る。								
4.写真とは何か（4）写真集の展開						写真史の本などで予備知識を得る。図書館等で写真集を実際に見る。								
5.写真とは何か（5）写真作品のコレクション						「オリジナル・プリント」等の概念について、ネット等で検索する。								
6.写真とは何か（6）写真美術館と写真ギャラリー						美術館、ギャラリー等で写真展を鑑賞する。								
7.写真とは何か（7）ポートフォリオをどう作るか？						実際にポートフォリオを作成してみる。								
8.現代日本写真の展開（1）戦後写真の始まり						土門拳等の写真家たちの活動について調べてみる。								
9.現代日本写真の展開（2）VIVO の写真家たち						東松照明、細江英公等の活動について調べてみる。								
10.現代日本写真の展開（3）「私写真」について						荒木経惟、深瀬昌久、牛腸茂雄等の活動について調べてみる。								
11.現代日本写真の展開（4）90年代以降の新たな潮流						杉本博司、森村泰昌らの作品をチェックしてみる。								
12.現代日本写真の展開（5）女性写真家たちの活動						石内都、長島有里枝らの作品をチェックしてみる								
13.現代日本写真の展開（6）震災以後の写真表現						志賀理江子、畠山直哉らの作品をチェックしてみる。								
14.現代日本写真の展開（7）最近の動向						植田正治作品集、ソール・ライター展などについてチェックしてみる								
15.まとめとレポート作成						レポートを作成、事前チェックする。								
履修上の注意														
最新の情報をフォローしたいので、授業の内容は適宜変更する可能性がある。														
成績評価方法・基準														
レポートを提出してもらって評価する（80％）。授業の取り組みに対する意欲と姿勢（20％）。基本的に全講義に出席することを前提とする。提出されたレポートは添削して返却する。														
教科書 なし														
参考書														
〔写真を愉しむ〕〔飯沢耕太郎〕〔岩波新書〕〔740 円〕 〔キーワードで読む現代日本写真〕〔飯沢耕太郎〕〔フィルムアート社〕〔3,800 円〕														
備考														
質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。														

授業科目名		写真Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）			1(15+15)						
担当者	及川 廣道		必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	美3年				
授業概要														
写真術の成り立ちと仕組みを説明し、フィルム(銀塩)が撮像素子(デジタル)に取り変わって変化した事柄を一つ一つ具体例を挙げて解説する。講師がこれまで写真撮影の仕事の中で体験して来た事柄を通じて、写真を取り巻く世界と新たな価値観を提示。写真がこれからチャレンジすべき新たな分野と、それを活用すべき表現方法と技術的解説を行う。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
「表現方法としての写真術」を知れば撮影ばかりでなく、写真を評価するための基準や、撮影を発注する際の的確な方法や、デザインを起こす場合のより広い視野を得る事ができる。							○			○				
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1日目：写真術の発明と発展の経過、カメラ等の撮影機材の基本的知識、写真を使った表現方法について						事前課題の準備をして講義に望むこと								
2日目：デジタル写真に関する技術解説と、それらを使った応用技術と実際の画像処理ソフトの使い方。						自己課題制作時の失敗や不足点について考え、再トライをこころみる。								

授業科目名		美術教諭試験対策講座Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30＋60)					
担当者	佐々木 晃		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美３年			
授業概要													
公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として過去問題を中心に筆記、実技、面接、模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに出題傾向、出題意図、出題の視点および解答への道筋を解説する。採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実践について指導する。また、集団討議や授業構想のプラン発表などの応用的課題への対策も指導していく。これらのことを教授する中で美術教師になるための基本的な素養を身に付けさせ、実践的指導力、使命感、幅広い知見を育んでいくことを目的とする。本講座は美術教諭試験対策講座Ⅱの基礎となる内容である。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
授業を学修する中で美術教師として必要なものを理解する													○
学修した内容を咀嚼反芻して整理要約できるようにする									○				
確かな知見と豊かな人間性を持った基本的素養を身に付ける												○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.筆記試験対策 1. 教職教養					過去問題に取組み躓いた所を調べておく								
2.〃 2. 教育法規Ⅰ					教育にかかわる法規の体系を理解する								
3.〃 3. 教育法規Ⅱ					教員採用試験に関係する法規の内容理解								
4.〃 4. 面接					質問に正対する回答のあり方を調べる								
5.〃 5. 集団討議					課題を受けてまとめていくことの理解								
6.教員採用試験実技について					実技試験の目的と留意点を調べて提出								
7.実技試験対策 1 画材					画材の違いによる表現できる工夫の調査								
8.実技試験対策 2 主題					主題の具現化を図る上での工夫を調べる								
9.実技試験対策 3 時間配分					完成に至る望ましい時間配分のあり方								
10.小論文対策 1 今日課題に正対する教師の役割の自覚					教員採用試験論文の書き方の留意点調査								
11.小論文対策 2 専門職としての意識の育成と発展					教員志望者に求められるものの理解								
12.学習指導案作成演習 1					学習指導案の目的と作成の留意点調べ								
13.学習指導案作成演習 2					授業のイメージづくりと各種指導案調べ								
14.総合演習 1 近年の動向を踏まえた課題					基本的問題の確実な把握と新傾向の対策								
15.総合演習 2 まとめレポート					採用試験対策講座関係プリント読み返し								
履修上の注意													
受講の際は配布するプリントを持参すること。必要な用具等準備して臨むこと。													
成績評価方法・基準													
平常点３０％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート７０％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。） ・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。													
教科書 〔中学校学習指導要領解説書 美術編〕〔日本文教出版〕〔96 円〕													
参考書 なし													
備 考													
・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		美術教諭試験対策講座Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30＋60)						
担当者	佐々木 晃		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美４年				
授業概要														
公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として過去問題を中心に筆記、実技、面接、模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに出題傾向、出題意図、出題の視点および解答への道筋を解説する。採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実践について指導する。また、集団討議や授業構想のプラン発表などの応用的課題への対策も指導していく。これらのことを教授する中で美術教師になるための基本的な素養を身に付けさせ、実践的指導力、使命感、幅広い知見を育んでいくことを目的とする。本講座は美術教諭試験対策講座Ⅰをさらに発展継承させた内容となる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
授業を学修する中で美術教師として必要なものを理解する														○
学修した内容を咀嚼反芻して整理要約できるようにする									○					
確かな知見と豊かな人間性を持った基本的素養を身に付ける													○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.筆記試験対策１．教職教養					過去問題に取組み躓いた所を調べておく									
2.〃 2．教育法規Ⅰ					教育にかかわる法規の体系を理解する									
3.〃 3．教育法規Ⅱ					教員採用試験に係る法規の内容理解									
4.〃 4．面接					質問に正対する回答のあり方を調べる									
5.〃 5．集団討議					課題を受けてまとめていくことの理解									
6.教員採用試験実技について					実技試験の目的と留意点を調べて提出									
7.実技試験対策１ 画材					画材の違いによる表現できる工夫の調査									
8.実技試験対策２ 主題					主題の具現化を図る上での工夫を調べる									
9.実技試験対策３ 時間配分					完成に至る望ましい時間配分のあり方									
10.小論文対策１ 今日の課題に正対する教師の役割の自覚					教員採用試験論文の書き方の留意点調査									
11.小論文対策２ 専門職としての意識の育成と発展					教員志望者に求められるものの理解									
12.学習指導案作成演習１					学習指導案の目的と作成の留意点調べ									
13.学習指導案作成演習２					授業のイメージづくりと各種指導案調べ									
14.総合演習１ 近年の動向を踏まえた課題					基本的問題の確実な把握と新傾向の対策									
15.総合演習２ まとめのレポート					採用試験対策講座関係プリント読み返し									
履修上の注意														
受講の際は配布するプリントを持参すること。必要な用具等準備して臨むこと。														
成績評価方法・基準														
平常点３０％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート７０％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。） ・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。														
教科書 〔中学校学習指導要領解説書 美術編〕〔日本文教出版〕〔96 円〕														
参考書 なし														
備 考														
・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名	アート支援 I				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)					
担当者	瀬戸 典彦		必・選	選	形態	集中講義	学期	前期	対象	美3年				
授業概要														
①ボランティア精神の原点、ボランティア活動の歴史について概説する。②ボランティア活動における成功例と失敗例に触れ、それぞれの事例について検証させ、失敗と成功の要因について考察を促す。③国内で私自身が参画した美術による社会貢献の事例を紹介し、課題発見を促す。④美術による社会貢献に関する実態調査を支援する、⑤ボランティア活動への参画を支援し、活動報告の方法を指導する。⑥美術によるボランティア活動への参画を課し、その総括を支援する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ボランティア活動の理念／基本原則／歴史を説明できる。					○	○								
美術をツールとして、他者と関係を構築できる。					○	○		○	○	○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.オリエンテーション（ボランティアのロマン）					ワークシート作成									
2.ボランティア活動の理念／基本原則／歴史					ワークシート作成									
3.事例紹介-ボランティア活動一般					ワークシート作成									
4.事例紹介-美術による活動					ワークシート作成									
5.組織的活動の事例／ODA					ワークシート作成									
6.組織的活動の事例／NGO					ワークシート作成									
7.情報提供／収集-一般					ボランティアのニーズ状況調査（一般）									
8.情報提供／収集-文化・教育					ボランティアのニーズ状況調査（文化）									
9.情報提供／収集-美術系					ボランティアのニーズ状況調査（美術）									
10.ボランティア活動参画（一般）					活動計画／報告書作成									
11.ボランティア活動参画（文化／教育）					活動計画／報告書作成									
12.ボランティア活動参画（美術）					活動計画／報告書作成									
13.活動報告プレゼン準備指導					データ作成									
14.活動報告プレゼン内容の修正指導					データ修正									
15.活動報告					ワークシート作成									
履修上の注意														
対象:生活美術学科アートインストラクターコース生														
授業時間:時間割の空き時間を利用して授業を行う。														
成績評価方法・基準														
ワークシート(7 回分):35%(フィードバックを行う) 活動計画／報告書:30%(フィードバックを行う) 活動報告:35%(フィードバックを行う)														
教科書その都度、資料を配布する。														
参考書その都度、参考資料を配布する。														
備 考 オフィスアワー（前期）月曜日 15：00～16：00 17：00～18：00														

授業科目名		アート支援Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)				
担当者	瀬戸 典彦		必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	美3年				
授業概要														
①ボランティア活動の現状に関する調査を課す。②ボランティア活動の現状に関する報告を課す。③ボランティア活動の現状を踏まえ、そこに介在する課題について考察を促す。④海外で私自身が参画した美術による社会貢献の事例を紹介し、問題発見を促す。⑤美術による社会貢献の企画立案を課す。⑥美術によるボランティア活動への参画を課し、その総括を支援する。⑦「アートボランティア」としての活動記録の提出と活動記録に関するプレゼンテーションを課す。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ボランティア活動の意義を説明できる。					○	○								
美術をツールとして、他者との関係を構築できる。					○	○		○	○	○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.オリエンテーション(ボランティアの可能性)					ワークシート作成									
2.ボランティア活動の現状-調査のポイントについて					ワークシート作成									
3.現状に関する評価と課題について					レポート筆記									
4.美術による活動事例の紹介／ザンビア共和国の事例					ワークシート作成									
5.美術による活動の企画（ニーズの把握）					ワークシート作成									
6.美術による活動の企画（立案）					プレゼン準備									
7.美術による活動の企画（プレゼン）					プレゼン準備									
8.フィールドワーク-活動の趣旨に関する理解					報告書作成									
9.フィールドワーク-活動の内容に関する理解					報告書作成									
10.フィールドワーク-活動の効果分析					報告書作成									
11.フィールドワーク-課題発見					報告書作成									
12.フィールドワーク-課題解決					報告書作成									
13.活動報告(プレゼン)準備					データ作成									
14.活動報告(プレゼン)内容の修正					データ作成									
15.活動報告					ワークシート作成									
履修上の注意														
対象:生活美術学科アートインストラクターコース生														
授業時間:時間割の空き時間を利用して授業を行います。														
成績評価方法・基準														
ワークシート(レポート):30%(フィードバックを行う) 活動報告書:40%(フィードバックを行う) プレゼン:30%(フィードバックを行う)														
教科書その都度、資料を配布する。														
参考書その都度、参考資料を配布する。														
備 考 オフィスアワー（後期）火曜日 10：00～11：00 火曜日 14：00～15：00														

授業科目名		技法研究Ⅰ - a			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)					
担当者	生活美術学科教員	必・選	選必	形態	実技	学期	前期	対象	美３年					
授業概要														
２年次で修得した各分野の様々な素材・技法による表現方法を踏まえ、３年次からコース制に移行し前期に各自が選択履修する科目の中から、卒制を１番に考えているジャンルの内容を深め、素材研究や各種技法の研鑽に努めさせる。そのことにより、後期技法研究Ⅱa,b,cを選択するにおいて卒業研究に向かう選択肢の精査を助長させる。各自、今までに修得した技法をより主体的に深く掘り下げ、研究・制作に取り組めるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・卒制に繋がる科目の素材研究、技法研究が深められる。					○		○							
・より主体的に物事を捉え研究・制作に打ち込められる。					○		○							
・横断的にジャンルを越えた制作も視野に考えられる。					○		○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス					事前に各授業科目Ⅲの中で詳細を話す。									
2.課題制作Ⅰ 課題の説明 素材・技法・テーマ設定														
3. 材料準備・アイデア検討														
4. 試作														
5. 制作														
6. 修正														
7 仕上げ・完成.														
8. 講評会														
9.課題制作Ⅱ 課題の説明 素材・技法・テーマ設定														
10. 材料準備・アイデア検討														
11. 試作														
12. 制作														
13. 修正														
14. 仕上げ・完成														
15. 講評会・プレゼンテーション														
履修上の注意														
非常勤講師担当科目を履修する学生は、生活美術学科教員より指導を仰ぐこととする。														
成績評価方法・基準														
課題作品５０％ 平常点(授業態度、取り組みの姿勢等)５０％														
教科書 事前にプリント配布														
参考書 随時紹介する														
備 考														
オフィスアワーを利用し、各教科の教員に質問等を積極的におこなうこと。														

授業科目名		技法研究Ⅱ（洋画）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	北折 整		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年				
授業概要														
洋画Ⅲの学修を踏まえ、主体的に洋画表現を深め、個人の課題を十分意識した制作を指導する。従って3課題のすべてを自由制作とし、使用する画材料なども任意とする。そして、これまで学んできた専門的技術及び表現材料を活用した、個人の内面的なテーマ及びコンセプトの表現を実現させる。また、洋画表現の構成要素(作品の造形性、制作行為、発表活動、自己及び社会に及ぼす影響等)への包括的な理解を促がし、表現行為の意義を理解させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・洋画表現の意義を社会・文化等との関係において理解することができるようになる。							○							
・主体的・専門的な表現方法・技術による美術表現を自己実現につなげていくことができるようになる。							○							
・美術活動(制作)を行うことで、社会の諸相に対する多様な視点を獲得することができる。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）／任意									
1. 授業の説明／制作Ⅰ：課題の説明					課題に使用する画材の準備									
2. 制作Ⅰ：自由制作(制作の意図の決定、エスキース制作)					課題の継続制作									
3. 〃：〃（色彩計画決定、描画／着彩）					〃									
4. 〃：〃（描画／着彩／仕上げ）					〃									
5. 〃：講評														
6. 制作Ⅱ：自由制作(制作の意図の決定、エスキース制作)					課題の継続制作									
7. 〃：〃（色彩計画決定、描画／着彩）					〃									
8. 〃：〃（描画／着彩）					〃									
9. 〃：〃（描画／着彩／仕上げ）					〃									
10. 〃：講評														
11. 制作Ⅲ：自由制作(制作の意図の決定、エスキース制作)					課題の継続制作									
12. 〃：〃（色彩計画決定、描画／着彩）					〃									
13. 〃：〃（描画／着彩）					〃									
14. 〃：〃（描画／着彩／仕上げ）					〃									
15. 〃：講評														
履修上の注意														
・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。														
・講評会時は自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。														
成績評価方法・基準														
・課題(90%)と授業態度(10%)。														
・課題については、授業中にフィードバックを行う。														
教科書：特に指定しない。														
参考書：随時参考となる画集等を紹介する。														
備 考														
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。														

授業科目名	技法研究Ⅱ（彫刻）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	佐藤 淳一		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年			
授業概要													
3年生前期までの造形思考、技術をさらに深化させて自己の造形思考を磨き、作品として完成させて公募展、グループ展、個展で発表し、野外アート展を企画しながら、彫刻の可能性を研究させる。場と空間を意識するために身体感覚を活用し彫刻的感覚を鍛える。彫刻の造形要素である、場と空間、量感、動勢、表面をさらに研究し、アイデアスケッチやデッサンを重視し彫刻的造形力を鍛える。自己に合った素材を見出しその良さを場や空間にどのように活かせば良いのか研究させる。アイデアから展覧会実施までの作業を教授する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
実材彫刻による造形を展開できる							○						
場と空間を活かして彫刻を設置できる							○						
作業や企画・実施を他と協働して行うことができる							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、					シラバスを読む。課題提出								
2.作例研究（仙台市彫刻のある街づくり）					各作家作品集研究、課題提出								
3.作例研究（台原森林公園設置の彫刻）					各作家作品集研究、デッサン								
4.素材研究（石材、木材、金属、その他）					素材研究継続								
5.テーマ研究（現代日本の環境造形）					彫刻論、造形論研究、彫刻展研究								
6.場の研究1（デッサン、マケット制作）					制作継続								
7.場の研究2（設置空間研究）					制作継続								
8.制作1（面、塊と量感）					制作継続								
9.制作2（動勢）					制作継続								
10.制作3（全体と部分、空間）					制作継続								
11.制作4（細部、密度）					制作継続								
12.制作5（表面、密度）					作業到達目標まで進める								
13.制作6（地肌、密度）					作業到達目標まで進める								
14.制作7（作品と場）					作業到達目標まで進める								
15.講評会（プレゼン）					制作のまとめ作成								
履修上の注意													
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も自習する事。自分だけでなく他の人の作業の安全にも充分留意してください。													
成績評価方法・基準													
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%） 提出レポート 20%													
教科書 授業前に資料配布													
参考書 彫刻をつくる（美術出版社）ジャコモッティ（みすず書房）													
備考 1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。													

授業科目名	技法研究Ⅱ(洋画)				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	森 敏美		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年			
授業概要													
各自の制作を「ドローイング、着彩、構想表現(イメージ表現等)」の中から選択し、卒制および各自の目標に従って自己表現の可能性を模索し制作を行っていくことを指導する。													
制作にあたりテーマ性を見出すことは大事なので、よく話し合い、必要とあれば画集やネットで資料収集を積極的に行う。継承しつつ更に技術の修得を目指させる。着彩は油彩、水彩等を基本に応用力を高めさせる。構想表現は各自の世界観や構成力の表現技術を高めさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・表現力が高められる							○						
・描画技術の応用力を向上させられる							○						
・卒業制作へ向けての意識を向上できる							○						
授業計画の内容													
1.導入：科目の説明、授業方針等													
2.各自課題の設定研究 図書館、ネット等での画集等美術関連の検索													
3.各自課題の設定研究													
4.各自課題の設定研究													
5.各自課題の設定研究													
6.各自課題のエスキース制作													
7.各自課題のエスキース制作													
8.各自課題のエスキース制作													
9.各自課題のエスキース制作													
10.中間発表：教員或いは学生間との意見交換													
11.各自課題制作 パネル制作(下地含む)													
12.各自課題制作 本制作・全体像把握													
13.各自課題制作 描き込み													
14.各自課題制作 仕上げ													
15.各自課題制作 講評会													
履修上の注意													
卒制を意識し、個々が何を表現したいのか、常時使用可のアトリエを有効に使い意欲的に制作すること。													
成績評価方法・基準													
課題（制作）90％、平常点 10％（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）													
課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う。													
教科書 特に無し													
参考書 特に無し													
備 考													
授業等についての質問等はオフィスアワーの有効活用を推奨する。													

授業科目名	技法研究Ⅱ(壁画)				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	森 敏美		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年			
授業概要													
壁画Ⅰ.Ⅱ.Ⅲで修得したモザイク・ステンドグラス・フレスコ等の技法を核に、各自がどの壁画のジャンルで応用して制作できるのか模索させる。場合によっては横断的に技法を組み合わせることも視野に入れさせる。また、建築アートとして制作、設置にあたる際は現場調査、様々な部署における手続き等のコミュニケーション力や状況に応じた倫理的思考力、創造力等を身につけさせる。卒業制作を視野に入れ素材の吟味、制作過程の確認、完成への道筋等を話し合い個々の制作ノートを作成させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・壁画Ⅰ,Ⅱ、Ⅲで学んだ各技法の応用力を高められる。							○						
・壁画の具体的な制作認識を深めることが出来る。							○						
・様々な状況下でのコミュニケーション能力を高められる。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス:今まで取得した技法の中から選択し申告。					予め、何を選択するか検討する								
2.個々の計画表に従い、材料等の準備に入る。					予め材料等の用意発注を行う								
3.パネル等の準備および制作。													
4.下絵、マケット等の制作。													
5.本制作に入る前に教員との打ち合わせ。					制作ノートは準備しておく								
6.本制作に入る。													
7.壁画制作における材料の吟味。													
8.材料の加工。													
9.制作を進めてゆく。													
10.中間チェック。					制作における問題点等を挙げておく								
11.全体を見てゆく。													
12.終盤に入る。													
13.詳細のチェック。													
14.完成に入る。													
15.講評会。					反省点、総括をメモ取りしておく								
履修上の注意													
壁画Ⅲ、研究授業Ⅰを履修しておくことが望ましい。													
成績評価方法・基準													
課題(制作)90％、平常点10％（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）													
課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う。													
教科書〕資料配布(壁画制作の手引き)													
参考書 図書館、壁画工房内の壁画関連の図書													
備 考													
空き時間を利用し、制作を行う。オフィスアワーの時間も有効に活用し質問等を行うこと。													

授業科目名	技法研究Ⅱ(視覚デザイン)				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	三上 秀夫		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年			
授業概要													
デザインによる卒業制作を意識した素材研究・技法研究を行わせる。個別指導を中心に、各自テーマを設定し取材・調査を通してデザイン制作を行わせる。中間発表や最終プレゼンテーションはグループで行わせる。これまで獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につけさせる。具体的には「イメージの視覚化」「プレゼンテーション」の能力を身につけることで、自分のイメージを形にし、発表することができるようにさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
高度な専門知識を身につけ、美術を学ぶ意義を文化・自然・社会と関連付けて理解ことができる							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 課題1「各自テーマを設定」テーマ設定					調査、資料収集を行う。								
2. 「各自テーマを設定」情報収集 技法・素材研究													
3. 完成予想（図やマケット） 制作 材料準備					材料の購入を済ませておく。								
4. 制作 基本構造 制作 中間構造													
5. 制作 細部・表面 制作 仕上げ													
6. 制作 設置計画					発表の手順等、準備をする。								
7. 発表 手直し 講評・まとめ					発表後の手直しをする。								
8. 課題2「各自テーマを設定」課題説明 「各自テーマを設定」テーマ設定					調査、資料収集を行う。								
9. 「各自テーマを設定」情報収集 技法・素材研究													
10. 完成予想（図やマケット） 制作 材料準備					材料の購入を済ませておく。								
11. 制作 基本構造 制作 中間構造													
12. 制作 細部・表面 制作 仕上げ													
13. 制作 設置計画 制作 設置													
14. 発表 手直し					発表の手順等、準備をする。								
15. 講評・全体のまとめ					発表後の手直しをする。								
履修上の注意													
用具、材料については授業でその都度指示する。													
成績評価方法・基準													
提出課題 40%（必ず提出すること）、授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。提出された課題は、講評会において受講者全員で内容を確認する。（フィードバック）													
教科書 無し 授業時にプリントを配布する													
参考書 無し													
備考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名	技法研究Ⅱ(論文)			単位 (総授業時間＋自習時間)					2(60)			
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美3年			
授業概要												
①興味の対象について調査し、調査した内容をまとめるだけの文章表現から一歩抜けだすこと、仮説を立て、その仮説を立証するための文章を作成することを支援する。②主体的にテーマを選択させ、結論の推論を支援する。③設定したテーマと結論までの推論について検証させ、論旨の適正について評価を促す。④エッセーの基本的要素と構成について教授する。⑤複数のテーマから一つを選択させアウトラインを基に、エッセーの執筆を指導する。⑥エッセーに関するプレゼンの機会を設け、質疑応答を行う。												
授業の到達目標				学位授与の方針との関連								
				1	2	3	4	5	6	7	8	9
論文のテーマを設定できる。						○						
論文を構成できる。						○						
論旨を的確に展開できる。						○						
授業計画の内容				自習 (事前・事後学修の内容)								
1. オリエンテーション：「レポートから論文へ」				エッセーテーマの列記								
2. (仮) テーマ設定				エッセー結論の推論 (レポート)								
3. 結論推論				テーマと推論の自己評価 (レポート)								
4. テーマと推論の評価				ワークシート記入								
5. テーマ決定				アウトライン (案) 作成								
6. アウトライン (作成)				ワークシート記入								
7. トピック (事例)				序章 (トピックパラグラフ案) の作成								
8. トピック (作成)				ワークシート記入								
9. ボディー (事例)				ボディー (ドラフト) 作成								
10. ボディー (作成)				ワークシート記入								
11. コンクルージョン (事例)				結論 (案) の作成								
12. コンクルージョン (作成)				ワークシート記入								
13. リファレンスの書き方				参考文献一覧の作成								
14. アブストラクトの書き方				要旨の作成								
15. まとめ (プレゼン)				ワークシート記入								
履修上の注意 毎回、課題を提示します。												
成績評価方法・基準												
提出課題の内容：70％(フィードバックを行う) ・プレゼンテーション:30％(フィードバックを行う)												
教科書 その都度、資料を配布する。												
参考書 その都度、資料を配布する。												
備 考 オフィスアワー (後期) 火曜日 10：00～11：00 火曜日 14：00～15：00												

授業科目名	技法研究Ⅱ（情報デザイン）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	鶴巻 史子		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美3年			
授業概要													
技法研究Ⅱでは、情報デザインに関する表現と技法について主体的に研究、制作に取り組む。幅広い知識と技術、表現力を習得し、ユーザが価値を感じる出来事に着目したデザインを構築する。情報コンテンツやインタラクションについてリサーチを行い、ユーザに必要な経験は何か、必要な情報をどのように提示すれば良いか等、専門的な課題に取り組み、創造力と実践力を身につけられるよう指導し、プレゼンテーションを通して他者や社会へ向けて制作意図を伝える方法について教授する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
主体的に課題を見つけ研究と制作に取り組むことができる							○						
プレゼンを通して他者へ制作意図を伝えることができる							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
2. 研究テーマ設定					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
3. 研究テーマに関する調査					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
4. 研究計画の作成					研究計画の調査、制作プロセスまとめ								
5. アイデアスケッチ					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
6. モックアップ制作					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
7. デザイン検討					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
8. 制作 素材					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
9. 制作 CG					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
10. 制作 UI,UX					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
11. 中間プレゼンテーション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
12. デザイン再検討					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
13. 仕上げ					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
14. プレゼンテーション					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
15. リフレクション					プレゼンまとめ、制作プロセスまとめ								
履修上の注意													
デジタルデザインⅠ・Ⅱを履修していること。制作データは USB メモリ等に保存し持参すること。材料費(500円～1000 円程度)を徴収する。													
成績評価方法・基準													
課題制作 90%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）10% 作品課題については、授業中にフィードバックする。													
教科書 適宜指示する													
参考書 プリントを配布する、適宜指示する													
備 考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		技法研究Ⅱ（版画）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	大堀 恵子		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美3年				
授業概要														
版画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修した版の原理を基に、各自の制作を通して独自の作品制作を確立させる。間接的な素材と製版工程、印刷工程を経ることによって絵画表現とは異なった表現効果があり、これらの試行錯誤を自身の制作ノートの中に記録として残し、学内外への展示を通して自己の作品を客観視できる能力と、より専門分野についての深い理解力と、作品制作においての創造的思考力を総合的に活用させ、制作の充実がはかれるように指導する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
版の基礎的な技法と工程を理解し身につけることができるか								○						
展覧会を見て、調べた情報を整理し制作に生かす技術を習得することができるか								○						
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができるか								○						
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス						記録するための制作ノートを用意する								
2. 学内外用作品制作－テーマ・エスキース						第2回作業内容をまとめ次回提出								
3. 版制作						第3回作業内容をまとめ次回提出								
4. 製版						第4回作業内容をまとめ次回提出								
5. 試刷り						第5回作業内容と課題をまとめ次回提出								
6. 本刷り						第6回作業内容と課題をまとめ次回提出								
7. プレゼンテーション						第7回作業内容をまとめ次回提出								
8. 学内外用作品制作－テーマ・エスキース						第8回作業内容をまとめ次回提出								
9. 版制作						第9回作業内容をまとめ次回提出								
10. 製版						第10回作業内容をまとめ次回提出								
11. 試刷り						第11回作業内容と課題をまとめ次回提出								
12. 本刷り						第12回作業内容と課題をまとめ次回提出								
13. 本刷り－支持体検討						第13回作業内容と課題をまとめ次回提出								
14. プレゼンテーション						第14回作業内容をまとめ次回提出								
15. 講評会						講評会の内容をまとめること。半期の授業の感想を400字でまとめて、制作ノートといっしょに提出すること。								
履修上の注意														
制作ノートにそれぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録すること。														
成績評価方法・基準														
1 提出課題（50％） 2 制作ノート（30％） 3 平常点（取り組む姿勢、意欲 20％）														
教科書 授業前にプリントを配布する														
参考書 なし														
備 考														
ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。														

授業科目名		技法研究Ⅱ（染織）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	三浦 輝子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年				
授業概要													
染織Ⅰ～Ⅲの染織実習から習得した技法を選択し、綿密に作業計画を立て、イメージを具現化して制作を行う。4 年次の卒業研究を踏まえ、技法・材料研究を行い、制作過程に必要なプロセスを確認し、論理的展開力を身に付けられるよう指導する。授業形態はアクティブラーニングを導入し、提案・検討を重ね、活発な意見交換を通じて協働して学ぶ態度を養い、社会に即応できる能力の向上を図る。ポートフォリオの作成・発表を行い、各自のテーマ、デザイン性を深めると共に、表現に必要な課題を発見・解決できるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
制作過程に必要なプロセスを理解し、技術を身につける。							○						
染色及び織に関する専門的な知識・技術を身につける。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 授業概要					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
2. 研究内容の設定					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
3. 参考資料収集① 技法について					技法に関する研究・制作ノートのまとめ								
4. 参考資料収集② 素材について					素材に関する研究・制作ノートのまとめ								
5. 下図作成					下図作成・制作ノートのまとめ								
6. 下図原寸拡大					下図作成・制作ノートのまとめ								
7. 染料・素材の決定					素材に関する資料準備・制作ノートのまとめ								
8. 整経					制作準備・制作ノートのまとめ								
9. 箆通し					制作準備・制作ノートのまとめ								
10. 綜統通し					制作準備・制作ノートのまとめ								
11. 織り①（下部）					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
12. 織り②（中央部）					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
13. 織り③（上部）					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
14. 端糸の始末 仕上げ					講評会用備品準備・制作ノートのまとめ								
15. 講評会					講評会準備・制作ノートを完成させる								
履修上の注意													
染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。 作品に使用する材料は、各自購入すること。													
成績評価方法・基準													
提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。 作品課題については、授業中にフィードバックします。													
教科書 授業前にプリントを配布する。													
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200 円〕													
備 考													
受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。 質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		技法研究Ⅱ（陶芸）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	立花 布美子		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年				
授業概要														
前半の課題として、ろくろ成形において更に高度な技術を修得するため、大物水挽きを返反復練習し、様々な表現ができるよう指導する。後半の課題として、様々な素材による制作方法（ろくろ制作、オブジェ）、装飾を試み、卒業研究へと繋げていく授業である。前半ろくろ制作では決められた粘土量での水挽き、亀板の使用を条件とし、大物制作のための土殺し方法の水挽き練習を繰り返させる。大物制作の窯詰め方法を教授し、卒業研究時には各自が窯詰め作業をスムーズに行えるよう判断力を身につけ、研究計画を立てられるよう指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ろくろ制作において高度な技術の修得、知識理解を深めることができる。							○							
大物制作においての表現、想像力を身につけ、意欲的に取組むことができる。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス 菊練り練習（3～5kg）					様々な大物ろくろ挽き法について予習									
2. 電動ろくろ成形（亀板使用）大物土殺し練習					道具(ダンゴ、亀板)について予習									
3. 各自粘土の種類を選択 大物土殺し練習														
4. 大物土殺し練習 ダンゴの使用														
5. ①-1 中鉢・大鉢 制作					様々な形の名称を予習									
6. ①-2 削り仕上げ														
7. ②-1 大皿・ドラ鉢 制作														
8. ②-2 削り仕上げ														
9. ③-1 壺 制作														
10. ③-2 削り仕上げ 卒業研究制作内容のディスカッション					様々な素材、装飾法など資料収集しておく									
11. ①各卒業研究内容に応じた制作														
12. ②各卒業研究内容に応じた制作														
13. ③各卒業研究内容に応じた制作、仕上げ														
14. ④各卒業研究内容に応じた制作、仕上げ														
15. 窯出し 講評 卒業研究内容の検討等					まとめ									
履修上の注意														
各自の計画表に沿って作業を進めること。														
遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする。														
成績評価方法・基準														
授業参加状況 50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品 50%														
各課題について、講評会でフィードバックを行う。														
教科書 授業前にプリントを配布する														
参考書〔新技法シリーズ102 陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3,024 円〕 〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7,344 円〕														
備 考														
作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。														
質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		技法研究Ⅱ（日本画）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	及川 聡子		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年				
授業概要														
展示・発表の段階までを視野に入れた企画立案、および作品制作の実習を行わせる。個々のテーマを効果的に伝えるための展示空間を想定し、空間演出の観点によって作品点数やサイズ、配置方法などを計画した上で制作を行わせる。複数作品の組み合わせ、または 20 号サイズ以上の作品 1 点の制作を課題とさせる。日本の生活・文化・建築などと深く関わりながら進化を遂げた様式美としての日本画を念頭に置き「現代の表現としてその技法をどう活かすか」という視点を養わせる。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
「現代における日本画」の意味を考察できる。								○						
自己のスタイルを模索できる。								○						
展示空間を意識する感覚を養うことができる。								○						
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. 導入 科目の説明						東洋、日本の絵画の鑑賞。								
2. 構想						モチーフやテーマの模索。								
3. 展示図面作成						出来るだけ対象を観察し描写をする。								
4. エスキース（小下図）制作開始						観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。								
5. エスキース（小下図）制作仕上げ						デッサンを常に見返しておくこと。								
6. 意図と計画の説明 水張り						仕上がりイメージし、構図とともに細部も確認する。								
7. トレース						骨描きのため線の引き方を練習する。								
8. タブロー（本画）骨描き						墨のぼかしの練習をする。								
9. タブロー（本画）墨による陰影描き込み						墨の陰影の適確さと美しさの確認。								
10. タブロー（本画）墨による陰影仕上げ						備品の技法書等で下地について下調べをしておく。								
11. タブロー（本画）下地作り・下塗り						備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べをしておく。								
12. タブロー（本画）水干及び岩絵の具による制作開始						出来るだけ制作を進める。膠の管理。								
13. タブロー（本画）水干及び岩絵の具による描き込み						出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。								
14. タブロー（本画）水干及び岩絵の具による仕上げ						描き始めのイメージを思い起こし、現状をよく認識する。								
15. 講評						難しかった点、努力した点をまとめておく。								
履修上の注意														
丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。														
毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。														
成績評価方法・基準														
課題作品 70％（完成度 50％ 意図・発想 20％）														
授業態度 30％（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）														
講評会等でフィードバックを行う。														
教科書：無し														
参考書：無し														
備 考														
授業日 12 時半から 13 時までをオフィスアワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。														

授業科目名		技法研究Ⅱ（木工）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)			
担当者	落合 里麻		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年			
授業概要													
本授業では、引き出し付きの家具を制作する。この課題では、本体の構造をしっかりと作る技術とともに、引き出しの部分には細かい設計や繊細な加工技術が求められる。それらの技術を習得できるよう、指導する。また、複数の塗装方法を紹介・解説し、手板を使って実験することで木の表情の変化について学ぶ。大きさ、色、光沢感、使い勝手など、様々な要素が最終的には一つの家具の中に収まることになるが、それらのバランスが取れた完成度の高い仕上がりになるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
ほぞ組みや板矧ぎなど、木材の基本的な接合技術を習得する							○						
制作図や木取り図の作成、模型の制作を通して、計画的に作業を進める能力を身につける。							○						
木の特徴を理解し、見た目の美しさだけでなく日常生活での使用に耐える設計技術を習得する。							○						
塗装を工夫し、完成度の高いデザインと仕上げを行う。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 課題内容の説明、家具のつくりとデザイン、塗装について					家具の寸法や構造等について調べる								
2. アイディアスケッチ、塗装実験					デザインを考える。模型を複数制作する								
3. 模型の制作、デザインの確定					図面の描き方を参考書等で予習する								
4. 制作図を描く					制作図を仕上げる								
5. 木取り図、部材図を描く					木取り図、部材図を仕上げる								
6. 部材取り、墨付け、加工					道具の準備と調整を行う								
7. 墨付け、加工					制作を進める。道具の刃を研いでおく								
8. 墨付け、加工					色漆を決定しておく								
9. 墨付け、加工					〃								
10. 墨付け、加工					〃								
11. 墨付け、加工					〃								
12. 墨付け、加工					〃								
13. 細部の調整					〃								
14. 仕上げの研磨					制作を進める								
15. 塗装、講評					〃								
履修上の注意													
・作業に適した服装で履修すること。 ・材料と手道具を各自で購入する必要があるため、その点を考慮して履修すること。 ・授業外に制作を進めておくこと。													
成績評価方法・基準													
課題作品 80%、授業態度 20%で評価する。講評会でフィードバックする。													
教科書 特に定めない。													
参考書 〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔(株) ポーンデジタル〕〔2,700 円〕〔木材工芸用語辞典（増補版）〕〔成田壽一郎〕〔理工学社〕〔2,782 円〕													
備 考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。													

授業科目名		技法研究Ⅱ（漆芸）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)			
担当者	井上 直美		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年			
授業概要													
漆芸の中でも高度とされる乾漆技法を学ばせ、造形としても展開できる漆の特性と可能性を追求させる。個性の表現を楽しみながら表現出来る力を身に付けさせる為に、後期は前期に制作した作品の塗りや加飾、仕上げを指導する。乾漆の素地を脱乾し、整えながら表と裏を塗り重ねて行く。黒塗りが完成したら色漆塗りや色漆を使った変わり塗り、蒔き絵（螺鈿、卵殻も含む）、漆絵などで施色や加飾をさせる。加飾は自由課題とし、漆による様々な表現と意匠力を養わせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
脱乾を正確に出来る。							○						
曲面など柔軟な面に対して研ぎと塗りを完成させる事が出来る。							○						
作品に対して効果的な加飾が出来る。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.脱乾・縁の調整・固め・黒中					脱乾出来る様に縁の始末を終了させておく								
2.捨て塗り					脱乾を終了させておく								
3.研ぎ 黒中1 内					脱乾面を固めておく								
4.研ぎ 黒中1 外					外側の捨て塗りを終了させる								
5.研ぎ 黒中2 内					内側の捨て塗りを終了させる								
6.研ぎ 黒中2 外					捨て 塗り 研ぎを追加しておく								
7.色漆塗り 内1					黒中の塗りと研ぎを追加しておく								
8.色漆塗り 外1					色漆を決定しておく								
9.貝 卵殻 貼り					色漆を練って濾しておく								
10.塗り込み1					貝、卵殻、貼りを完成させておく								
11.研ぎ出し 述べ摺り					研ぎ出しを終了させておく								
12.生摺り1					述べ摺りの追加をしておく								
13.生摺り2					生摺りの追加をしておく								
14.磨き 蒔き絵 銀粉 金粉					蒔き絵を完成させておく								
15.仕上げ					仕上げ工程を終了させる								
履修上の注意													
作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる。													
成績評価方法・基準													
授業態度（50%）⇒意欲、積極性、理解度など													
作品進度（50%）⇒完成度、デザイン、センス、個性の表現													
講評会でフィードバックする。													
教科書 授業中に適宜資料を配布します。													
参考書 〔やさしく身に付くうるしのはなし1・4〕〔日本漆工協会〕〔2,160円〕													
備 考													
質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。													

授業科目名		技法研究Ⅱ（グラスアート）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	森合 暢子		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年			
授業概要													
グラスアートⅠで得た耐熱ガラスの知識と基礎的な酸素バーナーワークの技術を、よりステップアップした、色の組み合わせや耐熱ガラスの副資材を使った高度な技術を教える。講師が生徒の要望に沿った実演をすることで具体的なイメージが沸き、生徒が自分の世界観を耐熱ガラスで自由に表現できるように指導する。また電気炉を使った除冷方法や、フュージングというガラス製作技法も教える。さらに下に敷く布の素材やアクリル展示台など展示方法のアドバイスもし、ガラスの美しい魅せ方も指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
①さらに安全確実なバーナーの取り扱いが出来るようになる。							○						
②高度なバーナーワーク技法を習得する。							○						
③自分でイメージした世界観をガラスで作れるようになる。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. ガイダンス 授業の流れの説明 製作実演					指定する参考書かガラス関連の本に目を通しておく。								
2. 安全な作業の手順 （復習）ガラスを熔かす。					配布したプリントを読んでおく。								
3. ガラスを熔かし自由造形をする					事前に参考書籍やプリントを読む。								
4. 基本動作の確認					事前に参考書籍やプリントを読む。								
5. リクエストの実演 上級テクニック					事前に作りたい物の絵や資料を用意する。								
6.	"		(例) 立体花		“								
7.	"		(例) ウミウシ		“								
8.	"		(例) ペンギン		“								
9.	"		(例) マンボウ		“								
10.	"		(例) ブードル		“								
11.	"		(例) 雪の結晶		“								
12.	"		(例) ガラスビーズ		“								
13.	"		(例) タツノオトシゴ		“								
14. 自由制作					事前に展示方法を考える								
15. 講評会					授業後、皆の作品と自分の作品の違いを見て、まとめる								
履修上の注意													
安全のため、服装や髪型（結ぶ）など講師の指示に従うこと。													
成績評価方法・基準													
授業中の態度（50％）													
制作への姿勢（50％）講評会での作品はその日のうちに返却します。講評会でフィードバックを行います。													
教科書 プリント配布													
参考書〔家庭ガラス工房バーナーワーク〕〔松村潔〕〔ぼるぷ出版〕〔2,800 円〕													
備 考・材料費を徴収。													
・質問等は授業中に受け付けます。													

授業科目名		技法研究Ⅱ（人形）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)			
担当者	福田 一実		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年			
授業概要													
人形Ⅰ～Ⅲで習得した技術を基に、オリジナルの球体関節人形を制作させる。また、人体の造形についても追求し作品としての完成度をあげられるよう指導する。作品はイメージをふくらませて実寸大でデッサンをさせ、設計図を作り、人形のキャラクター、人形の在り方について考えながら、球の分割も含めて自分の表現が出来るように指導する。サイズは 50 c m以上を 1 体か 50 c m以内の自由なサイズ 2 体のいずれかの球体関節人形を完成させる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
人形の造形について研究しながら学ぶことができる。							○						
球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。							○						
オリジナルな人形を完成させる。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1.授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。					完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。								
2. 下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。					解剖学の本などを参考にし人体の研究をする。								
3.芯を削り、形を作る。													
4. 粘土を練り芯材に 3～5 mm厚さに粘土を巻く。					しっかり乾燥させてくる。								
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。					顔の造形、表情について観察してくる。								
6. 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。					やすりがけ								
7.足、脚の造形。					やすりがけ								
8. 乾燥させ、すべてを磨く。関節部を切断。					やすりがけ								
9. 芯材を抜き、頭部に瞳を入れ、頭部に耳を造形する。球を作る。					やすりがけ								
10. 球を磨き、各関節に固定する。頭部を閉じる。					穴を開ける場所をしっかりと確認する。								
11. 球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。					全体のバランス確認。								
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。					細かなキズなどをチェックする								
13. 塗装する。着色、メイク。					メイクのイメージ、資料集め								
14.髪を貼る。					ヘアスタイルのイメージ、資料集め								
15.組み立て完成させる。講評。													
履修上の注意													
人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。													
成績評価方法・基準													
課題作品 50%、授業態度 50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講評会でフィードバックします。													
教科書〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2,880 円〕													
参考書〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2,700 円〕 〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2,000 円〕													
備 考													
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明します。													
質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。													

授業科目名		技法研究Ⅱ（マンガ）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60)				
担当者	鹿野 明子		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美3年				
授業概要														
読者に与える感情効果を的確に行うための指導を行う。その為に先人の漫画家の諸先生達が築き上げたマンガの幅広い技術とよりよい表現を修得する為、例を挙げて示し自ら考え実践できるよう指導する。 マンガを構成する重要な要素「画力」「ストーリー」「ロジック」のスキルアップをねらった課題を課す。 画力を上げる為のデッサンやイラスト力の基礎の大切さを理解させる。ストーリーを作成するための方法を指導する。マンガにおけるロジックの実例を示し説明する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
マンガ作品を制作する事で他者を楽しませ、社会と関わる事が出来る。								○						
主題が伝わる技術と表現を考察試行し身につけられる。								○						
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス 技法研究1 人体と表情														
2.技法研究2 パースペクティブ														
3.技法研究3 質感とオブジェクト														
4.制作Ⅰ 構想（ストーリー）														
5.制作Ⅱ シナリオ														
6.制作Ⅲ シナリオのチェックと修正 ネーム①														
7.制作Ⅳ ネーム②														
8.制作Ⅴ ネームのチェックと修正														
9.制作Ⅵ ペン入れ① 枠線、ふきだし、人物・1														
10.制作Ⅶ ペン入れ② 人物・2、背景・1														
11.制作Ⅷ 背景・2														
12.制作Ⅸ 演出（ロジックの導入）														
13.制作Ⅹ 仕上げ①														
14.制作Ⅺ 仕上げ②														
15.まとめ、講評会（学生にフィードバックを行う）														
履修上の注意														
自身に合った画材を用意する。必須ではないが、デザイン・絵画・製図の知識と技術は課題の作成の大きな力となる。興味のある分野の研究をし深い知識を得られること。制作に必要な事象の調査取材ができること。 遅刻3回で欠席1とする。														
成績評価方法・基準														
課題作品 70％ 授業態度 30％														
教科書 なし														
参考書 なし														
備 考 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。オフィスアワーはガイダンスにて公表する。														

授業科目名		卒業研究Ⅰ(洋画)				単位(総授業時間＋自習時間)				6(90＋90)			
担当者	北折 整		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年			
授業概要													
大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、卒業制作(洋画)の予備的な制作を指導する。洋画Ⅲ及び技法研究(洋画)の履修を踏まえ、個人の課題に沿って主体的に制作を進めさせ、課題発見から構想、制作までのプロセスや計画を立案させる。従って、都度制作上の問題点を明確にし整理するために、「制作ノート」の作成を課す。また、制作にはある程度の完成度が要求されるが、卒業研究Ⅱに繋がることを意識させ、美術表現の意義についても十分に理解をさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・これまでの総ての学修を統合し、洋画表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができるようになる。							○					○	
・主体的に専門的な表現方・技術による美術表現を自己実現につなげていくことができるようになる。							○						○
・美術活動(制作)を行うことで、生活文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。							○						
授業計画の内容					自習(事前・事後学修の内容)								
1～3.授業の説明					過去課題等のまとめ								
4～6.過去学修の振り返り、資料収集、計画立案等					関係資料等のまとめ								
7～9.ドローイング制作(テーマ設定)					課題の継続制作(ドローイング)								
10～12. 〃 (表現技術の確認)					〃 (画材の選択)								
13～15.制作Ⅰ(エスキース制作等)					課題の継続制作・制作ノート作成(計画)								
16～18. 〃 (描画)					〃 (描写)								
19～21. 〃 (描画／仕上げ／講評)					〃 (仕上げ)								
22～24.制作Ⅱ(エスキース制作等)					課題の継続制作・制作ノート作成(計画)								
25～27. 〃 (描画)					〃 (描写)								
28～30. 〃 (描画)					〃 (描写)								
31～33. 〃 (描画／仕上げ／講評)					〃 (仕上げ)								
34～36.制作Ⅲ(エスキース制作等)					課題の継続制作・制作ノート作成(制作Ⅲ)								
37～39. 〃 (描画)					〃 (描写)								
40～42. 〃 (描画)					〃 (描写)								
43～45. 〃 (描画／仕上げ／講評)					〃 (仕上げ)								
履修上の注意													
・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。 ・講評会時は自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。													
成績評価方法・基準													
・課題(90%)と授業態度(10%)。 ・課題については、授業中にフィードバックを行う。													
教科書 特に指定しない。													
参考書 随時参考となる画集等を紹介する。													
備考・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。													

授業科目名		卒業研究Ⅰ（彫刻）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)		
担当者	佐藤 淳一		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年		
授業概要												
３年間で修得した造形思考、技術をさらに深化・発展させて自己の造形思考を磨かせる。彫刻作品として今までの研究成果を完成させ、卒業制作展で発表させる。そのなかで現代彫刻としての可能性を研究させる。彫刻の基礎的造形要素や空間を意識した、場と空間、量感、動勢、表面、をマケットにより試行し研究する。アイデアスケッチやデッサンを重視し充分に自己のイメージを制作ノートに展開する中で、創造力を鍛える。自己に合った素材を見出しその良さをどのように引き出せば良いか試行し、研究させる。アイデアから制作までの作業を教授する。												
授業の到達目標					学位授与の方針との関連							
					1	2	3	4	5	6	7	8
実材彫刻による造形を発想し展開できる							○				○	○
設置場所に対して意識し彫刻を構想できる							○				○	○
作業を他と協働して行うことができる											○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
１～３回.授業内容、卒制の動機付け、評価方法説明、					シラバスを読む。課題提出							
４回、意識の確立、地域と自己作品の関係性、制作ノート					各作家作品集研究、課題提出							
５～８回、テーマ研究（現在までの卒業制作、彫刻）					各作品集研究、デッサン（制作ノート）							
９～１２回テーマ研究（他の卒業研究）					各作品集研究、デッサン（制作ノート）							
１３～１５回.テーマ設定（自己作品の振り返り）					彫刻論、造形論研究、彫刻展研究							
１６～１８回テーマ設定（空間研究、場）					彫刻作品研究、アートプロジェクト研究							
１９回テーマ確認 デッサン、構想					制作継続、制作ノート作成							
２０～２２回素材研究 粘土					制作継続、制作ノート作成							
２３～２５回素材研究 FRP					制作継続、制作ノート作成							
２６～２８回素材研究 テラコッタ					制作継続、制作ノート作成							
２９～３３回素材研究 石材					制作継続、制作ノート作成							
３４～３８回素材研究 木材					制作継続、制作ノート作成							
３９～４１回素材研究 鉄材					制作継続、制作ノート作成							
４２～４４回素材研究 その他					制作継続、制作ノート作成							
４５回 講評、中間審査					制作のまとめと今後の展開作成							
履修上の注意												
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も制作する事。充分担当と打ち合わせし、自分だけでなく他の人の安全にも留意して制作すること。												
成績評価方法・基準												
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%） 制作ノート（提出レポート含む） 20%												
教科書 授業前に資料配布												
参考書 授業前に資料配布												
備 考 ４年間の制作のまとめとして充分準備を行うこと。質問はオフィスアワーでも受け付けます。												

授業科目名	卒業研究Ⅰ（洋画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)				
担当者	森 敏美		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年			
授業概要													
４年間の集大成として、卒業研究Ⅱに向け個々の取り組むべき課題を整理し十分なディスカッションを通して、明確な方向性を示させる。制作ノートを作成することにより、主観的、客観的に卒制のあり方を見ることが出来るのでコンセプトをしっかりとノートを作り確認させる。個々の世界観を醸し出せるよう、資料収集を念入りに行い、エスキースを何度も練り、技法の吟味を行い、場合によっては適切な下地を施し、マチエールの確認等も含め数点の小作品の制作をさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・４年間の集大成を意識することで課題を浮き彫りにできる。							○					○	○
・制作ノートを作ることで、自己と社会の関わりを認識できる。												○	○
・エスキース制作により、技術的な問題が緩和できる。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1～3 回:導入:科目・課題の説明					計画表の作成(制作ノートを作る)								
4～6 回 資料収集・エスキース研究					図書館、ネット等の利用								
7～9 回 支持体・下地研究					パネル材料等の準備								
10～12 回 エスキース作成					日付等の記録をつける								
13～15 回 ディスカッション					反省点、改善点等の確認								
16～18 回 支持体・下地作成					パネル材料等の準備								
19～21 回 エスキース作成					日付等の記録をつける								
22～24 回 描画					全体を捉えてゆく								
25～27 回 描画仕上げ					詳細部の確認								
28～30 回 ディスカッション					反省点、問題点の確認								
31～33 回 支持体・下地作成					パネル材料等の準備								
34～36 回 エスキース作成					日付等の記録をつける								
37～39 回 描画					全体を捉えてゆく								
40～42 回 描画仕上げ					詳細部の確認								
43～45 回 プレ卒制講評会（フィードバックを行う）					卒業研究Ⅱに向けて総括する								
履修上の注意													
アトリエに各自のスペースが確保されているので、時間を有効に活用し、環境保全に努めること。													
成績評価方法・基準													
提出課題９０％（テーマ性、表現力、計画性、完成度等）、平常点１０％（授業態度、主体性等）													
教科書 特に無し													
参考書 図書館の画集等													
備 考													
オフィスアワーを有効活用し、卒制に関することを中心にわからないことは質問すること。													

授業科目名		卒業研究Ⅰ（壁画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)			
担当者	森 敏美		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年			
授業概要													
４年間の集大成として、卒業研究Ⅱに向け個々の取り組むべき課題を整理し十分なディスカッションを通して、明確な方向性を示させる。制作ノートを作成することにより、主観的、客観的に卒制のあり方を見ることが出来るのでコンセプトをしっかりとノートを作り確認させる。個々の世界観を醸し出せるよう、資料収集を念入りに行い、エスキースやマケットを何度も練り、技法の吟味を行い、場合によっては適切な下地を施し、マチエールの確認等も含め数点の小作品の制作をさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・４年間の集大成を意識することで課題を浮き彫りにできる。							○					○	○
・制作ノートの中で、作品と社会の関わりを認識できる。												○	○
・エスキース・マケット制作により、技術的に向上できる。							○						
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1～3回:導入:科目・課題の説明					計画表の作成(制作ノートを作る)								
4～6回 資料収集・エスキース・マケット研究					工房の書籍、ネット等の利用								
7～9回 支持体・材料研究					パネル材料等の準備								
10～12回 エスキース・マケット作成					日付等の記録をつける								
13～15回 ディスカッション					反省点、改善点等の確認								
16～18回 支持体・材料作成					パネル材料等の準備								
19～21回 エスキース・マケット作成					日付等の記録をつける								
22～24回 制作					全体を捉えてゆく								
25～27回 仕上げ					詳細部の確認								
28～30回 ディスカッション					反省点、改善点等の確認								
31～33回 支持体・材料作成					パネル材料等の準備								
34～36回 エスキース・マケット作成					日付等の記録をつける								
37～39回 制作					全体を捉えてゆく								
40～42回 仕上げ					詳細部の確認								
43～45回 講評会（フィードバックを行う）					卒業研究Ⅱに向けて総括する								
履修上の注意													
アトリエに各自のスペースが確保されているので、時間を有効に活用し、環境保全に努めること。													
成績評価方法・基準													
提出課題９０％（テーマ性、表現力、計画性、完成度等）、平常点１０％（授業態度、主体性等）													
教科書 特に無し													
参考書 壁画工房等の資料、画集													
備考													
オフィスアワーを有効活用し、卒制に関することを中心にわからないことは質問すること。													

授業科目名		卒業研究Ⅰ（視覚デザイン）			単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)					
担当者	三上 秀夫		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年				
授業概要														
これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用し、卒業制作に向けた新たな課題に自らが主体的に取り組ませる。４年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目的とし、作品づくりのための一連の計画の流れを確認させる。情報収集、計画、材料の確認、加工、制作を行わせる。実際の展示会場を意識したプレゼンテーションを授業の最後に行わせる。外に向けた発信を意識した作品研究を行い、卒業制作展で発表をさせる。卒業後も持続的な文化創造に関われる人材を目指せさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
高度な専門知識を身につけることができる。							○							
これまで獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につけることができる。													○	
これまで獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題を主体的に解決する能力を身につけることができる。														○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1～3. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）					調査、資料収集を行う。									
4～6. テーマ設定（調査方法、情報収集）検討 作業														
7～9. 完成予想（図やマケット）制作 材料準備					材料の購入をする。									
10～12. 完成予想 制作 基本構造 中間構造 細部・表面														
13～15. 完成予想 制作 仕上げ 設置方法 サイズ確認 発表														
16～18. 完成予想から実際の作業、制作 テーマ設定 調査														
19～21. テーマ設定 情報収集					発表の手順等、準備をする。									
22～24. テーマ発表 制作					発表後の手直しをする。									
25～27. 制作 進行・日程（発表） 制作ノート確認														
28～30. 制作 技法研究（技法確認）					材料の購入をする。									
31～33. 制作 材料準備（材料確認）														
34～36. 制作 材料準備（色彩計画）														
37～39. 制作 基本構造（計画）														
40～42. 発表 手直し					発表の手順等、準備をする。									
43～45. まとめ プレゼンテーション 卒業研究中間提出					発表後の手直しをする。									
履修上の注意														
用具、材料については授業でその都度指示する。														
成績評価方法・基準														
提出課題 40%、授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。														
教科書 無し 授業時にプリントを配布する														
参考書 無し														
備 考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名		卒業研究Ⅰ（論文）			単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)					
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年					
授業概要														
①「卒業論文」の意味と目的について考察を促す。②主体的にテーマを選択させ、結論の推論を支援する。 ③設定したテーマと結論までの推論について検証させ、論旨の適正について評価を促す。④論文の構成について、理解を促す。⑤テーマから一つを選択させアウトラインを基に、卒業論文の執筆を指導する。⑥卒業論文に関するプレゼンの機会を設け、質疑応答を行う。⑦対話を重視し、問題の発見から解決策の立案まで支援する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
問題を探求し、その問題に沿ったテーマを設定することができる。							○							
必要な参考資料等を収集／活用することができる。							○							
問題の分析及び、そのことに関する論理的な推論と考察ができる。							○							
テーマを的確に表現することができる。							○							
論旨を論理的に展開することができる。							○							○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1. テーマ案-1 確認する内容：テーマ設定の背景について					課題：テーマ設定									
2. テーマ案-1 確認する内容：予想される論旨の展開について					課題：論旨の展開予想									
3. テーマ案-1 確認する内容：予想される結論について					課題：結論の予想									
4. テーマ案-1 評価する対象：背景					課題：テーマ設定の背景に関する評価									
5. テーマ案-1 評価する対象：論旨					課題：予想される論旨の展開に関する評価									
6. テーマ案-1 評価する対象：結論					課題：予想される結論に関する評価									
7. テーマ案-1に基づくドラフト（序章）の作成					課題：評価に基づく修正									
8. テーマ案-1に基づくドラフト（本文）の作成					課題：評価に基づく修正									
9. テーマ案-1に基づくドラフト（結論）の作成					課題：評価に基づく修正									
10. テーマ案-2 確認する内容：テーマ設定の背景について					課題：テーマ設定									
11. テーマ案-2 確認する内容：予想される論旨の展開について					課題：論旨の展開予想									
12. テーマ案-2 確認する内容：予想される結論について					課題：結論の予想									
13. テーマ案-2 評価する対象：背景					課題：テーマ設定の背景に関する評価									
14. テーマ案-2 評価する対象：論旨					課題：予想される論旨の展開に関する評価									
15. テーマ案-2 評価する対象：結論					課題：予想される結論に関する評価									
16. テーマ案-2に基づくドラフト（序章）の作成					課題：評価に基づく修正									
17. テーマ案-2に基づくドラフト（本文）の作成					課題：評価に基づく修正									
18. テーマ案-2に基づくドラフト（結論）の作成 テーマ決定					課題：評価に基づく修正									
19. 論文全体の構成案の作成（序章）					課題：序章構成案作成									
20. 論文全体の構成案の作成（本文）					課題：本文構成案作成									
21. 論文全体の構成案の作成（結論）					課題：結論構成案作成									
22. 論文全体の構成案の評価（序章）					課題：序章構成案評価									
23. 論文全体の構成案の評価（本文）					課題：本文構成案評価									
24. 論文全体の構成案の評価（結論）					課題：結論構成案評価									

25. 論文全体の構成案の修正（序章）	課題：序章構成案修正
26. 論文全体の構成案の修正（本文）	課題：本文構成案修正
27. 論文全体の構成案の修正（結論）	課題：結論構成案修正
28. 論文全体の構成案の確定（序章）	課題：序章構成案作成
29. 論文全体の構成案の確定（本文）	課題：本文構成案作成
30. 論文全体の構成案の確定（結論）	課題：結論構成案作成
31. 序章の執筆指導（トピックパラグラフ）	課題：序章最初の段落の執筆
32. 序章の執筆指導（ボディ）	課題：序章 2 段落目以降の執筆
33. 序章の執筆指導（結論）	課題：序章最終段落の執筆
34. 序章の修正指導（トピックパラグラフ）	課題：序章最初の段落の修正
35. 序章の修正指導（ボディ）	課題：序章 2 段落目以降の修正
36. 序章の修正指導（結論）	課題：序章最終段落の修正
37. 序章の確認指導（トピックパラグラフ）	課題：序章最初の段落の確認
38. 序章の確認指導（ボディ）	課題：序章 2 段落目以降の確認
39. 序章の確認指導（結論）	課題：序章最終段落の確認
40. 全体のアウトライン（作成指導）	課題：全体のアウトラインの作成
41. 全体のアウトライン（修正指導）	課題：全体のアウトラインの修正
42. 全体のアウトライン（確認指導）	課題：全体のアウトラインの確認
43. 中間提出準備 1-提出書類作成	課題：提出書類作成
44. 中間提出準備 2-提出書類確認	課題：提出書類確認
45. 中間提出準備 3-プレゼン予行	課題：プレゼンのリハーサル
履修上の注意 対象：生活美術学科アートインストラクターコース生 テーマ：美術教育に関する内容（原則）	
成績評価方法・基準 テーマのオリジナリティ：30%、執筆過程：10% 内容：40%、プレゼンテーション：20%（フィードバックを行う）	
教科書 その都度、資料を配布する。	
参考書 その都度、参考資料を配布する。	
備 考 オフィスアワー（前期）月曜日 15：00～16：00 17：00～18：00	

授業科目名		卒業研究Ⅰ（情報デザイン）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)			
担当者	鶴巻 史子		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年			
授業概要													
卒業制作Ⅰ（情報デザイン）では、1～3年次に学んだ基礎科目・専門科目・応用科目の集大成としてさらなる発展を目的とし、個別に対話しながら研究と作品制作に取り組む。個々に制作計画を立案し、作業プロセスを組み立てながら実践することによって自己管理能力を養わせる。現代社会におけるデザインの役割について考察し、中間審査会に向けて、クオリティの高いデザインを構想できるよう個別に指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
デザインの役割について考察し、表現することができる。							○					○	
新しいデザインを発想し構築できる。												○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1回：ガイダンス					研究に関する調査、制作プロセスまとめ								
2～5回：研究テーマ設定					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
6～10回：研究テーマに関する調査					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
11～15回：研究計画の作成					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
16～20回：デザインスケッチ制作					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
21～25回：モックアップ制作					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
26～30回：デザイン検討					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
31～39回：本制作					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
40～42回：プレゼンテーション準備					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
43～44回：プレゼンテーション、講評					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
45回：中間審査会					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
					プレゼン準備								
					制作プロセスをデータにまとめる								
履修上の注意													
技法研究Ⅱ（情報デザイン）を履修していること。制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。													
成績評価方法・基準													
課題制作 90%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）10% 作品課題については、授業中にフィードバックする。													
教科書 適宜指示する													
参考書 プリントを配布する、適宜指示する													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		卒業研究Ⅰ（版画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)				
担当者		大堀 恵子		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年			
授業概要														
日本又は、諸外国の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べ、美術館、図書館を効果的に活用し日本の版画の伝統と文化に対する美術文化の理解を深め思考力、創造的実践力を高めさせる。これまでに版画Ⅰ～Ⅳで獲得した知識、技能、創造的思考力を総合的に活用し、作品のコンセプト、技法、支持体についての試作を重ね、制作ノートに記録し、主体的に制作に取り組み制作の充実が図れる能力を修得させる。 その卒業制作をとおして、社会の一員として責任を果たす生涯学習力を身につけさせる。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
版の基礎的な技法と工程を理解し身につけることができる								○						
展覧会を見て、調べた情報を整理し制作に生かす技術を習得することができる														○
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる													○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
１回 ガイダンス						記録するための制作ノートを用意する								
2～5回 テーマ設定・年間計画表作成（事前ポートフォリオを参考）						各作業ごとに内容をまとめ次回提出								
6～10回 制作・技法研究試作						各作業ごとに内容をまとめ次回提出								
11～15回 制作・支持体研究試作						各作業ごとに内容をまとめ次回提出								
16～23回 制作・原寸大イメージへ展開						各作業ごとに内容をまとめ次回提出								
24～34回 制作・版表現へ展開・描写						各作業ごとに内容をまとめ次回提出								
35～40回 制作・版表現へ展開・印刷						各作業ごとに内容をまとめ次回提出								
41～44回 制作ノートのまとめ（計画表、コンセプト、大きさ、版種、技法、支持体）						各作業ごとに内容をまとめ次回提出								
45回 中間審査						記録として残し制作に生かす								
履修上の注意														
制作ノートにそれぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録すること。ポートフォリオを作成のための文章能力、PCの技術を習得する。														
成績評価方法・基準														
1.提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度 80％） 2.制作ノート又はポートフォリオ（20％） 作業内容のまとめは授業中にフィードバックをします。														
教科書 授業前にプリントを配布する														
参考書 画集等を紹介する。														
備 考														
ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。														

授業科目名		卒業研究Ⅰ（染織）			単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)				
担当者	三浦 輝子	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美4年				
授業概要													
技法研究Ⅰ・Ⅱで設定した研究テーマを基に材料研究・試作等を行う。制作意図を明確にし、綿密な計画をたて、4年間の集大成として完成度の高い作品を制作できるよう指導する。制作のみに留まらず、必要に応じて繊維製品関連施設の課外研修等を実施し、社会に即応した実践力を身に付け、地域社会に貢献できる能力の習得・向上も図ることができるよう指導する。これまでに獲得した染織に関する知識・技能等を総合的に活用し、自らが立てた計画を適用し、その課題を主体的に解決する能力を養えるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
染織に関する高度な専門知識を身につける。							○					○	○
制作計画を適用し、自ら主体的に課題を解決する能力を身につける。							○						○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1回：ガイダンス 課題説明					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
2回～3回：研究内容の設定					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
4回～10回：参考資料収集					参考資料収集・制作ノートのまとめ								
11回～12回：年間計画					年間計画案の作成・制作ノートのまとめ								
13回～18回：エスキース					エスキース案作成・制作ノートのまとめ								
19回～22回：下図作成					下図案の作成・制作ノートのまとめ								
23回～28回：下図 原寸拡大					下図制作・制作ノートのまとめ								
29回～30回：材料実験① 素材の検討					制作準備・制作ノートのまとめ								
31回～32回：材料実験② 染料の検討					制作準備・制作ノートのまとめ								
33回～34回：染料・素材の決定					材料の準備・制作ノートのまとめ								
35回～38回：材料準備					制作準備・制作ノートのまとめ								
39回～42回：試作制作					制作準備・制作ノートのまとめ								
43～44回：中間審査準備 記録整理					作品提出準備・制作ノートのまとめ								
45回：作品提出					作品提出準備・制作ノートを完成させる								
履修上の注意													
染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。													
作品に使用する材料は、各自購入すること。													
成績評価方法・基準													
提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。													
作品課題については、授業中にフィードバックします。													
教科書 適宜指示する。													
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200円〕													
備考													
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		卒業研究Ⅰ（陶芸）			単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)					
担当者	立花 布美子		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美4年				
授業概要														
これまでに修得した技法・技術を駆使し、独創性のある完成度の高い作品を制作するため、様々な素材において技法研究を充分に行った上で、作品のテーマ設定をし、綿密な計画性を持って中間提出までの制作に取り組めるよう指導する。研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞に勉めディスカッションを重ねさせる。また、焼成は各自が責任を持って行うため、制作ノート（テストピース等の焼成データ、グラフ作成）の指導を行い、プレゼンテーションまでを想定した本制作に入らせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
卒業研究において自己管理能力を高めることができる。														○
卒業研究における独創的、創造的思考力を高めることができる。														○
これまでに修得した技法・技術の高度な専門知識を美術を学ぶ意味と関連付けて表現することができる。							○							
授業計画の内容								自習（事前・事後学修の内容）						
1 回：ガイダンス				27 回：釉薬原料の微調整				制作ノート確認時に各自設定した計画表の見直し、修正を行い研究を進めていく。						
2 回：年間計画の打ち合わせ 計画表作成				28 回：釉薬原料の微調整 制作ノート確認③										
3 回～4 回：テーマ、デザイン、 プレゼン等の打合せ				29 回～30 回：完成した釉薬の調合										
5 回～9 回：資料収集				31 回～34 回：マケット制作				粘土・釉薬原料の発注、 を各自で行うようにする。						
10 回：テストピース生地制作 制作ノート確認①				35 回：マケット制作 焼成 制作ノート確認④										
11 回～14 回：テストピース生地制作				36 回～39 回：マケット制作 焼成										
15 回～19 回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成				40 回：本制作 制作ノート確認⑤				焼成実験を含め、他学生 と協力して行うよう、焼 成日程を組む。						
20 回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成 制作ノート確認②				41 回～44 回：本制作										
21 回～24 回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成				45 回：中間審査打合せ 制作ノート確認⑥										
25 回～26 回：安定した釉薬が出来次第、 実際の器に釉掛けを行う														
履修上の注意														
各自の計画表に沿って作業を進めること。														
成績評価方法・基準														
作品制作の過程、内容などの総合的評価 70％（制作ノートの記入内容も含む）、制作意欲、自主性等 30％ 制作ノート確認時にフィードバックを行う。														
教科書 授業前にプリントを配布する														
参考書 〔新技法シリーズ 102 陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3,024 円〕 〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7,344 円〕 〔混ぜておぼえるはじめての釉薬づくり〕〔野田耕一〕〔誠文堂新光社〕〔3,024 円〕														
備 考														
作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		卒業研究Ⅰ（日本画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)			
担当者	及川 聡子		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美4年			
授業概要													
本学で学び研究したことの集大成として、卒業制作（日本画）作品の制作を行う。卒業制作展への出品を前提に、展示・発表の段階までを視野に入れた企画立案、および作品制作をトータルプロセスで指導・支援する。年間を通して見た場合、中間審査を経て「卒業研究Ⅰ」に至る「前期」に該当するため、個々の履修者と綿密に相談しつつ、テーマ設定やエスキース（作品の構想や構図などを練る下図）作成、制作スケジュール計画などを重点的に行う。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
これまで培った知識・技法に基づく卒業研究のテーマの設定。							○						○
これまで培った知識・技法を駆使し、作品制作に取り組む。							○						○
追究してきた自己のテーマを、集大成としてまとめる。							○					○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 導入 科目の説明					東洋、日本の絵画の鑑賞。								
2. テーマの探求					モチーフやテーマの模索。								
3～5. 構想					出来るだけ対象を観察し描写をする。								
6～10. デッサン、資料研究					観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。								
11～19. エスキース（小下図）					デッサンを常に見返しておくこと。								
20. テーマの探究					仕上がりをイメージし、構図とともに細部も確認する。								
21. 制作計画とテーマの相談					骨描きのため線の引き方を練習する。								
22～30. 大下図制作					墨のぼかしの練習をする。								
31～35. タブロー（本画）制作準備					墨の陰影の適確さと美しさの確認。								
36～42. タブロー（本画）制作 トレースから骨描き					備品の技法書等で下地について下調べをしておく。								
43. コンセプト及び展示計画の確認と制作記録のまとめ					備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べをしておく。								
44. 中間審査作品提出準備、確認					出来るだけ制作を進める。膠の管理。								
45. 中間審査作品提出					出来るだけ完成度を高めるべく制作する。膠の管理。								
履修上の注意													
丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。 毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。													
成績評価方法・基準													
課題作品70％（完成度50％ 意図・発想20％） 授業態度30％（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）													
教科書 無し													
参考書 無し													
備考													
授業日12時半から13時までをオフィスアワーとする。古今東西の美術作品を多く鑑賞し、制作の参考とすること。													

授業科目名		卒業研究Ⅰ（木工）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)				
担当者	落合 里麻		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年				
授業概要														
卒業研究は４年間の集大成として位置付けさせる。コンセプトをしっかりと立て、デザイン面や技術面において完成度の高い作品を制作させる。制作を行う前段階として、木製品の調査や取材、木工作品の鑑賞を行い、その中で自分の作品に活かせる要素（デザイン、素材、使い方等）を探させる。そして、作品の完成時のイメージや使い方、展示の際の見せ方など、制作意図を明確にした上でデザインを展開・確定する。模型や各種図面の作成、塗装実験等を取り入れ、段階を踏んで計画的に進められるよう指導する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
木材の加工や接合の技術を、目的や場合に応じて使い分けられる。								○					○	
コンセプトをしっかりと立て、矛盾のない作品制作を行える。													○	○
木の特徴や塗装方法を理解し、見た目の美しさだけでなく日常生活での使用に耐える設計を行い、完成度を高められる。								○						
計画性や提案力を身につけ、社会的実践力へと繋げることができる。														○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
１回：ガイダンス、コンセプト立案						学外や図書館等で調査・取材を行う。								
２～４回：コンセプト立案						〃								
５～９回：アイディアスケッチ						デザインを考える。模型を複数制作する。								
１０～１２回：模型の制作						〃								
１３～１４回：塗装実験						必要に応じて立体図を描く。								
１５～１６回：デザインの確定						道具の準備と調整を行う。								
１７～２１回：制作図を描く						〃								
２２～２６回：部材図を描く						部材図を仕上げる。								
２７～２９回：木取り図を描く						木取り図を仕上げる。材料を用意する。								
３０～３２回：部材取りの計画						計画的に部材取りをする。								
３３～３４回：部材取り						〃								
３５～４５回：墨付け、加工						制作を進める。道具の刃を研いでおく。								
履修上の注意														
・作業に適した服装で履修すること。														
・材料を各自で購入する必要があるため、その点を考慮して履修すること。														
・授業外に制作を進めておくこと。														
成績評価方法・基準														
課題作品 80％、授業態度 20％で評価する。作品課題については、授業中にフィードバックする。														
教科書 特に定めない														
参考書 〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔(株) ボーンデジタル〕〔2,700 円〕〔木材工芸用語辞典（増補版）〕〔成田壽一郎〕〔理工学社〕〔2,808 円〕														
備考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		卒業研究Ⅰ（漆芸）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90+90)		
担当者	井上 直美		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年		
授業概要												
漆芸作品の集大成として、材料と形体の追求をし、素地の完成を目指す為に模型制作をさせた上で、作品に合った技法を用いての素地制作を指導する。まず、エスキースを基に、粘土などで形を起こし、よく考察させる。用途に合わせ形や素材を再考察し、図面を完成させる。その後、図面を基に粘土型を完成させて、粘土型を基に石膏で形を起こして行く。石膏型をペーパーや刃物などで整え、剥離剤を塗り、和紙や麻布を貼り重ねながら空研ぎをして整え丁寧に進める。用途によって貼る物の素材選択や強度に注意し進める様に指導する。												
授業の到達目標					学位授与の方針との関連							
					1	2	3	4	5	6	7	8
粘土で形を正確に起こせるようになる							○				○	○
用途に対しての形や素材の選択が出来るようになる							○				○	○
石膏型を正確に作る技術を身に付ける							○				○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1 回		作品のエスキース 1			何点かスケッチしておく							
2 回		作品のエスキース 2 確認			2～3 点に作品を絞れる様にしておく							
3,4 回		エスキースの細部調整			エスキースを完成させる							
5,6 回		模型作成			模型作成を進めておく							
7,8 回		模型修正			模型を完成させる							
9,10 回		図面作製			図面を完成させる							
11,12 回		材料と技法の考察			材料を揃えておく							
13,14 回		原型制作			原型制作を進めておく							
15,16 回		原型の調整			原型を完成させる							
17,18 回		石膏型制作			石膏型の制作を進めておく							
19,20 回		石膏型調整			石膏型を完成させる							
21 回		型に剥離剤 1 層目を塗る			何層か塗り重ねておく							
22 回		型に剥離剤 2 層目を塗る			研いでも石膏が出ない様にしておく							
23,24 回		剥離剤の表面を整える			石膏が出た部分をカバーしておく							
25,26 回		和紙を貼る			のりを煮ておく							
27,28 回		麻布を貼る 1 枚目			必要に応じて和紙を貼り重ねておく							
29 回		空研ぎ、錆付け			錆は布目が埋まるまで重ねておく							
30,31 回		麻布を貼る 2 枚目			布を貼り終えておく							
32 回		空研ぎ、錆付け			布目が埋まるまで錆を重ねておく							
33,34 回		麻布を貼る 3 枚目			布を貼り終えておく							
35 回		空研ぎ、錆付け			錆を重ねておく							
36,37 回		麻布を貼る 4 枚目			布の厚みが足りない場合は重ねておく							
38 回		空研ぎ、錆付け			錆を重ねておく							
39 回		空研ぎ、固め、黒中			黒中まで終わらせておく							
40 回		空研ぎ、黒中 2			黒中まで終わらせておく							
41 回		縁の始末、固め、黒中			縁の始末を終わらせておく							
42 回		空研ぎ、黒中 2			黒中まで終わらせておく							
43 回		高温乾燥			途中、高温乾燥機の確認をする							
44 回		制作過程の確認			ファイルの書き込みをしておく							
45 回		中間審査			プレゼンの準備をしておく							
履修上の注意												
計画通りに進める。												
成績評価方法・基準												
適切な技術を選択できたか、出欠状況や意欲					30%							
作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現					70%							
講評会でフィードバックする。												
教科書 授業中に適宜資料を配布する												
参考書〔やさしく身に付くうるしのはなし 1～4〕〔日本漆工協会〕〔2,160 円〕												
備 考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付けます。												

授業科目名		卒業研究Ⅰ（グラスアート）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)			
担当者	森合 暢子		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年			
授業概要													
グラスアートⅠ、技法研究Ⅱで得たガラスの知識と高度な酸素バーナーワークの技術を駆使し、耐熱ガラスの特徴を生かした完成度の高い作品を制作するために中間審査までに計画的に制作に取り組めるように指導する。製作ノートを週一回は確認し、材料の選び方、展示方法なども確認し、自分の世界観をガラスで表現出来るようにアドバイスする。講師の過去の作品やガラス工芸の作品集を参考にし安全な展示方法や光の当て方なども指導する。展示台はアクリルやガラス、布などを使い、作品の見せ方まで指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
① バーナーワークの特徴を生かした完成度の高いガラス作品を制作する。							○					○	○
② 中間審査までにしっかりと作品をイメージし、作品の半分は完成させる。													○
③ 作品の展示方法、展示素材まで考える													○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
１～4.テーマを考える①製作ノート確認					製作ノートにテーマや構想を書き提出								
５ 資料集め "					資料を用意								
6～8 資料研究 "					"								
９ 作りたい物の形状を把握する					"								
10～12 デッサン ②製作ノートの確認					制作したい物のデッサンを制作ノートにする								
13 全体のイメージを描く（配置）					イメージを制作ノートに描く								
14 全体のイメージを描く（土台）					"								
15 全体のイメージを描く（色）					"								
16 材料を選ぶ ③製作ノート確認					ガラスの色や素材を決めて制作ノートに書く。								
17～26 バーナーワーク技術練習（今までの復習）					参考書籍やガラス関係の本を読んでおく。								
27～44. テーマ作品の練習					"								
45.中間審査打ち合わせ ④製作ノート確認					制作ノートを見直し、まとめておく。								
履修上の注意 安全のため、服装や髪型（結ぶ）など講師の指示に従うこと。													
成績評価方法・基準													
制作への姿勢（40％）													
作品の完成度（60％）													
講評会でフィードバックを行います。													
教科書 なし													
参考書〔家庭ガラス工房バーナーワーク〕〔松村潔〕〔ぼるぷ出版〕〔2,800円〕													
備 考・質問等は授業中に受け付けます。													

授業科目名	卒業研究Ⅰ(ガラスアート)				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)					
担当者	山口 綾子		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年				
授業概要														
今までの授業で身につけた“バーナーワーク”の技術を活かして、卒業制作の集大成として作品表現を完成させるよう指導する。卒業制作展を踏まえ、展示空間を想定しながら、作品制作を支援する。制作計画・エスキースなどは、個々にコミュニケーションを取りながら進めていく。制作記録を付けさせ、常に改善点や改良点を確認させる。中間審査までに、展示空間まで含めた作品概要の計画を立案させ、着実に技法の研鑽を積み上げられるように指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・習得した技法の習熟度をさらに錬成することができる。							○							
・主題に応じ、計画性、自主性をもって制作に取り組めるようになる。													○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
１～５．年間計画の作成					・卒業制作ノートを作成し、制作計画を確認する。 ・制作に必要な資料の収集と、まとめを常に行う。 ・必要に応じ、各種展覧会に赴き、制作計画に反映させる。									
６～１０．資料集め①														
１０～１５．イメージ・デザイン打合せ														
１６～２５．資料まとめ・テストピース・モデル作成														
２６．制作ノート確認①														
２７～４０．テーマ作品の練習														
４１．制作ノート確認②														
４２～４４ テーマ作品の練習または、本制作／展示イメージ打合せ														
４５．中間審査前確認														
履修上の注意														
積極的に参考になる展覧会鑑賞をすること。作品以外の環境（展示方法・設置）についても考察すること。														
成績評価方法・基準														
・制作への取組 ３０％（作業姿勢・進捗状況・制作ノート） ・作品 ７０％（完成度・習熟度・目標達成において総合的に判断する） ・制作ノートを通じて、常にフィードバックして行きます。														
教科書 事前にプリントなどを配布する。														
参考書 〔トンボ玉〕〔小暮紀一〕〔ほるぷ出版〕〔2,808 円〕														
備 考														
質問などは、授業内 または 授業後にオフィスアワーを設けます。														

授業科目名		卒業研究Ⅰ（人形）			単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)					
担当者	福田 一実	必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美4年					
授業概要														
4年間で習得した技術を基に、オリジナルの人形を制作させる。作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら人形のキャラクター、人形の在り方について研究させ、人体の造形についても深く追求し、完成度の高い作品を制作できるよう指導する。誰にどこに作品を発信するのかしっかり考え、完成する作品、空間すべてを含め、綿密な計画を立てさせる。4年間の集大成の作品を見せる意義について考えさせると共に制作記録を付けさせるようにする。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
自分の世界の創作人形を完成させる。														○
人形を通して展示の仕方も含め表現方法を考える。							○						○	
人形との向き合い方を深める。							○							
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1.ガイダンス					完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。									
2.年間計画の打ち合わせ。計画表制作。テーマを決める。					解剖学の本などを参考にし人体の研究をする。									
3～4.原寸大の下図を描き、型紙を作る。														
5～6. 芯材に下図をあててカッターなどで削り、形を作る。														
7～9. 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。					しっかり乾燥させてくる。									
10～12. 顔の造形をする。					顔の造形、表情について観察してくる。									
13～14.胴の造形をする。					やすりがけ									
15～17. ステンレスの針金で手の芯を作り、手の造形をする。					やすりがけ									
18～19.腕の造形をし、手とのバランスもチェックする。					やすりがけ									
20～25.脚を造形し、足も作る。必要であれば芯も入れる。					やすりがけ									
26～29. 乾燥後、全てを磨き、関節を切断し、芯を抜く。					やすりがけ									
30～33.関節の球を作り、磨く。途中経過確認。					やすりがけ									
34～38.球を各関節に固定し、球に対する受けを作る。					穴を開ける場所をしっかりと確認する。									
39～44.各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。					細かなキズなどをチェックする									
45.中間審査打ち合わせ、途中経過確認。														
履修上の注意														
人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。														
成績評価方法・基準														
課題作品 50%、授業態度 50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）課題作品提出時にフォードバックします。														
教科書〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2,880円〕														
参考書〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2,700円〕														
〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2,000円〕														
備考														
解剖学の資料は必ず用意すること。														
質問等については授業終了後、オフィスアワーを受け付けます。														

授業科目名		卒業研究Ⅰ（マンガ）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)					
担当者	鹿野 明子		必・選	選必	形態	演習	学期	前期	対象	美４年					
授業概要															
どんなマンガを描きたいか、作品テーマの設定をさせる。ディスカッションを通し、テーマやそれに伴う世界観を明確にさせる。それに関わる資料の収集、場合によっては取材をさせる。															
前期卒業制作Ⅰ提出までの計画表を立てさせ、日誌を含む制作ノートを作らせる。マンガの要となるネームの指導をする。登場人物の設定を決める為、キャラクター表を作成させる。卒業制作のマンガ作成に必要な画力や構成力を付けるために小編作品を作らせる。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
作品完成までの計画を立てることができる															○
マンガの要素をよく検討し読みやすく魅力あるネームをつくることできる。								○						○	
業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1 ガイダンス・年間計画の確認						予め制作ノート・日誌を準備しておく									
2 テーマ・プレゼンの打ち合わせ						卒制に向けて何を描きたいか考えておく									
3～5 プロット作成、資料収集、取材						取材先、収集方法を考えておく									
6～8 ネーム・キャラクター表作成・プロット確認						ノートチェック①									
9 ネーム・キャラクター表チェック						ノートチェック②									
10～14 ネーム修正						ノートチェック③									
15 ネームチェック						ノートチェック④									
16～17 プレゼン試作						ノートチェック⑤									
18～20 背景作画、						ノートチェック⑥									
21 プレゼン監修						ノートチェック⑦									
22～23 ネーム最終修正						ノートチェック⑧									
24～40 小編(試作)作品作成・ペン入れ						ノートチェック⑨									
41～43 仕上げ						ノートチェック⑩									
44 小編(試作)作品完成						ノートチェック⑪									
45 総評						ノートチェック⑫									
履修上の注意															
技法研究Ⅱを履修していることが望ましい。															
成績評価方法・基準 総評時にフィードバックを行う。															
課題 80％（アイデア 40％、絵（丁寧さ、画力、仕上げ） 40％）授業態度（創作意欲や創作の自主性等） 20％															
教科書 なし															
参考書 なし															
備 考															
授業の後、オフィスアワーを設けるので質問等を受け付ける。															

授業科目名		卒業研究Ⅱ(洋画)				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)				
担当者	北折 整		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年				
授業概要														
大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、４年間の集大成に相応しい卒業制作(洋画)を指導する。卒業研究Ⅰ(洋画)と同様に個人の課題に沿って主体的に制作を進め、課題発見から構想・計画立案から実作業のプロセス、コンセプトの醸成、表現材料の確認等を立案させる。都度制作上の問題点を明確にし整理するための「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行う。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
・これまでの総ての学修を統合し、自分自身の洋画表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができるようになる。								○					○	
・主体的に専門の表現力・技術力を身に付けるとともに、持続的な制作態度により、美術表現による自己実現を行うことができるようになる。								○						○
・美術活動(制作)を行うことで、生活文化の諸相に対する多様な視点を獲得することができる。								○						
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1～3. 授業の説明						過去課題等のまとめ								
4～6. 過去学修の振り返り、資料収集、計画立案等						関係資料等のまとめ								
7～9. 試作Ⅰ(エスキース制作／描画)						支持体の準備及び制作の継続(試作Ⅰ)								
10～12. 〃 (描画／講評)						〃								

授業科目名		卒業研究Ⅱ（彫刻）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)			
担当者	佐藤 淳一		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年			
授業概要													
３年間で修得した造形思考、技術をさらに深化・発展させて自己の造形思考を最高の地点まで到達させる。彫刻作品として今までの研究成果を完成させ、卒業制作展で発表させる。そのなかで現代彫刻としての可能性を研究させる。彫刻の基礎的造形要素や空間を意識した、場と空間、量感、動勢、表面、を制作により試行し研究する。自己の造形力を重視し十分に自己のイメージを制作ノートに展開しながら、創造力さらに深化発展させる。素材の良さを十分に引き出し、研究させる。アイデアから制作完成までの作業を教授する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
実材彫刻による造形を発想し展開できる							○						○
設置場所に対して意識し彫刻を構想できる							○					○	○
作業を他と協働して行うことができる												○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
１～３回.授業内容、卒制の構想研究、評価方法説明、					シラバスを読む。課題提出								
４回、意識の確立、地域と自己作品の関係性確認、制作ノート					アートプロジェクト研究								
５～８回、テーマ確認（自己の独自性、地域、公募展研究）					各作品集研究、デッサン（制作ノート）								
９～１２制作研究１（素材研究）					彫場、木場見学、デッサン（制作ノート）								
１３～１５回.制作研究２（素材加工法研究）					造形論研究、彫刻展研究、作家取材								
１６～１８回制作研究３（荒作り）					制作継続、制作ノート作成								
１９回テーマ確認（制作ノート評価）					制作継続、制作ノート作成								
２０～２２回制作材研究４（面と空間）					制作継続、制作ノート作成								
２３～２５回制作研究５（塊と量感）					制作継続、制作ノート作成								
２６～２８回制作研究６（動勢）					制作継続、制作ノート作成								
２９～３３回制作研究７（空間と量）					制作継続、制作ノート作成								
３４～３８回制作研究８（密度）					制作継続、制作ノート作成								
３９～４１回制作研究９（表面と密度）					制作継続、制作ノート作成								
４２～４４回制作研究１０（地肌）					制作継続、制作ノート作成								
４５回講評、卒業制作審査					制作のまとめと今後の展開作成								
履修上の注意													
各種美術展の見学レポートの提出、時間外も制作する事。充分担当と打ち合わせし、自分のみでなく他の人の安全にも留意して作業すること。制作ノートを活用しデッサンし完成のイメージを磨くこと。													
成績評価方法・基準													
作品評価 40%、授業態度（集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%） 制作ノート（提出レポート含む） 20%													
教科書 授業前に資料配布													
参考書 授業前に資料配布													
備考 ４年間の制作のまとめとして完成に向かい充分準備を行うこと。質問はオフィスアワーでも受け付けます。													

授業科目名		卒業研究Ⅱ（洋画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)			
担当者	森 敏美		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年			
授業概要													
４年間の集大成として、卒業研究Ⅰに引き続き個々の取り組むべき課題を整理し十分なディスカッションを通して臨ませる。制作ノートを完成させることにより、卒制の流れを見ることが出来るのでコンセプトに合わせ確認させる。卒業研究Ⅰで醸し出した世界観を、資料に基づき、精査した技法で、適切な大きさを話し合い、プレゼンテーションも視野に入れ制作に向かわせる。予め作られた計画表に則り、進めてゆくが、常に状況を見て修正しながら期日に間に合うよう万全を尽くさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
・４年間の集大成を意識することで美術と社会との諸問題等を認識できる。							○					○	○
・制作ノートと併せて制作を進めることで計画性を身につけることが出来る。												○	○
・作品や表現を他者により良く見せるスキルを身につけることにより、プレゼン能力を身に付けることができる。												○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1～3回 導入:科目・課題の説明					計画表の作成(制作ノートの確認)								
4～6回 制作ノート・エスキース精査					制作ノートの続行								
7～9回 支持体・下地制作					卒制のパネル材料等の準備								
10～12回 卒制制作、下絵					制作ノート、日誌等をつける								
13～15回 ディスカッション					方向性等の確認								
16～18回 制作 全体に下地着色					色彩を精査する								
19～21回 制作 構図確認					必要あれば構図の修正を施す								
22～24回 全体描画					全体を捉えてゆく								
25～27回 細部描画					詳細部の確認								
28～30回 ディスカッション					修正点の確認								
31～33回 描画					徐々に描き込んでゆく								
34～36回 描画修正					微調整								
37～39回 詳細描画					全体も捉えてゆく								
40～42回 仕上げ					詳細部の確認								
43～45回 卒制講評会（フィードバックを行う）					卒業研究の総括								
履修上の注意													
アトリエに各自のスペースが確保されているので、時間を有効に活用し、環境保全に努めること。													
成績評価方法・基準													
提出課題９０％（テーマ性、表現力、計画性、完成度等）、平常点１０％（授業態度、主体性等）													
教科書 特に無し													
参考書 図書館の画集等													
備 考													
オフィスアワーを有効活用し、卒制に関することを中心にわからないことは質問すること。													

授業科目名	卒業研究Ⅱ（壁画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)			
担当者	森 敏美		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美4年		
授業概要												
4年間の集大成として、卒業研究Ⅰに引き続き個々の取り組むべき課題を整理し十分なディスカッションを通して臨ませる。制作ノートを完成させることにより、卒制の流れを見ることが出来るのでコンセプトに合わせ確認させる。卒業研究Ⅰで醸し出した世界観を、資料に基づき、精査した技法で、適切な大きさや設置方法を話し合い、プレゼンテーションも視野に入れ制作に向かわせる。予め作られた計画表に則り進めてゆくが、常に状況を見て修正しながら期日に間に合うよう万全を尽くさせる。												
授業の到達目標					学位授与の方針との関連							
					1	2	3	4	5	6	7	8
・4年間の集大成を意識することで美術と社会との諸問題等を認識できる。							○				○	○
・制作ノートと併せて制作を進めることで計画性を身につけることが出来る。											○	○
・作品や表現を他者により良く見せるスキルを身につけることにより、プレゼン能力を身に付けることができる。											○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1～3回 導入:科目・課題の説明					計画表の作成(制作ノートの確認)							
4～6回 制作ノート・エスキース精査					制作ノートの続行							
7～9回 支持体・素材加工					卒制のパネル材料等の準備							
10～12回 卒制制作に入る					制作ノート、日誌等をつける							
13～15回 ディスカッション					方向性等の確認							
16～18回 制作 全体を捉える					作業工程を確認							
19～21回 制作 形態確認					形の修正を施す							
22～24回 制作					全体を捉えてゆく							
25～27回 細部作成					詳細部の確認							
28～30回 ディスカッション					修正点の確認							
31～33回 制作					徐々に作業を進めてゆく							
34～36回 部分修正					微調整							
37～39回 詳細制作					全体も捉えてゆく							
40～42回 仕上げ					詳細部の確認							
43～45回 卒制講評会（フィードバックを行う）					卒業研究の総括							
履修上の注意												
工房に卒制のスペースが確保されているので、時間を有効に活用し、環境保全に努めること。												
成績評価方法・基準												
提出課題90％（テーマ性、表現力、計画性、完成度等）、平常点10％（授業態度、主体性等）												
教科書 特に無し												
参考書 特に無し												
備考												
オフィスアワーを有効活用し、卒制に関することを中心にわからないことは質問すること。												

授業科目名		卒業研究Ⅱ（視覚デザイン）			単位（総授業時間＋自習時間）				6(90+90)				
担当者	三上 秀夫		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年			
授業概要													
これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用し、卒業制作に向けた新たな課題に自らが主体的に取り組ませる。４年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目的とさせる。卒業研究Ⅰで得た成果に沿って、材料の確認、加工、制作を行わせる。実際の展覧会場での展示と同等のプレゼンテーションを授業最後に行わせる。外に向けた発信を意識した作品研究を行い、卒業制作展で発表をさせる。卒業後も持続的な文化創造に関わる人材を目指す。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
高度な専門知識を身につける							○						
これまで獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につける												○	
これまで獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題を主体的に解決する能力を身につける													○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1～3. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）					調査、資料収集を行う。								
4～6. 制作 基本構造 構造計画													
7～9. 制作 基本構造 中間発表（進行状況、今後の予定）					材料の購入をする。								
10～12. 制作 中間構造 色彩計画													
13～15. 発表 手直し まとめ													
16～18. 制作 日程確認 全体構造 構造計画													
19～21. 制作 全体構造 色彩計画					発表の手順等、準備をする。								
22～24. 制作 全体構造 全体計					発表後の手直しをする。								
25～27. 制作 日程・計画発表 制作ノート確認													
28～30. 制作 細部の制作					材料の購入をする。								
31～33. 制作 仕上げ													
34～36. 制作 設置計画													
37～39. 制作 制作 手直し 完成													
40～42. 発表 手直し					発表の手順等、準備をする。								
43～45. まとめ プレゼンテーション 卒業研究提出					発表後の手直しをする。								
履修上の注意													
用具、材料については授業でその都度指示する。													
成績評価方法・基準													
提出課題 40%、授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。													
教科書 無し 授業時にプリントを配布する													
参考書 無し													
備考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日時は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		卒業研究Ⅱ(論文)			単位 (総授業時間＋自習時間)					6(90+90)			
担当者	瀬戸 典彦		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美4年			
授業概要													
①科目としての「卒業論文」の意味と目的について考察を促す。②主体的にテーマを選択させ、結論の推論を支援する。③設定したテーマと結論までの推論について検証させ、論旨の適正について評価を促す。④論文の構成について、理解を促す。⑤複数のテーマから一つを選択させアウトラインを基に、卒業論文の執筆を指導する。⑥卒業論文に関するプレゼンの機会を設け、質疑応答を行う。⑦対話を重視し、問題の発見から解決策の立案まで支援する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
問題を探求し、その問題に沿ったテーマを設定することができる。							○						
必要な参考資料等を収集／活用することができる。							○						
問題の分析及び、そのことに関する論理的な推論と考察ができる。							○						
テーマを的確に表現することができる。							○						
論旨を論理的に展開することができる。							○						○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)								
1. 第2章の執筆指導 (トピック)					課題：第2章最初の段落の執筆								
2. 第2章の執筆指導 (ボディー)					課題：第2章2段落目以降の執筆								
3. 第2章の執筆指導 (まとめ)					課題：第2章最終段落の執筆								
4. 第2章の修正指導 (トピック)					課題：第2章最初の段落の修正								
5. 第2章の修正指導 (ボディー)					課題：第2章2段落目以降の修正								
6. 第2章の修正指導 (まとめ)					課題：第2章最終段落の修正								
7. 第2章の確認指導 (トピック)					課題：第2章最初の段落の確認								
8. 第2章の確認指導 (ボディー)					課題：第2章2段落目以降の確認								
9. 第2章の確認指導 (まとめ)					課題：第2章最終段落の確認								
10. 第3章の執筆指導 (トピック)					課題：第3章最初の段落の執筆								
11. 第3章の執筆指導 (ボディー)					課題：第3章2段落目以降の執筆								
12. 第3章の執筆指導 (まとめ)					課題：第3章最終段落の執筆								
13. 第3章の修正指導 (トピック)					課題：第3章最初の段落の修正								
14. 第3章の修正指導 (ボディー)					課題：第3章2段落目以降の修正								
15. 第3章の修正指導 (まとめ)					課題：第3章最終段落の修正								
16. 第3章の確認指導 (トピック)					課題：第3章最初の段落の確認								
17. 第3章の確認指導 (ボディー)					課題：第3章2段落目以降の確認								
18. 第3章の確認指導 (まとめ)					課題：第3章最終段落の確認								
19. 第4章の執筆指導 (トピック)					課題：第4章最初の段落の執筆								
20. 第4章の執筆指導 (ボディー)					課題：第4章2段落目以降の執筆								
21. 第4章の執筆指導 (まとめ)					課題：第4章最終段落の執筆								
22. 第4章の修正指導 (トピック)					課題：第4章最初の段落の修正								
23. 第4章の修正指導 (ボディー)					課題：第4章2段落目以降の修正								
24. 第4章の修正指導 (まとめ)					課題：第4章最終段落の修正								
25. 第4章の確認指導 (トピック)					課題：第4章最初の段落の確認								

26. 第 4 章の確認指導（ボディー）	課題：第 4 章 2 段落目以降の確認
27. 第 4 章の確認指導（まとめ）	課題：第 4 章最終段落の確認
28. 第 5 章～最終章の執筆指導（トピック）	課題：第 5 章～最終章の最初の段落の執筆
29. 第 5 章～最終章の執筆指導（トピック以降）	課題：第 5 章～最終章の 2 段落目以降の執筆
30. 第 5 章～最終章の執筆指導（最終段落）	課題：第 5 章～最終章の最終段落の執筆
31. 第 5 章～最終章の修正指導（トピック）	課題：第 5 章～最終章の最初の段落の修正
32. 第 5 章～最終章の修正指導（トピック以降）	課題：第 5 章～最終章の 2 段落目以降の修正
33. 第 5 章～最終章の修正指導（最終段落）	課題：第 5 章～最終章の最終段落の修正
34. 第 5 章～最終章の確認指導（トピック）	課題：第 5 章～最終章の最初の段落の確認
35. 第 5 章～最終章の確認指導（トピック以降）	課題：第 5 章～最終章の 2 段落目以降の確認
36. 第 5 章～最終章の確認指導（最終段落）	課題：第 5 章～最終章の最終段落の確認
37. アブストラクト（要旨）作成指導	課題：要旨作成
38. アブストラクト（要旨）修正指導	課題：要旨修正
39. アブストラクト（要旨）確認指導	課題：要旨確認
40. 参考文献一覧 作成指導	課題：参考文献一覧作成
41. 参考文献一覧 修正指導	課題：参考文献一覧修正
42. 参考文献一覧 確認指導	課題：参考文献一覧確認
43. 表紙、目次作成確認指導	課題：表紙、目次作成
44. 最終提出準備 内容確認指導	課題：最終確認
45. プレゼン予行	課題：プレゼンリハーサル
履修上の注意 対象：生活美術学科アートインストラクターコース生 履修条件：論文Ⅰ既履修者 テーマ：美術教育に関する内容（原則）	
成績評価方法・基準 テーマのオリジナリティー：30%、執筆過程：10% 内容：40%、プレゼンテーション：20%（フィードバックを行う）	
教科書 その都度、資料を配布する。	
参考書 その都度、参考資料を配布する。	
備 考 オフィスアワー（後期）火曜日 10：00～11：00 火曜日 14：00～15：00	

授業科目名	卒業研究Ⅱ（情報デザイン）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90+90)				
担当者	鶴巻 史子		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年			
授業概要													
卒業制作Ⅱ（情報デザイン）では、1～3年次に学んだ基礎科目・専門科目・応用科目の集大成としてさらなる発展を目的とし、個別に対話しながら研究と作品制作に取り組む。個々に制作計画を作成し、作業プロセスを組み立てながら実践することによって自己管理能力を養う。成果として、学外での作品発表や卒業制作作品展等の企画と運営を通してデザインの全プロセスを修得すると共に実践的なプレゼンテーションスキルを磨き、社会に貢献できる力と文化創造力を身につけられるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
プレゼンを通して他者へ制作意図を伝えることができる。							○						
デザインの全プロセスを習得し社会に貢献できる力がつく。												○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1回：研究テーマの確認					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
2～5回：研究計画の作成					研究計画の調査、制作プロセスまとめ								
6～10回：研究テーマに関する調査					研究テーマの調査、制作プロセスまとめ								
11～15回：デザインスケッチ制作					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
16～20回：デザイン検討					デザインの調査、制作プロセスまとめ								
21～37回：本制作					制作技法の調査、制作プロセスまとめ								
38～42回：プレゼンテーション準備					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
43～44回：プレゼンテーション、講評					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
45回：本審査会					プレゼン準備、制作プロセスまとめ								
履修上の注意													
技法研究Ⅱ（情報デザイン）を履修していること。制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。													
成績評価方法・基準													
課題制作 90%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）10% 作品課題については、授業中にフィードバックする。													
教科書 適宜指示する													
参考書 プリントを配布する、適宜指示する													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		卒業研究Ⅱ（版画）			単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)					
担当者	大堀 恵子		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年				
授業概要														
これまで学んだ自然や社会を含む人間生活と美術の関係を学び、研究し、美的創造力を培い版画に関する知識、技能、創造的思考力を総合的に活用し、さまざまな素材や技法、いろいろな考え方にふれ、自己表現の手法を探究確立させる。自分が立てた課題にそれらを適用し、完成度の高い卒業制作になるように高い解決する能力を培い実践させる。														
その卒業制作をとおして、地域社会の発展に貢献できる力と文化創造力を身につけ、美術、工芸、デザイン分野に関する職業や創造活動に従事させる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
版の基礎的な技法と工程を理解し身につけることができる							○							
展覧会を見て、調べた情報を整理し制作に生かす技術を習得することができる														○
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる												○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1回 ガイダンス、後期作業の確認					記録するための制作ノートを用意する									
2～10回 本制作、部分					各作業ごとに内容をまとめ次回提出									
11～21回 本制作、細部					各作業ごとに内容をまとめ次回提出									
22～30回 本制作、仕上げ					各作業ごとに内容をまとめ次回提出									
31～33回 プレゼンテーション（検討）					各作業ごとに内容をまとめ次回提出									
34～39回 プレゼンテーション（完成）					各作業ごとに内容をまとめ次回提出									
40～44回 制作ノートのまとめ(完成写真、プロセスのまとめ)					各作業ごとに内容をまとめ次回提出									
45回 本審査					各作業ごとに内容をまとめ次回提出									
履修上の注意														
制作ノートにそれぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録すること。ポートフォリオを作成のための文章能力、PCの技術を習得する。														
成績評価方法・基準														
作業内容のまとめは授業中にフィードバックをします。														
1.提出課題（技能、計画性、創意工夫、完成度 80％） 2.制作ノート又はポートフォリオ（20％）														
教科書 授業前にプリントを配布する														
参考書 画集等を紹介する。														
備 考														
ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。														

授業科目名		卒業研究Ⅱ（染織）			単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)				
担当者	三浦 輝子		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美4年			
授業概要													
技法研究Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰで実施した研究テーマを基に卒業研究本制作に取り組む。制作意図をより明確化し、4年間の集大成としてふさわしい完成度の高い作品を制作できるよう指導する。制作のみに留まらず、必要に応じて繊維製品関連施設の課外研修等を実施し、社会に即応した実践力を身に付け、地域社会に貢献できる能力の習得・向上も図ることができるよう指導する。これまでに獲得した染織に関する知識・技能等を総合的に活用し、自らが立てた計画を適用し、その課題を主体的に解決する能力を養えるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
染織に関する高度な専門知識を身につける。							○					○	○
制作計画を適用し、自ら主体的に課題を解決する能力を身につける。							○						○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1回：ガイダンス					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
2回～3回：年間計画					作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ								
4回～39回：本制作（計画に基づいた染織作品の制作）					作品に関する収集・制作ノートのまとめ								
40回～41回：仕上げ					展示備品等の準備・制作ノートのまとめ								
42回～44回：プレゼンテーション準備 資料整理					プレゼン準備・制作ノートのまとめ								
45回：作品提出 審査					展示準備・制作ノートの完成								
履修上の注意													
染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。													
作品に使用する材料は、各自購入すること。													
成績評価方法・基準													
提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。													
作品課題については、授業中にフィードバックします。													
教科書 適宜指示する。													
参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200円〕													
備考													
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		卒業研究Ⅱ（陶芸）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)				
担当者	立花 布美子			必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年			
授業概要														
中間提出の結果より進捗状況を確認、計画表の再検討をし、本提出まで綿密な計画性をもって制作に取り組むよう指導する。常に研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞に勉め、制作ノートをまとめさせる。また、焼成は各自が責任を持って行うため、制作意欲、自主性を持って望むよう指導していく。また、本制作（最終焼成）後、最終プレゼンテーションの確認も含め、集大成に相応しい卒業研究となるよう指導していく。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
卒業研究において自己管理能力を高めることができる。														○
卒業研究における問題解決能力を高めることができる。														○
これまでに修得した技法・技術の高度な専門知識を美術を学ぶ意味と関連付けて表現することができる。								○						
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
１回～9回：本制作						制作ノート確認時に各自設定した計画表の見直し、修正を行い研究を進めていく。								
10回：本制作 制作ノート確認① 材料追加発注														
11回～19回：本制作														
20回：本制作 制作ノート確認② 進捗状況の確認、調整														
21回～29回：本制作														
30回：本制作 制作ノート確認③ プレゼン材料打合せ						プレゼンテーションについて、最終作品数、大きさと合わせて打ち合わせを行うよう準備する。								
31回～40回：本制作														
41回：本制作 最終焼成 窯出し														
42回～44回：プレゼンテーション確認 修正														
45回：制作ノート確認④ 最終プレゼンテーション確認														
履修上の注意														
各自の計画表に沿って作業を進めること。														
成績評価方法・基準														
作品制作の過程、内容などの総合的評価 70％（制作ノートの記入内容も含む）、制作意欲、自主性等 30％ 制作ノート確認時にフィードバックを行う。														
教科書 授業前にプリントを配布する														
参考書 〔新技法シリーズ 102 陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3,024 円〕 〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7,344 円〕 〔混ぜておぼえるはじめての釉薬づくり〕〔野田耕一〕〔誠文堂新光社〕〔3,024 円〕														
備 考														
作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		卒業研究Ⅱ（日本画）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)				
担当者	及川 聡子		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年				
授業概要														
本学で学び研究したことの集大成として、卒業制作（日本画）作品の制作を行う。卒業制作展への出品を前提に、展示・発表の段階までを視野に入れてトータルプロセスで指導・支援する。年間を通して見た場合「卒業研究特」と中間審査を経た「後期」に該当するため、より高い完成度を目指して方向性の再検討やブラッシュアップ、制作スケジュール計画の調整などを重点的に行う。最終的に最高のパフォーマンスを引き出せるよう、履修者個別に臨機応変な指導を行う。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
卒業研究Ⅰで得た気づきを作品に反映し、磨きをかける。							○							○
日本画の伝統に基づきつつ、既成概念にとらわれない制作姿勢を貫く。							○							○
自由な発想により、自己の表現の可能性を最大限に広げる。													○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
１～８.タブロー（本画）制作 骨描き等					墨や支持体の種類、各特性を研究する。									
９.制作及び展示計画の確認１					制作の意図についてまとめておく。									
１０～２２.タブロー（本画）制作 下塗り、墨の濃淡					下地の研究をしておく。									
２３.制作及び展示計画の確認２					制作が計画通りに進んでいるか見直し、改善、変更点はまとめておく。									
２４～３０.タブロー（本画）制作 墨、水干絵具での制作等					作画の方針を確認する。									
３１.卒業作品展に向けての展示の準備					具体的に展示をイメージし、額装や表装についての研究。									
３２～３８.タブロー（本画）制作 墨、岩絵具での制作等					常に作品を見直し、全体像を把握する。									
３９.制作記録のまとめ					伝わりやすい記録になっているか確認。									
４０～４４.タブロー（本画）制作 描き込み～完成					絵の核となる部分の描き込みを見直す。									
４４.卒業制作提出準備					作品の側面の処理や展示道具の確認。									
４５.卒業制作提出					制作意図と実際の仕上がりについて比較し、自身の制作のあり方を認識する。									
履修上の注意														
丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。														
毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。														
成績評価方法・基準														
課題作品７０％（完成度５０％ 意図・発想２０％）														
授業態度３０％（出席数。創作意欲や、創作の自主性等）														
教科書：無し														
参考書：無し														
備 考														
授業日 12 時半から 13 時までをオフィスアワーとする。古今東西の美術作品を多く鑑賞し、制作の参考とすること。														

授業科目名	卒業研究Ⅱ（木工）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)					
担当者	落合 里麻		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美4年				
授業概要														
卒業研究は4年間の集大成として位置付けさせる。前期の卒業研究Ⅰにおける準備を基に、デザイン面や技術面において完成度の高い作品を制作させる。基礎的な課題では直面することのなかった複雑なつくりや精密な加工技術について、適宜指導する。前期に制作した模型や制作図、部材図、木取り図等を常に確認し、計画的に進めさせる。展示方法や見せ方についても制作の過程で考えをまとめ、見る人に作品を通して自分の考えや制作意図を伝える力を身につけさせる。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
木材の加工や接合の技術を、目的や場合に応じて使い分けができる。														○
コンセプトに沿った作品制作を行うことができる。														○
木の特徴や塗装方法を理解し、見た目の美しさだけでなく日常生活での使用に耐える設計を行い、完成度を高める。							○							
展示会場で美しく見せる方法を制作過程で検討し、自分の考えや制作意図を相手に伝える力を養うことができる。													○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1回：ガイダンス					制作を進める。道具の刃を研いでおく。									
2～10回：墨付け、加工（大きい材、広い面を中心に）					〃									
11～15回：墨付け、加工（穴加工や溝加工を中心に）					〃									
16～20回：墨付け、加工（ほぞ加工を中心に）					〃									
21～25回：墨付け、加工（細部を中心に）					〃									
26～27回：仮組み					〃									
28～30回：全体のバランスの確認					〃									
31～33回：微調整					〃									
34～35回：接着					接着の手順や必要な道具類を確認する									
36～37回：接着後の加工、微調整					制作を進める。									
38～39回：仕上げの研磨					〃									
40回：面取り					塗装の手順や時間を確認する。									
41～44回：塗装					塗装の手順や時間を確認する。									
45回：講評					制作の記録をする。									
履修上の注意														
・作業に適した服装で履修すること。														
・材料を各自で購入する必要があるため、その点を考慮して履修すること。														
・授業外に制作を進めておくこと。														
成績評価方法・基準														
課題作品 80%、授業態度 20%で評価する。講評会でフィードバックする。														
教科書：特に定めない。														
参考書：〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔(株)ポーンデジタル〕〔2,700円〕〔木材工芸用語辞典（増補版）〕〔成田壽一郎〕〔理工学社〕〔2,808円〕														
備考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		卒業研究Ⅱ（漆芸）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)				
担当者	井上 直美		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美4年				
授業概要														
漆芸作品制作の集大成として、制作した乾漆素地に、色彩、加飾を施し、今まで学んだ技術を表現出来る能力を身に付けれる様に指導する。前期に制作した乾漆の素地を高温乾燥し、表と裏両面のその後脱乾し、塗りと研ぎを繰り返し、形と塗りを完成させる。加飾は手板などを用いて、色見本、加飾見本を制作し、実験した上で作品に色や加飾を施す様に指導する。色は本地呂漆と顔料を練り合わせ自分で色漆を用いた変わり塗りの他に、蒔き絵、螺鈿、卵殻、彫漆などを指導する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
塗りや研ぎを追求し、より高度な形の表現が出来る様になる								○						○
作品に対して、より効果的な加飾を行い、自己の表現が出来る								○						○
全体的に仕上げを綿密にし、完成度を上げる								○						○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1,2 回		脱乾				内側を翌洗い、乾燥させておく								
3,4 回		縁の調整				縁の調整を終わらせておく								
5 回		固め、黒中				必要に応じて黒中を重ねておく								
6 回		捨て塗り				少し研ぎを進めておく								
7,8,9 回		水研ぎ				水研ぎを終わらせておく								
10 回		黒中 1 内				黒中が塗れる様にしておく								
11,12 回		水研ぎ				水研ぎを終わらせる								
13 回		黒中 1 外				黒中が塗れる様にしておく								
14,15 回		水研ぎ				水研ぎを終わらせる								
16 回		黒中 2 内				黒中が塗れる様にしておく								
17,18 回		水研ぎ				水研ぎを終わらせる								
19 回		黒中 2 外				黒中が塗れる様にしておく								
20,21 回		水研ぎ				水研ぎを終わらせる								
22 回		黒中 3 内				色を考えておく								
23 回		色漆練り・見本板制作				手板の塗りをしておく								
24 回		色漆調整・見本研ぎ出し				見本板を完成させておく								
25 回		色漆塗り 内 1				ムロの湿度を調整しておく								
26 回		色漆塗り 外 1				ムロの湿度を調整しておく								
27,28 回		水研ぎ				水研ぎを終わらせておく								
29 回		色漆塗り 内 2				色漆塗りを終わらせておく								
30 回		色漆塗り 外 2				乾漆の台を考えておく								
31,32 回		水研ぎ				水研ぎを終わらせておく								
33 回		貝、卵殻貼り				段差に錆を入れておく								
34 回		塗り込み				平らになるまで塗り込んでおく								
35,36 回		研ぎ出し				少しづつ研ぎ出しておく								
37,38 回		述べ摺り				何回かに分けて延べ摺りしておく								
39,40,41 回		生摺り				摺りを重ねておく								
42,43 回		蒔絵・漆絵				加飾を進めておく								
44 回		磨き、プレゼン確認				磨きを終わらせておく								
45 回		審査				ファイルの確認をする								
履修上の注意														
計画通りに進める。														
成績評価方法・基準														
適切な技術を選択できたか、出欠状況や意欲				30%										
作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現				70%										
講評会でフィードバックする。														
教科書 授業中に適宜資料を配布する。														
参考書 [やさしく身に付くうるしのはなし 1~4] [日本漆工協会] [2,160 円]														
備 考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受け付けます。														

授業科目名		卒業研究Ⅱ（グラスアート）			単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)				
担当者	森合 暢子		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年			
授業概要													
グラスアートⅠ、技法研究Ⅱで得たガラスの知識と高度な酸素バーナーワークの技術を駆使し、耐熱ガラスの特徴を生かした作品を制作するために最終審査までに計画的に制作に取り組めるように指導する。製作ノートを週一回は確認し、展示方法なども確認し、自分の世界観をガラスで表現した完成度の高い卒業制作が出来るように指導する。講師の過去の作品やガラス工芸の作品集を参考にし安全な搬入方法や展示方法、光の当て方なども指導する。展示台はアクリルやガラス、布などを使い、作品の見せ方まで指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
① バーナーワークの特徴を生かした完成度の高い卒業制作を作る							○						○
②最終審査までに、見せ方、展方法も工夫し自分の世界観を表現する。													○
③会場での光の当て方など展示方法を考える													○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1～10 制作実演を見て、本制作をする					実演してもらいたい物の絵や写真を用意する								
11～29 仕上げの形作り（素材感・色・強度） ①製作ノート確認					行程を制作ノートに書いておく。								
30 各パーツの完成確認					各パーツを確認しておく。 "								
30～33 展示方法を考える②製作ノート確認					展示方法を制作ノートに記入しておく。								
33～35 展示台作り					展示台の設計図を描いておく。								
36 配置を決定する（光の当て方）③製作ノート確認					配置を制作ノートに描く								
37～43 最終手直し													
44 写真撮影④製作ノート確認					写真撮影用の布など用意しておく。								
45 完成確認 最終打ち合わせ⑤製作ノート確認					制作ノートを見直しておく。								
履修上の注意													
安全のため、服装や髪型（結ぶ）など講師の指示に従うこと。													
成績評価方法・基準													
制作への姿勢（40%）													
作品の完成度（60%）													
講評会でフィードバックを行います。													
教科書 なし													
参考書 〔家庭ガラス工房バーナーワーク〕〔松村潔〕〔ほるぷ出版〕〔2,800 円〕													
備 考・質問等は授業中に受け付けます。													

授業科目名	卒業研究Ⅱ(ガラスアート)				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)					
担当者	山口 綾子		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年				
授業概要														
今までの授業で身につけた“バーナーワーク”の技術を活かして、卒業制作の集大成として作品表現を完成させるよう指導する。卒業制作展を踏まえ、展示空間を想定しながら、作品制作を支援する。制作計画・エスキースなどは、個々にコミュニケーションを取りながら進めていく。制作記録を付けさせ、常に改善点や改良点を確認させる。中間審査の結果をふまえ、進捗状況を確認し、作品の「質」をさらに向上させるべく、計画を進めていけるように指導する。														
授業の到達目標					学位授与の方針との関連									
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・習得した技法の習熟度をさらに錬成することができる							○							
・主題に応じ、計画性、自主性をもって制作に取り組めるようになる。													○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）									
1～5. 中間審査の内容確認・修正や改善					・卒業制作ノートを作成し、制作計画を確認する。 ・制作に必要な資料の収集と、まとめを常に行う。 ・必要に応じ、各種展覧会に赴き、制作計画に反映させる。									
6～35. 本制作（随時、制作ノートの確認）														
36～40. 仕上げ														
41～44. 展示方法の仕上げ														
26. 制作ノート確認														
27～40. テーマ作品の練習														
45. 本審査前確認・打合せ														
履修上の注意														
積極的に参考になる展覧会鑑賞をすること。作品以外の環境（展示方法・設置）についても考察すること。														
成績評価方法・基準														
・制作への取組 30%（作業姿勢・進捗状況・制作ノート） ・作品 70%（完成度・習熟度・目標達成において総合的に判断する） ・制作ノートを通じて、常にフィードバックして行きます。														
教科書 事前にプリントなどを配布する。														
参考書〔トンボ玉〕〔小暮紀一〕〔ほるぷ出版〕〔2,808円〕														
備 考														
質問などは、授業内 または 授業後オフィスアワーを設けます。														

授業科目名		卒業研究Ⅱ（人形）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)			
担当者	福田 一実		必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年			
授業概要													
４年間で習得した技術を基に、オリジナルの人形を制作させる。作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら人形のキャラクター、人形の在り方について研究させ、人体の造形についても深く追求し、完成度の高い作品を制作できるよう指導する。誰にどこに作品を発信するのかしっかり考え、完成する作品、空間すべてを含め、綿密な計画を立てさせる。４年間の集大成の作品を見せる意義について考えさせると共に制作記録を付けさせる。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
自分の世界の創作人形を完成できる。													○
人形を通して展示の仕方も含め表現方法を考えることができる。							○						○
人形との向き合い方を深めることができる。							○					○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
１～３.仮組をし、バランスチェック。塗装が出来るようしっかりヤスリをかける。					全体のバランス確認。								
４～８.塗装をし、磨く。					細かなキズなどをチェックする。								
９～12.塗装したものに着色する。													
13～14.メイクする。・					メイクのイメージ、資料集め								
15～18.かせを作り、髪を貼る。					ヘアスタイルのイメージ、資料集め								
19.組み立てる。													
20～32.衣装を作る。					衣装の資料集め。								
33～44.背景、展示方法。													
45.完成。講評。													
履修上の注意													
人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。													
成績評価方法・基準													
課題作品 50％、授業態度 50％（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講評会の際、フィードバックを行う													
教科書〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2,880 円〕													
参考書〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2,700 円〕 〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2,000 円〕													
備 考													
解剖学の資料は必ず用意すること。													
質問等については授業終了後、オフィスアワーを受け付けます。													

授業科目名		卒業研究Ⅱ（マンガ）				単位（総授業時間＋自習時間）				6(90＋90)			
担当者	鹿野 明子	必・選	選必	形態	演習	学期	後期	対象	美４年				
授業概要													
前期卒制研究Ⅰの審査結果をふまえ、本提出に向けた計画の見直しやプレゼンテーション、制作ノートの指導を行う。提出にあたり最低限の画力は必要だが、卒制〆切までの時間で個人の持つ技量と構成力、ストーリー性等の要素をバランスよく取り入れた作品になるよう指導する。また、作品の中にどれだけ作者の世界観を取り入れて、それを第三者にもわかり易く示せるか、トータルで卒制課題としてのクオリティを醸し出せるように指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
丁寧で綺麗な仕上げを行い、クオリティの高い画面にできる。							○						○
妥協せず完成度の高い内容に上げることができる。							○						○
作品のよさが伝わる展示方法を実践できる。							○					○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1 前期からの計画を見直し修正する					前期製作ノートをチェックしておく								
2～4 ネームの見直しチェック：ノートチェック①					内容、構成等を吟味しておく								
5～7 構図等の見直しチェック：ノートチェック②					構図や枠取り等の作業を進めておく								
8～10 ペン入れ：ノートチェック③					用具のチェックも行っておく								
11～13 ペン入れ：ノートチェック④					毎回丁寧な作業を心がける								
14～15 ペン入れ：ノートチェック⑤													
16～19 ペン入れ：ノートチェック⑥													
20～21 ペン入れ：ノートチェック⑦													
22～25 ペン入れ：ノートチェック⑧													
26～28 ペン入れ：ノートチェック⑨													
29～31 ペン入れ：ノートチェック⑩					パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく								
32～34 プレゼンテーション1,2：ノートチェック⑪													
35～36 プレゼンテーション3,4：ノートチェック⑫													
37～39 プレゼンテーション5,6：ノートチェック⑬													
41～42 プレゼンテーション7,8					製作ノート、日誌を確認する								
43～44 プレゼンテーションの確認、修正													
45 本提出前の確認：ノートチェック⑭													
履修上の注意													
マンガⅠ、Ⅱ、Ⅲ、技法研究Ⅱa(マンガ)を履修していることが望ましい。													
成績評価方法・基準 毎回ノートチェックでフィードバックする。 課題 80％（アイデア 40％、絵（丁寧さ、画力、仕上げ） 40％）授業態度（創作意欲や創作の自主性等） 20％													
教科書 なし													
参考書 なし													
備考													
授業の後、オフィスアワーを設けるので質問等を受け付ける。													

授業科目名		卒業研究特別講義 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15＋30)				
担当者	三上秀夫・鶴巻史子		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	美４年			
授業概要													
これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用した、卒業制作または卒業論文の準備のための授業である。研究のための一連の流れを確認し、情報収集や調査、執筆又は制作の計画、取材、材料の確認、加工の手段等を検討し、テーマに沿って制作または執筆を行う。外部の会場を借りて卒業制作作品展を行うことを想定した準備計画を進める。この授業の最後に卒業研究中間提出として、作品または論文の進行状況と今後の計画等の発表を行う。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
卒業研究を進めていく上で基本となる考え方およびスキルを学ぶことで、大学４年間の学習の集大成としての課題を達成できるようになる。					○	○	○		○		○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 卒業研究の概要（履修登録確認）					シラバスを熟読すること。								
2. 卒業研究の成果と課題					シラバスに沿って各自検討する。								
3. 卒業研究の年間計画					計画のための情報収集をする。								
4. 卒業研究の立案と制作ノートについて					制作ノートを記入する。								
5. 卒業制作展について（ファイル参考）					制作ノート日程（計画表）の作成。								
6. 卒業制作展について（係分担）					係ごとに仕事内容を確認しておく								
7. 材料・技法検討					材料、技法の情報を収集。								
8. 材料準備					材料研究を行う。								
9. エスキース制作（支持体）					制作ノート（取材・調査）の作成。								
10. エスキース制作（大きさ）					制作ノート（材料・技法）の作成。								
11. エスキース制作（技法）					制作ノートを進める。								
12. 本制作（下地）					制作ノートをまとめる。								
13. 本制作（全体）					係ごとに仕事内容の報告と確認。								
14. 本制作（全体）					発表の順番、場所時間の確認。								
15. 卒業研究中間発表について					各自発表場所の準備。								
履修上の注意													
授業内でその都度指示する。													
成績評価方法・基準													
授業参加状況 50％ レポートの内容 50％													
教科書 事前に資料を配布する。													
参考書 特になし													
備 考													
質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		卒業研究特別講義Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)		
担当者	三上秀夫・鶴巻史子		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	美４年	
授業概要											
これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用した、卒業制作又は卒業論文に主体的に取り組む授業である。４年間の集大成に相応しい作品または論文を完成させる。研究のための一連の流れを確認し、情報収集や調査、執筆又は制作の計画、取材、材料の確認、加工の手段等を検討し、テーマに沿って制作または執筆を行う。外部の会場を借りて卒業制作作品展を開催するための具体的な準備を進める。この授業の最後に卒業研究提出として、作品または論文の提出、発表を行う。											
授業の到達目標					学位授与の方針との関連						
					1	2	3	4	5	6	7
卒業研究を進めていく上で基本となる考え方およびスキルを学ぶことで、大学４年間の学習の集大成としての課題を達成できるようになる。					○	○	○		○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
１．学生相互の情報交換（履修登録確認）					情報交換（履修）のための準備。						
２．学生相互の情報交換（進路確認）					情報交換（進路）のための準備。						
３．学生相互の情報交換（卒業制作展・展示計画）					情報交換（展示計画）のための準備。						
４．学生相互の情報交換（卒業制作展・広報）					情報交換（広報）のための準備。						
５．学生相互の情報交換５（卒業制作展・搬出入計画）					情報交換（搬出入計画）のための準備。						
６．本制作（全体）					係ごとに仕事内容の確認。						
７．本制作（部分）					材料、技法の確認。						
８．本制作（細部）					制作ノート（制作経過）の作成。						
９．本制作（仕上げ）					制作ノート（仕上げ）の作成。						
１０．本制作（完成）					制作ノート（展示計画）の作成。						
１１．本制作（手直し）					制作ノート担当教員による確認。						
１２．プレゼンテーション案について					制作ノートをまとめる。						
１３．プレゼンテーション手直し					係ごとに仕事内容の報告と確認。						
１４．プレゼンテーション完成					発表の順番、場所時間の確認。						
１５．卒業研究提出について					各自発表場所の準備。						
履修上の注意											
授業内でその都度指示する。											
成績評価方法・基準											
授業参加状況 50％ レポートの内容 50％											
教科書 事前に資料を配布する。											
参考書 特になし											
備考											
質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		生活美術特別講義Ⅰ～Ⅴ			単位（総授業時間＋自習時間）			各 1(15＋15)					
担当者	生活美術学科教員他	必・選	選	形態	集中講義	学期	前・後	対象	美 1～3 年				
授業概要													
特別講義Ⅰ：東京方面への美術研修旅行。各自で研修内容を検討し、美術系展覧会・博物館等を視察し、研修内容についてまとめ、発表できるよう指導する。 特別講義Ⅱ～Ⅴ：地方公共団体およびその付属機関等の公的機関、美術に関連する各種工芸工房、デザイン事務所、画材販売等の多様な職種に従事する講師を招聘し、集中講義を行う。本講義を通して、地域社会の一員としての自覚を持ち、自立的・主体的に行動し、倫理観・生涯学習能力を身につけることができるよう指導する。													
授業の到達目標					学位授与の方針との関連								
					1	2	3	4	5	6	7	8	9
生活美術分野における高度な専門知識を身につける事が出来る。							○		○				
社会人として必要な基礎的知識・コミュニケーション能力を身につける事が出来る。					○	○			○				
主体的に課題を解決する能力を身につける事が出来る。												○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. 生活美術特別講義Ⅰ：東京方面研修旅行（1 年次）					研修内容について調査・レポート提出								
2. 生活美術特別講義Ⅱ：1 年次 前期開講					講義内容の確認・課題の完成、提出								
3. 生活美術特別講義Ⅲ：2 年次 開講					講義内容の確認・課題の完成、提出								
4. 生活美術特別講義Ⅳ：2 年次 開講					講義内容の確認・課題の完成、提出								
5. 生活美術特別講義Ⅴ：3 年次 開講					講義内容の確認・課題の完成、提出								

授業科目名		生活美術特別講義Ⅵ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15＋15)				
担当者	佐藤寛和・鶴巻史子		必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	美３年				
授業概要														
特別講義Ⅵでは、デザイン・プロデュースについて学び、グッズやサービスを企画するワークショップを通して発想力と応用力を身につけさせる。事前学習をもとに「自分が欲しいグッズやサービスを考える」「キャラクターデザインとその展開を考える」ことをテーマとして、企画立案・ブラッシュアップ・プレゼンテーション・ふりかえりというデザインプロセスを繰り返しながら、主体的に学び課題を解決する能力を身につけられるよう指導する。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
生活美術分野における高度な専門知識を身につける事が出来る。								○		○				
社会人として必要な基礎的知識・コミュニケーション能力を身につける事が出来る。						○	○			○				
主体的に課題を解決する能力を身につける事が出来る。													○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
１．生活美術特別講義Ⅵ：３年次開講						事前学習のまとめ								
２．商品・サービスの企画と展開について						商品・サービス企画の調査								
３．課題１ デザイン素案						デザイン素案まとめ、発表準備								
４． 発表						発表まとめ								
５． ブラッシュアップ						ブラッシュアップまとめ								
６． 企画改善						企画改善まとめ、フィードバック準備								
７． フィードバック						フィードバックまとめ								
８． ふりかえり						ふりかえりまとめ								
９．課題２ デザイン素案						デザイン素案まとめ、発表準備								
10. 発表						発表まとめ								
11. ブラッシュアップ						ブラッシュアップまとめ								
12. 企画改善						企画改善まとめ、フィードバック準備								
13. フィードバック						フィードバックまとめ								
14. ふりかえり						ふりかえりまとめ、プレゼン準備								
15. プレゼンテーション						制作プロセスまとめ								
履修上の注意														
毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。														
成績評価方法・基準														
課題制作 70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 30%で評価する。														
教科書 資料を配布する														
参考書 適宜指示する														
備 考 生活美術学科全学年が受講可能。質問等は授業終了後に受け付ける。														

教 職 に 関 す る 科 目

4. 教職に関する科目

授業科目名		教職概論			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30＋60)		
担当者	佐々木 晃		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家・美1年
授業概要										
教員を目指すにあたり、学校教育のねらいと教員の役割・使命を理解させるとともに、現在の教員に何が求められているかを考えさせる。加えて、教育実践に必要な基礎的知識・技能を身に付けさせ、教員としての適確性を持つために現在の自分に求められるものは何か、どのような学修が必要かを学ばせ、計画的に学んで教職への意欲を高めていく姿勢を身に付けさせる。現在の教育の動向を踏まえ、教育の不易と流行を良く理解させ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解させる。										
授業の到達目標										
教職概論を学修する上で必要な基礎知識を身に付ける										
学修した内容を整理、要約し説明することができる										
学修した内容を活用して新たな課題を解決しようとする										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）				
1.オリエンテーション（教職を志す者の心構え）						教育や子育てに関する情報を深読みする				
2.教職の意義及び教員の役割						公教育の中での教員の存在意義を調べる				
3.学校の目的・学校の教育目標						我が国における学校教育の意義を調べる				
4.教員の職務内容（研修の義務、服務及び身分保障）						教員に課せられる服務等を事前に調べる				
5.教員養成・教員任用の仕組み						教職の重要性と求められる適性を調べる				
6.教員の資質向上と関係法規						教員に求められる資質と法規を調べる				
7.生徒との関わり方、ほめ方、叱り方						自己の存在感が育まれる指導方法を知る				
8.新たな学びを展開できる学習活動と評価（情報機器の活用等）						アクティブラーニングと学習評価を学ぶ				
9.学習指導案の基本						授業設計の基本と指導案の役割を調べる				
10.学習指導案の作成						模擬授業を事前に行い内容の深化を図る				
11.道徳・特別活動の基本						教育課程における位置づけを理解する				
12.進路指導・キャリア教育						キャリアカウンセリングの考え方を知る				
13.生徒指導・教育相談						今日的な生徒指導の課題や在り方を知る				
14.進路選択に資する各種の機会の提供						教職課程で身に付く資質能力を把握する				
15.教育改革の中の教師（近年の教育改革の動向について）						講義記録を整理しまとめスクラップする				
履修上の注意										
教育の動向に常に意欲的に関心をもち資料収集をすること										
成績評価方法・基準										
平常点３０％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート７０％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。） ・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。										
教科書〔これからの学校教育と教師〕〔佐々木 司他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,376円〕										
参考書〔中学校学習指導要領解説 総則〕〔文部科学省〕〔ぎょうせい〕〔224円〕 〔高等学校学習指導要領解説 総則〕〔文部科学省〕〔東山書房〕〔240円〕										
備 考										
・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。										

授業科目名		教育原理			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)	
担当者	菅並 茂樹		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家・美2年
授業概要										
授業では、一人一人が「教育とは何か」について考え、教育問題に対応していくための基礎的な知識を提供することをねらいとして、まず、教育の本質と意義、乳幼児期から老年期に至る各発達段階の特徴を踏まえた教育のあり方について考察し、続いて家庭、学校、社会という教育の場とその内容と特徴、そして現代の教育に大きな影響を与えた欧米の教育思想・教育目的について教育思想家の教育論を中心に概説し、最後に現在の学校制度について説明する。										
授業の到達目標										
・発達段階の特徴とそれに対応した教育について理解する。										
・教育の場とその内容について理解する。										
・欧米の教育に関わる主要人物の教育思想について理解する。										
・授業全体を通して「教育とは何か」について考察していく。										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）				
1.授業内容全体に関する説明、履修上の諸注意										
2.教育の本質と意義(教育とは何か、教育の意義)						これまで受けてきた教育を通して各自考えてみるように。				
3.発達と教育(1) 発達とは何か、発達の原理、発達の要因						高校「家庭科」の「人の一生と家族、家庭及び福祉」の部分を復習しておくこと。				
4.発達と教育(2) 発達段階(乳幼児期～児童期)										
5.発達と教育(3) 発達段階(青年期～老年期)										
6.発達課題(ハヴィガーストによる発達課題、エリクソンによる発達論)										
7.教育の場と内容(1) 家庭						家庭教育、学校教育、学校卒業後の教育の内容について文献やインターネットなどで自分なりに把握しておくこと。				
8.教育の場と内容(2) 学校										
9.教育の場と内容(3) 社会										
10.欧米の教育思想、教育目的(1) (18～19 世紀)						高校「公民科」の「倫理」の内容のうち関係する部分を復習しておくこと。				
11.欧米の教育思想、教育目的(2) (19～20 世紀)										
12.欧米の教育思想、教育目的(3) (20 世紀)										
13.日本の学校制度						学校教育の抱えている課題を自分なりに考えること				
14.学校教育の課題										
15.授業のまとめと補足						講義ノートなどにより授業の復習をすること				
16 試験										
履修上の注意										
第 1 回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。授業後は講義ノートを読み返して復習すること。また、配布資料をよく読むこと。										
成績評価方法・基準										
学期末試験 60%、課題レポート 40%で評価する。課題は後日授業で講評を行う。試験結果は希望者に知らせる。										
教科書 教科書は使用しない。授業前に資料を配布する。										
参考書 授業で紹介する。										
備 考										
質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けるが、随時来室して(不在のときあり)差し支えない。										

授業科目名		教育心理学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)	
担当者	植松 公威		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家・美2年
授業概要										
虐待によって心身に発達の遅れが生じても教育によって遅れを取り戻せること、とりわけ、ことばの発達には大人との愛着に基づいた非言語的なコミュニケーションが必要であること、また人間は独力で何かが可能になるためには、その前に他者からの援助によって可能になっている必要があり、発達は他者からの援助によって促進されることなどについて解説する。また、学習の転移と記憶を高めるための教授法・学習法や有意義学習の効果について、教授者が実際に模擬授業をしながら理解の促進を図る。										
授業の到達目標										
1 虐待によって心身に深刻な発達の遅れが生じても教育によって遅れを取り戻せることを理解できるようになる。										
2 教育には社会的活動として「発達の最近接領域」を開き、子どもの発達を促す働きがあることを理解できるようになる。										
3 学習の転移と記憶を高めるためには、ルールと事例をどのように関連づけて学ぶのがよいか、理解できるようになる。										
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）					
1. ガイダンス（教授内容と教育目標）					シラバスを熟読すること。					
2. 「赤ちゃんー成長の不思議な道のりー」（NHK）の視聴					人間の成長の特徴と要因について理解する。					
3. 虐待における発達の遅れの障害と補償教育の事例					主にことばの発達の過程や要因について理解する。					
4. 人間における臨界期、敏感期の問題					教育の重要性について考えること。					
5. 発達の成熟優位説とそれに反する事例					成熟優位説を批判的に理解すること。					
6. ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」					教育と発達の関係についてレポートすること。					
7. 発達障害の理解と支援ー障害の種類と特徴ー					発達障害とは何かを理解すること。					
8. 発達障害の理解と支援ー当事者のことばと神経心理学的な特徴ー					効果的な支援のあり方を調べてレポートすること。					
9. ルール学習とは					ルールを学ぶための効果的な方法を理解する。					
10. ルール学習を促進するための「検証法」とは何か					「検証法」について理解すること。					
11. 学習の転移と記憶を促進する「検証法」の効果					「検証法」を体験し、長所を理解すること。					
12. 有意義学習と機械的暗記学習					専門用語について理解すること。					
13. ルールによって意味を理解するー有意義学習の体験ー					有意義学習の長所を理解すること。					
14. 復習のためのテスト					授業の総復習を行うこと。					
15. テストについての解説					間違えたところを修正し、理解し直すこと。					
16. 試験					試験対策の学習をすること。					
履修上の注意										
毎回、ミニットペーパーに感想や考えなどを書いて提出すること。										
成績評価方法・基準										
レポート課題 20%、試験 80%。レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う予定である。授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。										
教科書 授業の中で資料（プリント）を配布する。										
参考書 授業の中で適宜、紹介する。										
備 考										
質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。										

授業科目名		教育制度論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)	
担当者	菅並 茂樹		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家・美3年
授業概要										
近代国家の発展に伴って、私的な営みであった教育活動は国家によって組織的、体系的に整備され、制度化されていく。授業では、学校教育を中心とした欧米での教育制度の発展とわが国の明治期以降の教育制度について概観し、現代の教育の基本概念である「公教育」について説明する。次に教育制度の基本的な部分を占める教育法規に関して、憲法の教育を受ける権利とそれを基盤とした教育基本法を中心とした教育法規の基礎的な知識を概説する。										
授業の到達目標										
・近代以降の欧米及び日本の教育制度の発展の概要と構造を理解する。										
・教育を受ける権利の保障を基盤とした憲法、教育基本法他基本的な教育法規の意義、内容、解釈上の諸問題について理解する。										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）				
1.授業内容全般に関する説明、履修上の諸注意										
2.欧米の教育制度の発展(1) 学校の成立～産業革命期						高校「世界史」の教科書などで産業革命期以後の欧米の歴史を大まかに復習すること。				
3.欧米の教育制度の発展(2) 産業革命期～現代										
4.日本の教育制度の発展(1) 明治期						高校「日本史」の教科書などにより、明治以降の歴史を復習すること。				
5.日本の教育制度の発展(2) 大正期～戦後教育改革										
6.日本の現在の教育制度、公教育の概念						現在の学校体系を調べておくこと。				
7.憲法の人権条項と教育規定(教育を受ける権利)						日本国憲法の基本的人権の規定について復習しておくこと。				
8.教育基本法(1) 法の概要、成立過程、前文										
9.教育基本法(2) 1～4 条						高校「公民」の教科書「政治・経済」のうち「現代の政治」について復習しておくこと。また、教職概論、教育課程論など他の教職に関する科目での関連する部分を復習すること。				
10.教育基本法(3) 5～9 条										
11.教育基本法(4) 10～15 条										
12.教育基本法(5) 16,17 条 まとめ										
13.教育委員会制度										
14.教員に関する法規						講義ノートなどにより復習すること。				
15.授業のまとめと補足										
16.試験										
履修上の注意										
第 1 回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。配布した資料は必ず読んでおき、授業後は講義ノートなどによって復習をすること。										
成績評価方法・基準										
学期末試験 80%,提出課題 20%で評価する。課題は後日授業で講評を行う。試験結果は希望者に知らせる。										
教科書 教科書は使用しない。授業前に資料を配布する。										
参考書〔教育小六法(平成 30 年版)〕〔市川須美子他〕〔学陽書房〕〔2,700 円〕										
備 考										
質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けるが、随時来室して(不在のときあり)差支えない。										

授業科目名		教育課程論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)	
担当者	菅並 茂樹		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家・美2年
授業概要										
教育課程と学習指導に関する基礎的な知識について概説する。教育課程の意義、編成の基本的な考え方、わが国の教育課程編成に関わる諸法規、教育課程の種類についての基礎的な知識を述べた後、わが国の教育課程編成の要となる学習指導要領について、審議会の答申内容を踏まえてその変遷を見ることによって、戦後の教育課程編成に関わる諸問題を考察していく。また、教育課程に対応する代表的な学習指導法についても述べる。										
授業の到達目標										
・教育課程の編成の方法、種類について理解する。										
・学習指導要領の改訂の背景や経緯、特徴、課題となった事柄を把握し、教育課程の諸問題について考察する。										
・教育課程に対応した学習指導法について理解する。										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）				
1.授業内容全般に関する説明、履修上の諸注意						講義ノートなどにより授業内容を復習すること。				
2.教育課程の意義、編成の基本的な考え方、教育課程法制										
3.教育課程編成の方法										
4.教育課程の類型(1) 教科教育課程										
5.教育課程の類型(2) 経験教育課程										
6.学習指導要領の変遷(1) 昭和 22,26 年版の特徴						高校の「日本史」の教科書などによって戦後の歴史を復習しておくこと。配布資料は枚数が多いが必ず事前に読んでおくこと。また、文献やインターネットなどにより学力をめぐる問題について知っておくことが望ましい。				
7.学習指導要領の変遷(2) 昭和 33 年版の改訂の経緯と特徴										
8.学習指導要領の変遷(3) 学問中心のカリキュラム、昭和 43 年版の改訂の経緯と特徴										
9.学習指導要領の変遷(4) 人間中心の教育、昭和 52 年版の改訂の経緯と特徴										
10.学習指導要領の変遷(5) 平成元年版の改訂の経緯と特徴										
11.学習指導要領の変遷(6) 平成 10 年版、20 年版の改訂の経緯と特徴										
12.学習指導要領の変遷(7) 平成 28 年版の改訂の経緯と特徴										
13.学習指導法(1) 系統学習						具体的な題材を設定してこれらの学習指導法による学習を想定してみること。				
14.学習指導法(2) 問題解決学習、発見学習										
15.授業のまとめと補足						講義ノートなどにより復習をすること。				
16.試験										
履修上の注意										
第 1 回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。配布した資料は必ず読んでおき、授業後は講義ノートなどによって復習をすること。										
成績評価方法・基準										
学期末試験 80%、提出課題 20%で評価する。課題は後日授業で講評する。試験結果は希望者に知らせる。										
教科書 教科書は使用しない。授業前に資料を配布する。										
参考書 〔小・中・高等学校学習指導要領〕及びその〔解説 総則編〕										
備 考										
質問等は授業終了後及びオフィスアワーで受け付けるが、随時来室して(不在のときあり)差し支えない。										

授業科目名		家庭科教育法Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）			4(60＋120)		
担当者	佐藤 郷美		必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	家・健3年
授業概要										
家庭科教育における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科教育の学習内容（A 家族・家庭生活、B 衣食住の生活、C 消費生活・環境）について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法とともに学習指導案の作成や模擬授業を通して、指導技術の向上を図る。 テーマ ～家庭科教育の理解と指導技術の向上を目指して～										
授業の到達目標										
・家庭科教育に関する学習指導要領に示された目標や内容を身に付ける。										
・家庭科教育に関する具体的な学習指導理論を身に付ける。										
・家庭科における具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける。										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）				
1. 家庭科教育とは 家庭科で育てる資質・能力について						学習指導要領の基本方針を読む				
2. 家庭科教育の歴史とその変遷						家庭科教育の変遷について調べる				
3. 家庭科教育の意義とその展望						最近のニュース等で家庭科記事の収集				
4. 小学校における家庭科教育の内容について						小学校での学びのまとめ				
5. 中学校における家庭科教育の内容について						中学校での学びのまとめ				
6. 高等学校における家庭科教育の内容について						高校での学びのまとめ				
7. ホームプロジェクト・家庭クラブと技能検定						教科書関連部分を読む				
8. 教科、道徳及び総合的な学習などとの関連・教育課程						学習指導要領、関連部分を読む				
9. 学習指導計画① 作成の意義、留意点、等						学習指導要領、関連部分を読む				
10. 学習指導計画② 年間指導計画案と題材指導計画案						学習指導要領、関連部分を読む				
11. 学習指導案の作成（その形式と留意点）						学習指導要領、関連部分を読む				
12. 家庭科の授業の実践について						今までの家庭科授業の学びのまとめ				
13. 学習指導過程の作成①（導入・展開）						指導案の作成				
14. 学習指導過程の作成②（展開・終結）						指導案の作成				
15. 学習指導案過程の作成に関するまとめ						今までの学びの復習				
16. 家庭科教育に関する施設・設備の必要性和管理運営						学習指導要領、関連部分を読む				
17. 学習指導方法① 学習類型と指導形態						学習指導要領、関連部分を読む				
18. 学習指導方法② 実験・実習の指導と家庭科の特質						学習指導要領、関連部分を読む				
19. 家庭科教育における教材研究① 教材作成上留意点						家庭科食と衣の教材調べ				
20. 家庭科教育における教材研究② 教材づくりと授業の実践						教材づくりと発表準備				
21. 評価について 評価方法とその実践						評価について調べる				
22. 学習指導案の作成①（前段）						学習指導案の題材を決める				
23. 学習指導案の作成②（本時の指導）						学習指導案、本時の指導を構想する				
24. 学習指導案作成発表						学習指導案づくりと発表準備				
25. 模擬授業① ～主に導入						模擬授業の準備、まとめ（導入）				
26. 模擬授業② ～展開						模擬授業の準備、まとめ（展開）				
27. 模擬授業③ ～板書・学習カード						模擬授業の準備、まとめ（板書、カード）				
28. 模擬授業④ ～教材・教具						模擬授業の準備、まとめ（教材教具）				
29. 模擬授業⑤ ～まとめの工夫						模擬授業の準備、まとめ（まとめの工夫）				
30. これまでの学習のまとめと教育実習						これまでの学びをまとめる				
履修上の注意										
・提出物は期限厳守で必須。										
成績評価方法・基準										
講義と共に実践的・体験的な学びに対する真摯な取り組み。 講義への出席と取組状況 40％ 定期考査 30％ 学習指導案及び模擬授業 30％ 次回の授業内でフィードバックをします。										
教科書										
〔中学校 教科書 技術・家庭（家庭分野）〕〔開隆堂〕〔643 円〕 〔高等学校 教科書 家庭総合〕〔開隆堂〕〔778 円〕										
参考書										
〔中学校学習指導要領解説 技術・家庭編〕〔文部科学省/編 教育図書〕〔82 円〕 〔高等学校学習指導要領解説 家庭編〕〔文部科学省（著）〕〔288 円〕										
備考										
授業終了時に質問を受け付けます。										

授業科目名		家庭科教育法Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				4(30+60)		
担当者	深澤 律子	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	家・健 4 年		
授業概要											
家庭科および家庭科教育を理解し、中学校「技術・家庭科」の家庭分野及び高等学校家庭科の授業のための実践力を修得する。そのために学習指導計画・指導法・評価・教材研究の進め方・教材教具の作成等演習を重視して、総合的・実践的な学習を深め、教育実習をより効果的に行う能力と態度を育成する。中学（高校）生の現代の生活課題について理解し、生徒がその課題を解決するための教材を考え、生徒が主体的に学ぶ家庭科の授業を作るための実践力を身につける。											
授業の到達目標											
①中学（高等学校）家庭科の指導要領を理解した上で、指導案を計画することができる。											
②中学（高等学校）家庭科の指導要領を理解した上で、教材研究、教材教具の作成を行うことができる。											
③中学（高等学校）家庭科の教育実習にむけて、自分の家庭生活の自立ができる。											
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1.ガイダンス：教育実習について 模擬授業実践計画					学習指導要領をよく読み、教育実習で行う学校（中・高）の学習指導要領をまとめ、次回提出。						
2.教育実習：教育実習事前指導 教材研究・指導案					教育実習で行う学校（中・高）の教材研究・指導案をまとめ、次回提出。						
3.教員採用試験に向けて・指導細案作成方法					前回まとめた教材研究・指導案を更に詳しくまとめ、次回提出。						
4.学習指導：模擬授業実践に向けて（教材研究の要点）					教材研究について資料を集め、具体的に教材を作成し、次回提出。						
5.模擬授業Ⅰ：模擬授業実践①（導入の工夫・展開の山場）					模擬授業内容のタイムテーブルを作成し、次回提出。						
6. 〃 〃：模擬授業実践②（まとめの工夫）					模擬授業内容のポイントとまとめをレポートにまとめ、次回提出。						
7. 〃 〃：模擬授業実践③（板書の工夫）					模擬授業内容の板書すべきことをレポートにまとめ、次回提出。						
8. 〃 〃：模擬授業実践④（評価の研究）					模擬授業内容の評価について、ルーブリック評価法をレポートにまとめ、次回提出。						
9. 〃 〃：模擬授業実践⑤（教材教具の工夫と掲示）					模擬授業内容の教材教具について作成し、次回発表できるように準備。						
10.教育実習のまとめ：教育実習の反省・評価・まとめ					模擬授業内容についてのアンケート用紙を作成し、次回提出。						
11.教育実習研究授業実践発表会・評価①					教育実習研究授業内容について自分で準備し、練習し、授業に備える。（課題 1）						
12. 〃 〃 ②					教育実習研究授業内容について自分で準備し、練習し、授業に備える。（課題 2）						
13. 〃 〃 ③					教育実習研究授業内容について自分で準備し、練習し、授業に備える。（課題 3）						
14. 〃 〃 ④					教育実習研究授業内容について自分で準備し、練習し、授業に備える。（課題 4）						
15.模擬授業実践の反省・評価 教員採用試験に向けて					模擬授業を行っての反省・評価をまとめ、教員採用試験にむけての決意を 800 字にまとめ次回提出。						
16.学習指導計画：体験・実習・実験学習実践指導法					教科書をよく読み、体験・実習・実験の事例をレポートにまとめ、次回提出。						
17.実践学習指導：実践学習の進め方（シニア体験学習）					体験学習の感想をレポートにまとめ、次回提出。						
18. 〃 〃： 〃 〃（家庭看護）					実践学習の感想をレポートにまとめ、次回提出。						
19.実験・実習学習指導の進め方：（食物分野）					教科書をよく読み、食物分野の実習・実験の事例をレポートにまとめ、次回提出。						
20. 実験・実習学習指導の進め方：（衣生活分野）					教科書をよく読み、衣生活分野の実習・実験の事例をレポートにまとめ、次回提出。						

21.模擬授業の計画：模擬授業指導案作成（食物分野）	教科書をよく読み、食物分野の模擬授業指導案を作成し、次回提出。
22.模擬授業Ⅱ：食物分野実験学習指導①（導入の工夫）	授業内容のタイムテーブルを作成し、次回提出。
23. 〃 : 〃 ②（展開の山場）	授業内容のタイムテーブルに補足を加え、次回提出。
24. 〃 : 〃 ③（板書・学習プリント）	教科書をよく読み、食物分野の実習の学習プリントを作成し、次回提出。
25. 〃 : 〃 ④（教材教具の工夫）	教科書をよく読み、食物分野の実習の教材を作成又は試作し、まとめたものを次回提出。
26.模擬授業Ⅲ：衣生活分野実習学習指導①（導入の工夫）	授業内容のタイムテーブルを作成し、次回提出。
27. 〃 : 〃 ②（展開の山場）	授業内容のタイムテーブルに補足を加え、次回提出。
28. 〃 : 〃 ③（板書・学習プリント）	教科書をよく読み、衣生活分野の実習の学習プリントを作成し、次回提出。
29. 〃 : 〃 ④（教材教具の工夫）	教科書をよく読み衣生活分野の教材を作成し、レポートにまとめ、次回提出。
30.まとめ：模擬授業のまとめと評価、反省	実習の模擬授業の感想をレポートにまとめ、次回提出。
31 試験.	

履修上の注意

・受講は、自分が教育実習で授業を行うことを想定し、家庭科の教科書（中・高）・指導要領の精読を心がける。模擬授業の教材研究は、自主的にニュースや新聞、関連図書等で下調べを行い資料収集し、教材作成や試作を行うなど、積極的に取り組む態度を望みます。家庭科の内容（家族・家庭生活、衣・食・住・環境・消費者教育）について、自分の日常生活の中で考え、実践する態度が重要です。

成績評価方法・基準

定期試験 50%、レポート・提出物 25%、模擬授業の実践 25%（学習指導計画案、指導技術、態度等）
提出されたレポートは、後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックする。

教科書 家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する。

参考書 無し

備 考

- ・就職関連で休む場合、事前にわかっている場合は、前もって連絡してください。
- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。学習目標として参照してください。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名		美術科教育法Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				4(60+120)	
担当者	加美山 裕子		必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	美3年
授業概要										
中学校美術科・高等学校美術科の教員に必要とされる基礎的な指導理論の修得を図る。美術教育の時代的変遷を学び、学習指導要領の内容・構造の理解を図るとともに、基礎的な指導方法や造形的表現技術の指導方法について修得させる。中学校美術科の教科書を使った教材研究や模擬授業を行い、4年次での教育実習に向けての準備としていきたい。										
授業の到達目標										
・一つ一つの題材に含まれる教材としての価値・内容を把握、理解する。										
・個々の学習内容を分析して、指導する上での留意点を理解し、創造的・造形的視点での授業が展開できる力を身につける。										
・基礎的な学習指導理論を理解し、具体的授業を想定した授業計画を立てて学習指導案の作成がスムーズにできる。										
(ア) 模擬授業を通して学習指導案の具体的実践を体験し、授業改善の視点を理解する。										
(イ) 4年次での教育実習における基本的・実践的な学習指導方法の基礎を養う。										
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）					
1.オリエンテーション、美術教育とは何か。					配布されたレジュメによく目を通し、ファイリングを始める。					
2.学びの基礎とはⅠ（学校教育の意義）					学校教育の意義について、講義内容を理解・把握し、次回実施のレポートに備える。					
3.学びの基礎とはⅡ（学びと評価、指導の手立て）					レジュメを熟読しておく。					
4.美術教育の確立Ⅰ（教科としての美術教育）					レジュメを熟読しておく。					
5.美術教育の確立Ⅱ（①美術教育の目指すもの）					レジュメを熟読しておく。					
6.美術教育の確立Ⅱ（②基礎・基本の指導の重要性）					課題として人間の発達段階について考え、配布されたプリントに記入。					
7.美術教育の確立Ⅲ（①発達課題と美術教育のかかわり）					レジュメを熟読しておく。					
8.美術教育の確立Ⅲ（②パートナーシップを生かした美術学習）					レジュメを熟読し、その活用について考えをまとめる。					
9.学校の役割と美術教育Ⅰ（①学校の教育役割）					レジュメを熟読しておく。					
10.学校の役割と美術教育Ⅰ（②美術における発展的学習について）					レジュメを熟読しておく。					
11.学校の役割と美術教育Ⅰ（③表現の学習に関する指導）					レジュメを熟読しておく。					
12.学校の役割と美術教育Ⅱ（教員養成から考察した造形教育指導上の課題）					レジュメを熟読しておく。					
13.学習指導要領の研究（①学習指導要領について）					レジュメを熟読しておく。					
14.学習指導要領の研究（②指導計画の作成と内容の取り扱い）					ここまで学修した内容を復習しまとめ、次回のレポート作成に備える。					
15.美術教育の指導（指導と評価の一体化）					レジュメを熟読しておく。					
16.美術教育での評価Ⅰ（①評価の種類）					レジュメを熟読しておく。					
17.美術教育での評価Ⅰ（②評価の観点）					レジュメを熟読しておく。					
18.美術指導での改革（美術指導を改革していく7つのポイント）					レジュメを熟読しておく。					
19.学習指導案の作成について					指導案の参考資料等に目を通し、形式や記入すべき内容について理解・把握しておく。					

20.指導内容・題材の分析	指導内容や題材についてまとめ、次回活用。
21.学習指導案作成 ①	授業で使用する資料や参考作品の準備を行う。
22.学習指導案作成 ②	自作の参考作品づくり等を進める。
23.学習指導案作成 ③	指導案を完成させ、次回提出。
24.模擬授業実践 ①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
25.模擬授業実践 ②	自己の模擬授業の準備や練習。
26.模擬授業実践 ③	自己の模擬授業の準備や練習。
27.模擬授業実践 ④	模擬授業から学んだ事をまとめておく。
28.模擬授業の講評とまとめ	模擬授業から学んだ事を自己の授業実践に生かせる手立てを考えていく。
29.指導計画について（年間指導計画の作成）	模擬授業を通して学んだ事についてまとめ、次回レポート記入。
30.美術科指導理論のまとめと教育実習に向けて	配布された全レジュメのファイリングを確認。
履修上の注意 ・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき、受講の際は必ず持参すること。 ・自主的、意欲的に受講し、講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め、提出物は期限厳守で提出すること。	
成績評価方法・基準 レポート・提出物（学習指導案 他）（60％）， 模擬授業（30％）， 受講態度（10％） ・提出されたレポート等は、後日添削して返却する。 ・模擬授業演習は、授業でのフィードバックと紙面による講評および意欲づけ（個々に）を行う。	
教科書 ・〔中学校学習指導要領美術編〕〔平成30年 文部科学省〕〔100円前後〕，〔高等学校学習指導要領芸術編〕〔文部科学省〕〔350円前後〕 ・授業毎に適宜，テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。	
参考書 ・〔中学校美術科教科書〕〔日文出版〕〔1,000円前後〕，〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔780円〕	
備 考 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間等は適宜指示するので確認）で受け付けます。	

授業科目名		美術科教育法Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				4(60+120)	
担当者	加美山 裕子		必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	美４年
授業概要										
教育実習の持つ意義等について理解を深め、授業実践への意欲を高める。模擬授業の展開にあたり、教材の分析や指導案作成の手順を具体例に即して把握させ美術指導の実践力を養いたい。題材の展開や授業の進め方などを模擬授業の中で理解させるとともに、美術指導における「指導と評価のあり方」や美術教育の意義やねらいについての自己の考えをしっかりと持つことができるようにしていきたい。										
授業の到達目標										
・美術科における効果的指導力の向上を目指し学習指導要領についてその全体構造を理解、把握している。										
・子どもの発達段階における思考力や学力等の実態を考慮した授業計画を立案できる。										
・美術科の特性に応じた教材の選択や情報機器の活用法について理解し、自己の授業設計に活用していくことができる。										
・美術科の指導理論の理解、把握の下に学習指導案の作成がスムーズにできて、それに基づいた模擬授業の実践を充実させることができる。										
・美術科における学習の評価について理解し、授業計画に取り入れて活用することができる。										
・美術教育の持つ意義と目標を理解、把握し、そこから学校現場における実践感覚を育み、自己の指導力の向上に努めることができる。										
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）					
1.オリエンテーション、美術教育について					配布されたレジュメによく目を通し、ファイリングを始める。					
2.教育実習での留意事項と心得①					実習校訪問時のあいさつ等の練習をしておく。					
3.教育実習での留意事項と心得②					レジュメを熟読し、実習時のイメージを持つ。					
4.学習指導案の書き方（確認）					復習と確認を行う。					
5.美術教育の確立①（義務教育の目指すもの）					レジュメを熟読しておく。					
6.美術教育の確立②（美術教育の持つ教育力）					レジュメを熟読しておく。					
7.中学校での美術の授業①（美術教育の特色）					レジュメを熟読しておく。					
8.中学校での美術の授業②（題材について）					レジュメを熟読しておく。					
9.年間指導計画の実際について					基本的な考え方を理解し、次回の作成に生かせるようにする。					
10.年間指導計画案作成①					指導計画案の作成を進める。					
11.年間指導計画案作成②					指導計画案を完成させ、次回提出。					
12.教育実習報告①					自己の報告書をまとめる。					
13.教育実習報告②					自己の報告書をまとめる。					
14.教員採用試験に向けて・諸注意					自己の模擬授業の準備や練習を行う。					
15.教育実習時の指導案による模擬授業①					自己の模擬授業の準備や練習を行う。					
16.教育実習時の指導案による模擬授業②					模擬授業から学んだことをまとめておく。					
17.教育実習の講評とまとめ.					教育実習の反省とまとめをし、報告書を提出できるよう準備する。					
18.美術の授業の特色（授業づくりの基本的留意点）					レジュメを熟読しておく。					

19.美術教育の評価と指導①（学びと評価）	レジュメを熟読しておく。
20.美術教育の評価と指導②（絶対評価と指導の実際）	レジュメを熟読しておく。
21.学習指導案の作成について	レジュメを熟読し、題材について考えておく。
22.題材分析と評価をふまえた指導計画	題材の分析表を完成させ次回提出。
23.学習指導案の作成①	授業で使用する資料や参考作品の準備を始める。
24. " ②	授業で使用する資料の調達、自作参考作品の準備を進める。
25. " ③	指導案を完成させる。
26.模擬授業発表 ①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
27. " ②	自己の模擬授業の準備や練習。
28. " ③	自己の模擬授業の準備や練習。
29. " ④	自他の模擬授業から学んだことを振り返り、美術科の指導の基本やポイントについてまとめておく。
30.模擬授業の講評，美術科指導理論のまとめ	配布された全レジュメのファイリングを確認。
履修上の注意 ・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき，受講の際は必ず持参すること。 ・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め，提出物は期限厳守で提出すること。	
成績評価方法・基準 レポート・提出物（学習指導案，年間計画，題材分析 他）（５０％）， 模擬授業 （４０％）， 受講態度 （１０％） ・提出されたレポート等は，後日添削して返却する。 ・模擬授業演習は，授業でのフィードバックと紙面による講評および意欲づけ（個々に）を行う。	
教科書 ・〔中学校学習指導要領美術編〕〔文科省〕〔１００円前後〕，〔高等学校学習指導要領芸術編〕〔文科省〕〔３５０円前後〕＊３年次に購入のものを継続して使用する。 ＊授業毎に適宜，テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。	
参考書 ・〔中学校美術科教科書〕〔日出版〕〔１，０００円前後〕，〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔７８０円〕 ＊３年次に購入のものを継続して使用する。	
備 考 ・質問については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間等は適宜指示するので確認）で受付けます。	

授業科目名		工芸科教育法			単位（総授業時間＋自習時間）				4(60+120)
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	美3年
授業概要									
①「人間」、「教育」、「芸術」の定義について考察を促す。②教育の意味及び、教育における芸術科の役割について理解を促す。③「高等学校学習指導要領解説・芸術」に記載された「美術」と「工芸」の関係について理解を促す。④美術科と工芸科の違いと工芸科の特長について考察を促す。⑤工芸科学習指導要領に関する理解を促し、教材開発能力を育成する。⑥模擬授業の実践をととして、学習指導案の作成力と授業の実践力を高める。⑦工芸科教育の可能性について示唆を与える。									
授業の到達目標									
学校教育における工芸科の意味と重要性について説明できる。									
工芸科学習指導要領に示された教科の目的や内容を理解する。									
基礎的な学習指導論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.オリエンテーション-工芸科教育の現状と可能性について					ワークシートによる予習				
2.人間と教育について①-林竹二の教育論をととして					ワークシートによる復習・予習				
3.人間と教育について②-授業の役割 教師の役割					ワークシートによる復習・予習				
4.人間と教育について②-芸術教育と工芸科の役割について					ワークシートによる復習・予習				
5.人間と教育について③-シュタイナー教育の原点をととして（子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性について）					ワークシートによる復習・予習				
6 人間と教育について④-能動的学習の意味と工芸科における応用について					ワークシートによる復習・予習				
7.教育と表現教育-国家と経済と精神性に関する考察をととして					ワークシートによる復習・予習				
8.鑑賞教育の意味とあり方について					ワークシートによる復習・予習				
9.鑑賞教育と道徳教育について-ピアジェの「三つの山問題」をととして					ワークシートによる復習・予習				
10.工芸科における社会的視点について①-バウハウスに至るまで					ワークシートによる復習・予習				
11.工芸科における社会的視点について②-バウハウスのコンセプト					ワークシートによる復習・予習				
12.工芸科における社会的視点について③-バウハウスにおける実験					ワークシートによる復習・予習				
13.工芸科における社会的視点について④バウハウスの遺産-製品デザインに与えた影響をととして					ワークシートによる復習・予習				
14.工芸科における社会的視点について⑤バウハウスの遺産-建築デザインに与えた影響をととして					ワークシートによる復習・予習				
15.工芸科における社会的視点について⑥バウハウスの遺産-教育に与えた影響をととして					ワークシートによる復習・予習				

16.工芸科学習指導要領の概要について	ワークシートによる復習・予習
17.工芸科学習指導要領における工芸Ⅰの位置づけについて 「工芸Ⅰ」(文部科学省認定済教科書)の概要について	ワークシートによる復習・予習
18 工芸科学習指導要領における工芸Ⅱの位置づけについて 「工芸Ⅱ」(文部科学省認定済教科書)の概要について	ワークシートによる復習・予習
19 工芸科学習指導要領における工芸Ⅲの位置づけについて	ワークシートによる復習・予習
20「工芸Ⅰ」(文部科学省認定済教科書)の具体的応用について	ワークシートによる復習・予習
21「工芸Ⅱ」(文部科学省認定済教科書)の具体的応用について	ワークシートによる復習・予習
22.授業における工芸Ⅲの具体的展開について-工芸科学習指導要領をとおして	ワークシートによる復習・予習
23 工芸科学習指導要領に即した評価方法について	ワークシートによる復習・予習
24 工芸科学習指導要領における「A 表現」の「(1) 身近な生活と工芸」に係る学習指導案の作成	ワークシートによる復習・予習
25 工芸科学習指導要領における「A 表現」の「(1) 身近な生活と工芸」に係る模擬授業の実践と振り返り	ワークシートによる復習・予習
26 工芸科学習指導要領における「A 表現」の「(2) 社会と工芸」に係る学習指導案の作成	ワークシートによる復習・予習
27 工芸科学習指導要領における「A 表現」の「(2) 社会と工芸」に係る模擬授業の実践と振り返り	ワークシートによる復習・予習
28 工芸科学習指導要領における「B 鑑賞」に係る学習指導案の作成について(授業における情報機器等の効果的活用方法を含む)	ワークシートによる復習・予習
29 工芸科学習指導要領における「B 鑑賞」に係る模擬授業の実践と振り返り(授業における情報機器等の効果的活用方法を含む)	ワークシートによる復習・予習
30 工芸科の可能性と工芸科教育における応用について (発展的な学習内容に関する探求と授業実践の事例をとおして)	ワークシートによる復習
履修上の注意 無断遅刻／欠席をしないこと 積極性／主体性を有すること 教員になり、生徒を支援する強い意思を有すること	
成績評価方法・基準 ワークシート：60%(フィードバックを行う) 指導案：20%(フィードバックを行う) 模擬授業：20%(フィードバックを行う)	
教科書 〔高等学校学習指導要領解説〕(データ版：無料)	
参考書 〔工芸Ⅰ〕〔工芸Ⅱ〕〔日本文京出版株式会社〕	
備考 オフィスアワー(前期) 月曜日 15:00～16:00 17:00～18:00 オフィスアワー(後期) 火曜日 10:00～11:00 火曜日 14:00～15:00	

授業科目名		道徳教育の指導法			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	加美山 裕子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家・美3年		
授業概要											
道徳性の涵養は、人間性発達の根幹をなすものである。道徳性を培い道徳的実践力の育成のためには、学校における「道徳科」の時間だけでなく教育活動全体を通して行われる必要がある。その基盤となるのはしっかりとした指導計画に沿った計画的な指導の実践である。ここでは道徳の意義・本質の把握や道徳教育の歴史の理解、道徳教材の分析などを通して、学校における「道徳科」の指導方法の修得を図りたい。											
授業の到達目標											
・道徳の本質について理解し、道徳教育の歴史と時代や社会との関係について説明できる。											
・学習指導要領の道徳教育及び道徳科の目標や内容を理解し、子どもの道徳性の発達と道徳教育の担う役割について把握し、その重要性を受け止めることができる。											
・学校における道徳教育の指導計画や学校教育活動全体を通じた指導の重要性について理解、把握している。											
・道徳科の教材への理解をふまえて授業計画を立てることができ、授業のねらいを明確にした学習指導案を作成することができる。											
・道徳科の特性をふまえた学習評価の在り方について理解する。											
・模擬授業の実践を通して道徳の授業の実際を学び、そこから授業改善の視点を身に付ける。											
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）					
1.オリエンテーション、道徳の定義						配布されたレジュメを精読し、ファイリングを始める。					
2.道徳教育の基礎Ⅰ（学校における道徳教育の充実）						配布されたプリントで予習をし、次の講義で使用。					
3.道徳教育の基礎Ⅱ（指導要領改訂の歩から見る道徳教育の歴史・道徳教育の目標）						指示された課題について調べ、次のレポート作成に備える。					
4.道徳教育の基礎Ⅲ（生き方教育としての道徳教育）						レジュメを熟読し、復習とまとめをしていく。					
5.道徳教育の基本的あり方①（内容項目と主題について）						配布されたレジュメの熟読と復習。					
6.道徳教育の基本的あり方②（道徳教育の基本的あり方）						〃					
7.道徳教育の基本的あり方③（道徳性の発達と道徳教育）						〃					
8.道徳性の具体的把握①（道徳的判断力とは）						〃					
9.道徳性の具体的把握②（ピアジェ・コールバーグ等の理論）						次のレポート作成に備え、復習とまとめをしておく。					
10.道徳性の具体的把握③（道徳的実践意欲とは・道徳性を育む家庭教育の役割）						配布されたレジュメを熟読し、理解・把握に努める。					
11.道徳科の学習評価について						〃					
12.学習指導案の内容と作成（教材分析と指導案の作成について）						レジュメを熟読し、指導案作成に生かせるようにする。					
13.道徳科指導案の作成						道徳学習指導案を完成させ次回提出。					
14.道徳の授業の実際（模擬授業①）						模擬授業から学んだことを自己の授業実践に生かせる手立てを考える。					
15.道徳の授業の実際（模擬授業②）、講評とまとめ						道徳指導の基本や本質について復習とまとめを行い試験に備える。					
16.定期試験											
履修上の注意											
・講義時に配布するレジュメを順次ファイリングし、受講の際は必ず持参すること。											
・自主的、意欲的に受講し、講義中は進んでメモをとる等、自己の学修の積み重ねに努めること。											
・指示された提出物は、提出期限を守って必ず提出すること。											
成績評価方法・基準											
レポート等の提出物・学習指導案・模擬授業（４０％）、 期末試験（５０％）、 受講態度（１０％）											
・提出されたレポート等は、後日添削して返却する。											
・試験は、後日答案用紙に解答例の添削とコメントを加えて返却する。											
教科書											
〔中学校学習指導要領道徳科編〕〔平成３０年１０月 文部科学省〕〔１５０円前後〕											
＊講義時に適宜、テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。											
参考書											
「無し」 ＊必要な資料等は適宜、プリントにして配布する。											
備 考・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間等はその都度指示）で受け付けます。											

授業科目名		特別活動の指導法				単位（総授業時間＋自習時間）				1(15+30)
担当者	須藤 由子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家・美2年	
授業概要										
特別活動の意義や教育課程における位置付け，目標，内容を理解する。横断的な学習，集団活動の指導方法についてグループワークや討論を取り入れる中で具体的に理解し，指導案作成や模擬授業等を通して実践的指導力を育成する。実際におこなわれている授業実践について知り，評価ができる。随時 DVD 鑑賞等も行い，より実践的な視点からの理解を深める。										
授業の到達目標										
特別活動の意義や位置付け，目標や内容について考察する。										
生徒の実態や総合的な学習の時間及び特別活動の具体例を題材に，指導・支援の在り方を考察する。										
課題発表や討議等を取り入れて授業を展開するので，講義中の意見発表が求める。										
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）					
1．特別活動とは(授業オリエンテーション)					「学習指導解説書」の該当ページを読んでもくる（前時にページを指示します。					
2．特別活動の目標と内容					「学習指導解説書」の該当ページを読んでもくる（前時にページを指示します。					
3．特別活動の歴史と変遷					「学習指導解説書」の該当ページを読んでもくる（前時にページを指示します。					
4．子どもの現状と特別活動					「学習指導解説書」の該当ページを読んでもくる（前時にページを指示します。					
5．中学校における学級活動の目標と内容・指導ポイント					「学習指導解説書」の該当ページを読んでもくる（前時にページを指示します。					
6．高等学校におけるホームルーム活動の目標と内容・指導ポイント					「学習指導解説書」の該当ページを読んでもくる（前時にページを指示します。					
7．生徒会活動（目標と内容・指導のポイント）					「学習指導解説書」の該当ページを読んでもくる（前時にページを指示します。					
8．学校行事（目標と内容・指導のポイント）					「学習指導解説書」の該当ページを読んでもくる（前時にページを指示します。					
9．勤労体験・奉仕的活動					「学習指導解説書」の該当ページを読んでもくる（前時にページを指示します。					
10．部活動の意義と指導の在り方					「学習指導解説書」の該当ページを読んでもくる（前時にページを指示します。					
11．年間指導計画の作成					模擬授業のための指導案準備					
12．学習指導案の作成					模擬授業のための指導案準備					
13．グループ別による模擬授業（1）教員の生徒理解、雰囲気作り、自由な意見交換など）					模擬授業のための指導案準備					
14．グループ別による模擬授業（2）連帯意識、自主的・実践的態度の育成、社会的資質の育成など					模擬授業のための指導案準備					
15．まとめ（指導法、留意事項などについての発表・討論）					試験に向けての復習					
16．試験										
履修上の注意										
20分遅刻の場合は、欠席とみなします。										
成績評価方法・基準										
・小論文（20％），期末試験（50％），講義中の議論への貢献度合い（30％）を総合して評価する。 ・授業中に発表する機会があります。発表後その場でコメントします。										
教科書〔中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編，特別活動編〕（平成30年2月下旬に発行予定）										
参考書〔新しい特別活動指導論〕〔高旗 正人〕〔ミネルヴァ書房〕										
備 考										

授業科目名		教育方法論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)	
担当者	植松 公威・松尾 広	必・選	選		形態	講義	学期	後期	対象	家・美2年	
授業概要											
教授者が教育を行う場合、学習者が学ぶ内容について、あらかじめ「白紙」の状態であることはまれである。むしろ、正式な教授を受ける前に何らかの「誤った、または不完全な知識」を持っている場合が一般的である。そこで、学習者がもつ「誤った、または不完全な知識」の修正を促すためには、どのような教授ストラテジーが有効であるかを検討するとともに、教授ストラテジーの問題点や有効に使うための技術（工夫）について考える。また、学習評価と教育評価の方法について解説する。情報機器を使った効果的な教育方法についても説明する。											
授業の到達目標											
1「誤った、または不完全な知識」の修正に有効な教授ストラテジーの種類と問題点を知り、教授ストラテジーを有効に用いるための工夫（技術）を理解する。											
2「到達度・自己評価」が内発的動機づけに有効であることを理解する。											
3 教育活動の効果の検証方法（比較法、相関法、構成法）の特徴を理解する。											
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）					
1. ガイダンス（教授内容と教育目標） 植松						シラバスを熟読すること。					
2. 学習者の過去経験と「誤った、不完全な知識」（ル・バー）の形成について 植松						ル・バーがどのように形成されるかを理解すること。					
3. 「ル・バー対決型ストラテジー」の授業例と問題点 植松						「ル・バー対決型ストラテジー」の特徴を理解する。					
4. 詩の読み取りに及ぼす「矛盾を喚起する発問」の効果 植松						詩の素朴な読みを修正する発問の効果を理解する。					
5. 「ル・バー懐柔型ストラテジー」の効果と問題点 植松						「ル・バー懐柔型ストラテジー」の特徴を理解する。					
6. 教授ストラテジーを有効に用いるための工夫（技術） 植松						実際の授業を視聴し、工夫（技術）を理解する。					
7. ル・バーの修正に及ぼす「範囲画定型ルール」の効果 植松						「範囲画定」とはどのような方法か理解する。					
8. 適性処遇交互作用（ATI）について 植松						ATIの概念と実際の事例を理解する。					
9. 「到達度自己評価」が内発的動機づけに及ぼす効果 植松						「到達度自己評価」とは何かを理解すること。					
10. 教育活動の効果の検証方法－比較法と倫理的問題－ 植松						比較法の特徴と倫理的問題について理解する。					
11. 教育活動の効果の検証方法－相関法と構成法－ 植松						相関法の問題点、構成法の長所を理解すること。					
12. 比較法、相関法、構成法のそれぞれの長所と短所 植松						評価について学んだことをレポートすること。					
13. 復習のためのテスト 植松						間違えたところを修正し、理解し直すこと。					
14. 情報機器の特性 松尾						教育に利用できる情報機器について理解する。					
15. コンピュータを使った効果的な教育方法 松尾						コンピュータを使った授業の事例について理解する。					
16. 試験						試験対策の学習をすること。					
履修上の注意											
毎回、ミニットペーパーに感想や考えなどを書いて提出すること。											
成績評価方法・基準											
レポート課題 20％，試験 80％											
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。											
各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う予定である。											
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。											
教科書 授業の中で資料（プリント）を配布する。											
参考書 授業の中で適宜、紹介する。											
備 考 質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。											

授業科目名		生徒指導の理論と方法 A (進路指導の理論及び方法を含む。)		単位 (総授業時間+自習時間)			2(30+60)			
担当者	佐々木 晃		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家・美3年
授業概要										
一人ひとりの生徒の人格を尊重し個性の伸長を図りながら適切かつ組織的な生徒指導の進め方を進めていくための資質、能力を身に付けさせる。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解させる。望ましい生徒指導の進め方を学修させ、生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとし、そのために必要な知識・技能の習得を図らせることを目指す。この授業は「進路指導の理論及び方法」を含む。										
授業の到達目標										
生徒指導の意義や原理を理解する										
全ての生徒を対象とした生徒指導の進め方を理解する										
学修した内容を活用して新たな課題を解決しようとする										
授業計画の内容						自習 (事前・事後学修の内容)				
1.生徒指導の意義と原理と役割						生徒指導の意義を調べ考える				
2.教育課程における生徒指導、キャリア教育の位置づけ						教育課程における位置づけ役割を調べる				
3.学校の教育活動全体を通じた生徒指導、キャリア教育の視点と指導のあり方						全ての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の在り方を調べる				
4.教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動と生徒指導						各教育活動における進め方を調べ考える				
5.集団指導と個別指導の方法原理						それぞれの基礎的な考え方と違いを知る				
6.教育相談と生徒理解						教育相談と生徒理解について調べ考える				
7.学校における生徒指導、キャリア教育体制と家庭、関係機関との連携						専門家や関係機関との連携の望ましい在り方を調べ理解し考える				
8.キャリア・カリキュラムマネジメントの意義						学校内の組織的体制の重要性を理解する				
9.ガイダンス機能を生かした指導の在り方						ガイダンス機能について調べ考える				
10.ポートフォリオを活用した自己評価						ポートフォリオ活用の意義を調べる				
11.キャリアカウンセリングの考え方と生徒指導						キャリアカウンセリングの方法を調べる				
12.個別の課題を抱える生徒への指導（1）校則・懲戒・体罰に関する法令の理解						基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の改善に資する具体例を調べ考える				
13.個別の課題を抱える生徒への指導（2）暴力行為・いじめ・不登校への対応						自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を調べ考える				
14.個別の課題を抱える生徒への指導（3）SNS や性に関する課題・児童虐待への対応						初期対応や記録をとることの大切さを学び未然防止の対応を考えまとめる				
15.生徒指導に関する法令及び学校と地域の連携						授業で学んだことを箇条書きにまとめる				
履修上の注意										
日常的に学校教育に関するニュースを収集して自分ならどうするかを考え整理しまとめていくこと										
成績評価方法・基準										
平常点30％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート70％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。） ・提出されたレポートは次の授業内でフィードバックを行う。										
教科書 [はじめて学ぶ生徒指導・進路指導] [広岡義之 著] [ミネルヴァ書房] [2,376 円]										
参考書 [生徒指導提要] [文部科学省] [298 円]										
備 考・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。										

授業科目名		生徒指導の理論と方法 B			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)		
担当者	佐々木 晃		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専3年
授業概要										
一人ひとりの生徒の人格を尊重し個性の伸長を図りながら適切かつ組織的に生徒指導の進め方を進めていくための資質、能力を身に付ける。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日の課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。										
授業の到達目標										
生徒指導の意義や原理を理解する										
健康栄養学の専門知識を生かした生徒指導力を身に付ける										
学修した内容を活用して新たな課題を解決しようとする										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）				
1.生徒指導の意義と原理と役割						生徒指導の意義を調べ考える				
2.教育課程における生徒指導、キャリア教育の位置づけ						教育課程における位置づけ役割を調べる				
3.学校の教育活動全体を通じた生徒指導、キャリア教育の視点と指導のあり方						全ての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の在り方を調べる				
4.教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動と生徒指導						各教育活動における進め方を調べ考える				
5.集団指導と個別指導の方法原理						それぞれの基礎的な考え方と違いを知る				
6.教育相談と生徒理解						教育相談と生徒理解について調べ考える				
7.学校における生徒指導、キャリア教育体制と家庭、関係機関との連携（健康栄養学の視点で考えたい生徒指導の在り方）						専門家や関係機関との連携の望ましい在り方を調べ理解し考える				
8.キャリア・カリキュラムマネジメントの意義（ 〃 ）						学校内の組織的体制の重要性を理解する				
9.ガイダンス機能を生かした指導の在り方（ 〃 ）						ガイダンス機能について調べ考える				
10.ポートフォリオを活用した自己評価（ 〃 ）						ポートフォリオ活用の意義を調べる				
11.キャリアカウンセリングの考え方と生徒指導（ 〃 ）						キャリアカウンセリングの方法を調べる				
12.個別の課題を抱える生徒への指導（1）校則・懲戒・体罰に関する法令の理解						基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の改善に資する具体例を調べ考える				
13.個別の課題を抱える生徒への指導（2）暴力行為・いじめ・不登校への対応						自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を調べ考える				
14.個別の課題を抱える生徒への指導（3）SNS や性に関する課題・児童虐待への対応						初期対応や記録を取ることの大切さを学び未然防止の対応を考えまとめる				
15.生徒指導に関する法令及び学校と地域の連携						授業で学んだことを箇条書きにまとめる				
履修上の注意										
日常的に学校教育に関するニュースを収集して自分ならどうするかを考え整理しまとめていくこと										
成績評価方法・基準										
平常点30%（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート70%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。） ・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。										
教科書〔はじめて学ぶ生徒指導・進路指導〕〔広岡義之 著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,376 円〕										
参考書〔生徒指導提要〕〔文部科学省〕〔298 円〕										
備 考・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。										

授業科目名		教育相談			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)	
担当者	植松 公威		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家・美3年
授業概要										
現在、学校では多くの教員がいじめ、不登校、薬物乱用など、児童・生徒の心、生命、健康にかかわる問題に直面し、それらへの対処方法に苦慮している。講義では、これらの諸問題の現状について概説するとともに、対応についても検討する。とりわけ、カウンセリングの基礎的な理論や技法について説明する。また、保護者からの相談場面に対して応答する技術を学ぶほか、カウンセラーとクライアントに分かれてロールプレイングによる実践的な学びの場を提供する。										
授業の到達目標										
1 不登校の問題において、初期の対応と長期化した場合の対応を理解する。										
2 いじめの問題において、個へのアプローチと集団へのアプローチを理解する。										
3 カウンセリングにおいて、受容と共感は何ぞ必要か、カール・ロジャースの理論を学び、身につける。										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）				
1. ガイダンス（教授内容と教育目標）						シラバスを熟読すること。				
2. 青年期と自我同一性の確立について						発達課題である自我同一性の確立について理解する。				
3. 生徒理解の方法－心理テスト法、観察法、面接法－						教師が生徒と面接する際の注意すべき点を理解する。				
4. 不登校－現状と学校での取り組みについてのビデオ視聴－						不登校の生徒を支援する方法について考える。				
5. 不登校－初期の対応と長期化した場合の対応について－						不登校の問題に関して対応のあり方を考える。				
6. いじめ－集団構造とピア・プレッシャー－						いじめがエスカレートする要因を理解する。				
7. いじめ－個へのアプローチと集団へのアプローチ－						カウンセリングと学級づくりを理解する。				
8. 薬物非行－非行少年とは、DARC を紹介したビデオ視聴－						薬物使用の低年齢化の問題について理解する。				
9. 薬物非行－対応のあり方について－						薬物に頼らない生き方について考える。				
10. カウンセリング－受容と共感は何ぞ必要か、カール・ロジャースの理論－						カウンセリングの定義と目標を理解する。				
11. カウンセリング－基本的な技法についてのビデオ視聴－						受容、共感、明確化、支持について理解する。				
12. カウンセリング－不登校やいじめの相談場面を想定した演習－						基本的な技法について具体的に理解する。				
13. カウンセリング－初期の目標と有効な技法－						初期の信頼関係構築に必要な技法を理解する。				
14. カウンセリング－中期の目標と有効な技法－						心の深層に深く入る技法を理解する。				
15. カウンセラーとクライアントに分かれての実践練習						練習で学んだことを整理し、今後の課題を見つける。				
16. 試験						試験対策の学習をすること。				
履修上の注意										
毎回、ミニットペーパーに感想や考えなどを書いて提出すること。										
成績評価方法・基準										
レポート課題 20％，試験 80％										
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。										
各回の授業でのミニットペーパーについては、次の授業内でフィードバックを行う予定である。										
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。										
教科書 授業の中で資料（プリント）を配布する。										
参考書 授業の中で適宜、紹介する。										
備 考										
質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。										

授業科目名		教職実践演習(中・高)				単位 (総授業時間＋自習時間)				2(60＋15)	
担当者	菅並 茂樹・植松 公威	必・選	選		形態	演習	学期	後期	対象	家・美 4 年	
授業概要											
教職課程の総まとめとして、教育実習をはじめ教職課程履修の成果を踏まえて、教科内容と教科指導、生徒理解と生徒指導の方法と課題、教育の方法と技術、学級経営に関する諸問題の講義と討議、教職経験者による現代の学校教育の課題についての講義を行い、さらに、教育実習での授業の反省や作成した学習指導案の検討、題材を決めての学習指導案の作成などを行うことにより、教員として必要とされる資質・能力の基礎が育成されるようにする。											
授業の到達目標 (次の 3 点の基礎を養うことを目標とする。)											
・教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができるようになる。											
・生徒理解を基盤として適切な生徒指導や学級経営ができるようになる。											
・学習指導の基礎的・基本的事項を習得する。											
授業計画の内容(S は菅並、U は植松、G はゲストスピーカー)						自習 (事前・事後学修の内容)					
1.授業全般に関する説明、履修上の諸注意 S, U						アンケート形式の自己評価を行う。					
2.教職課程履修の振り返り(学習履歴の確認、省察等) S, U											
3.教職の意義、教員の使命、職務等について(講義) S						「教職概論」の授業内容を復習すること					
4.教科内容と教科指導の諸問題(講義、討議) U						授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。					
5.教育方法(学習指導)の諸問題(講義、討議) U											
6.生徒理解、生徒指導に関する諸問題(講義、討議) S											
7.学級経営の諸問題、学級経営案(講義、討議) S											
8.教職経験者による講義(教科指導、道徳教育について) G											
9.教職経験者による講義(生徒指導、学級経営について) G						教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。					
10.学習指導案の作成法、それを踏まえた題材を決めての指導案の作成(講義、実習) S											
11.各自の教育実習研究授業指導案の検討 S, U						教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと。					
12.教育実習における教科指導、生徒指導の諸問題(討議) S											
13.特別支援教育、チーム学校(講義) S, U						資料を読んでおくこと。					
14.レポート、アンケートなど提出物に対する概評等 S, U											
15.授業の補足 S, U											
履修上の注意											
第 1 回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。教職課程履修のまとめ、反省、自己評価をしておくこと。											
成績評価方法・基準											
授業への参加状況(発表、発言、討議など)40%、レポート等の課題の内容 60%、によって総合的に評価する。課題は後日授業で講評を行う。											
教科書 授業前に資料を配布する。											
参考書 [中学校、高等学校学習指導要領] [文部科学省] [各 244 円、588 円] 及びその [解説 総則編]											
備考											
質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けるが、随時来室して(不在のときあり)差し支えない。											

授業科目名		教職実践演習（栄養教諭）				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60＋15)	
担当者	菅並 茂樹・植松 公威	必・選		選	形態	演習	学期	後期	対象	健専 4 年	
授業概要											
教職課程の総まとめとして、教育実習をはじめ教職課程履修の成果を踏まえて、学校給食をはじめとした食育に関する諸問題の講義と討議、生徒理解とそれに基づく生徒指導の方法や問題の講義と討議、教職経験者による現在の学校教育の課題についての講義、教育実習での授業の反省や学習指導案の検討、題材を決めての学習指導案の作成などを行うことによって、栄養教諭に必要とされる資質・能力の基礎が育成されるようにする。											
授業の到達目標（次の 3 点の基礎を養うことを目標とする。）											
・教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができるようになる。											
・学校給食をはじめ食育に必要な基礎的・基本的な知識と指導方法を習得する。											
・教職員組織の一員として他の教職員と協力して職務の遂行にあたることができるようになる。											
授業計画の内容(S は菅並、U は植松、G はゲストスピーカー)						自習（事前・事後学修の内容）					
1. 授業全般に関する説明、履修上の諸注意 S, U											
2. 教職課程履修の振り返り(学習履歴の確認、省察等) S, U						アンケート形式の自己評価を行う。					
3. 栄養教諭の意義、教員の使命、職務等について(講義) S						「教職概論」の授業内容を復習すること					
4. 食育に関する諸問題(学校給食を中心に)について(講義) G						授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。					
5. 食育に関する諸問題(食生活に関して)について(講義) G											
6. 学校給食の歴史と実情、給食指導について(講義) S											
7. 生徒理解、生徒指導に関する諸問題(講義、討議) S											
8. 教職経験者による講義(教科指導、道德教育について) G											
9. 教職経験者による講義(生徒指導、学級経営について) G						教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。					
10. 学習指導案の作成法、それを踏まえた題材を決めての指導案の作成(講義、実習) S											
11. 各自の教育実習研究授業指導案の検討 S, U											
12. 子どもの「食」に関する諸問題(討議) S						子どもの「食」について考えておくこと					
13. 特別支援教育、チーム学校(講義) S, U						資料を読んでおくこと。					
14. レポート、アンケートなど提出物に対する概評等 S, U											
15. 授業の補足 S, U											
履修上の注意											
第 1 回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。教職課程履修のまとめ、反省、自己評価をしておくこと。											
成績評価方法・基準											
授業への参加状況(発表、発言、討議など)40%、レポート等の課題の内容 60%、によって総合的に評価する。課題については授業で講評を行う。											
教科書 授業前に資料を配布する。											
参考書 〔食に関する指導の手引〕〔文部科学省〕〔東山書房〕〔1,260 円〕他											
備 考											
質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けるが、随時来室して(不在のときあり)差支えない。											

博物館に関する科目

5. 博物館に関する科目

授業科目名		生涯学習概論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	伊藤 優	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	服・美1年	
授業概要										
我が国の社会教育の歴史を辿りながら、生涯学習と社会教育、学校教育との関係性を明らかにする。また、「生涯学習論」やリカレント教育の思潮、生涯学習の多様な内容や方法、学習プランニング、プログラムの様々なあり方を解説することにより、生涯学習の基礎的理論を示す。その上で、生涯学習を推進する多様な主体の役割を示すとともに、博物館と学芸員の社会的位置付けを明らかにする。さらに、生涯各期にみられる生涯学習に係る現代的な課題と今後の展望を示す。										
授業の到達目標										
生涯学習に関する歴史・方法・計画等の基礎的知識を習得する。										
生涯学習社会における博物館の使命を知り、学芸員の役割を検討する思考を身につける。										
学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。										
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）					
1.ガイダンス：講義の進め方・生涯学習と社会教育					身近にある生涯学習施設を確認しておく					
2.生涯学習と社会教育の歴史①（近代から現代）					仙台市の市民センターの歴史を調べて授業に臨む					
3.生涯学習と社会教育の歴史②（現代）					ユネスコの概要を調べる					
4.「生涯学習論」					OECD の概要を調べる					
5.リカレント教育					生涯学習と学校教育の相違を調べる					
6.生涯学習と学校教育					身近な生涯学習施設の学習プログラムに参加し、その内容を授業中に報告する					
7.生涯学習の方法と内容					身近な社会教育関連団体等を調べる					
8.生涯学習と社会教育の計画					博物館の役割と機能を調べる					
9.学習プログラムの編成①（学習プログラムの多様性）					少子高齢化社会の課題を調べる					
10.学習プログラムの編成②（学習プログラム編成の視点）					これまでの学修内容を復習する					
11.生涯学習関連行政の仕組み①（行政の役割と組織）										
12.生涯学習関連行政の仕組み②（社会教育関連団体）										
13.生涯学習と博物館・学芸員										
14.生涯各期の教育課題										
15.講義のまとめ 生涯学習社会の課題とこれから										
16.試験										
履修上の注意										
意欲的な学修姿勢を重視する。社会教育プログラム等に積極的に参加すること。										
自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。										
成績評価方法・基準										
事前事後学修を含む受講態度（50%）、期末試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。										
教科書 なし 必要に応じて講義中に資料を配布する。										
参考書 〔生涯学習論 第1次改訂版〕〔佐藤晴雄〕〔学陽書房〕〔2,700 円〕										
備 考										
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。										

授業科目名	博物館概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	伊藤 優	必・選	学(必)	形態	講義	学期	前期	対象	服・美１年
授業概要									
仙台・宮城ミュージアムアライアンス加盟館等の身近な博物館の紹介を導入として、博物館の多面的な魅力を伝える。また、ICOM 規約や博物館法に依拠しながら、博物館の定義・目的・分類等の概要を示す。博物館機能の資料収集・整理保管、調査、展示、教育の特色と役割を詳述しながら、そこにみられる多様な課題も示す。その上で、博物館の歴史を辿り、日本における現状を示し、関係法令や文化政策、地域社会との関係性を解説する。これらを通して、博物館や学芸員が担うべき社会的役割の全体像を示す。									
授業の到達目標									
博物館の目的・機能・社会的役割等の基礎的知識を習得する。									
博物館や学芸員の役割を知り、直面する多様な課題を検討する思考を身につける。									
学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.ガイダンス：講義の進め方・学芸員資格について					自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する				
2.身近な博物館（SMMA、歴ネット等）									
3.博物館の定義・目的					ICOM、ユネスコの概要を調べる				
4.博物館の分類・施設・設備					博物館法を調べる				
5.博物館の機能①（資料収集・整理保管）					博物館データベースを調べる				
6.博物館の機能②（調査研究）					博物館研究紀要等を調べる				
7.博物館の機能③（展示）					博物館展示情報を調べる				
8.博物館の機能④（教育普及）					博物館教育プログラムを調べる				
9.博物館史①（博物館の誕生）					欧米の博物館情報と、日本の様々な博物館情報を調べ、授業中に報告する				
10.博物館史②（近代）									
11.博物館史③（日本の博物館史）									
12.博物館の現状									
13.博物館関係法令と政策					社会教育法、文化財保護法を調べる				
14.地域社会と博物館					博物館ボランティアを調べる				
15.講義のまとめ 博物館・学芸員の課題とこれから					これまでの学修内容を復習する				
16.試験									
履修上の注意									
意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館を訪問すること。									
自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。									
成績評価方法・基準									
事前事後学修を含む受講態度（50%）、試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。									
教科書 なし									
参考書〔博物館学Ⅰ〕〔大堀哲・水嶋栄治編〕〔学文社〕〔2,484 円〕									
備 考									
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。									

授業科目名	博物館経営論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)	
担当者	笠原 信男		必・選	学(必)	形態	講義	学期	前期	対象	服・美3年
授業概要										
博物館の設置者・学芸員・利用者など、様々な視点から、博物館経営についての基本的な考え方・知識・動向を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。また、博物館を訪れて、経営論の観点から実地の学習も行う。										
授業の到達目標										
1. 博物館経営についての基本的な考え方・知識を学ぶ。										
2. 博物館を多角的な視点で観覧・考察する姿勢を身につける。										
3. 社会教育施設としての博物館の地域社会へ役割を学ぶ。										
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）					
1. 博物館と博物館学及び博物館経営論					博物館を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
3. 博物館経営の考え方					経営論的思考を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
4. 博物館の経営手法					経営手法を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
5. 博物館の運営方針					運営方針を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
6. 博物館の組織					組織を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
7. 博物館の中長期計画と予算					中長期計画等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
8. 博物館の広報活動と来館者サービス					広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
9. 博物館の危機管理					危機管理を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
10. 博物館経営の実際（1）現地学習（施設の構造）					訪問先の博物館の施設情報を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。					
11. 博物館経営の実際（2）現地学習（展示活動等）					訪問先の博物館の諸活動を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。					
12. 経営論から見た博物館の展示活動					展示活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
13. 経営論から見た博物館の教育普及活動					教育普及活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
14. 経営論から見た博物館の資料管理、調査研究活動					資料管理等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
15. 経営論から見た市民参画と地域社会との連携					地域との連携を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。					
履修上の注意										
積極的、意欲的な姿勢で受講すること。										
成績評価方法・基準										
・受講態度20％、レポート80％(必ず提出すること)。										
・レポートは要点をまとめたレジュメを配付することでフィードバックとする。										
教科書 なし										
参考書〔新時代の博物館学〕〔全国大学博物館学講座協議会西日本部会〕〔芙蓉書房出版〕〔2,052円〕										
備 考										
・現地学習は訪問先の博物館の事情等の都合により、授業計画の順番を変更することがある。										
・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。										
・質問等については授業終了時に受付ける。										

授業科目名		博物館資料論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)	
担当者	手塚 均		必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	服・美 2 年
授業概要										
博物館資料とは、博物館の骨格を形成する資料で、その博物館が研究の対象とする情報を内包し、いつの時代にも必要に応じて再検証ができ得る状態に管理された資料である。講義では、歴史・美術など人文系博物館が所蔵する資料を中心に、博物館資料の収集や資料保管に関する知識・技術を習得するとともに、資料の調査研究、活用に関する知識や技術などの基礎的知識を養う。また、座学のみならず実際の博物館等施設の見学も計画している。										
授業の到達目標										
学芸員としての基礎知識を身につける。										
多様な博物館資料を理解できる。										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）				
1.博物館資料とは？ ・授業計画のオリエンテーション						各種の博物館施設を見学し、展示資料の特徴を理解しておく。				
2.博物館資料の概念 ・資料の意義						〃				
3.資料の種類 ・一次資料と二次資料						〃				
4.博物館資料の収集 ・収集理念と方法						後：博物館等の図録・目録で調べる。				
5.民俗資料の収集から資料化へ・収集と整理						前：民俗資料とは？を調べる				
6. 〃 ・資料化から公開へ						後：資料カードの作成				
7.歴史・美術資料の収集から資料化へ・収集と整理						前：歴史・美術資料とは？を調べる				
8. 〃 ・資料化から公開へ						後：資料カードの作成				
9.考古資料と考古学資料 ・発掘資料と遺跡						前：考古資料について調べる。				
10.博物館資料の調査研究 ・目録作成、データベース化						後：博物館等のデータベースを検索				
11.博物館資料の保存管理						前：博物館資料保存論の復習				
12.博物館資料の活用 ・展示、体験学習						前・後：自分なりの方法を考える				
13.歴史・民俗資料館の見学 ・(仙台市歴史民俗資料館)						前：見学施設に関する予習				
14. 〃						後：見学後の感想を記録				
15.まとめ ・これからの資料収集について						前：自分なりの考えをまとめておく				
16.試験										
履修上の注意										
学芸員としての実務において必須の基礎知識であることを念頭に受講すること										
成績評価方法・基準										
授業態度・学習意欲・ミニテストで 50%、試験で 50%。ミニテストについては以降の授業中にフィードバックを行う。試験については持ち込み可で、後日添削し返却する。										
教科書 なし プリント配布										
参考書 なし										
備 考										
・配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。										
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。										
・質問等については随時受け付けます。										

授業科目名	博物館資料保存論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)	
担当者	手塚 均		必・選	学(必)	形態	講義	学期	前期	対象	服・美2年
授業概要										
資料保存に関する基礎的な知識として、温湿度・光・生物被害による資料劣化の要因とその対策、収蔵庫や展示室の環境のあり方、保存のための各種技術および活用などについて、パワーポイントやビデオを中心に解説する。また、災害への対応として、東日本大震災以降に展開された全国的な規模のレスキュー活動の中で、宮城県の博物館等の機関が共同して行った実際の活動について学ぶ。座学のみならず実際の施設に出向いての研修も計画している。										
授業の到達目標										
学芸員としての基礎知識を身につける。										
自身の研究課題における資料の保存に対応できる知識・技術を身につける。										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）				
1. 博物館における資料保存の意義						前：複数の博物館等施設を見学しておく				
2. 資料保存の歴史						前：美術史を復習する				
3. 資料劣化の要因とその対策 ①温度と湿度						前：博物館学での講義を復習する				
4. 資料劣化の要因とその対策 ②光と空気汚染						前：博物館学での講義を復習する				
5. 資料劣化の要因とその対策 ③生物被害とIPM						前：博物館学での講義を復習する				
6. 展示室と収蔵庫の環境						前：複数の博物館等施設を見学しておく				
7. 資料の梱包と運搬						後：梱包の実際を行う				
8. 有機質資料（出土木製品など）の科学的保存処理						前：発掘調査について調べる				
9. 無機質資料（金属製品など）の科学的保存処理						前：発掘調査について調べる				
10.災害時における資料の救出（レスキュー活動）						前・後：東日本大震災関連の書籍を読む				
11.救出された資料の管理・修復・公開						前・後：東日本大震災関連の書籍を読む				
12.資料の保存と活用－学外研修－① 博物館バックヤード						前：これまでの講義内容を復習する				
13.資料の保存と活用－学外研修－② 展示室など公開ゾーン						前：これまでの講義内容を復習する				
14.伝統的な修理と修復（映像）						前：東大寺南大門金剛力士像について調べる				
15.資料の保存と活用 まとめ										
履修上の注意										
学芸員としての実務において必須の基礎知識であることを念頭に受講すること										
成績評価方法・基準										
授業態度・学習意欲・ミニテストで50%、課題レポートで50%（未提出は評価0とする）。ミニテストについては以降の授業中にフィードバックを行う。										
教科書 使用しない。講義前にプリントを配布。										
参考書 〔博物館資料保存論〕〔石崎武志編著〕〔講談社〕〔2,200 円〕										
備 考										
・ 配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。										
・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。										
・ 質問等については随時受け付けます。										

授業科目名		博物館展示論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	田中 則和	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	服・美3年		
授業概要											
博物館における展示に関する基礎的能力を養うことを目的として、その意義、構成する要素とプロセス及び解説活動の理論と方法などの基礎的知識について解説する。また、生涯学習拠点の一つである博物館のコミュニケーション機能をより効果的に実現するスキルの習得を目指す。さらに我国の歴史文化遺産を継承・発信する拠点として、博物館連携により国際交流・観光に役立ち、地域創生につながる博物館の方向性について理解を深める。											
授業の到達目標											
博物館展示についての基礎知識を身につける。											
学芸員として実際に基本的な展示活動ができるようになる。											
博物館連携により国際交流・観光に役立ち、地域創生につながる展示活動ができるようになる。											
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 展示総論（博物館における展示の役割・社会性・制約）					教科書をよく読み、「博物館における展示の役割」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
2. 展示の理論 1－歴史(展示の歴史)					教科書をよく読み、「博物館における展示の歴史」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
3. 展示の理論 2－諸類型(展示の諸類型、視点と運用)					教科書をよく読み、「博物館における展示の諸類型」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
4. 展示の理論 3－教育(展示と教育（生涯学習・学校教育）)					教科書をよく読み、「博物館における展示と教育」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
5. 展示の理論 4－展示評価(展示の評価法と手順)					教科書をよく読み、「博物館における展示評価」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
6. 展示の技術 1－地域社会(博物館連携・交流・地方創生)					教科書をよく読み、「地域社会と博物館の役割」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
7. 展示の技術 2－プロセス(企画・実施・終了)					教科書をよく読み、「博物館展示のプロセス」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
8. 展示の技術 3－動線計画(動線・ゾーニング計画)					教科書をよく読み、「博物館展示の動線計画」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
9. 展示の技術 4－展示環境(予防・リスクマネジメント)					教科書をよく読み、「博物館の展示環境」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
10. 展示の技術 5－照明(器具・照明計画)					教科書をよく読み、「博物館の展示照明」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
11. 展示の技術 6－展示ケース(役割・種類・メンテナンス)					教科書をよく読み、「博物館の展示ケース」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
12. 展示の技術 7－グラフィック(種類・制作)					教科書をよく読み、「博物館の展示グラフィック」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
13. 展示の技術 8－レプリカとジオラマ(種類・組合せ)					教科書をよく読み、「博物館のレプリカとジオラマ」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
14. 展示の技術 9－広報のデザイン(ホームページ・ポータルサイト・プレリリース)					教科書をよく読み、「博物館広報のデザイン」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
15. ユニバーサル・ミュージアム(触文化・体験プログラム)					教科書をよく読み、「ユニバーサル・ミュージアム」について内容をまとめ、質問に答えられるようにしておくこと。						
履修上の注意											
博物館概論、博物館資料論、博物館教育論、博物館実習など博物館学芸員に関わる科目を受講すること。											
成績評価方法・基準											
期末試験 50%、受講態度 50%で評価します。授業理解の度合いに応じて課題を出し、授業においてフィードバックします。											
教科書〔博物館展示論〕〔黒澤 浩〕〔講談社〕〔2,592 円〕											
参考書〔博物館展示論〕〔佐々木利和 他〕〔NHK出版〕〔3,132 円〕											
備 考 質問等については随時、もしくは授業終了時に受け付けます。											

授業科目名	博物館情報・メディア論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)	
担当者	佐藤 泰		必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	服・美２年
授業概要										
教育・コミュニケーションツールとして情報・メディアの基本特性を、人と人とのコミュニケーションの諸相や文明史的な観点を交えて概観しつつ、博物館があつかう情報の種類や意義、それらを正しく伝え普及するためのメディアの活用方法や情報発信の手法について、博物館での具体的事例、さらにネットワーク上に流通する博物館にとどまらない多様な主体からの情報発信を参照しつつ、みずから博物館の情報発信を試みるなどの体験を試みるなどの体験を交えながら学ぶ。										
授業の到達目標										
情報コミュニケーションの基本原理と歴史を理解する										
博物館における情報メディアの活用の実際を理解する										
社会に向けた多様な文化情報の発信力を身につける										
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）				
1.博物館における情報・メディアとはなにか						博物館等を利用する際は、情報メディア				
2.教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの理論						の活用について観察すること				
3.教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの歴史						博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ				
4.教育・コミュニケーションツールとしての博物館						発信できるか自分なりに考えること。				
5.展示のなかの情報メディアの活用										
6.教育・普及・広報のなかの情報メディアの活用										
7.研究・保存その他における情報メディアの活用										
8.メディアテークにおける情報メディアの活用										
9.アーカイブの作成・運用と課題										
10.視覚など障がいのある利用者のためのメディアの活用										
11.地域の文化資源を活かすミュージアム都市とメディア										
12.仙台宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）の取り組み										
13.情報リテラシーと博物館										
14.博物館の魅力を発信するための提案作成実習										
15.博物館の魅力を発信するための提案の評価										
履修上の注意										
各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です。										
成績評価方法・基準										
学習意欲を含む授業態度 50%、課題レポート 50%										
教科書 講義のなかでそのつど資料を配布します										
参考書 講義のなかでそのつど資料を配布します										
備 考										
質問等については授業終了時に受け付けます										

授業科目名	博物館教育論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	伊藤 優	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	服・美1年
授業の概要									
博物館教育活動の変遷を明らかにし、現代社会において博物館教育が求められている実情を、歴史的・社会的背景を元に示す。また、博物館教育の特徴と可能性を学校教育・市民活動・生涯学習との関連から解説する。これらを踏まえた上で、博物館の諸活動にみられる教育プログラムの形態や方法を具体的に挙げ、教育プログラムの特色を館種別に紹介する。博物館教育には様々な課題も見出されることから、博物館評価システムをはじめとして、その解決の方策に対する理解を深める。									
授業の到達目標									
学芸員に必要な博物館教育の基礎的知識を習得する。									
博物館教育の多様な課題を知り、その解決方策を検討する思考を身につける。									
学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。									
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）				
1.ガイダンス：講義の進め方・博物館教育の変遷					博物館概論の学修内容を復習しておく				
2.博物館での学び					自身の経験をもとに「分かる」ことの事例				
3.博物館教育の特徴と可能性					を確認して授業に臨む				
4.博物館教育と市民活動					博物館と市民活動の事例を調べる				
5.博物館教育と学校教育					博物館と学校教育の相違を調べる				
6.博物館の教育活動①（教育活動の諸形態）					博物館教育に関わる教材等を入手し、授業				
7.博物館の教育活動②（教育プログラムの実施プロセス）					中に報告する				
8.博物館の教育活動③（教材の作成・ユニバーサルデザイン）					ユニバーサルデザインの事例を調べる				
9.博物館の教育活動④（教育プログラムとボランティア活動）					ボランティア活動の事例を調べる				
10.様々な博物館教育①（美術館・歴史博物館）					様々な博物館の教育プログラムに参加し				
11.様々な博物館教育②（科学館・文学館）					て、その内容を授業中に報告する				
12.様々な博物館教育②（エコミュージアム・大学博物館）									
13.博物館教育プログラムの評価①（評価システムについて）					自身の経験をもとに「評価」の意義を確				
14.博物館教育プログラムの評価②（評価の意義に関する演習）					認して授業に臨む				
15.講義のまとめ 博物館教育の課題とこれから					これまでの学修内容を復習する				
16 試験									
履修上の注意									
意欲的な学修姿勢を重視する。博物館事業に積極的に参加すること。									
自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。									
成績評価方法・基準									
事前事後学修を含む受講態度（50%）、試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。									
教科書 なし 必要に応じて講義中に資料を配布する。									
参考書〔博物館教育論〕〔小笠原喜康 他編〕〔ぎょうせい〕〔3,291 円〕									
備 考									
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。									

授業科目名	博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）				単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)	
担当者	小谷 竜介	必・選	学(必)	形態	講義	学期	通年（前）	対象	服・美3年
授業概要									
博物館学芸員として必要な展示を作る思考を学ぶために、模擬的な展示企画書の作成を通して、資料を展示する課程を実習する。受講生は、各自の関心のあるモノ資料を出発に、資料との関係性を考え、展示ストーリーを構築し、それを仮想的に展示するまでの作業を行う。この際重要な点として、博物館があくまでも社会教育施設であり、教育的観点を持つ必要があるという点である。こうした思考が、学芸員に求められることを理解しつつ、モノ資料がないと展示が進まない博物館展示ならではの特徴を体得することを目標とする。									
授業の到達目標									
学芸員としての思考を身につける									
展示の構築の手順を理解する									
展示の学習効果に関する視点を得る									
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）			
１．オリエンテーション						展示資料を考える			
２．講義１－学芸員思考を考える						講義を受けて展示資料を決める			
３．対象資料の選定についての面談　グループ①						面談を経て資料選定を進める			
４．対象資料の選定についての面談　グループ②						面談を経て資料選定を進める			
５．講義２－展示の方向性と目的について						講義を受けて、展示の方向性を定める			
６．展示方針についての面談　グループ①						面談を経て方針を考える			
７．展示方針についての面談　グループ②						面談を経て方針を考える			
８．展示方針についての面談　グループ①						２回目の面談を経て方針を決める			
９．展示方針についての面談　グループ②						２回目の面談を経て方針を決める			
10．講義３－展示平面を作成する						講義を受けて展示平面を書いてみる			
11．展示平面についての面談　グループ①						面談を経て平面図を修正する			
12．展示平面についての面談　グループ②						面談を経て平面図を修正する			
13．講義４－企画書を整える						見栄えの良い企画書に作り直す			
14．企画書プレゼンテーション　グループ①						企画書を元に発表する			
15．企画書プレゼンテーション　グループ②						企画書を元に発表する			
履修上の注意									
講義時間以外にも図書館、インターネット等での資料調査が必要になるので、熱意を持って取り組むこと。									
成績評価方法・基準									
完成した企画書									
（企画内容の適切さ　30％　資料の過不足の有無　30％　企画の斬新さ　20％　見た目　20％）　70％									
受講態度(アドバイスに適切に答えられたか等)　30％									
教科書　必要な資料を配布する									
参考書　なし									
備　考									
講義は、受講者をグループ分けし、講義の際に説明する支持に基づき受講生が個々で行った作業を、個人面談を実施して、次の作業を指示する形式で実施する。受講生の人数により、面談計画等は変更されることがあるに留意すること。質問等は講義時間の前後および電子メールで受け付けます。									

授業科目名		博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30＋60)	
担当者	三上 秀夫	必・選	学(必)	形態	講義	学期	通年（後）	対象	服・美３年
授業概要									
博物館実習は、学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を生かして、館園での実体験や実技を通して、学芸員として必要とされる知識・技術等の基本を修得することを目標とする。博物館実習Ⅰでは、講義、学内実習、見学実習の三つからなる。講義では、展示企画書を作成し展示資料を展示する一連の流れを学ぶことで学芸員としての思考を学ぶ。学内実習では、博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、資料の取り扱い方法、展示などの基本事項の理解と実務実習を行う。見学実習では、一定地域の博物館を数日間見学し、利用者、学芸員の双方の立場に立って博物館の活動状況を知り博物館の現状と問題点を把握する。									
授業の到達目標									
学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につける。									
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）			
１．ガイダンス 授業の概要説明									
２．学外実務実習のための説明会 １ 実習先希望調査						希望する実習先について調べる。			
３．収集、整理、保管、調査の対象となる資料について 顕彰館、短大資料室見学									
４．資料の取り扱い １ 短大資料の取り扱い（着物その他）									
５．外部講師 掛軸の歴史						プリントをよく読み込み実践に備える。			
６．外部講師 表具の取り扱い 屏風 刷毛 道具						プリントをよく読み込み実践に備える。			
７．外部講師 学芸員の仕事						プリントをよく読み込み実践に備える。			
８．資料の取り扱い ２ 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）									
９．資料の取り扱い ３ 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）									
10. 資料の取り扱い ４ 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）									
11. 資料の取り扱い ５ 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）									
12. 展示計画 １（概要説明） 学外実務実習のための説明会 ２ 実習先希望調査結果 調整 実習記録下書き						グループで話し合った内容をまとめる。			
13. 展示計画 ２（動線計画） 実習先希望調査 調整						実習先博物館等の特徴を調べる。			
14. 展示計画 ３（展示器具） 実習先希望調査結果 調整						実習先を調べる。			
15. 展示計画 ４（発表） 学外実務実習について 諸注意他						清書、証明写真を準備する。			
履修上の注意									
資格科目のため欠席のないよう望む。課題（レポート、実技）作成、発表、提出あり。									
成績評価方法・基準									
授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、見学レポート（30%）、実務実習評価（30%）で評価する。									
教科書 無し 授業時にプリントを配布する									
参考書 無し									
備 考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付けます。									